

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)公開番号
特開2023-151772
(P2023-151772A)

(43)公開日 令和5年10月16日(2023.10.16)

(51)国際特許分類
A 6 3 F 7/02 (2006.01)

F I
A 6 3 F 7/02 3 2 0

テーマコード (参考)
2 C 3 3 3

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全204頁)

(21)出願番号	特願2022-61576(P2022-61576)	(71)出願人	000144153 株式会社三共 東京都渋谷区渋谷三丁目 2 9 番 1 4 号
(22)出願日	令和4年4月1日(2022.4.1)	(72)発明者	小倉 敏男 東京都渋谷区渋谷三丁目 2 9 番 1 4 号 株式会社三共内
		F ターム (参考)	2C333 AA11 CA58 EA04 EA10

(54)【発明の名称】 遊技機

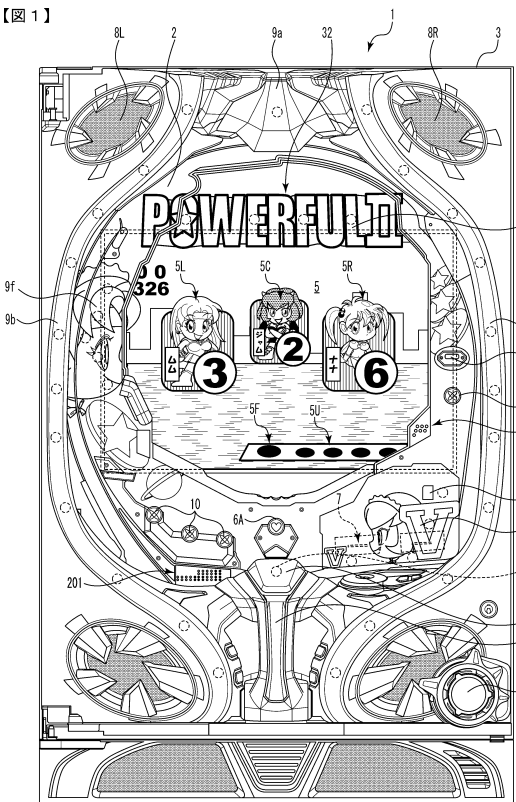
(57)【要約】

【課題】始動領域に遊技媒体が進入したときの演出に関して改良した遊技機を提供すること。

【解決手段】遊技の進行、特に可変表示および保留記憶に関する制御を担う遊技制御手段と、遊技制御手段からの指令に応じて演出に関する制御を行う演出制御手段と、液晶表示装置の制御を行う表示制御手段と、を備え、遊技制御手段からの指令に対応した当該可変表示に対応する特定表示および保留記憶に対応する保留表示を行うことを可能とした。

【選択図】図 1

【図 1】



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、
遊技制御手段と、
演出実行手段と、
保留記憶手段と、を備え、

前記保留記憶手段は、所定数を上限として可変表示に関する情報を保留記憶として記憶することが可能であり、

前記遊技制御手段は、可変表示が終了したときに、次の可変表示に対応する保留記憶がある場合に次の可変表示を実行可能であり、

前記演出実行手段は、

保留記憶が記憶されたときに、開始態様と、完了態様と、該完了態様の 1 つ前の態様である完了前態様を含む複数の途中態様と、を段階的に変化させて保留表示を表示可能であり、

保留記憶が記憶されたときに、入賞時演出を実行可能であり、

可変表示中に既に記憶されている保留記憶に対応する保留表示を次の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた位置から次の可変表示に対応する位置に移動させることが可能であり、

前記所定数未満の N 数の保留記憶が記憶されている状況における可変表示である保留記憶数 N 時可変表示の実行中において、

次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間でないときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間であるときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、

前記保留記憶数 N 時可変表示が終了し、次の可変表示が開始された直後に新たな保留記憶が記憶された場合は、N 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

保留記憶が記憶されていない状況における可変表示である保留記憶数 0 時可変表示の実行中において、

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも短いときであって、該保留記憶数 0 時可変表示が終了する直前でないときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなること

10

20

30

40

50

で、該タイミングに基づいて前記完了態様に変化させて該保留表示を表示し、

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも短いときであって、該保留記憶数 0 時可変表示が終了する直前であるときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に変化させて該保留表示を表示し、

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了した直後に新たな保留記憶が記憶された場合は、該保留記憶数 0 時可変表示の次の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記完了態様から表示し、

前記保留記憶数 N 時可変表示の実行中において、次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶された場合と、前記保留記憶数 N 時可変表示の実行中において、次の可変表示が開始されるまでの期間が該所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間でないときに、新たな保留記憶が記憶された場合と、前記保留記憶数 N 時可変表示の実行中において、次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間であるときに、新たな保留記憶が記憶された場合と、前記保留記憶数 N 時可変表示が終了し、次の可変表示が開始された直後に新たな保留記憶が記憶された場合と、前記保留記憶数 0 時可変表示の実行中において、前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶された場合と、前記保留記憶数 0 時可変表示の実行中において、前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が所定期間よりも短いときであって、該保留記憶数 0 時可変表示が終了する直前でないときに、新たな保留記憶が記憶された場合と、前記保留記憶数 0 時可変表示の実行中において、前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が所定期間よりも短いときであって、該保留記憶数 0 時可変表示が終了する直前であるときに、新たな保留記憶が記憶された場合と、前記保留記憶数 0 時可変表示が終了した直後に新たな保留記憶が記憶された場合と、のいずれの場合であっても、前記入賞時演出を実行可能である、

ことを特徴とする遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

従来 of 遊技機には、可変表示を実行可能であるとともに遊技者にとって有利な大当り遊技状態（有利状態）に制御可能であって、新たな始動入賞の発生によって可変表示に関する情報を含む保留記憶が発生すると、該保留記憶にもとづく保留表示を段階的に表示していく出現アニメーションの表示を実行可能なものがある（例えば、特許文献 1 参照）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】特開 2016 - 97173 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、特許文献 1 にあつては、当該可変表示に対応する特定表示、保留表示および特定表示と保留表示とに関する制御に関して改良の余地があるという問題がある。

【0005】

本発明は、このような問題点に着目してなされたもので、保留表示に関して改良した遊技機を提供することを目的とする。

10

20

30

40

50

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明の請求項1に記載の遊技機は、

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出実行手段と、

保留記憶手段と、を備え、

前記保留記憶手段は、所定数を上限として可変表示に関する情報を保留記憶として記憶することが可能であり、

前記遊技制御手段は、可変表示が終了したときに、次の可変表示に対応する保留記憶がある場合に次の可変表示を実行可能であり、 10

前記演出実行手段は、

保留記憶が記憶されたときに、開始態様と、完了態様と、該完了態様の1つ前の態様である完了前態様を含む複数の途中態様と、を段階的に変化させて保留表示を表示可能であり、

保留記憶が記憶されたときに、入賞時演出を実行可能であり、

可変表示中に既に記憶されている保留記憶に対応する保留表示を次の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた位置から次の可変表示に対応する位置に移動させることが可能であり、

前記所定数未満のN数の保留記憶が記憶されている状況における可変表示である保留記憶数N時可変表示の実行中において、 20

次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間でないときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、 30

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間であるときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、

前記保留記憶数N時可変表示が終了し、次の可変表示が開始された直後に新たな保留記憶が記憶された場合は、N数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、 40

保留記憶が記憶されていない状況における可変表示である保留記憶数0時可変表示の実行中において、

前記保留記憶数0時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

前記保留記憶数0時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも短いときであって、該保留記憶数0時可変表示が終了する直前でないときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様 50

とは異なる途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも短いときであって、該保留記憶数 0 時可変表示が終了する直前であるときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了した直後に新たな保留記憶が記憶された場合は、該保留記憶数 0 時可変表示の次の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記完了態様から表示し、

前記保留記憶数 N 時可変表示の実行中において、次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶された場合と、前記保留記憶数 N 時可変表示の実行中において、次の可変表示が開始されるまでの期間が該所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間でないときに、新たな保留記憶が記憶された場合と、前記保留記憶数 N 時可変表示の実行中において、次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間であるときに、新たな保留記憶が記憶された場合と、前記保留記憶数 N 時可変表示が終了し、次の可変表示が開始された直後に新たな保留記憶が記憶された場合と、前記保留記憶数 0 時可変表示の実行中において、前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶された場合と、前記保留記憶数 0 時可変表示の実行中において、前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が所定期間よりも短いときであって、該保留記憶数 0 時可変表示が終了する直前でないときに、新たな保留記憶が記憶された場合と、前記保留記憶数 0 時可変表示の実行中において、前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が所定期間よりも短いときであって、該保留記憶数 0 時可変表示が終了する直前であるときに、新たな保留記憶が記憶された場合と、前記保留記憶数 0 時可変表示が終了した直後に新たな保留記憶が記憶された場合と、のいずれの場合であっても、前記入賞時演出を実行可能である、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に变化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様への変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をみせることができる。さらに、次の可変表示の開始直前と直後での切り分けにより、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をより好適に遊技者に見せることができる。さらに、保留記憶数が 0 である状態であるときに、新たな保留記憶が記憶されるタイミングが、次の可変表示の開始までに所定期間の猶予がないときは、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化を完了態様に变化させることで、保留記憶数 0 である状態であっても、保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、保留記憶数が上限に到達している場合に、所定の可変表示が終了しても、次に可変表示が開始されるまでは保留記憶を記憶しないので、新たな保留記憶についての段階的变化も実行されず、終了した可変表示の可変表示結果に遊技者を集中させることができ、可変表示開始から保留表示位置が移動する特定期間の間に新たに記憶された保留記憶は保留表示が初めから移動先の表示位置において表示されるため、段階的变化を完了態様に变化させる必要がなく、遊技者に段階的变化を見せることができる。また、既に所定数目に表示されていた保留表示が移動するときに、所定数目に新たに表示される保留表示が重畳しても、使用する表示領域が新たに表示される保留表示の方が広いため、新たに表示される保留表示を視認しやすく、誤認を防ぐことができる。さらに、入賞演出は、段階的变化の完了態様への変化の有無に関わらず実行可能であるため、遊技者は保留記憶をより認識しやすくなる。

10

20

30

40

50

【 0 0 0 7 】

尚、本発明は、本発明の請求項に記載された発明特定事項のみを有するものであって良いし、本発明の請求項に記載された発明特定事項とともに該発明特定事項以外の構成を有するものであって良い。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 0 8 】

【図 1】実施例における遊技機を示す正面図である。

【図 2】パチンコ遊技機に搭載された各種の制御基板などを示す構成図である。

【図 3】主基板の回路構成を示すブロック図である。

【図 4】V R A Mの内容を示す説明図である。

10

【図 5】各描画領域の説明図である。

【図 6】(A)、(B)は、演出制御コマンドを例示する図である。

【図 7】各乱数を示す説明図である。

【図 8】表示結果判定テーブルを示す説明図である。

【図 9】(A)は大当たり種別判定テーブルを示す説明図であり、(B)は大当たり種別の説明図である。

【図 10】はずれ演出判定テーブルを示す説明図である。

【図 11】変動パターン種別判定テーブルを示す説明図である。

【図 12】(A)は通常状態における変動パターンの説明図、(B)は時短状態における変動パターンの説明図、(C)は確変状態における変動パターンの説明図である。

20

【図 13】(A) ~ (F)ははずれ用変動パターン判定テーブルの説明図である。

【図 14】(A) ~ (D)ははずれ用変動パターン判定テーブルの説明図である。

【図 15】(A) ~ (C)ははずれ用変動パターン判定テーブルの説明図である。

【図 16】(A) ~ (C)は大当たり用変動パターン判定テーブルの説明図である。

【図 17】各遊技状態の説明図である。

【図 18】(A)は特図ユニットの説明図であり、(B)は特別図柄の可変表示の説明図であり、(C)は演出用表示ユニットの説明図であり、(D)はサブ図柄の可変表示の説明図である。

【図 19】遊技制御用データ保持エリアを示す説明図である。

【図 20】入力ポートを示す説明図である。

30

【図 21】出力ポートを示す説明図である。

【図 22】(A)は演出制御用データ保持エリアを示す説明図であり、(B)は始動入賞時受信コマンドバッファを示す説明図である。

【図 23】遊技制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。

【図 24】遊技制御用タイマ割込み処理の一例を示すフローチャートである。

【図 25】スイッチ処理で使用する R A Mに形成される各 2 バイトのバッファを示す説明図である。

【図 26】スイッチ処理の一例を示すフローチャートである。

【図 27】乱数更新処理の一例を示すフローチャートである。

【図 28】特別図柄プロセス処理の一例を示すフローチャートである。

40

【図 29】始動口スイッチ通過処理の一例を示すフローチャートである。

【図 30】入賞時演出処理の一例を示すフローチャートである。

【図 31】特別図柄通常処理の一例を示すフローチャートである。

【図 32】特別図柄判定処理の一例を示すフローチャートである。

【図 33】特別図柄バッファシフト処理の一例を示すフローチャートである。

【図 34】変動パターン設定処理の一例を示すフローチャートである。

【図 35】特別図柄変動処理の一例を示すフローチャートである。

【図 36】特別図柄停止処理の一例を示すフローチャートである。

【図 37】大当たり終了処理の一例を示すフローチャートである。

【図 38】表示処理の一例を示すフローチャートである。

50

- 【図 3 9】各保留表示器の点灯制御態様の説明図である。
- 【図 4 0】特別図柄表示制御処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 4 1】表示制御処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 4 2】(A) は始動入賞発生によるコマンド送信タイミングと保留表示器の発光制御開始タイミングの説明図であり、(B) は可変表示開始時におけるコマンド送信タイミングと保留表示器の保留記憶数減算後態様での発光制御開始タイミングの説明図であり、(C) は可変表示開始時における特別図柄の発光制御開始タイミングとか変表示時間の減算開始タイミングの説明図である。
- 【図 4 3】演出制御メイン処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 4 4】演出制御プロセス処理の一例を示すフローチャートである。 10
- 【図 4 5】演出モード決定処理における演出モード変更契機の説明図である。
- 【図 4 6】保留変化演出の実行の有無及び演出パターンの決定割合の説明図である。
- 【図 4 7】入賞時フラッシュ演出処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 4 8】入賞時フラッシュ演出の実行の有無決定割合の説明図である。
- 【図 4 9】ボタン振動演出処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 5 0】各サブ保留表示器の点灯制御態様の説明図である。
- 【図 5 1】可変表示開始設定処理の一例を示すフローチャートである。
- 【図 5 2】(A) は CPU 及び演出制御用 CPU の処理周期の説明図であり、(B) は演出モード毎のアニメーションの実行期間の説明図である。
- 【図 5 3】(A 1) 及び (A 2) は演出モード A における画像表示装置の表示態様の説明図であり、(B 1) 及び (B 2) は演出モード B における画像表示装置の表示態様の説明図であり、(C 1) 及び (C 2) は演出モード C における画像表示装置の表示態様の説明図であり、(D 1) 及び (D 2) は演出モード D における画像表示装置の表示態様の説明図である。 20
- 【図 5 4】演出モード A における出現アニメーションを示す説明図である。
- 【図 5 5】演出モード A における出現アニメーションを示す説明図である。
- 【図 5 6】演出モード A における出現アニメーションでの保留表示の移動態様を示す説明図である。
- 【図 5 7】シフトアニメーションを示す説明図である。
- 【図 5 8】演出モード B における出現アニメーションを示す説明図である。 30
- 【図 5 9】演出モード B における出現アニメーションを示す説明図である。
- 【図 6 0】演出モード C における出現アニメーションを示す説明図である。
- 【図 6 1】演出モード D における出現アニメーションを示す説明図である。
- 【図 6 2】(A) は演出モード A における滞留アニメーションを示す説明図であり、(B) は演出モード B における滞留アニメーションを示す説明図である。
- 【図 6 3】(A) は演出モード A における終了アニメーションを示す説明図であり、(B) は演出モード B における終了アニメーションを示す説明図であり、(C) は演出モード C における終了アニメーションを示す説明図であり、(D) は演出モード D における終了アニメーションを示す説明図である。
- 【図 6 4】演出モード A におけるシフトアニメーションを示す説明図である。 40
- 【図 6 5】演出モード A におけるシフトアニメーションを示す説明図である。
- 【図 6 6】演出モード B におけるシフトアニメーションを示す説明図である。
- 【図 6 7】(A) は各演出モードにおけるアクティブ表示エリア及び保留表示エリアの表示態様を示す説明図であり、(B) は各演出モードにおけるアニメーションの説明図である。
- 【図 6 8】保留記憶数が 1 個以上であるときに保留記憶が発生した場合の出現アニメーションの説明図である。
- 【図 6 9】保留記憶数が 1 個以上であるときに保留記憶が発生した場合の出現アニメーションの説明図である。
- 【図 7 0】保留記憶数が 0 個であるときに保留記憶が発生した場合の出現アニメーション 50

の説明図である。

【図 7 1】保留記憶数が 0 個であるときに保留記憶が発生した場合の出現アニメーションの説明図である。

【図 7 2】保留記憶数が 1 ~ 3 個の可変表示中に新たな保留記憶が発生し、且つ次の可変表示開始まで 6 6 0 m s 以上前のタイミングから出現アニメーションが開始される場合の説明図である。

【図 7 3】保留記憶数が 1 ~ 3 個の可変表示中に新たな保留記憶が発生し、且つ次の可変表示開始まで 6 6 0 m s 未満のタイミングから出現アニメーションが開始される場合の説明図である。

【図 7 4】保留記憶数が 1 ~ 3 個の可変表示終了後、次の可変表示の開始後であるシフトアニメーション中に新たな保留記憶が発生した場合の説明図である。 10

【図 7 5】保留記憶数が 1 ~ 3 個の可変表示終了後、次の可変表示の開始後 3 3 m s 以内のタイミングで保留記憶が発生した場合の説明図である。

【図 7 6】保留記憶数が 1 ~ 3 個の可変表示終了後、次の可変表示の開始まで 3 3 m s 未満のタイミングで新たな保留記憶が発生した場合の説明図である。

【図 7 7】保留記憶数が 4 個の可変表示中に新たな始動入賞が発生した場合の説明図である。

【図 7 8】保留記憶数が 4 個の可変表示終了後、次の可変表示のシフトアニメーション空に新たな保留記憶が発生した場合の説明図である。

【図 7 9】保留記憶数が 4 個の可変表示終了後の図柄確定期間に新たな始動入賞が発生した場合の説明図である。 20

【図 8 0】保留記憶数が 4 個の可変表示終了後、次の可変表示の開始から 3 3 m s 以内に新たな保留記憶が発生した場合の説明図である。

【図 8 1】保留記憶数が 0 個の可変表示中に新たな保留記憶が発生し、且つ次の可変表示の開始まで 6 6 0 m s 以上のタイミングから出現アニメーションが開始される場合の説明図である。

【図 8 2】保留記憶数が 0 個の可変表示中に新たな保留記憶が発生し、且つ次の可変表示の開始まで 6 6 0 m s 未満のタイミングから出現アニメーションが開始される場合の説明図である。

【図 8 3】保留記憶数が 0 個の可変表示の図柄確定期間終了後 3 3 m s 未満のタイミングで新たな保留記憶が発生した場合の説明図である。 30

【図 8 4】保留記憶数が 0 個の可変表示の図柄確定期間終了まで 3 3 m s 未満のタイミングで新たな保留記憶が発生した場合の説明図である。

【図 8 5】保留記憶数が 0 個の可変表示の図柄確定期間終了後 3 3 m s 以上のタイミングで新たな保留記憶が発生した場合の説明図である。

【図 8 6】保留記憶数が 0 個、可変表示の非実行時において新たな保留記憶が発生した場合の可変表示開始タイミングに関する説明図である。

【図 8 7】保留記憶数が 0 個、可変表示の非実行時において新たな保留記憶が発生した場合の可変表示開始タイミングに関する説明図である。

【図 8 8】保留記憶数が 0 個、可変表示の実行時において新たな保留記憶が発生した場合の保留表示器及び保留表示の表示タイミングに関する説明図である。 40

【図 8 9】保留記憶数が 1 個、可変表示の実行時において新たな保留記憶が発生した場合の保留表示器及び保留表示の表示タイミングに関する説明図である。

【図 9 0】保留記憶数が 0 個、可変表示の実行時において新たな保留記憶が発生した場合の保留表示器及び保留表示の表示タイミングに関する説明図である。

【図 9 1】保留記憶数が 0 個、可変表示の実行時において新たな保留記憶が発生した場合の保留表示器及び保留表示の表示タイミングに関する説明図である。

【図 9 2】各演出の比較図である。

【図 9 3】始動口スイッチ通過処理において抽出した乱数値を格納するときの説明図である。

【図 9 4】特別バッファシフト処理の説明図である。

【図 9 5】特別バッファシフト処理の説明図である。

【図 9 6】演出モード C や演出モード D でのシフトアニメーション中に新たな保留記憶が発生した場合の説明図である。

【図 9 7】演出モード C や演出モード D でのシフトアニメーション中に新たな保留記憶が発生した場合の説明図である。

【図 9 8】演出モード C や演出モード D でのシフトアニメーション中に新たな保留記憶が発生した場合の説明図である。

【図 9 9】保留記憶が連続発生した場合の説明図である。

【図 1 0 0】保留記憶数が 0 個、可変表示の非実行時において新たな保留記憶が発生した場合の説明図である。 10

【発明を実施するための形態】

【0 0 0 9】

本発明に係る遊技機を実施するための形態を実施例に基づいて以下に説明する。尚、以下の実施例では、特別図柄や飾り図柄の「可変表示」を「変動表示」や単に「変動」と表記する場合がある。

【0 0 1 0】

[形態 1]

形態 1 の遊技機は、

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、 20

遊技制御手段と、

演出実行手段と、

保留記憶手段と、を備え、

前記保留記憶手段は、所定数を上限として可変表示に関する情報を保留記憶として記憶することが可能であり、

前記遊技制御手段は、可変表示が終了したときに、次の可変表示に対応する保留記憶がある場合に次の可変表示を実行可能であり、

前記演出実行手段は、

保留記憶が記憶されたときに、開始態様と、完了態様と、該完了態様の 1 つ前の態様である完了前態様を含む複数の途中態様と、を段階的に変化させて保留表示を表示可能であり、 30

可変表示中に既に記憶されている保留記憶に対応する保留表示を次の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた位置から次の可変表示に対応する位置に移動させることが可能であり、

前記所定数未満の N 数の保留記憶が記憶されている状況における可変表示である保留記憶数 N 時可変表示の実行中において、

次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に 40

変化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、
次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に変化させて該保留表示を表示し、

前記保留記憶数 N 時可変表示が終了し、前記保留シフト開始タイミングから前記特定期間が経過するまでに新たな保留記憶が記憶された場合は、N 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に変化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該保留表示を表示する、 50

ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に变化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様への変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をみせることができる。さらに、次の可変表示の開始直前と直後での切り分けにより、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をより好適に遊技者に見せることができる。

対応図面：図 7 2 ~ 図 7 4

10

尚、本形態において、

『有利状態』は本実施の形態における『大当り遊技状態』に該当し、
 『遊技制御手段』は本実施の形態における『CPU 103』に該当し、
 『演出実行手段』は本実施の形態における『演出制御用CPU 120』に該当し、
 『保留記憶手段』は本実施の形態における『第1特別図柄バッファ001SG151』や『第2特別図柄バッファ001SG151B』に該当し、
 『所定数』は本実施の形態における『第1特図保留記憶数や第2特図保留記憶数が4個であること』に該当し、
 『開始態様』は本実施の形態における『出現アニメーションの1フレーム目の画像として表示される保留表示』に該当し、
 『完了態様』は本実施の形態における『出現アニメーションの20フレーム目の画像及びシフトアニメーションの1フレーム目の画像として表示される保留表示』に該当し、
 『途中態様』は本実施の形態における『出現アニメーションの2フレーム目から19フレーム目の画像として表示される保留表示』に該当し、
 『保留シフト』は本実施の形態における『シフトアニメーション』に該当し、
 『特定期間』とは本実施の形態における『シフトアニメーションの表示実行期間である330ms』に該当し、
 『所定期間』とは本実施の形態における『出現アニメーションの表示実行期間である660ms』に該当し、
 『保留表示位置』とは本実施の形態における『保留記憶表示エリア5U』に該当する。

20

30

【0011】

[形態2]

形態2の遊技機は、

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出実行手段と、

保留記憶手段と、を備え、

前記保留記憶手段は、所定数を上限として可変表示に関する情報を保留記憶として記憶することが可能であり、

前記遊技制御手段は、可変表示が終了したときに、次の可変表示に対応する保留記憶がある場合に次の可変表示を実行可能であり、

40

前記演出実行手段は、

保留記憶が記憶されたときに、開始態様と、完了態様と、該完了態様の1つ前の態様である完了前態様を含む複数の途中態様と、を段階的に変化させて保留表示を表示可能であり、

可変表示中に既に記憶されている保留記憶に対応する保留表示を次の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた位置から次の可変表示に対応する位置に移動させることが可能であり、

前記所定数未満のN数の保留記憶が記憶されている状況における可変表示である保留記憶数N時可変表示の実行中において、

50

次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、 $N + 1$ 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間でないときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、 $N + 1$ 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、

10

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間であるときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、 $N + 1$ 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、

前記保留記憶数 N 時可変表示が終了し、次の可変表示が開始された直後に新たな保留記憶が記憶された場合は、 N 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該保留表示を表示する、

ことを特徴としている。

20

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に变化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様への変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をみせることができる。さらに、次の可変表示の開始直前と直後での切り分けにより、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をより好適に遊技者に見せることができる。

対応図面：図 7 2、図 7 3、図 7 5、図 7 6

【 0 0 1 2 】

30

[形態 3]

形態 3 の遊技機は、

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出実行手段と、

保留記憶手段と、を備え、

前記保留記憶手段は、所定数を上限として可変表示に関する情報を保留記憶として記憶することが可能であり、

前記遊技制御手段は、可変表示が終了したときに、次の可変表示に対応する保留記憶がある場合に次の可変表示を実行可能であり、

40

前記演出実行手段は、

保留記憶が記憶されたときに、開始態様と、完了態様と、該完了態様の 1 つ前の態様である完了前態様を含む複数の途中態様と、を段階的に変化させて保留表示を表示可能であり、

可変表示中に既に記憶されている保留記憶に対応する保留表示を次の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた位置から次の可変表示に対応する位置に移動させることが可能であり、

前記所定数未満の N 数の保留記憶が記憶されている状況における可変表示である保留記憶数 N 時可変表示の実行中において、

次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記

50

憶が記憶された場合は、 $N + 1$ 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、 $N + 1$ 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、

保留記憶が記憶されていない状況における可変表示である保留記憶数 0 時可変表示の実行中において、

10

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示する、

20

ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に变化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様への変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をみせることができる。さらに、保留記憶数が 0 である状態であるときに、新たな保留記憶が記憶されるタイミングが、次の可変表示の開始までに所定期間の猶予がないときは、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化を完了態様に变化させることで、保留記憶数 0 である状態であっても、保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。

30

対応図面：図 7 2、図 7 3、図 8 1、図 8 2

【 0 0 1 3 】

[形態 4]

形態 4 の遊技機は、

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出実行手段と、

保留記憶手段と、を備え、

前記保留記憶手段は、所定数を上限として可変表示に関する情報を保留記憶として記憶することが可能であり、

40

前記遊技制御手段は、可変表示が終了したときに、次の可変表示に対応する保留記憶がある場合に次の可変表示を実行可能であり、

前記演出実行手段は、

保留記憶が記憶されたときに、開始態様と、完了態様と、該完了態様の 1 つ前の態様である完了前態様を含む複数の途中態様と、を段階的に変化させて保留表示を表示可能であり、

可変表示中に既に記憶されている保留記憶に対応する保留表示を次の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた位置から次の可変表示に対応する位置に移動させることが可能であり、

50

前記所定数未満のN数の保留記憶が記憶されている状況における可変表示である保留記憶数N時可変表示の実行中において、

次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間でないときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となつている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、

10

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間であるときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様となつている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、

前記保留記憶数N時可変表示が終了し、次の可変表示が開始された直後に新たな保留記憶が記憶された場合は、N数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

20

保留記憶が記憶されていない状況における可変表示である保留記憶数0時可変表示の実行中において、

前記保留記憶数0時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

前記保留記憶数0時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも短いときであって、該保留記憶数0時可変表示が終了する直前でないときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となつている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、

30

前記保留記憶数0時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも短いときであって、該保留記憶数0時可変表示が終了する直前であるときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様となつている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、

前記保留記憶数0時可変表示が終了した直後に新たな保留記憶が記憶された場合は、該保留記憶数0時可変表示の次の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記完了態様から表示する、

40

ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に变化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様への変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をみせることができる。さらに、次の可変表示の開始直前と直後での切り分けにより、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をより好適に遊技者に見せることができる。さらに、保留記憶数が0である状態であるときに、新たな保留記憶が

50

記憶されるタイミングが、次の可変表示の開始までに所定期間の猶予がないときは、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化を完了態様に变化させることで、保留記憶数 0 である状態であっても、保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。

対応図面：図 7 2、図 7 3、図 7 5、図 7 6、図 8 1 ~ 図 8 4

尚、本形態において、

『保留記憶数 0 時可変表示が終了する直前』とは『保留記憶数が 0 個の可変表示が終了するまで 3 3 m s 未満のタイミング』に該当し、

『保留記憶数 0 時可変表示が終了した直後』とは『保留記憶数が 0 個の可変表示が終了してから 3 3 m s 未満のタイミング』に該当する。

10

【 0 0 1 4 】

[形態 5]

形態 5 の遊技機は、

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出実行手段と、

保留記憶手段と、を備え、

前記保留記憶手段は、所定数を上限として可変表示に関する情報を保留記憶として記憶することが可能であり、

前記遊技制御手段は、可変表示が終了したときに、次の可変表示に対応する保留記憶がある場合に次の可変表示を実行可能であり、

20

前記演出実行手段は、

保留記憶が記憶されたときに、開始態様と、完了態様と、該完了態様の 1 つ前の態様である完了前態様を含む複数の途中態様と、を段階的に变化させて保留表示を表示可能であり、

可変表示中に既に記憶されている保留記憶に対応する保留表示を次の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた位置から次の可変表示に対応する位置に移動させることが可能であり、

前記所定数未満の N 数の保留記憶が記憶されている状況における可変表示である保留記憶数 N 時可変表示の実行中において、

30

次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に变化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで变化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、

前記保留記憶数 N 時可変表示が終了し、前記保留シフト開始タイミングから前記特定期間が経過するまでに新たな保留記憶が記憶された場合は、N 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に变化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

40

前記保留表示を前記完了態様で表示してから、前記保留シフト開始タイミングとなるまでの期間で該保留表示の表示で用いる表示領域よりも、前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に变化させた後に前記完了態様に变化させる変化で用いる表示領域の方が大きい、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可

50

変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に变化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様への変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をみせることができる。さらに、次の可変表示の開始直前と直後での切り分けにより、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をより好適に遊技者に見せることができる。また、可変表示開始から保留表示位置が移動する特定期間の間に新たに記憶された保留記憶は保留表示が初めから移動先の表示位置において表示されるため、段階的变化を完了態様に变化させる必要がなく、遊技者に段階的变化を見せることができる。さらに、保留表示の新たに表示が既に表示されている保留表示と重畳するタイミングであったとしても、使用表示領域が、新たな保留表示の段階的变化で用いる表示領域のほ

うが広いので、遊技者は保留記憶を認識できる。

対応図面：図 5 6、図 7 2 ~ 図 7 4

【 0 0 1 5 】

[形態 6]

形態 6 の遊技機は、
可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、
遊技制御手段と、
演出実行手段と、
保留記憶手段と、を備え、
前記保留記憶手段は、所定数を上限として可変表示に関する情報を保留記憶として記憶することが可能であり、
前記遊技制御手段は、可変表示が終了したときに、次の可変表示に対応する保留記憶がある場合に次の可変表示を実行可能であり、
前記演出実行手段は、
保留記憶が記憶されたときに、開始態様と、完了態様と、該完了態様の 1 つ前の態様である完了前態様を含む複数の途中態様と、を段階的に变化させて保留表示を表示可能であり、
可変表示中に既に記憶されている保留記憶に対応する保留表示を次の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた位置から次の可変表示に対応する位置に移動させることが可能であり、
前記所定数未満の N 数の保留記憶が記憶されている状況における可変表示である保留記憶数 N 時可変表示の実行中において、
次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に变化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、
次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間でないときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで变化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、
次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間であるときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、
前記保留記憶数 N 時可変表示が終了し、次の可変表示が開始された直後に新たな保留記憶が記憶された場合は、N 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様

で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に変化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

前記保留表示を前記完了態様で表示してから、前記保留シフト開始タイミングとなるまでの期間で該保留表示の表示で用いる表示領域よりも、前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に変化させる変化で用いる表示領域の方が大きい、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に変化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様への変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的変化をみせることができる。さらに、次の可変表示の開始直前と直後での切り分けにより、新たな保留記憶の記憶時における段階的変化をより好適に遊技者に見せることができる。また、可変表示開始から保留表示位置が移動する特定期間の間に新たに記憶された保留記憶は保留表示が初めから移動先の表示位置において表示されるため、段階的変化を完了態様に変化させる必要がなく、遊技者に段階的変化を見せることができる。さらに、保留表示の新たに表示が既に表示されている保留表示と重畳するタイミングであったとしても、使用表示領域が、新たな保留表示の表示で用いる表示領域のほうが広いので、遊技者は保留記憶を認識できる。

対応図面：図 5 6、図 7 2、図 7 3、図 7 5、図 7 6

【 0 0 1 6 】

[形態 7]

形態 7 の遊技機は、

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出実行手段と、

保留記憶手段と、を備え、

前記保留記憶手段は、所定数を上限として可変表示に関する情報を保留記憶として記憶することが可能であり、

前記遊技制御手段は、可変表示が終了したときに、次の可変表示に対応する保留記憶がある場合に次の可変表示を実行可能であり、

前記演出実行手段は、

保留記憶が記憶されたときに、開始態様と、完了態様と、該完了態様の 1 つ前の態様である完了前態様を含む複数の途中態様と、を段階的に変化させて保留表示を表示可能であり、

可変表示中に既に記憶されている保留記憶に対応する保留表示を次の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた位置から次の可変表示に対応する位置に移動させることが可能であり、

前記所定数未満の N 数の保留記憶が記憶されている状況における可変表示である保留記憶数 N 時可変表示の実行中において、

次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に変化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に変化させて該保留表示を表示し、

前記保留記憶数 N 時可変表示が終了し、前記保留シフト開始タイミングから前記特定期間が経過するまでに新たな保留記憶が記憶された場合は、N 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に変化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

保留記憶が記憶されていない状況における可変表示である保留記憶数 0 時可変表示の実行中において、

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に変化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

10

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に変化させて該保留表示を表示し、

前記保留表示を前記完了態様で表示してから、前記保留シフト開始タイミングとなるまでの期間で該保留表示の表示で用いる表示領域よりも、前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に変化させる変化で用いる表示領域の方が大きい、

20

ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に変化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様への変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的変化をみせることができる。さらに、保留記憶数が 0 である状態であるときに、新たな保留記憶が記憶されるタイミングが、次の可変表示の開始までに所定期間の猶予がないときは、新たな保留記憶の記憶時における段階的変化を完了態様に変化させることで、保留記憶数 0 である状態であっても、保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、可変表示開始から保留表示位置が移動する特定期間の間に新たに記憶された保留記憶は保留表示が初めから移動先の表示位置おいてに表示されるため、段階的変化を完了態様に変化させる必要がなく、遊技者に段階的変化を見せることができ、既に N 数目に対応する保留表示位置に表示されていた保留表示が移動するときに、N 数目に対応する保留表示位置に新たに表示される保留表示が重畳しても、使用する表示領域が新たに表示される保留表示の方が広いため、新たに表示される保留表示を視認しやすく、誤認を防ぐことができる。さらに、保留表示の新たに表示が既に表示されている保留表示と重畳するタイミングであったとしても、使用表示領域が、新たな保留表示の表示で用いる表示領域のほうが広いので、遊技者は保留記憶を認識できる。

30

40

対応図面：図 5 6、図 7 2、図 7 3、図 8 1、図 8 2

【 0 0 1 7 】

[形態 8]

形態 8 の遊技機は、

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出実行手段と、

保留記憶手段と、を備え、

前記保留記憶手段は、所定数を上限として可変表示に関する情報を保留記憶として記憶することが可能であり、

50

前記遊技制御手段は、可変表示が終了したときに、次の可変表示に対応する保留記憶がある場合に次の可変表示を実行可能であり、

前記演出実行手段は、

保留記憶が記憶されたときに、開始態様と、完了態様と、該完了態様の1つ前の態様である完了前態様を含む複数の途中態様と、を段階的に変化させて保留表示を表示可能であり、

可変表示中に既に記憶されている保留記憶に対応する保留表示を次の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた位置から次の可変表示に対応する位置に移動させることが可能であり、

前記所定数未満のN数の保留記憶が記憶されている状況における可変表示である保留記憶数N時可変表示の実行中において、 10

次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間でないときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、 20

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間であるときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、

前記保留記憶数N時可変表示が終了し、次の可変表示が開始された直後に新たな保留記憶が記憶された場合は、N数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、 30

保留記憶が記憶されていない状況における可変表示である保留記憶数0時可変表示の実行中において、

前記保留記憶数0時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

前記保留記憶数0時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも短いときであって、該保留記憶数0時可変表示が終了する直前でないときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、 40

前記保留記憶数0時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも短いときであって、該保留記憶数0時可変表示が終了する直前であるときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、

前記保留記憶数0時可変表示が終了した直後に新たな保留記憶が記憶された場合は、該保留記憶数0時可変表示の次の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記完了態様から表示し、 50

前記保留表示を前記完了態様で表示してから、前記保留シフト開始タイミングとなるまでの期間で該保留表示の表示で用いる表示領域よりも、前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に变化させる変化で用いる表示領域の方が大きい、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に变化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様への変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をみせることができる。さらに、次の可変表示の開始直前と直後での切り分けにより、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をより好適に遊技者に見せることができる。さらに、保留記憶数が0である状態であるときに、新たな保留記憶が記憶されるタイミングが、次の可変表示の開始までに所定期間の猶予がないときは、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化を完了態様に变化させることで、保留記憶数0である状態であっても、保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、保留記憶数が上限に到達している場合に、所定の可変表示が終了しても、次に可変表示が開始されるまでは保留記憶を記憶しないので、新たな保留記憶についての段階的变化も実行されず、終了した可変表示の可変表示結果に遊技者を集中させることができ、可変表示開始から保留表示位置が移動する特定期間の間に新たに記憶された保留記憶は保留表示が初めから移動先の表示位置において表示されるため、段階的变化を完了態様に变化させる必要がなく、遊技者に段階的变化を見せることができる。また、既に所定数目に表示されていた保留表示が移動するときに、所定数目に新たに表示される保留表示が重畳しても、使用する表示領域が新たに表示される保留表示の方が広いため、新たに表示される保留表示を視認しやすく、誤認を防ぐことができる。さらに、保留表示の新たに表示が既に表示されている保留表示と重畳するタイミングであったとしても、使用表示領域が、新たな保留表示の段階的变化で用いる表示領域のほうが広いので、遊技者は保留記憶を認識できる。

対応図面：図56、図72、図73、図75、図76、図81～図84

【0018】

[形態9]

形態9の遊技機は、

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出実行手段と、

保留記憶手段と、を備え、

前記保留記憶手段は、所定数を上限として可変表示に関する情報を保留記憶として記憶することが可能であり、

前記遊技制御手段は、可変表示が終了したときに、次の可変表示に対応する保留記憶がある場合に次の可変表示を実行可能であり、

前記演出実行手段は、

保留記憶が記憶されたときに、開始態様と、完了態様と、該完了態様の1つ前の態様である完了前態様を含む複数の途中態様と、を段階的に変化させて保留表示を表示可能であり、

保留記憶が記憶されたときに、入賞時演出を実行可能であり、

可変表示中に既に記憶されている保留記憶に対応する保留表示を次の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた位置から次の可変表示に対応する位置に移動させることが可能であり、

前記所定数未満のN数の保留記憶が記憶されている状況における可変表示である保留記憶数N時可変表示の実行中において、

10

20

30

40

50

次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、 $N+1$ 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、 $N+1$ 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、

前記保留記憶数 N 時可変表示が終了し、前記保留シフト開始タイミングから前記特定期間が経過するまでに新たな保留記憶が記憶された場合は、 N 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、 10

前記保留記憶数 N 時可変表示の実行中において、次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶された場合と、前記保留記憶数 N 時可変表示の実行中において、次の可変表示が開始されるまでの期間が該所定期間よりも短いときに、新たな保留記憶が記憶された場合と、前記保留記憶数 N 時可変表示が終了し、前記保留シフト開始タイミングから前記特定期間が経過するまでに新たな保留記憶が記憶された場合と、のいずれの場合であっても、前記入賞時演出を実行可能である、 20
ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に变化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様への変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をみせることができる。さらに、次の可変表示の開始直前と直後での切り分けにより、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をより好適に遊技者に見せることができる。また、可変表示開始から保留表示位置が移動する特定期間の間に新たに記憶された保留記憶は保留表示が初めから移動先の表示位置においてに表示されるため、段階的变化を完了態様に变化させる必要がなく、遊技者に段階的变化を見せることができる。さらに、入賞演出は、段階的变化の完了態様への変化の有無に関わらず実行可能であるため、遊技者は保留記憶をより認識しやすくなる。 30

対応図面：図 7 2 ~ 図 7 4、図 9 2

尚、本形態において、

『入賞演出』は『入賞時フラッシュ演出』に該当する。

【 0 0 1 9 】

[形態 1 0]

形態 1 0 の遊技機は、

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、 40

遊技制御手段と、

演出実行手段と、

保留記憶手段と、を備え、

前記保留記憶手段は、所定数を上限として可変表示に関する情報を保留記憶として記憶することが可能であり、

前記遊技制御手段は、可変表示が終了したときに、次の可変表示に対応する保留記憶がある場合に次の可変表示を実行可能であり、

前記演出実行手段は、

保留記憶が記憶されたときに、開始態様と、完了態様と、該完了態様の 1 つ前の態様である完了前態様を含む複数の途中態様と、を段階的に変化させて保留表示を表示可能で 50

あり、

保留記憶が記憶されたときに、入賞時演出を実行可能であり、

可変表示中に既に記憶されている保留記憶に対応する保留表示を次の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた位置から次の可変表示に対応する位置に移動させることが可能であり、

前記所定数未満のN数の保留記憶が記憶されている状況における可変表示である保留記憶数N時可変表示の実行中において、

次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に 10
変化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間でないときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に変化させて該保留表示を表示し、

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間であるときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様 20
となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に変化させて該保留表示を表示し、

前記保留記憶数N時可変表示が終了し、次の可変表示が開始された直後に新たな保留記憶が記憶された場合は、N数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に 30
変化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

前記保留記憶数N時可変表示の実行中において、次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶された場合と、前記保留記憶数N時可変表示の実行中において、次の可変表示が開始されるまでの期間が該所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間でないときに、新たな保留 30
記憶が記憶された場合と、前記保留記憶数N時可変表示の実行中において、次の可変表示が開始されるまでの期間が該所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間であるときに、新たな保留記憶が記憶された場合と、前記保留記憶数N時可変表示が終了し、次の可変表示が開始された直後に新たな保留記憶が記憶された場合と、のいずれの場合であっても、前記入賞時演出を実行可能である、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に变化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様へ 40
の変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をみせることができる。さらに、次の可変表示の開始直前と直後での切り分けにより、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をより好適に遊技者に見せることができる。また、可変表示開始から保留表示位置が移動する特定期間の間に新たに記憶された保留記憶は保留表示が初めから移動先の表示位置においてに表示されるため、段階的变化を完了態様に变化させる必要がなく、遊技者に段階的变化を見せることができる。さらに、入賞演出は、段階的变化の完了態様への変化の有無に関わらず実行可能であるため、遊技者は保留記憶をより認識しやすくなる。

対応図面：図72、図73、図75、図76、図92

【0020】

〔形態 1 1〕

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、
遊技制御手段と、
演出実行手段と、
保留記憶手段と、を備え、

前記保留記憶手段は、所定数を上限として可変表示に関する情報を保留記憶として記憶することが可能であり、

前記遊技制御手段は、可変表示が終了したときに、次の可変表示に対応する保留記憶がある場合に次の可変表示を実行可能であり、

前記演出実行手段は、

保留記憶が記憶されたときに、開始態様と、完了態様と、該完了態様の 1 つ前の態様である完了前態様を含む複数の途中態様と、を段階的に変化させて保留表示を表示可能であり、

保留記憶が記憶されたときに、入賞時演出を実行可能であり、

可変表示中に既に記憶されている保留記憶に対応する保留表示を次の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた位置から次の可変表示に対応する位置に移動させることが可能であり、

前記所定数未満の N 数の保留記憶が記憶されている状況における可変表示である保留記憶数 N 時可変表示の実行中において、

次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に変化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に変化させて該保留表示を表示し、

保留記憶が記憶されていない状況における可変表示である保留記憶数 0 時可変表示の実行中において、

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に変化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に変化させて該保留表示を表示し、

前記保留記憶数 N 時可変表示の実行中において、次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶された場合と、前記保留記憶数 N 時可変表示の実行中において、次の可変表示が開始されるまでの期間が該所定期間よりも短いときに、新たな保留記憶が記憶された場合と、前記保留記憶数 0 時可変表示の実行中において、前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が該所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶された場合と、前記保留記憶数 0 時可変表示の実行中において、前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が該所定期間よりも短いときに、新たな保留記憶が記憶された場合と、のいずれの場合であっても、前記入賞時演出を実行可能である、

ことを特徴としている。

10

20

30

40

50

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に变化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様への変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をみせることができる。さらに、保留記憶数が0である状態であるときに、新たな保留記憶が記憶されるタイミングが、次の可変表示の開始までに所定期間の猶予がないときは、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化を完了態様に变化させることで、保留記憶数0である状態であっても、保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、可変表示開始から保留表示位置が移動する特定期間の間に新たに記憶された保留記憶は保留表示が初めから移動先の表示位置において表示されるため、段階的变化を完了態様に变化させる必要がなく、遊技者に段階的变化を見せることができ、既にN数目に表示されていた保留表示が移動するときに、N数目に新たに表示される保留表示が重畳しても、使用する表示領域が新たに表示される保留表示の方が広いため、新たに表示される保留表示を視認しやすく、誤認を防ぐことができる。さらに、入賞演出は、段階的变化の完了態様への変化の有無に関わらず実行可能であるため、遊技者は保留記憶をより認識しやすくなる。

10

対応図面：図72、図73、図81、図82、図92

【0021】

[形態12]

20

形態12の遊技機は、

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出実行手段と、

保留記憶手段と、を備え、

前記保留記憶手段は、所定数を上限として可変表示に関する情報を保留記憶として記憶することが可能であり、

前記遊技制御手段は、可変表示が終了したときに、次の可変表示に対応する保留記憶がある場合に次の可変表示を実行可能であり、

前記演出実行手段は、

30

保留記憶が記憶されたときに、開始態様と、完了態様と、該完了態様の1つ前の態様である完了前態様を含む複数の途中態様と、を段階的に变化させて保留表示を表示可能であり、

保留記憶が記憶されたときに、入賞時演出を実行可能であり、

可変表示中に既に記憶されている保留記憶に対応する保留表示を次の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた位置から次の可変表示に対応する位置に移動させることが可能であり、

前記所定数未満のN数の保留記憶が記憶されている状況における可変表示である保留記憶数N時可変表示の実行中において、

次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に变化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

40

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間でないときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで变化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次

50

の可変表示が開始される直前の期間であるときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、 $N + 1$ 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に変化させて該保留表示を表示し、

前記保留記憶数 N 時可変表示が終了し、次の可変表示が開始された直後に新たな保留記憶が記憶された場合は、 N 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に変化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

保留記憶が記憶されていない状況における可変表示である保留記憶数 0 時可変表示の実行中において、

10

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に変化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも短いときであって、該保留記憶数 0 時可変表示が終了する直前でないときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に変化させて該保留表示を表示し、

20

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも短いときであって、該保留記憶数 0 時可変表示が終了する直前であるときに、新たな保留記憶が記憶された場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に変化させて該保留表示を表示し、

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了した直後に新たな保留記憶が記憶された場合は、該保留記憶数 0 時可変表示の次の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記完了態様から表示し、

前記保留記憶数 N 時可変表示の実行中において、次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶された場合と、前記保留記憶数 N 時可変表示の実行中において、次の可変表示が開始されるまでの期間が該所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間でないときに、新たな保留記憶が記憶された場合と、前記保留記憶数 N 時可変表示の実行中において、次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間であるときに、新たな保留記憶が記憶された場合と、前記保留記憶数 N 時可変表示が終了し、次の可変表示が開始された直後に新たな保留記憶が記憶された場合と、前記保留記憶数 0 時可変表示の実行中において、前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶された場合と、前記保留記憶数 0 時可変表示の実行中において、前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が所定期間よりも短いときであって、該保留記憶数 0 時可変表示が終了する直前でないときに、新たな保留記憶が記憶された場合と、前記保留記憶数 0 時可変表示の実行中において、前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が所定期間よりも短いときであって、該保留記憶数 0 時可変表示が終了する直前であるときに、新たな保留記憶が記憶された場合と、前記保留記憶数 0 時可変表示が終了した直後に新たな保留記憶が記憶された場合と、のいずれの場合であっても、前記入賞時演出を実行可能である、

30

40

ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に変化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様へ

50

の変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をみせることができる。さらに、次の可変表示の開始直前と直後での切り分けにより、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をより好適に遊技者に見せることができる。さらに、保留記憶数が0である状態であるときに、新たな保留記憶が記憶されるタイミングが、次の可変表示の開始までに所定期間の猶予がないときは、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化を完了態様に変化させることで、保留記憶数0である状態であっても、保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、保留記憶数が上限に到達している場合に、所定の可変表示が終了しても、次に可変表示が開始されるまでは保留記憶を記憶しないので、新たな保留記憶についての段階的变化も実行されず、終了した可変表示の可変表示結果に遊技者を集中させることができ、可変表示開始から保留表示位置が移動する特定期間の間に新たに記憶された保留記憶は保留表示が初めから移動先の表示位置においてに表示されるため、段階的变化を完了態様に変化させる必要がなく、遊技者に段階的变化を見せることができる。また、既に所定数目に表示されていた保留表示が移動するときに、所定数目に新たに表示される保留表示が重畳しても、使用する表示領域が新たに表示される保留表示の方が広いため、新たに表示される保留表示を視認しやすく、誤認を防ぐことができる。さらに、入賞演出は、段階的变化の完了態様への変化の有無に関わらず実行可能であるため、遊技者は保留記憶をより認識しやすくなる。

10

対応図面：図72、図73、図75、図76、図81～図84、図92

【0022】

20

[形態13]

形態13の遊技機は、

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出実行手段と、

保留記憶手段と、を備え、

前記保留記憶手段は、所定数を上限として可変表示に関する情報を保留記憶として記憶することが可能であり、

前記遊技制御手段は、可変表示が終了したときに、次の可変表示に対応する保留記憶がある場合に次の可変表示を実行可能であり、

30

前記演出実行手段は、

保留記憶が記憶されたときに、通常保留表示と、該通常保留表示よりも前記有利状態に制御される期待度が高い特殊保留表示とを含む複数種類の保留表示のうち1の保留表示を表示可能であり、

保留記憶が記憶されたときに、通常開始態様と、通常完了態様と、該通常完了態様の1つ前の態様である通常完了前態様を含む複数の通常途中態様と、を段階的に変化させて前記通常保留表示を表示可能であり、

保留記憶が記憶されたときに、特殊開始態様と、特殊完了態様と、該特殊完了態様の1つ前の態様である特殊完了前態様を含む複数の特殊途中態様と、を段階的に変化させて前記特殊保留表示を表示可能であり、

40

可変表示中に既に記憶されている保留記憶に対応する前記保留表示を次の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた位置から次の可変表示に対応する位置に移動させることが可能であり、

前記所定数未満のN数の保留記憶が記憶されている状況における可変表示である保留記憶数N時可変表示の実行中において、

次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶され前記通常保留表示を表示する場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に該通常保留表示を前記通常開始態様で開始し該通常開始態様から前記複数の通常途中態様に段階的に変化させた後に前記通常完了態様に変化させる変化、を該所定期間かけて実行して該通常保留表示を表示し、

50

次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶され前記特殊保留表示を表示する場合は、 $N + 1$ 数目に対応する保留表示位置に該特殊保留表示を前記特殊開始態様で開始し該特殊開始態様から前記複数の特殊途中態様に段階的に変化させた後に前記特殊完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該特殊保留表示を表示し、

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな保留記憶が記憶され前記通常保留表示を表示する場合は、 $N + 1$ 数目に対応する保留表示位置に該通常保留表示を前記通常開始態様で開始し、該通常開始態様から前記通常完了前態様とは異なる通常途中態様まで変化させ、該通常完了前態様とは異なる通常途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記通常完了態様に变化させて該通常保留表示を表示し、

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな保留記憶が記憶され前記特殊保留表示を表示する場合は、 $N + 1$ 数目に対応する保留表示位置に該特殊保留表示を前記特殊開始態様で開始し、該特殊開始態様から前記特殊完了前態様とは異なる特殊途中態様まで変化させ、該特殊完了前態様とは異なる特殊途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記特殊完了態様に变化させて該特殊保留表示を表示し、

前記保留記憶数 N 時可変表示が終了し、前記保留シフト開始タイミングから前記特定期間が経過するまでに新たな保留記憶が記憶され前記通常保留表示を表示する場合は、 N 数目に対応する保留表示位置に該通常保留表示を前記通常開始態様で開始し該通常開始態様から前記複数の通常途中態様に段階的に変化させた後に前記通常完了態様に变化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該通常保留表示を表示し、

前記保留記憶数 N 時可変表示が終了し、前記保留シフト開始タイミングから前記特定期間が経過するまでに新たな保留記憶が記憶され前記特殊保留表示を表示する場合は、 N 数目に対応する保留表示位置に該特殊保留表示を前記特殊開始態様で開始し該特殊開始態様から前記複数の特殊途中態様に段階的に変化させた後に前記特殊完了態様に变化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該特殊保留表示を表示する、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に变化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様への変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をみせることができる。さらに、次の可変表示の開始直前と直後での切り分けにより、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をより好適に遊技者に見せることができる。また、可変表示開始から保留表示位置が移動する特定期間の間に新たに記憶された保留記憶は保留表示が初めから移動先の表示位置において表示されるため、段階的变化を完了態様に变化させる必要がなく、遊技者に段階的变化を見せることができる。さらに、特殊保留表示が表示される場合であっても、通常保留表示が表示される場合と同じように段階的表示の通常完了態様や特殊完了態様への変化及び該変化の実行の有無の法則が適用されるため、保留記憶を遊技者がより認識しやすい。

対応図面：図 6 9、図 7 2 ~ 図 7 4

尚、本形態において、

『通常保留表示』は本実施の形態における『保留変化演出の非実行が決定されたことによる白色の保留表示』に該当し、

『特殊保留表示』は本実施の形態における『保留変化演出の実行が決定されたことによる青色及び赤色の保留表示』に該当し、

『通常開始態様』は本実施の形態における『保留変化演出の非実行が決定されたことによって出現アニメーションの 1 フレーム目の画像として表示される白色の保留表示』に該当し、

『通常完了態様』は本実施の形態における『保留変化演出の非実行が決定されたことによって出現アニメーションの20フレーム目の画像及びシフトアニメーションの1フレーム目の画像として表示される保留表示』に該当し、

『通常途中態様』は本実施の形態における『保留変化演出の非実行が決定されたことによって出現アニメーションの2フレーム目から19フレーム目の画像として表示される保留表示』に該当し、

『特殊開始態様』は本実施の形態における『保留変化演出の実行が決定されたことによって出現アニメーションの1フレーム目の画像として表示される青色または赤色の保留表示』に該当し、

『特殊完了態様』は本実施の形態における『保留変化演出の実行が決定されたことによって出現アニメーションの20フレーム目の画像及びシフトアニメーションの1フレーム目の画像として表示される青色または赤色の保留表示』に該当し、

『特殊途中態様』は本実施の形態における『保留変化演出の非実行が決定されたことによって出現アニメーションの2フレーム目から19フレーム目の画像として表示される青色または赤色の保留表示』に該当する。

【0023】

[形態14]

形態14の遊技機は、

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出実行手段と、

保留記憶手段と、を備え、

前記保留記憶手段は、所定数を上限として可変表示に関する情報を保留記憶として記憶することが可能であり、

前記遊技制御手段は、可変表示が終了したときに、次の可変表示に対応する保留記憶がある場合に次の可変表示を実行可能であり、

前記演出実行手段は、

保留記憶が記憶されたときに、通常保留表示と、該通常保留表示よりも前記有利状態に制御される期待度が高い特殊保留表示とを含む複数種類の保留表示のうち1の保留表示を表示可能であり、

保留記憶が記憶されたときに、通常開始態様と、通常完了態様と、該通常完了態様の1つ前の態様である通常完了前態様を含む複数の通常途中態様と、を段階的に変化させて前記通常保留表示を表示可能であり、

保留記憶が記憶されたときに、特殊開始態様と、特殊完了態様と、該特殊完了態様の1つ前の態様である特殊完了前態様を含む複数の特殊途中態様と、を段階的に変化させて前記特殊保留表示を表示可能であり、

可変表示中に既に記憶されている保留記憶に対応する前記保留表示を次の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた位置から次の可変表示に対応する位置に移動させることが可能であり、

前記所定数未満のN数の保留記憶が記憶されている状況における可変表示である保留記憶数N時可変表示の実行中において、

次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶され前記通常保留表示を表示する場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に該通常保留表示を前記通常開始態様で開始し該通常開始態様から前記複数の通常途中態様に段階的に変化させた後に前記通常完了態様に変化させる変化、を該所定期間かけて実行して該通常保留表示を表示し、

次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶され前記特殊保留表示を表示する場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に該特殊保留表示を前記特殊開始態様で開始し該特殊開始態様から前記複数の特殊途中態様に段階的に変化させた後に前記特殊完了態様に変化させる変化、を該所定期間かけて実行

10

20

30

40

50

して該特殊保留表示を表示し、

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間でないときに、新たな保留記憶が記憶され前記通常保留表示を表示する場合は、 $N+1$ 数目に対応する保留表示位置に該通常保留表示を前記通常開始態様で開始し、該通常開始態様から前記通常完了前態様とは異なる通常途中態様まで変化させ、該通常完了前態様とは異なる通常途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記通常完了態様に変化させて該通常保留表示を表示し、

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間でないときに、新たな保留記憶が記憶され前記特殊保留表示を表示する場合は、 $N+1$ 数目に対応する保留表示位置に該特殊保留表示を前記特殊開始態様で開始し、該特殊開始態様から前記特殊完了前態様とは異なる特殊途中態様まで変化させ、該特殊完了前態様とは異なる特殊途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記特殊完了態様に変化させて該特殊保留表示を表示し、

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間であるときに、新たな保留記憶が記憶され前記通常保留表示を表示する場合は、 $N+1$ 数目に対応する保留表示位置に該通常保留表示を前記通常開始態様で開始し、該通常開始態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記通常完了態様に変化させて該通常保留表示を表示し、

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間であるときに、新たな保留記憶が記憶され前記特殊保留表示を表示する場合は、 $N+1$ 数目に対応する保留表示位置に該特殊保留表示を前記特殊開始態様で開始し、該特殊開始態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記特殊完了態様に変化させて該特殊保留表示を表示し、

前記保留記憶数 N 時可変表示が終了し、次の可変表示が開始された直後に新たな保留記憶が記憶され前記通常保留表示を表示する場合は、 N 数目に対応する保留表示位置に該通常保留表示を前記通常開始態様で開始し該通常開始態様から前記複数の通常途中態様に段階的に変化させた後に前記通常完了態様に変化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該通常保留表示を表示し、

前記保留記憶数 N 時可変表示が終了し、次の可変表示が開始された直後に新たな保留記憶が記憶され前記特殊保留表示を表示する場合は、 N 数目に対応する保留表示位置に該特殊保留表示を前記特殊開始態様で開始し該特殊開始態様から前記複数の特殊途中態様に段階的に変化させた後に前記特殊完了態様に変化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該特殊保留表示を表示する、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に変化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様への変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をみせることができる。さらに、次の可変表示の開始直前と直後での切り分けにより、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をより好適に遊技者に見せることができる。また、可変表示の開始と同じタイミングで記憶された保留記憶は、保留表示が初めから移動先の表示位置において表示されるため、段階的变化を完了態様に変化させる必要がなく、遊技者に段階的变化を見せることができる。さらに、特殊保留表示が表示される場合であっても、通常保留表示が表示される場合と同じように段階的表示の通常完了態様や特殊完了態様への変化及び該変化の実行の有無の法則が適用されるため、

保留記憶を遊技者がより認識しやすい。

対応図面：図 6 9、図 7 2、図 7 3、図 7 5、図 7 6

【 0 0 2 4 】

[形態 1 5]

形態 1 5 の遊技機は、

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出実行手段と、

保留記憶手段と、を備え、

前記保留記憶手段は、所定数を上限として可変表示に関する情報を保留記憶として記憶
することが可能であり、 10

前記遊技制御手段は、可変表示が終了したときに、次の可変表示に対応する保留記憶が
ある場合に次の可変表示を実行可能であり、

前記演出実行手段は、

保留記憶が記憶されたときに、通常保留表示と、該通常保留表示よりも前記有利状態
に制御される期待度が高い特殊保留表示とを含む複数種類の保留表示のうち 1 の保留表示
を表示可能であり、

保留記憶が記憶されたときに、通常開始態様と、通常完了態様と、該通常完了態様の
1 つ前の態様である通常完了前態様を含む複数の通常途中態様と、を段階的に変化させて
前記通常保留表示を表示可能であり、 20

保留記憶が記憶されたときに、特殊開始態様と、特殊完了態様と、該特殊完了態様の
1 つ前の態様である特殊完了前態様を含む複数の特殊途中態様と、を段階的に変化させて
前記特殊保留表示を表示可能であり、

可変表示中に既に記憶されている保留記憶に対応する前記保留表示を次の可変表示が
開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されて
いた位置から次の可変表示に対応する位置に移動させることが可能であり、

前記所定数未満の N 数の保留記憶が記憶されている状況における可変表示である保留
記憶数 N 時可変表示の実行中において、

次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記
憶が記憶され前記通常保留表示を表示する場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に
該通常保留表示を前記通常開始態様で開始し該通常開始態様から前記複数の通常途中態様
に段階的に変化させた後に前記通常完了態様に変化させる変化、を該所定期間かけて実行
して該通常保留表示を表示し、 30

次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記
憶が記憶され前記特殊保留表示を表示する場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に
該特殊保留表示を前記特殊開始態様で開始し該特殊開始態様から前記複数の特殊途中態様
に段階的に変化させた後に前記特殊完了態様に変化させる変化、を該所定期間かけて実行
して該特殊保留表示を表示し、

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな保
留記憶が記憶され前記通常保留表示を表示する場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位
置に該通常保留表示を前記通常開始態様で開始し、該通常開始態様から前記通常完了前態
様とは異なる通常途中態様まで変化させ、該通常完了前態様とは異なる通常途中態様とな
っている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づ
いて前記通常完了態様に変化させて該通常保留表示を表示し、 40

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな保
留記憶が記憶され前記特殊保留表示を表示する場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位
置に該特殊保留表示を前記特殊開始態様で開始し、該特殊開始態様から前記特殊完了前態
様とは異なる特殊途中態様まで変化させ、該特殊完了前態様とは異なる特殊途中態様とな
っている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づ
いて前記特殊完了態様に変化させて該特殊保留表示を表示し、 50

保留記憶が記憶されていない状況における可変表示である保留記憶数 0 時可変表示の実行中において、

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶され前記通常保留表示を表示する場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に該通常保留表示を前記通常開始態様で開始し該通常開始態様から前記複数の通常途中態様に段階的に変化させた後に前記通常完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該通常保留表示を表示し、

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶され前記特殊保留表示を表示する場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に該特殊保留表示を前記特殊開始態様で開始し該特殊開始態様から前記複数の特殊途中態様に段階的に変化させた後に前記特殊完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該特殊保留表示を表示し、

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな保留記憶が記憶され前記通常保留表示を表示する場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に該通常保留表示を前記通常開始態様で開始し、該通常開始態様から前記通常完了前態様とは異なる通常途中態様まで変化させ、該通常完了前態様とは異なる通常途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記通常完了態様に变化させて該通常保留表示を表示し、

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな保留記憶が記憶され前記特殊保留表示を表示する場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に該特殊保留表示を前記特殊開始態様で開始し、該特殊開始態様から前記特殊完了前態様とは異なる特殊途中態様まで変化させ、該特殊完了前態様とは異なる特殊途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記特殊完了態様に变化させて該特殊保留表示を表示する、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に变化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様への変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をみせることができる。さらに、保留記憶数が 0 である状態であるときに、新たな保留記憶が記憶されるタイミングが、次の可変表示の開始までに所定期間の猶予がないときは、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化を完了態様に变化させることで、保留記憶数 0 である状態であっても、保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、可変表示開始から保留表示位置が移動する特定期間の間に新たに記憶された保留記憶は、保留表示が初めから移動先の表示位置おいてに表示されるため、段階的变化を完了態様に变化させる必要がなく、遊技者に段階的变化を見せることができ、また、既に N 数目に表示されていた保留表示が移動するときに、N 数目に新たに表示される保留表示が重畳しても、使用する表示領域が新たに表示される保留表示の方が広いため、新たに表示される保留表示を視認しやすく、誤認を防ぐことができる。さらに、特殊保留表示が表示される場合であっても、通常保留表示が表示される場合と同じように段階的表示の通常完了態様や特殊完了態様への変化及び該変化の実行の有無の法則が適用されるため、保留記憶を遊技者がより認識しやすい。

対応図面：図 6 9、図 7 2、図 7 3、図 8 1、図 8 2

【 0 0 2 5 】

[形態 1 6]

形態 1 6 の遊技機は、

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出実行手段と、

10

20

30

40

50

保留記憶手段と、を備え、

前記保留記憶手段は、所定数を上限として可変表示に関する情報を保留記憶として記憶することが可能であり、

前記遊技制御手段は、可変表示が終了したときに、次の可変表示に対応する保留記憶がある場合に次の可変表示を実行可能であり、

前記演出実行手段は、

保留記憶が記憶されたときに、通常保留表示と、該通常保留表示よりも前記有利状態に制御される期待度が高い特殊保留表示とを含む複数種類の保留表示のうち1の保留表示を表示可能であり、

保留記憶が記憶されたときに、通常開始態様と、通常完了態様と、該通常完了態様の1つ前の態様である通常完了前態様を含む複数の通常途中態様と、を段階的に変化させて前記通常保留表示を表示可能であり、

保留記憶が記憶されたときに、特殊開始態様と、特殊完了態様と、該特殊完了態様の1つ前の態様である特殊完了前態様を含む複数の特殊途中態様と、を段階的に変化させて前記特殊保留表示を表示可能であり、

可変表示中に既に記憶されている保留記憶に対応する前記保留表示を次の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた位置から次の可変表示に対応する位置に移動させることが可能であり、

前記所定数未満のN数の保留記憶が記憶されている状況における可変表示である保留記憶数N時可変表示の実行中において、

次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶され前記通常保留表示を表示する場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に該通常保留表示を前記通常開始態様で開始し該通常開始態様から前記複数の通常途中態様に段階的に変化させた後に前記通常完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該通常保留表示を表示し、

次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶され前記特殊保留表示を表示する場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に該特殊保留表示を前記特殊開始態様で開始し該特殊開始態様から前記複数の特殊途中態様に段階的に変化させた後に前記特殊完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該特殊保留表示を表示し、

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間でないときに、新たな保留記憶が記憶され前記通常保留表示を表示する場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に該通常保留表示を前記通常開始態様で開始し、該通常開始態様から前記通常完了前態様とは異なる通常途中態様まで変化させ、該通常完了前態様とは異なる通常途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記通常完了態様に变化させて該通常保留表示を表示し、

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間でないときに、新たな保留記憶が記憶され前記特殊保留表示を表示する場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に該特殊保留表示を前記特殊開始態様で開始し、該特殊開始態様から前記特殊完了前態様とは異なる特殊途中態様まで変化させ、該特殊完了前態様とは異なる特殊途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記特殊完了態様に变化させて該特殊保留表示を表示し、

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間であるときに、新たな保留記憶が記憶され前記通常保留表示を表示する場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に該通常保留表示を前記通常開始態様で開始し、該通常開始態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記通常完了態様に变化させて該通常保留表示を表示し、

10

20

30

40

50

次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間であるときに、新たな保留記憶が記憶され前記特殊保留表示を表示する場合は、 $N + 1$ 数目に対応する保留表示位置に該特殊保留表示を前記特殊開始態様で開始し、該特殊開始態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記特殊完了態様に変化させて該特殊保留表示を表示し、

前記保留記憶数 N 時可変表示が終了し、次の可変表示が開始された直後に新たな保留記憶が記憶され前記通常保留表示を表示する場合は、 N 数目に対応する保留表示位置に該通常保留表示を前記通常開始態様で開始し該通常開始態様から前記複数の通常途中態様に段階的に変化させた後に前記通常完了態様に変化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該通常保留表示を表示し、

10

前記保留記憶数 N 時可変表示が終了し、次の可変表示が開始された直後に新たな保留記憶が記憶され前記特殊保留表示を表示する場合は、 N 数目に対応する保留表示位置に該特殊保留表示を前記特殊開始態様で開始し該特殊開始態様から前記複数の特殊途中態様に段階的に変化させた後に前記特殊完了態様に変化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該特殊保留表示を表示し、

保留記憶が記憶されていない状況における可変表示である保留記憶数 0 時可変表示の実行中において、

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶され前記通常保留表示を表示する場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に該通常保留表示を前記通常開始態様で開始し該通常開始態様から前記複数の通常途中態様に段階的に変化させた後に前記通常完了態様に変化させる変化、を該所定期間かけて実行して該通常保留表示を表示し、

20

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶され前記特殊保留表示を表示する場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に該特殊保留表示を前記特殊開始態様で開始し該特殊開始態様から前記複数の特殊途中態様に段階的に変化させた後に前記特殊完了態様に変化させる変化、を該所定期間かけて実行して該特殊保留表示を表示し、

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも短いときであって、該保留記憶数 0 時可変表示が終了する直前でないときに、新たな保留記憶が記憶され前記通常保留表示を表示する場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に該通常保留表示を前記通常開始態様で開始し、該通常開始態様から前記通常完了前態様とは異なる通常途中態様まで変化させ、該通常完了前態様とは異なる通常途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記通常完了態様に変化させて該通常保留表示を表示し、

30

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも短いときであって、該保留記憶数 0 時可変表示が終了する直前でないときに、新たな保留記憶が記憶され前記特殊保留表示を表示する場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に該特殊保留表示を前記特殊開始態様で開始し、該特殊開始態様から前記特殊完了前態様とは異なる特殊途中態様まで変化させ、該特殊完了前態様とは異なる特殊途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記特殊完了態様に変化させて該特殊保留表示を表示し、

40

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも短いときであって、該保留記憶数 0 時可変表示が終了する直前であるときに、新たな保留記憶が記憶され前記通常保留表示を表示する場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に該通常保留表示を前記通常開始態様で開始し、該通常開始態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記通常完了態様に変化させて該通常保留表示を表示し、

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも短いときであって、該保留記憶数 0 時可変表示が終了する直前であるときに、新たな保留記憶が記

50

憶され前記特殊保留表示を表示する場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に該特殊保留表示を前記特殊開始態様で開始し、該特殊開始態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記特殊完了態様に変化させて該特殊保留表示を表示し、

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了した直後に新たな保留記憶が記憶され前記通常保留表示を表示する場合は、該保留記憶数 0 時可変表示の次の可変表示に対応する保留表示位置に前記通常保留表示を前記通常完了態様から表示し、

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了した直後に新たな保留記憶が記憶され前記特殊保留表示を表示する場合は、該保留記憶数 0 時可変表示の次の可変表示に対応する保留表示位置に前記特殊保留表示を前記特殊完了態様から表示する、

10

ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に変化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様への変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をみせることができる。さらに、次の可変表示の開始直前と直後での切り分けにより、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をより好適に遊技者に見せることができる。さらに、保留記憶数が 0 である状態であるときに、新たな保留記憶が記憶されるタイミングが、次の可変表示の開始までに所定期間の猶予がないときは、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化を完了態様に変化させることで、保留記憶数 0 である状態であっても、保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、保留記憶数が上限に到達している場合に、所定の可変表示が終了しても、次に可変表示が開始されるまでは保留記憶を記憶しないので、新たな保留記憶についての段階的变化も実行されず、終了した可変表示の可変表示結果に遊技者を集中させることができ、可変表示開始から保留表示位置が移動する特定期間の間に新たに記憶された保留記憶は保留表示が初めから移動先の表示位置において表示されるため、段階的变化を完了態様に変化させる必要がなく、遊技者に段階的变化を見せることができる。また、既に所定数目に表示されていた保留表示が移動するときに、所定数目に新たに表示される保留表示が重畳しても、使用する表示領域が新たに表示される保留表示の方が広いため、新たに表示される保留表示を視認しやすく、誤認を防ぐことができる。さらに、特殊保留表示が表示される場合であっても、通常保留表示が表示される場合と同じように段階的表示の通常完了態様や特殊完了態様への変化及び該変化の実行の有無の法則が適用されるため、保留記憶を遊技者がより認識しやすい。

20

30

対応図面：図 6 9、図 7 2、図 7 3、図 7 5、図 7 6、図 8 1 ~ 図 8 4

【 0 0 2 6 】

[形態 1 7]

形態 1 7 の遊技機は、

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出実行手段と、

保留記憶手段と、を備え、

40

前記保留記憶手段は、所定数を上限として可変表示に関する情報を保留記憶として記憶することが可能であり、

前記遊技制御手段は、可変表示が終了したときに、次の可変表示に対応する保留記憶がある場合に次の可変表示を実行可能であり、

前記演出実行手段は、

第 1 モードと、該第 1 モードとは異なる第 2 モードと、を含む複数のモードに対応する演出を実行可能であり、

保留記憶が記憶されたときに前記第 1 モードに対応する第 1 モード保留表示と、前記

50

第 2 モードに対応する第 2 モード保留表示と、を含む複数種類の保留表示を表示可能であり、

前記第 1 モード中に保留記憶が記憶されたときに、第 1 モード開始態様と、第 1 モード完了態様と、該第 1 モード完了態様の 1 つ前の態様である第 1 モード完了前態様を含む複数の第 1 モード途中態様と、を段階的に変化させて前記第 1 モード保留表示を表示可能であり、

前記第 2 モード中に保留記憶が記憶されたときに、第 2 モード開始態様と、第 2 モード完了態様と、該第 2 モード完了態様の 1 つ前の態様である第 2 モード完了前態様を含む複数の第 2 モード途中態様と、を段階的に変化させて前記第 2 モード保留表示を表示可能であり、

10

可変表示中に既に記憶されている保留記憶に対応する前記保留表示を次の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた位置から次の可変表示に対応する位置に移動させることが可能であり、

前記所定数未満の N 数の保留記憶が記憶されている状況における可変表示である保留記憶数 N 時可変表示の実行中において、

前記第 1 モード中であり、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶され前記第 1 モード保留表示を表示する場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に該第 1 モード保留表示を前記第 1 モード開始態様で開始し該第 1 モード開始態様から前記複数の第 1 モード途中態様に段階的に変化させた後に前記第 1 モード完了態様に変化させる変化、を該所定期間かけて実行して該第 1 モード保留表示を表示し、

20

前記第 2 モード中であり、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶され前記第 2 モード保留表示を表示する場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に該第 2 モード保留表示を前記第 2 モード開始態様で開始し該第 2 モード開始態様から前記複数の第 2 モード途中態様に段階的に変化させた後に前記第 2 モード完了態様に変化させる変化、を該所定期間かけて実行して該第 2 モード保留表示を表示し、

前記第 1 モード中であり、次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな保留記憶が記憶され前記第 1 モード保留表示を表示する場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に該第 1 モード保留表示を前記第 1 モード開始態様で開始し、該第 1 モード開始態様から前記第 1 モード完了前態様とは異なる第 1 モード途中態様まで変化させ、該第 1 モード完了前態様とは異なる第 1 モード途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記第 1 モード完了態様に変化させて該第 1 モード保留表示を表示し、

30

前記第 2 モード中であり、次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな保留記憶が記憶され前記第 2 モード保留表示を表示する場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に該第 2 モード保留表示を前記第 2 モード開始態様で開始し、該第 2 モード開始態様から前記第 2 モード完了前態様とは異なる第 2 モード途中態様まで変化させ、該第 2 モード完了前態様とは異なる第 2 モード途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記第 2 モード完了態様に変化させて該第 2 モード保留表示を表示し、

40

前記第 1 モード中であり、前記保留記憶数 N 時可変表示が終了し、前記保留シフト開始タイミングから前記特定期間が経過するまでに新たな保留記憶が記憶され前記第 1 モード保留表示を表示する場合は、N 数目に対応する保留表示位置に該第 1 モード保留表示を前記第 1 モード開始態様で開始し該第 1 モード開始態様から前記複数の第 1 モード途中態様に段階的に変化させた後に前記第 1 モード完了態様に変化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該第 1 モード保留表示を表示し、

前記第 2 モード中であり、前記保留記憶数 N 時可変表示が終了し、前記保留シフト開始タイミングから前記特定期間が経過するまでに新たな保留記憶が記憶され前記第 2 モード保留表示を表示する場合は、N 数目に対応する保留表示位置に該第 2 モード保留表示を

50

前記第 2 モード開始態様で開始し該第 2 モード開始態様から前記複数の第 2 モード途中態様に段階的に変化させた後に前記第 2 モード完了態様に変化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該第 2 モード保留表示を表示する、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に変化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様への変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をみせることができる。さらに、次の可変表示の開始直前と直後での切り分けにより、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をより好適に遊技者に見せることができる。また、可変表示開始から保留表示位置が移動する特定期間の間に新たに記憶された保留記憶は、保留表示が初めから移動先の表示位置において表示されるため、段階的变化を完了態様に変化させる必要がなく、遊技者に段階的变化を見せることができる。また、演出のモードが異なっても、段階的表示の完了態様への変化に係わる法則が同じく適用されるため、保留記憶を遊技者がより認識しやすい。

対応図面：図 7 2 ～ 図 7 4、図 9 2

尚、本形態において、

『第 1 モード』は本実施の形態における『演出モード A』に該当し、

『第 2 モード』は本実施の形態における『演出モード B』に該当し、

『第 1 モード保留表示』は本実施の形態における『演出モード A での立方体の保留表示』に該当し、

『第 2 モード保留表示』は本実施の形態における『演出モード B での正八面体の保留表示』に該当し、

『第 1 モード開始態様』は本実施の形態における『演出モード A において出現アニメーションの 1 フレーム目の画像として表示される保留表示』に該当し、

『第 1 モード完了態様』は本実施の形態における『演出モード A において出現アニメーションの 20 フレーム目の画像及びシフトアニメーションの 1 フレーム目の画像として表示される保留表示』に該当し、

『第 2 モード途中態様』は本実施の形態における『演出モード B において出現アニメーションの 2 フレーム目から 19 フレーム目の画像として表示される保留表示』に該当し、

『第 2 モード開始態様』は本実施の形態における『演出モード B において出現アニメーションの 1 フレーム目の画像として表示される保留表示』に該当し、

『第 2 モード完了態様』は本実施の形態における『演出モード B において出現アニメーションの 20 フレーム目の画像及びシフトアニメーションの 1 フレーム目の画像として表示される保留表示』に該当し、

『第 2 モード途中態様』は本実施の形態における『演出モード B において出現アニメーションの 2 フレーム目から 19 フレーム目の画像として表示される保留表示』に該当する。

【 0 0 2 7 】

[形態 1 8]

形態 1 8 の遊技機は、

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出実行手段と、

保留記憶手段と、を備え、

前記保留記憶手段は、所定数を上限として可変表示に関する情報を保留記憶として記憶することが可能であり、

前記遊技制御手段は、可変表示が終了したときに、次の可変表示に対応する保留記憶がある場合に次の可変表示を実行可能であり、

前記演出実行手段は、

第 1 モードと、該第 1 モードとは異なる第 2 モードと、を含む複数のモードに対応する演出を実行可能であり、

保留記憶が記憶されたときに前記第 1 モードに対応する第 1 モード保留表示と、前記第 2 モードに対応する第 2 モード保留表示と、を含む複数種類の保留表示を表示可能であり、

前記第 1 モード中に保留記憶が記憶されたときに、第 1 モード開始態様と、第 1 モード完了態様と、該第 1 モード完了態様の 1 つ前の態様である第 1 モード完了前態様を含む複数の第 1 モード途中態様と、を段階的に変化させて前記第 1 モード保留表示を表示可能であり、

前記第 2 モード中に保留記憶が記憶されたときに、第 2 モード開始態様と、第 2 モード完了態様と、該第 2 モード完了態様の 1 つ前の態様である第 2 モード完了前態様を含む複数の第 2 モード途中態様と、を段階的に変化させて前記第 2 モード保留表示を表示可能であり、

可変表示中に既に記憶されている保留記憶に対応する前記保留表示を次の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた位置から次の可変表示に対応する位置に移動させることが可能であり、

前記所定数未満の N 数の保留記憶が記憶されている状況における可変表示である保留記憶数 N 時可変表示の実行中において、

前記第 1 モード中であり、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶され前記第 1 モード保留表示を表示する場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に該第 1 モード保留表示を前記第 1 モード開始態様で開始し該第 1 モード開始態様から前記複数の第 1 モード途中態様に段階的に変化させた後に前記第 1 モード完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該第 1 モード保留表示を表示し、

前記第 2 モード中であり、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶され前記第 2 モード保留表示を表示する場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に該第 2 モード保留表示を前記第 2 モード開始態様で開始し該第 2 モード開始態様から前記複数の第 2 モード途中態様に段階的に変化させた後に前記第 2 モード完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該第 2 モード保留表示を表示し、

前記第 1 モード中であり、次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間でないときに、新たな保留記憶が記憶され前記第 1 モード保留表示を表示する場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に該第 1 モード保留表示を前記第 1 モード開始態様で開始し、該第 1 モード開始態様から前記第 1 モード完了前態様とは異なる第 1 モード途中態様まで変化させ、該第 1 モード完了前態様とは異なる第 1 モード途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記第 1 モード完了態様に变化させて該第 1 モード保留表示を表示し、

前記第 2 モード中であり、次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間でないときに、新たな保留記憶が記憶され前記第 2 モード保留表示を表示する場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に該第 2 モード保留表示を前記第 2 モード開始態様で開始し、該第 2 モード開始態様から前記第 2 モード完了前態様とは異なる第 2 モード途中態様まで変化させ、該第 2 モード完了前態様とは異なる第 2 モード途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記第 2 モード完了態様に变化させて該第 2 モード保留表示を表示し、

前記第 1 モード中であり、次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間であるときに、新たな保留記憶が記憶され前記第 1 モード保留表示を表示する場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に該第 1 モード保留表示を前記第 1 モード開始態様で開始し、該第 1 モード開始態

10

20

30

40

50

様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記第 1 モード完了態様に変化させて該第 1 モード保留表示を表示し、

前記第 2 モード中であり、次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間であるときに、新たな保留記憶が記憶され前記第 2 モード保留表示を表示する場合は、 $N + 1$ 数目に対応する保留表示位置に該第 2 モード保留表示を前記第 2 モード開始態様で開始し、該第 2 モード開始態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記第 2 モード完了態様に変化させて該第 2 モード保留表示を表示し、

前記第 1 モード中であり、前記保留記憶数 N 時可変表示が終了し、次の可変表示が開始された直後に新たな保留記憶が記憶され前記第 1 モード保留表示を表示する場合は、 N 数目に対応する保留表示位置に該第 1 モード保留表示を前記第 1 モード開始態様で開始し該第 1 モード開始態様から前記複数の第 1 モード途中態様に段階的に変化させた後に前記第 1 モード完了態様に変化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該第 1 モード保留表示を表示し、

前記第 2 モード中であり、前記保留記憶数 N 時可変表示が終了し、次の可変表示が開始された直後に新たな保留記憶が記憶され前記第 2 モード保留表示を表示する場合は、 N 数目に対応する保留表示位置に該第 2 モード保留表示を前記第 2 モード開始態様で開始し該第 2 モード開始態様から前記複数の第 2 モード途中態様に段階的に変化させた後に前記第 2 モード完了態様に変化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該第 2 モード保留表示を表示する、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に変化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様への変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をみせることができる。さらに、次の可変表示の開始直前と直後での切り分けにより、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をより好適に遊技者に見せることができる。また、可変表示の開始と同じタイミングで新たに記憶された保留記憶は、保留表示が初めから移動先の表示位置において表示されるため、段階的变化を完了態様に変化させる必要がなく、遊技者に段階的变化を見せることができる。また、演出のモードが異なっても、段階的表示の完了態様への変化に係わる法則が同じく適用されるため、保留記憶を遊技者がより認識しやすい。

対応図面：図 7 2、図 7 3、図 7 5、図 7 6、図 9 2

【 0 0 2 8 】

[形態 1 9]

形態 1 9 の遊技機は、

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出実行手段と、

保留記憶手段と、を備え、

前記保留記憶手段は、所定数を上限として可変表示に関する情報を保留記憶として記憶することが可能であり、

前記遊技制御手段は、可変表示が終了したときに、次の可変表示に対応する保留記憶がある場合に次の可変表示を実行可能であり、

前記演出実行手段は、

第 1 モードと、該第 1 モードとは異なる第 2 モードと、を含む複数のモードに対応する演出を実行可能であり、

保留記憶が記憶されたときに前記第 1 モードに対応する第 1 モード保留表示と、前記第 2 モードに対応する第 2 モード保留表示と、を含む複数種類の保留表示を表示可能であ

10

20

30

40

50

り、

前記第 1 モード中に保留記憶が記憶されたときに、第 1 モード開始態様と、第 1 モード完了態様と、該第 1 モード完了態様の 1 つ前の態様である第 1 モード完了前態様を含む複数の第 1 モード途中態様と、を段階的に変化させて前記第 1 モード保留表示を表示可能であり、

前記第 2 モード中に保留記憶が記憶されたときに、第 2 モード開始態様と、第 2 モード完了態様と、該第 2 モード完了態様の 1 つ前の態様である第 2 モード完了前態様を含む複数の第 2 モード途中態様と、を段階的に変化させて前記第 2 モード保留表示を表示可能であり、

可変表示中に既に記憶されている保留記憶に対応する前記保留表示を次の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた位置から次の可変表示に対応する位置に移動させることが可能であり、

前記所定数未満の N 数の保留記憶が記憶されている状況における可変表示である保留記憶数 N 時可変表示の実行中において、

前記第 1 モード中であり、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶され前記第 1 モード保留表示を表示する場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に該第 1 モード保留表示を前記第 1 モード開始態様で開始し該第 1 モード開始態様から前記複数の第 1 モード途中態様に段階的に変化させた後に前記第 1 モード完了態様に変化させる変化、を該所定期間かけて実行して該第 1 モード保留表示を表示し、

前記第 2 モード中であり、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶され前記第 2 モード保留表示を表示する場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に該第 2 モード保留表示を前記第 2 モード開始態様で開始し該第 2 モード開始態様から前記複数の第 2 モード途中態様に段階的に変化させた後に前記第 2 モード完了態様に変化させる変化、を該所定期間かけて実行して該第 2 モード保留表示を表示し、

前記第 1 モード中であり、次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな保留記憶が記憶され前記第 1 モード保留表示を表示する場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に該第 1 モード保留表示を前記第 1 モード開始態様で開始し、該第 1 モード開始態様から前記第 1 モード完了前態様とは異なる第 1 モード途中態様まで変化させ、該第 1 モード完了前態様とは異なる第 1 モード途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記第 1 モード完了態様に変化させて該第 1 モード保留表示を表示し、

前記第 2 モード中であり、次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな保留記憶が記憶され前記第 2 モード保留表示を表示する場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に該第 2 モード保留表示を前記第 2 モード開始態様で開始し、該第 2 モード開始態様から前記第 2 モード完了前態様とは異なる第 2 モード途中態様まで変化させ、該第 2 モード完了前態様とは異なる第 2 モード途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記第 2 モード完了態様に変化させて該第 2 モード保留表示を表示し、

保留記憶が記憶されていない状況における可変表示である保留記憶数 0 時可変表示の実行中において、

前記第 1 モード中であり、前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶され前記第 1 モード保留表示を表示する場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に該第 1 モード保留表示を前記第 1 モード開始態様で開始し該第 1 モード開始態様から前記複数の第 1 モード途中態様に段階的に変化させた後に前記第 1 モード完了態様に変化させる変化、を該所定期間かけて実行して該第 1 モード保留表示を表示し、

前記第 2 モード中であり、前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶され前記第 2 モード保留表示を表示

10

20

30

40

50

する場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に該第 2 モード保留表示を前記第 2 モード開始態様で開始し該第 2 モード開始態様から前記複数の第 2 モード途中態様に段階的に変化させた後に前記第 2 モード完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該第 2 モード保留表示を表示し、

前記第 1 モード中であり、前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな保留記憶が記憶され前記第 1 モード保留表示を表示する場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に該第 1 モード保留表示を前記第 1 モード開始態様で開始し、該第 1 モード開始態様から前記第 1 モード完了前態様とは異なる第 1 モード途中態様まで変化させ、該第 1 モード完了前態様とは異なる第 1 モード途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記第 1 モード完了態様に变化させて該第 1 モード保留表示を表示し、

10

前記第 2 モード中であり、前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな保留記憶が記憶され前記第 2 モード保留表示を表示する場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に該第 2 モード保留表示を前記第 2 モード開始態様で開始し、該第 2 モード開始態様から前記第 2 モード完了前態様とは異なる第 2 モード途中態様まで変化させ、該第 2 モード完了前態様とは異なる第 2 モード途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記第 2 モード完了態様に变化させて該第 2 モード保留表示を表示する、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に变化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様への変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をみせることができる。さらに、保留記憶数が 0 である状態であるときに、新たな保留記憶が記憶されるタイミングが、次の可変表示の開始までに所定期間の猶予がないときは、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化を完了態様に变化させることで、保留記憶数 0 である状態であっても、保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、可変表示開始から保留表示位置が移動する特定期間の間に新たに記憶された保留記憶は、保留表示が初めから移動先の表示位置においてに表示されるため、段階的变化を完了態様に变化させる必要がなく、遊技者に段階的变化を見せることができ、既に N 数目に表示されていた保留表示が移動するときに、N 数目に新たに表示される保留表示が重畳しても、使用する表示領域が新たに表示される保留表示の方が広いため、新たに表示される保留表示を視認しやすく、誤認を防ぐことができる。また、演出のモードが異なっても、段階的表示の完了態様への変化に係わる法則が同じく適用されるため、保留記憶を遊技者がより認識しやすい。

20

30

対応図面：図 7 2、図 7 3、図 8 1、図 8 2、図 9 2

【 0 0 2 9 】

[形態 2 0]

形態 2 0 の遊技機は、

40

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出実行手段と、

保留記憶手段と、を備え、

前記保留記憶手段は、所定数を上限として可変表示に関する情報を保留記憶として記憶することが可能であり、

前記遊技制御手段は、可変表示が終了したときに、次の可変表示に対応する保留記憶がある場合に次の可変表示を実行可能であり、

前記演出実行手段は、

第 1 モードと、該第 1 モードとは異なる第 2 モードと、を含む複数のモードに対応す

50

る演出を実行可能であり、

保留記憶が記憶されたときに前記第 1 モードに対応する第 1 モード保留表示と、前記第 2 モードに対応する第 2 モード保留表示と、を含む複数種類の保留表示を表示可能であり、

前記第 1 モード中に保留記憶が記憶されたときに、第 1 モード開始態様と、第 1 モード完了態様と、該第 1 モード完了態様の 1 つ前の態様である第 1 モード完了前態様を含む複数の第 1 モード途中態様と、を段階的に変化させて前記第 1 モード保留表示を表示可能であり、

前記第 2 モード中に保留記憶が記憶されたときに、第 2 モード開始態様と、第 2 モード完了態様と、該第 2 モード完了態様の 1 つ前の態様である第 2 モード完了前態様を含む複数の第 2 モード途中態様と、を段階的に変化させて前記第 2 モード保留表示を表示可能であり、

可変表示中に既に記憶されている保留記憶に対応する前記保留表示を次の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた位置から次の可変表示に対応する位置に移動させることが可能であり、

前記所定数未満の N 数の保留記憶が記憶されている状況における可変表示である保留記憶数 N 時可変表示の実行中において、

前記第 1 モード中であり、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶され前記第 1 モード保留表示を表示する場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に該第 1 モード保留表示を前記第 1 モード開始態様で開始し該第 1 モード開始態様から前記複数の第 1 モード途中態様に段階的に変化させた後に前記第 1 モード完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該第 1 モード保留表示を表示し、

前記第 2 モード中であり、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶され前記第 2 モード保留表示を表示する場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に該第 2 モード保留表示を前記第 2 モード開始態様で開始し該第 2 モード開始態様から前記複数の第 2 モード途中態様に段階的に変化させた後に前記第 2 モード完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該第 2 モード保留表示を表示し、

前記第 1 モード中であり、次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間でないときに、新たな保留記憶が記憶され前記第 1 モード保留表示を表示する場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に該第 1 モード保留表示を前記第 1 モード開始態様で開始し、該第 1 モード開始態様から前記第 1 モード完了前態様とは異なる第 1 モード途中態様まで変化させ、該第 1 モード完了前態様とは異なる第 1 モード途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記第 1 モード完了態様に变化させて該第 1 モード保留表示を表示し、

前記第 2 モード中であり、次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間でないときに、新たな保留記憶が記憶され前記第 2 モード保留表示を表示する場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に該第 2 モード保留表示を前記第 2 モード開始態様で開始し、該第 2 モード開始態様から前記第 2 モード完了前態様とは異なる第 2 モード途中態様まで変化させ、該第 2 モード完了前態様とは異なる第 2 モード途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記第 2 モード完了態様に变化させて該第 2 モード保留表示を表示し、

前記第 1 モード中であり、次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間であるときに、新たな保留記憶が記憶され前記第 1 モード保留表示を表示する場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に該第 1 モード保留表示を前記第 1 モード開始態様で開始し、該第 1 モード開始態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミング

10

20

30

40

50

に基づいて前記第 1 モード完了態様に変化させて該第 1 モード保留表示を表示し、

前記第 2 モード中であり、次の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の可変表示が開始される直前の期間であるときに、新たな保留記憶が記憶され前記第 2 モード保留表示を表示する場合は、 $N + 1$ 数目に対応する保留表示位置に該第 2 モード保留表示を前記第 2 モード開始態様で開始し、該第 2 モード開始態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記第 2 モード完了態様に変化させて該第 2 モード保留表示を表示し、

前記第 1 モード中であり、前記保留記憶数 N 時可変表示が終了し、次の可変表示が開始された直後に新たな保留記憶が記憶され前記第 1 モード保留表示を表示する場合は、 N 数目に対応する保留表示位置に該第 1 モード保留表示を前記第 1 モード開始態様で開始し
該第 1 モード開始態様から前記複数の第 1 モード途中態様に段階的に変化させた後に前記
第 1 モード完了態様に変化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該第 1 モード保留
表示を表示し、

10

前記第 2 モード中であり、前記保留記憶数 N 時可変表示が終了し、次の可変表示が開始された直後に新たな保留記憶が記憶され前記第 2 モード保留表示を表示する場合は、 N 数目に対応する保留表示位置に該第 2 モード保留表示を前記第 2 モード開始態様で開始し
該第 2 モード開始態様から前記複数の第 2 モード途中態様に段階的に変化させた後に前記
第 2 モード完了態様に変化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該第 2 モード保留
表示を表示し、

保留記憶が記憶されていない状況における可変表示である保留記憶数 0 時可変表示の
実行中において、

20

前記第 1 モード中であり、前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶され前記第 1 モード保留表示を表示する場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に該第 1 モード保留表示を前記第 1 モード開始態様で開始し
該第 1 モード開始態様から前記複数の第 1 モード途中態様に段階的に変化させた後に前記第 1 モード完了態様に変化させる変化、を該所定期間かけて実行して該第 1 モード保留表示を表示し、

前記第 2 モード中であり、前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも長いときに、新たな保留記憶が記憶され前記第 2 モード保留表示を表示する場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に該第 2 モード保留表示を前記第 2 モード開始態様で開始し
該第 2 モード開始態様から前記複数の第 2 モード途中態様に段階的に変化させた後に前記第 2 モード完了態様に変化させる変化、を該所定期間かけて実行して該第 2 モード保留表示を表示し、

30

前記第 1 モード中であり、前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも短いときであって、該保留記憶数 0 時可変表示が終了する直前でないときに、新たな保留記憶が記憶され前記第 1 モード保留表示を表示する場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に該第 1 モード保留表示を前記第 1 モード開始態様で開始し、
該第 1 モード開始態様から前記第 1 モード完了前態様とは異なる第 1 モード途中態様まで変化させ、該第 1 モード完了前態様とは異なる第 1 モード途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記第 1 モード完了態様に変化させて該第 1 モード保留表示を表示し、

40

前記第 2 モード中であり、前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも短いときであって、該保留記憶数 0 時可変表示が終了する直前でないときに、新たな保留記憶が記憶され前記第 2 モード保留表示を表示する場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に該第 2 モード保留表示を前記第 2 モード開始態様で開始し、
該第 2 モード開始態様から前記第 2 モード完了前態様とは異なる第 2 モード途中態様まで変化させ、該第 2 モード完了前態様とは異なる第 2 モード途中態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記第 2 モード完了態様に変化させて該第 2 モード保留表示を表示し、

前記第 1 モード中であり、前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前

50

記所定期間よりも短いときであって、該保留記憶数 0 時可変表示が終了する直前であるときに、新たな保留記憶が記憶され前記第 1 モード保留表示を表示する場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に該第 1 モード保留表示を前記第 1 モード開始態様で開始し、該第 1 モード開始態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記第 1 モード完了態様に変化させて該第 1 モード保留表示を表示し、

前記第 2 モード中であり、前記保留記憶数 0 時可変表示が終了するまでの期間が前記所定期間よりも短いときであって、該保留記憶数 0 時可変表示が終了する直前であるときに、新たな保留記憶が記憶され前記第 2 モード保留表示を表示する場合は、次の可変表示に対応する保留表示位置に該第 2 モード保留表示を前記第 2 モード開始態様で開始し、該第 2 モード開始態様となっている状況で次の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記第 2 モード完了態様に変化させて該第 2 モード保留表示を表示し、

10

前記第 1 モード中であり、前記保留記憶数 0 時可変表示が終了した直後に新たな保留記憶が記憶され前記第 1 モード保留表示を表示する場合は、該保留記憶数 0 時可変表示の次の可変表示に対応する保留表示位置に前記第 1 モード保留表示を前記第 1 モード完了態様から表示し、

前記第 2 モード中であり、前記保留記憶数 0 時可変表示が終了した直後に新たな保留記憶が記憶され前記第 2 モード保留表示を表示する場合は、該保留記憶数 0 時可変表示の次の可変表示に対応する保留表示位置に前記第 2 モード保留表示を前記第 2 モード完了態様から表示する、

20

ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に変化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様への変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をみせることができる。さらに、次の可変表示の開始直前と直後での切り分けにより、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をより好適に遊技者に見せることができる。さらに、保留記憶数が 0 である状態であるときに、新たな保留記憶が記憶されるタイミングが、次の可変表示の開始までに所定期間の猶予がないときは、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化を完了態様に変化させることで、保留記憶数 0 である状態であっても、保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、保留記憶数が上限に到達している場合に、所定の可変表示が終了しても、次に可変表示が開始されるまでは保留記憶を記憶しないので、新たな保留記憶についての段階的变化も実行されず、終了した可変表示の可変表示結果に遊技者を集中させることができ、可変表示開始から保留表示位置が移動する特定期間の間に新たに記憶された保留記憶は保留表示が初めから移動先の表示位置において表示されるため、段階的变化を完了態様に変化させる必要がなく、遊技者に段階的变化を見せることができる。また、既に所定数目に表示されていた保留表示が移動するときに、所定数目に新たに表示される保留表示が重畳しても、使用する表示領域が新たに表示される保留表示の方が広いため、新たに表示される保留表示を視認しやすく、誤認を防ぐことができる。また、演出のモードが異なっても、段階的表示の完了態様への変化に係わる法則が同じく適用されるため、保留記憶を遊技者がより認識しやすい。

30

40

対応図面：図 7 2、図 7 3、図 7 5、図 7 6、図 8 1 ~ 図 8 4、図 9 2

【 0 0 3 0 】

[形態 2 1]

形態 2 1 の遊技機は、

特定識別情報の可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

50

遊技制御手段と、
演出制御手段と、
記憶手段と、
複数の発光手段と、を備え、
前記複数の発光手段は、前記遊技制御手段により制御される遊技制御手段側発光手段と
、前記演出制御手段により制御される演出制御手段側発光手段と、を含み、
前記記憶手段は、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域
と、当該可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する
領域である第1保留記憶領域を含み、かつ所定数を上限とする複数の保留記憶領域と、を
含む複数の記憶領域とを含み、

10

前記遊技制御手段は、特定識別情報の可変表示に関する情報が前記保留記憶領域に記憶
されていることに基づいて、前記遊技制御手段側発光手段の態様を変化させることが可能
であり、

前記演出制御手段は、特定識別情報の可変表示に関する情報が前記保留記憶領域に記憶
されていることに基づいて、前記演出制御手段側発光手段の態様を変化させることが可能
であり、

前記遊技制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶していると
きに、特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

20

特定識別情報の可変表示が終了したときに、前記第1保留記憶領域に特定識別情報の
可変表示に関する情報の記憶がある場合に次の特定識別情報の可変表示を実行可能であり
、

前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合、始動領域を
遊技媒体が通過したときに特定識別情報の可変表示に関する情報を前記第1保留記憶領域
に記憶し、その後、該第1保留記憶領域に記憶した特定識別情報の可変表示に関する情報
を前記当該可変表示記憶領域に移動させ、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、か
つ前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合、前記
始動領域を遊技媒体が通過したときに特定識別情報の可変表示に関する情報を前記第1保
留記憶領域に記憶し、その後、当該可変表示記憶領域に記憶している特定識別情報の可
変表示に関する情報に対応する特定識別情報の可変表示が終了したときに、該第1保留記
憶領域に記憶した特定識別情報の可変表示に関する情報を前記当該可変表示記憶領域に移
動させ、

30

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、か
つ前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合に前記
始動領域を遊技媒体が通過したときに、前記遊技制御手段側発光手段の態様を前記第1保
留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様
とし、その後、該第1保留記憶領域に記憶した特定識別情報の可変表示に関する情報の記
憶を前記当該可変表示記憶領域に移動させるときに該遊技制御手段側発光手段の態様を前
記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていないことに対応す
る態様とし、

40

前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合に前記始動領
域を遊技媒体が通過し、特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶を前記第1保留記憶
領域に記憶しても、前記遊技制御手段側発光手段の態様を前記第1保留記憶領域に特定識
別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様とせず、前記保留記
憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていないことに対応する態様の
まま維持し、

前記演出制御手段は、

50

前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されたときに、開始態様と、完了態様と、該完了態様の1つ前の態様である完了前態様を含む複数の途中態様と、を段階的に変化させて保留表示を表示可能であり、

特定識別情報の可変表示が実行されているときに、前記保留記憶領域に記憶されている特定識別情報の可変表示に関する情報に対応する前記保留表示を、次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた保留表示位置から次の特定識別情報の可変表示が開始されることに対応する保留表示位置に移動させることが可能であり、

前記保留記憶領域に前記所定数未満のN数の特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されている状況における特定識別情報の可変表示である保留記憶数N時可変表示が実行されているときにおいて、

次の特定識別情報の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、 $N+1$ 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

次の特定識別情報の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、 $N+1$ 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、

前記保留記憶数N時可変表示が終了され、前記保留シフト開始タイミングから前記特定期間が経過するまでに新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、 N 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該保留表示を表示する、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に变化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様への変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をみせることができる。さらに、次の可変表示の開始直前と直後での切り分けにより、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をより好適に遊技者に見せることができる。また、特に、可変表示を実行しておらず保留記憶もない状況においては、遊技制御手段の処理上、第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶される記憶領域に、始動領域の通過による新たな特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶した後、シフトする処理で当該可変表示記憶領域に該情報を移動させるが、その際に遊技制御手段側発光手段の態様を、保留記憶数が1を示す態様から保留記憶数が0を示す態様とすることにより、一瞬だけ保留記憶数が1を示す態様となることとなり、却って表示態様が煩わしくなって遊技者に違和感を与えてしまうことを防ぐことができ、結果として、安定的な遊技環境を提供することができる。

対応図面：図39、図72～図74

尚、本形態において、

『演出制御手段』は本実施の形態における『演出制御用CPU120』に該当し、

『記憶手段』は本実施の形態における『RAM102、特に遊技制御用データ保持エリア001SG150』に該当し、

『特定識別情報』は本実施の形態における『第1特別図柄表示装置4Aや第2特別図柄表示装置4Bを構成する8つのLED』に該当し、

10

20

30

40

50

『遊技制御手段側発光手段』は本実施の形態における『特図ユニット 201 を構成する LED、特に第 1 保留表示器 25 A、第 2 保留表示器 25 B を構成する LED』に該当し、
『演出制御手段側発光手段』は本実施の形態における『第 1 サブ保留表示器 151 A、第 2 サブ保留表示器 151 B を構成する LED』に該当し、
『当該可変表示記憶領域』は本実施の形態における『第 1 特別図柄バッファ 001 SG 151 A や第 2 特別図柄バッファ 001 SG 151 B での保留番号「0」のエントリ（格納領域）』に該当し、
『第 1 保留記憶領域』は本実施の形態における『第 1 特別図柄バッファ 001 SG 151 A や第 2 特別図柄バッファ 001 SG 151 B での保留番号「1～4」のエントリ（格納領域）』に該当し、
『始動領域』は本実施の形態における『第 1 始動入賞口（入賞球装置 6 A）や第 2 始動入賞口（可変入賞球装置 6 B）』に該当する。

【0031】

[形態 22]

形態 22 の遊技機は、

特定識別情報の可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出制御手段と、

記憶手段と、

複数の発光手段と、を備え、

前記複数の発光手段は、前記遊技制御手段により制御される遊技制御手段側発光手段と、前記演出制御手段により制御される演出制御手段側発光手段と、を含み、

前記記憶手段は、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、該当該可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第 1 保留記憶領域を含み、かつ所定数を上限とする複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域とを含み、

前記遊技制御手段は、特定識別情報の可変表示に関する情報が前記保留記憶領域に記憶されていることに基づいて、前記遊技制御手段側発光手段の態様を変化させることが可能であり、

前記演出制御手段は、特定識別情報の可変表示に関する情報が前記保留記憶領域に記憶されていることに基づいて、前記演出制御手段側発光手段の態様を変化させることが可能であり、

前記遊技制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶しているときに、特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

特定識別情報の可変表示が終了したときに、前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がある場合に次の特定識別情報の可変表示を実行可能であり

、
前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合、始動領域を遊技媒体が通過したときに特定識別情報の可変表示に関する情報を前記第 1 保留記憶領域に記憶し、その後、該第 1 保留記憶領域に記憶した特定識別情報の可変表示に関する情報を前記当該可変表示記憶領域に移動させ、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、かつ前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合、前記始動領域を遊技媒体が通過したときに特定識別情報の可変表示に関する情報を前記第 1 保留記憶領域に記憶し、その後、該当該可変表示記憶領域に記憶している特定識別情報の可変表示に関する情報に対応する特定識別情報の可変表示が終了したときに、該第 1 保留記

10

20

30

40

50

憶領域に記憶した特定識別情報の可変表示に関する情報を前記当該可変表示記憶領域に移動させ、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、かつ前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合に前記始動領域を遊技媒体が通過したときに、前記遊技制御手段側発光手段の態様を前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様とし、その後、該第1保留記憶領域に記憶した特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶を前記当該可変表示記憶領域に移動させるときに該遊技制御手段側発光手段の態様を前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていないことに対応する態様とし、

10

前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合に前記始動領域を遊技媒体が通過し、特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶を前記第1保留記憶領域に記憶しても、前記遊技制御手段側発光手段の態様を前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様とせず、前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていないことに対応する態様のまま維持し、

前記演出制御手段は、

前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されたときに、開始態様と、完了態様と、該完了態様の1つ前の態様である完了前態様を含む複数の途中態様と、を段階的に変化させて保留表示を表示可能であり、

20

特定識別情報の可変表示が実行されているときに、前記保留記憶領域に記憶されている特定識別情報の可変表示に関する情報に対応する前記保留表示を、次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた保留表示位置から次の特定識別情報の可変表示が開始されることに対応する保留表示位置に移動させることが可能であり、

前記保留記憶領域に前記所定数未満のN数の特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されている状況における特定識別情報の可変表示である保留記憶数N時可変表示が実行されているときにおいて、

次の特定識別情報の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、 $N+1$ 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に変化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

30

次の特定識別情報の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の特定識別情報の可変表示が開始される直前の期間でないときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、 $N+1$ 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に変化させて該保留表示を表示し、

40

次の特定識別情報の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の特定識別情報の可変表示が開始される直前の期間であるときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、 $N+1$ 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様となっている状況で次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に変化させて該保留表示を表示し、

前記保留記憶数N時可変表示が終了され、次の特定識別情報の可変表示が開始された直後に新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、N数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に変化させる変化、を前記所定期間かけて実行

50

して該保留表示を表示する、
ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に変化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様への変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をみせることができる。さらに、次の可変表示の開始直前と直後での切り分けにより、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をより好適に遊技者に見せることができる。また、特に、可変表示を実行しておらず保留記憶もない状況においては、遊技制御手段の処理上、第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶される記憶領域に、始動領域の通過による新たな特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶した後、シフトする処理で当該可変表示記憶領域に該情報を移動させるが、その際に遊技制御手段側発光手段の態様を、保留記憶数が 1 を示す態様から保留記憶数が 0 を示す態様とすることにより、一瞬だけ保留記憶数が 1 を示す態様となることとなり、却って表示態様が煩わしくなって遊技者に違和感を与えてしまうことを防ぐことができ、結果として、安定的な遊技環境を提供することができる。

10

対応図面：図 3 9、図 7 2、図 7 3、図 7 5、図 7 6

【 0 0 3 2 】

[形態 2 3]

20

形態 2 3 の遊技機は、
特定識別情報の可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出制御手段と、

記憶手段と、

複数の発光手段と、を備え、

前記複数の発光手段は、前記遊技制御手段により制御される遊技制御手段側発光手段と、前記演出制御手段により制御される演出制御手段側発光手段と、を含み、

前記記憶手段は、

30

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、該当該可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第 1 保留記憶領域を含み、かつ所定数を上限とする複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域とを含み、

前記遊技制御手段は、特定識別情報の可変表示に関する情報が前記保留記憶領域に記憶されていることに基づいて、前記遊技制御手段側発光手段の態様を変化させることが可能であり、

前記演出制御手段は、特定識別情報の可変表示に関する情報が前記保留記憶領域に記憶されていることに基づいて、前記演出制御手段側発光手段の態様を変化させることが可能であり、

40

前記遊技制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶しているときに、特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

特定識別情報の可変表示が終了したときに、前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がある場合に次の特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合、始動領域を遊技媒体が通過したときに特定識別情報の可変表示に関する情報を前記第 1 保留記憶領域に記憶し、その後、該第 1 保留記憶領域に記憶した特定識別情報の可変表示に関する情報

50

を前記当該可変表示記憶領域に移動させ、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、かつ前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合、前記始動領域を遊技媒体が通過したときに特定識別情報の可変表示に関する情報を前記第 1 保留記憶領域に記憶し、その後、該当該可変表示記憶領域に記憶している特定識別情報の可変表示に関する情報に対応する特定識別情報の可変表示が終了したときに、該第 1 保留記憶領域に記憶した特定識別情報の可変表示に関する情報を前記当該可変表示記憶領域に移動させ、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、かつ前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合に前記始動領域を遊技媒体が通過したときに、前記遊技制御手段側発光手段の態様を前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様とし、その後、該第 1 保留記憶領域に記憶した特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶を前記当該可変表示記憶領域に移動させるときに該遊技制御手段側発光手段の態様を前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていないことに対応する態様とし、

前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合に前記始動領域を遊技媒体が通過し、特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶を前記第 1 保留記憶領域に記憶しても、前記遊技制御手段側発光手段の態様を前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様とせず、前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていないことに対応する態様のまま維持し、

前記演出制御手段は、

前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されたときに、開始態様と、完了態様と、該完了態様の 1 つ前の態様である完了前態様を含む複数の途中態様と、を段階的に変化させて保留表示を表示可能であり、

特定識別情報の可変表示が実行されているときに、前記保留記憶領域に記憶されている特定識別情報の可変表示に関する情報に対応する前記保留表示を、次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた保留表示位置から次の特定識別情報の可変表示が開始されることに対応する保留表示位置に移動させることが可能であり、

前記保留記憶領域に前記所定数未満の N 数の特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されている状況における特定識別情報の可変表示である保留記憶数 N 時可変表示が実行されているときにおいて、

次の特定識別情報の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に変化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

次の特定識別情報の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、N + 1 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に変化させて該保留表示を表示し、

前記保留記憶領域に特定識別情報に関する情報が記憶されていない状況における特定識別情報の可変表示である保留記憶数 0 時可変表示の実行されているときにおいて、

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了されるまでの期間が前記所定期間よりも長いときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、次の特定識別情報の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様

から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、次の特定識別情報の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示する、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に变化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときで完了態様への変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をみせることができる。さらに、保留記憶数が 0 である状態であるときに、新たな保留記憶が記憶されるタイミングが、次の可変表示の開始までに所定期間の猶予がないときは、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化を完了態様に变化させることで、保留記憶数 0 である状態であっても、保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、特に、可変表示を実行しておらず保留記憶もない状況においては、遊技制御手段の処理上、第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶される記憶領域に、始動領域の通過による新たな特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶した後、シフトする処理で当該可変表示記憶領域に該情報を移動させるが、その際に遊技制御手段側発光手段の態様を、保留記憶数が 1 を示す態様から保留記憶数が 0 を示す態様とすることにより、一瞬だけ保留記憶数が 1 を示す態様となることとなり、却って表示態様が煩わしくなって遊技者に違和感を与えてしまうことを防ぐことができ、結果として、安定的な遊技環境を提供することができる。

対応図面：図 39、図 72、図 73、図 81、図 82

【 0 0 3 3 】

[形態 2 4]

形態 2 4 の遊技機は、

特定識別情報の可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出制御手段と、

記憶手段と、

複数の発光手段と、を備え、

前記複数の発光手段は、前記遊技制御手段により制御される遊技制御手段側発光手段と、前記演出制御手段により制御される演出制御手段側発光手段と、を含み、

前記記憶手段は、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、該当該可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第 1 保留記憶領域を含み、かつ所定数を上限とする複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域とを含み、

前記遊技制御手段は、特定識別情報の可変表示に関する情報が前記保留記憶領域に記憶されていることに基づいて、前記遊技制御手段側発光手段の態様を変化させることが可能であり、

前記演出制御手段は、特定識別情報の可変表示に関する情報が前記保留記憶領域に記憶されていることに基づいて、前記演出制御手段側発光手段の態様を変化させることが可能であり、

前記遊技制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶しているときに、特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

特定識別情報の可変表示が終了したときに、前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がある場合に次の特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合、始動領域を遊技媒体が通過したときに特定識別情報の可変表示に関する情報を前記第 1 保留記憶領域に記憶し、その後、該第 1 保留記憶領域に記憶した特定識別情報の可変表示に関する情報を前記当該可変表示記憶領域に移動させ、

10

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、かつ前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合、前記始動領域を遊技媒体が通過したときに特定識別情報の可変表示に関する情報を前記第 1 保留記憶領域に記憶し、その後、該当該可変表示記憶領域に記憶している特定識別情報の可変表示に関する情報に対応する特定識別情報の可変表示が終了したときに、該第 1 保留記憶領域に記憶した特定識別情報の可変表示に関する情報を前記当該可変表示記憶領域に移動させ、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、かつ前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合に前記始動領域を遊技媒体が通過したときに、前記遊技制御手段側発光手段の態様を前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様とし、その後、該第 1 保留記憶領域に記憶した特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶を前記当該可変表示記憶領域に移動させるときに該遊技制御手段側発光手段の態様を前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていないことに対応する態様とし、

20

前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合に前記始動領域を遊技媒体が通過し、特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶を前記第 1 保留記憶領域に記憶しても、前記遊技制御手段側発光手段の態様を前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様とせず、前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていないことに対応する態様のまま維持し、

30

前記演出制御手段は、

前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されたときに、開始態様と、完了態様と、該完了態様の 1 つ前の態様である完了前態様を含む複数の途中態様と、を段階的に変化させて保留表示を表示可能であり、

特定識別情報の可変表示が実行されているときに、前記保留記憶領域に記憶されている特定識別情報の可変表示に関する情報に対応する前記保留表示を、次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた保留表示位置から次の特定識別情報の可変表示が開始されることに対応する保留表示位置に移動させることが可能であり、

40

前記保留記憶領域に前記所定数未満の N 数の特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されている状況における特定識別情報の可変表示である保留記憶数 N 時可変表示が行われているときに、

次の特定識別情報の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、 $N + 1$ 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に変化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

次の特定識別情報の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の特定識別情報の可変表示が開始される直前の期間でないときに、新たな

50

特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、 $N+1$ 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、

次の特定識別情報の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の特定識別情報の可変表示が開始される直前の期間であるときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、 $N+1$ 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様となっている状況で次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、

10

前記保留記憶数 N 時可変表示が終了され、次の特定識別情報の可変表示が開始された直後に新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、 N 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に变化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていない状況における特定識別情報の可変表示である保留記憶数 0 時可変表示が実行されているときに、

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了されるまでの期間が前記所定期間よりも長いときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、次の特定識別情報の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に变化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

20

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときであって、該保留記憶数 0 時可変表示が終了される直前でないときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、次の特定識別情報の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、

30

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときであって、該保留記憶数 0 時可変表示が終了する直前であるときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、次の特定識別情報の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様となっている状況で次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了された直後に新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、該保留記憶数 0 時可変表示の次の特定識別情報の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記完了態様から表示する、

40

ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に变化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様への変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をみせることができる。さらに、次の可変表示の開始直前と直後での切り分けにより、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をより好適に遊技者に見せることができる。さらに、保留記憶数が 0 である状態であるときに、新たな保留記憶が記憶されるタイミングが、次の可変表示の開始までに所定期間の猶予がないときは、新た

50

な保留記憶の記憶時における段階的变化を完了態様に変化させることで、保留記憶数 0 である状態であっても、保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、特に、可変表示を実行しておらず保留記憶もない状況においては、遊技制御手段の処理上、第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶される記憶領域に、始動領域の通過による新たな特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶した後、シフトする処理で当該可変表示記憶領域に該情報を移動させるが、その際に遊技制御手段側発光手段の態様を、保留記憶数が 1 を示す態様から保留記憶数が 0 を示す態様とすることにより、一瞬だけ保留記憶数が 1 を示す態様となることとなり、却って表示態様が煩わしくなって遊技者に違和感を与えてしまうことを防ぐことができ、結果として、安定的な遊技環境を提供することができる。

10

対応図面：図 39、図 72、図 73、図 75、図 76、図 81 ~ 図 84

【 0 0 3 4 】

[形態 25]

形態 25 の遊技機は、

特定識別情報の可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出制御手段と、

表示手段と、

記憶手段と、

20

複数の発光手段と、を備え、

前記複数の発光手段は、前記遊技制御手段により制御される遊技制御手段側発光手段を含み、

前記記憶手段は、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、該当可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第 1 保留記憶領域を含み、かつ所定数を上限とする複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域とを含み、

前記遊技制御手段は、特定識別情報の可変表示に関する情報が前記保留記憶領域に記憶されていることに基づいて、前記遊技制御手段側発光手段の態様を変化させることが可能であり、

30

前記演出制御手段は、前記記憶手段に記憶されている特定識別情報の可変表示に関する情報の数を示唆する保留球数表示を前記表示手段に表示させることが可能であり、

前記遊技制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶しているときに、特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

特定識別情報の可変表示が終了したときに、前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がある場合に次の特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

40

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、かつ前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合、始動領域を遊技媒体が通過したときに特定識別情報の可変表示に関する情報を前記第 1 保留記憶領域に記憶し、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、かつ前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合に前記始動領域を遊技媒体が通過したときに、前記遊技制御手段側発光手段の態様を前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様とし、

前記演出制御手段は、

50

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、かつ前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合に前記始動領域を遊技媒体が通過したときに、前記遊技制御手段側発光手段の態様が前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様となった後に、前記保留球数表示の態様を前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様とし、

前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されたときに、開始態様と、完了態様と、該完了態様の 1 つ前の態様である完了前態様を含む複数の途中態様と、を段階的に変化させて保留表示を表示可能であり、

特定識別情報の可変表示が実行されているときに、前記保留記憶領域に記憶されている特定識別情報の可変表示に関する情報に対応する前記保留表示を、次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた保留表示位置から次の特定識別情報の可変表示が開始されることに対応する保留表示位置に移動させることが可能であり、

前記保留記憶領域に前記所定数未満の N 数の特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されている状況における特定識別情報の可変表示である保留記憶数 N 時可変表示が実行されているときにおいて、

次の特定識別情報の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、 $N + 1$ 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

次の特定識別情報の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、 $N + 1$ 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、

前記保留記憶数 N 時可変表示が終了され、前記保留シフト開始タイミングから前記特定期間が経過するまでに新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、 N 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該保留表示を表示する、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に变化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様への変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をみせることができる。さらに、次の可変表示の開始直前と直後での切り分けにより、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をより好適に遊技者に見せることができる。また、遊技制御手段側発光手段を先に視認可能とし、その後に表示手段の保留球数表示を視認可能とすることで、複数の手段を用いて保留記憶数を認識させることができ、特に、遊技価値の付与等の遊技を制御する遊技制御手段の制御を先に実行することで、安定的な遊技環境を提供することができる。

対応図面：図 7 2 ~ 図 7 4、図 8 8、図 8 9

尚、本形態において、

『表示手段』は本実施の形態における『画像表示装置 5』に該当し、

『保留球数表示』は本実施の形態における『保留記憶表示エリア 5 U に表示される保留表示』に該当する。

10

20

30

40

50

【 0 0 3 5 】

[形態 2 6]

形態 2 6 の遊技機は、

特定識別情報の可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出制御手段と、

表示手段と、

記憶手段と、

複数の発光手段と、を備え、

前記複数の発光手段は、前記遊技制御手段により制御される遊技制御手段側発光手段を含み、

前記記憶手段は、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、該当可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第 1 保留記憶領域を含み、かつ所定数を上限とする複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域とを含み、

前記遊技制御手段は、特定識別情報の可変表示に関する情報が前記保留記憶領域に記憶されていることに基づいて、前記遊技制御手段側発光手段の態様を変化させることが可能であり、

前記演出制御手段は、前記記憶手段に記憶されている特定識別情報の可変表示に関する情報の数を示唆する保留球数表示を前記表示手段に表示させることが可能であり、

前記遊技制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶しているときに、特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

特定識別情報の可変表示が終了したときに、前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がある場合に次の特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、かつ前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合、始動領域を遊技媒体が通過したときに特定識別情報の可変表示に関する情報を前記第 1 保留記憶領域に記憶し、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、かつ前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合に前記始動領域を遊技媒体が通過したときに、前記遊技制御手段側発光手段の態様を前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様とし、

前記演出制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、かつ前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合に前記始動領域を遊技媒体が通過したときに、前記遊技制御手段側発光手段の態様が前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様となった後に、前記保留球数表示の態様を前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様とし、

前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されたときに、開始態様と、完了態様と、該完了態様の 1 つ前の態様である完了前態様を含む複数の途中態様と、を段階的に変化させて保留表示を表示可能であり、

特定識別情報の可変表示が実行されているときに、前記保留記憶領域に記憶されている特定識別情報の可変表示に関する情報に対応する前記保留表示を、次の特定識別情報の

10

20

30

40

50

可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた保留表示位置から次の特定識別情報の可変表示が開始されることに対応する保留表示位置に移動させることが可能であり、

前記保留記憶領域に前記所定数未満のN数の特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されている状況における特定識別情報の可変表示である保留記憶数N時可変表示が実行されているときにおいて、

次の特定識別情報の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に変化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

10

次の特定識別情報の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の特定識別情報の可変表示が開始される直前の期間でないときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に変化させて該保留表示を表示し、

次の特定識別情報の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の特定識別情報の可変表示が開始される直前の期間であるときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様となっている状況で次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に変化させて該保留表示を表示し、

20

前記保留記憶数N時可変表示が終了され、次の特定識別情報の可変表示が開始された直後に新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、N数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に変化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該保留表示を表示する、

ことを特徴としている。

30

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に変化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様への変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をみせることができる。さらに、次の可変表示の開始直前と直後での切り分けにより、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をより好適に遊技者に見せることができる。また、遊技制御手段側発光手段を先に視認可能とし、その後に表示手段の保留球数表示を視認可能とすることで、複数の手段を用いて保留記憶数を認識させることができ、特に、遊技価値の付与等の遊技を制御する遊技制御手段の制御を先に実行することで、安定的な遊技環境を提供することができる。

40

対応図面：図72、図73、図75、図76、図88、図89

【0036】

[形態27]

形態27の遊技機は、

特定識別情報の可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出制御手段と、

表示手段と、

50

記憶手段と、

複数の発光手段と、を備え、

前記複数の発光手段は、前記遊技制御手段により制御される遊技制御手段側発光手段を含み、

前記記憶手段は、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、該当可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第1保留記憶領域を含み、かつ所定数を上限とする複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域とを含み、

10

前記遊技制御手段は、特定識別情報の可変表示に関する情報が前記保留記憶領域に記憶されていることに基づいて、前記遊技制御手段側発光手段の態様を変化させることが可能であり、

前記演出制御手段は、前記記憶手段に記憶されている特定識別情報の可変表示に関する情報の数を示唆する保留球数表示を前記表示手段に表示させることが可能であり、

前記遊技制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶しているときに、特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

特定識別情報の可変表示が終了したときに、前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がある場合に次の特定識別情報の可変表示を実行可能であり

20

、
前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、かつ前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合、始動領域を遊技媒体が通過したときに特定識別情報の可変表示に関する情報を前記第1保留記憶領域に記憶し、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、かつ前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合に前記始動領域を遊技媒体が通過したときに、前記遊技制御手段側発光手段の態様を前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様とし、

30

前記演出制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、かつ前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合に前記始動領域を遊技媒体が通過したときに、前記遊技制御手段側発光手段の態様が前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様となった後に、前記保留球数表示の態様を前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様とし、

前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されたときに、開始態様と、完了態様と、該完了態様の1つ前の態様である完了前態様を含む複数の途中態様と、を段階的に変化させて保留表示を表示可能であり、

40

特定識別情報の可変表示が実行されているときに、前記保留記憶領域に記憶されている特定識別情報の可変表示に関する情報に対応する前記保留表示を、次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた保留表示位置から次の特定識別情報の可変表示が開始されることに対応する保留表示位置に移動させることが可能であり、

前記保留記憶領域に前記所定数未満のN数の特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されている状況における特定識別情報の可変表示である保留記憶数N時可変表示が行われているときにおいて、

次の特定識別情報の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、N+1数目に対応す

50

る保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に変化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

次の特定識別情報の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、 $N+1$ 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に変化させて該保留表示を表示し、

前記保留記憶領域に特定識別情報に関する情報が記憶されていない状況における特定識別情報の可変表示である保留記憶数 0 時可変表示の実行されているときにおいて、 10

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了されるまでの期間が前記所定期間よりも長いときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、次の特定識別情報の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に変化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、次の特定識別情報の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に変化させて該保留表示を表示する、 20

ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に変化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様への変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をみせることができる。さらに、保留記憶数が 0 である状態であるときに、新たな保留記憶が記憶されるタイミングが、次の可変表示の開始までに所定期間の猶予がないときは、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化を完了態様に変化させることで、保留記憶数 0 である状態であっても、保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、遊技制御手段側発光手段を先に視認可能とし、その後に表示手段の保留球数表示を視認可能とすることで、複数の手段を用いて保留記憶数を認識させることができ、特に、遊技価値の付与等の遊技を制御する遊技制御手段の制御を先に実行することで、安定的な遊技環境を提供することができる。 30

対応図面：図 7 2、図 7 3、図 8 1、図 8 2、図 8 8、図 8 9

【 0 0 3 7 】

[形態 2 8]

形態 2 8 の遊技機は、 40

特定識別情報の可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出制御手段と、

表示手段と、

記憶手段と、

複数の発光手段と、を備え、

前記複数の発光手段は、前記遊技制御手段により制御される遊技制御手段側発光手段を含み、

前記記憶手段は、 50

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、該当可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第1保留記憶領域を含み、かつ所定数を上限とする複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域とを含み、

前記遊技制御手段は、特定識別情報の可変表示に関する情報が前記保留記憶領域に記憶されていることに基づいて、前記遊技制御手段側発光手段の態様を変化させることが可能であり、

前記演出制御手段は、前記記憶手段に記憶されている特定識別情報の可変表示に関する情報の数を示唆する保留球数表示を前記表示手段に表示させることが可能であり、

10

前記遊技制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶しているときに、特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

特定識別情報の可変表示が終了したときに、前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がある場合に次の特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、かつ前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合、始動領域を遊技媒体が通過したときに特定識別情報の可変表示に関する情報を前記第1保留記憶領域に記憶し、

20

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、かつ前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合に前記始動領域を遊技媒体が通過したときに、前記遊技制御手段側発光手段の態様を前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様とし、

前記演出制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、かつ前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合に前記始動領域を遊技媒体が通過したときに、前記遊技制御手段側発光手段の態様が前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様となった後に、前記保留球数表示の態様を前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様とし、

30

前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されたときに、開始態様と、完了態様と、該完了態様の1つ前の態様である完了前態様を含む複数の途中態様と、を段階的に変化させて保留表示を表示可能であり、

特定識別情報の可変表示が実行されているときに、前記保留記憶領域に記憶されている特定識別情報の可変表示に関する情報に対応する前記保留表示を、次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた保留表示位置から次の特定識別情報の可変表示が開始されることに対応する保留表示位置に移動させることが可能であり、

40

前記保留記憶領域に前記所定数未満のN数の特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されている状況における特定識別情報の可変表示である保留記憶数N時可変表示が実行されているときにおいて、

次の特定識別情報の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に変化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

次の特定識別情報の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の特定識別情報の可変表示が開始される直前の期間でないときに、新たな

50

特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、 $N+1$ 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、

次の特定識別情報の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の特定識別情報の可変表示が開始される直前の期間であるときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、 $N+1$ 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様となっている状況で次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、

10

前記保留記憶数 N 時可変表示が終了され、次の特定識別情報の可変表示が開始された直後に新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、 N 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に变化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていない状況における特定識別情報の可変表示である保留記憶数 0 時可変表示が実行されているときにおいて、

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了されるまでの期間が前記所定期間よりも長いときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、次の特定識別情報の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に变化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

20

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときであって、該保留記憶数 0 時可変表示が終了される直前でないときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、次の特定識別情報の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、

30

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときであって、該保留記憶数 0 時可変表示が終了する直前であるときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、次の特定識別情報の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様となっている状況で次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、

前記保留記憶数 0 時可変表示が終了された直後に新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、該保留記憶数 0 時可変表示の次の特定識別情報の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記完了態様から表示する、

40

ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に变化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様への変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をみせることができる。さらに、次の可変表示の開始直前と直後での切り分けにより、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をより好適に遊技者に見せることができる。さらに、保留記憶数が 0 である状態であるときに、新たな保留記憶が記憶されるタイミングが、次の可変表示の開始までに所定期間の猶予がないときは、新た

50

な保留記憶の記憶時における段階的变化を完了態様に変化させることで、保留記憶数 0 である状態であっても、保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、遊技制御手段側発光手段を先に視認可能とし、その後に表示手段の保留球数表示を視認可能とすることで、複数の手段を用いて保留記憶数を認識させることができ、特に、遊技価値の付与等の遊技を制御する遊技制御手段の制御を先に実行することで、安定的な遊技環境を提供することができる。

対応図面：図 7 2、図 7 3、図 7 5、図 7 6、図 8 1 ~ 図 8 4、図 8 8、図 8 9

【 0 0 3 8 】

[形態 2 9]

形態 2 9 の遊技機は、

特定識別情報の可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出制御手段と、

表示手段と、

記憶手段と、

複数の発光手段と、を備え、

前記複数の発光手段は、前記遊技制御手段により制御される遊技制御手段側発光手段と、前記演出制御手段により制御される演出制御手段側発光手段と、を含み、

前記記憶手段は、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、当該可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第 1 保留記憶領域を含み、かつ所定数を上限とする複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域とを含み、

前記遊技制御手段は、特定識別情報の可変表示を実行するときに前記遊技制御手段側発光手段の態様を初期態様から最終態様まで切り替え可能であるとともに、該切り替えを複数回実行させることが可能であり、

前記遊技制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶しているときに、特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

特定識別情報の可変表示が終了したときに、前記第 1 保留記憶領域に可変表示に関する情報の記憶がある場合に次の特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

前記演出制御手段は、

特定識別情報の可変表示が実行される場合、当該可変表示に対応する特定表示を前記表示手段に表示させることが可能であり、

前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていない状況において、始動領域を遊技媒体が通過した場合に、前記遊技制御手段側発光手段の態様が前記初期態様となってから前記最終態様となるまでの間に、前記特定表示の表示を開始し、

特定識別情報の可変表示が実行されていない場合、前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されたときに、開始態様と、完了態様と、該完了態様の 1 つ前の態様である完了前態様を含む複数の途中態様と、を段階的に変化させて保留表示を表示可能であり、

特定識別情報の可変表示が実行されているときに、前記保留記憶領域に記憶されている特定識別情報の可変表示に関する情報に対応する前記保留表示を、次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた保留表示位置から次の特定識別情報の可変表示が開始されることに伴って保留表示位置に移動させることが可能であり、

前記保留記憶領域に前記所定数未満の N 数の特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されている状況における特定識別情報の可変表示である保留記憶数 N 時可変表示が実

10

20

30

40

50

行されているときにおいて、

次の特定識別情報の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、 $N+1$ 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

次の特定識別情報の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、 $N+1$ 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、

前記保留記憶数 N 時可変表示が終了され、前記保留シフト開始タイミングから前記所定期間が経過するまでに新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、 N 数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該保留表示を表示する、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に变化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様への変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をみせることができる。さらに、次の可変表示の開始直前と直後での切り分けにより、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をより好適に遊技者に見せることができる。また、特定識別情報の可変表示を実行し、その後、演出制御手段側で特定表示を開始することで、遊技媒体による始動領域の通過に対応して可変表示が開始されたことを複数の手段で認識させることができ、その中で、特定識別情報の可変表示が初期態様となってから最終態様となるまでに、可変表示に対応する特定表示の表示を開始することで、特定識別情報の可変表示のみが実行されているように感じさせることを防止することができ、結果として好適な遊技環境を提供することができる。

対応図面：図 7 2 ~ 図 7 4、図 8 5

尚、本形態において、

『遊技制御手段側発光手段』は本実施の形態における『特図ユニット 2 0 1 を構成する L E D、特に第 1 特別図柄表示装置 4 A、第 2 特別図柄表示装置 4 B を構成する L E D』

『初期態様』は本実施の形態における『第 1 特別図柄表示装置 4 A や第 2 特別図柄表示装置 4 B を構成する L E D のうち 1 個目の L E D が点灯した態様』に該当し、

『最終態様』は本実施の形態における『第 1 特別図柄表示装置 4 A や第 2 特別図柄表示装置 4 B を構成する L E D のうち 8 個目の L E D が点灯した態様』に該当し、

『特定表示』は本実施の形態における『アクティブ表示』に該当する。

【 0 0 3 9 】

[形態 3 0]

形態 3 0 の遊技機は、

特定識別情報の可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出制御手段と、

表示手段と、

記憶手段と、

複数の発光手段と、を備え、

10

20

30

40

50

前記複数の発光手段は、前記遊技制御手段により制御される遊技制御手段側発光手段と、前記演出制御手段により制御される演出制御手段側発光手段と、を含み、

前記記憶手段は、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、当該可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第1保留記憶領域を含み、かつ所定数を上限とする複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域とを含み、

前記遊技制御手段は、特定識別情報の可変表示を実行するときに前記遊技制御手段側発光手段の態様を初期態様から最終態様まで切り替え可能であるとともに、該切り替えを複数回実行させることが可能であり、

10

前記遊技制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶しているときに、特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

特定識別情報の可変表示が終了したときに、前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がある場合に次の特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

前記演出制御手段は、

特定識別情報の可変表示が実行される場合、当該可変表示に対応する特定表示を前記表示手段に表示させることが可能であり、

20

前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていない状況において、始動領域を遊技媒体が通過した場合に、前記遊技制御手段側発光手段の態様が前記初期態様となってから前記最終態様となるまでの間に、前記特定表示の表示を開始し、

特定識別情報の可変表示が実行されていない場合、前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されたときに、開始態様と、完了態様と、該完了態様の1つ前の態様である完了前態様を含む複数の途中態様と、を段階的に変化させて保留表示を表示可能であり、

特定識別情報の可変表示が実行されているときに、前記保留記憶領域に記憶されている特定識別情報の可変表示に関する情報に対応する前記保留表示を、次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた保留表示位置から次の特定識別情報の可変表示が開始されることに

30

対応する保留表示位置に移動させることが可能であり、
前記保留記憶領域に前記所定数未満のN数の特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されている状況における特定識別情報の可変表示である保留記憶数N時可変表示が実行されているときにおいて、

次の特定識別情報の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

40

次の特定識別情報の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の特定識別情報の可変表示が開始される直前の期間でないときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、

次の特定識別情報の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の特定識別情報の可変表示が開始される直前の期間であるときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、N+1数目に対応する保留表

50

示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様となっている状況で次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、

前記保留記憶数N時可変表示が終了され、次の特定識別情報の可変表示が開始された直後に新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、N数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に变化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該保留表示を表示する、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に变化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様への変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をみせることができる。さらに、次の可変表示の開始直前と直後での切り分けにより、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をより好適に遊技者に見せることができる。また、特定識別情報の可変表示を実行し、その後、演出制御手段側で特定表示を開始することで、遊技媒体による始動領域の通過に対応して可変表示が開始されたことを複数の手段で認識させることができ、その中で、特定識別情報の可変表示が初期態様となってから最終態様となるまでに、可変表示に対応する特定表示の表示を開始することで、特定識別情報の可変表示のみが実行されているように感じさせることを防止することができる。結果として好適な遊技環境を提供することができる。

対応図面：図72、図73、図75、図76、図85

【0040】

[形態31]

形態31の遊技機は、

特定識別情報の可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出制御手段と、

表示手段と、

記憶手段と、

複数の発光手段と、を備え、

前記複数の発光手段は、前記遊技制御手段により制御される遊技制御手段側発光手段と、前記演出制御手段により制御される演出制御手段側発光手段と、を含み、

前記記憶手段は、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、当該可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第1保留記憶領域を含み、かつ所定数を上限とする複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域とを含み、

前記遊技制御手段は、特定識別情報の可変表示を実行するときに前記遊技制御手段側発光手段の態様を初期態様から最終態様まで切り替え可能であるとともに、該切り替えを複数回実行させることが可能であり、

前記遊技制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶しているときに、特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

特定識別情報の可変表示が終了したときに、前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がある場合に次の特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

10

20

30

40

50

前記演出制御手段は、

特定識別情報の可変表示が実行される場合、当該可変表示に対応する特定表示を前記表示手段に表示させることが可能であり、

前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていない状況において、始動領域を遊技媒体が通過した場合に、前記遊技制御手段側発光手段の態様が前記初期態様となってから前記最終態様となるまでの間に、前記特定表示の表示を開始し、

特定識別情報の可変表示が実行されていない場合、前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されたときに、開始態様と、完了態様と、該完了態様の1つ前の態様である完了前態様を含む複数の途中態様と、を段階的に変化させて保留表示を表示可能であり、

10

特定識別情報の可変表示が実行されているときに、前記保留記憶領域に記憶されている特定識別情報の可変表示に関する情報に対応する前記保留表示を、次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて表示されていた保留表示位置から次の特定識別情報の可変表示が開始されることに伴う保留表示位置に移動させることが可能であり、

前記保留記憶領域に前記所定数未満のN数の特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されている状況における特定識別情報の可変表示である保留記憶数N時可変表示が実行されているときにおいて、

次の特定識別情報の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

20

次の特定識別情報の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示し、

前記保留記憶領域に特定識別情報に関する情報が記憶されていない状況における特定識別情報の可変表示である保留記憶数0時可変表示の実行されているときにおいて、

30

前記保留記憶数0時可変表示が終了されるまでの期間が前記所定期間よりも長いときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、次の特定識別情報の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に变化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

前記保留記憶数0時可変表示が終了されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、次の特定識別情報の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に变化させて該保留表示を表示する、

40

ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に变化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様への変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をみせることができる。さらに、保留記憶数が0である状態であるときに、新たな保留記憶が記憶されるタイミングが、次の可変表示の開始までに所定期間

50

の猶予がないときは、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化を完了態様に变化させることで、保留記憶数 0 である状態であっても、保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、特定識別情報の可変表示を実行し、その後、演出制御手段側で特定表示を開始することで、遊技媒体による始動領域の通過に対応して可変表示が開始されたことを複数の手段で認識させることができ、その中で、特定識別情報の可変表示が初期態様となってから最終態様となるまでに、可変表示に対応する特定表示の表示を開始することで、特定識別情報の可変表示のみが実行されているように感じさせることを防止することができ、結果として好適な遊技環境を提供することができる。

対応図面：図 7 2、図 7 3、図 8 1、図 8 2、図 8 5

【 0 0 4 1 】

10

[形態 3 2]

形態 3 2 の遊技機は、

特定識別情報の可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御可能な遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出制御手段と、

表示手段と、

記憶手段と、

複数の発光手段と、を備え、

前記複数の発光手段は、前記遊技制御手段により制御される遊技制御手段側発光手段と

20

、前記演出制御手段により制御される演出制御手段側発光手段と、を含み、

前記記憶手段は、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、当該可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第 1 保留記憶領域を含み、かつ所定数を上限とする複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域とを含み、

前記遊技制御手段は、特定識別情報の可変表示を実行するときに前記遊技制御手段側発光手段の態様を初期態様から最終態様まで切り替え可能であるとともに、該切り替えを複数回実行させることが可能であり、

30

前記遊技制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶しているときに、特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

特定識別情報の可変表示が終了したときに、前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がある場合に次の特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

前記演出制御手段は、

前記演出制御手段は、

特定識別情報の可変表示が実行される場合、当該可変表示に対応する特定表示を前記表示手段に表示させることが可能であり、

40

前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていない状況において、始動領域を遊技媒体が通過した場合に、前記遊技制御手段側発光手段の態様が前記初期態様となってから前記最終態様となるまでの間に、前記特定表示の表示を開始し、

特定識別情報の可変表示が実行されていない場合、前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されたときに、開始態様と、完了態様と、該完了態様の 1 つ前の態様である完了前態様を含む複数の途中態様と、を段階的に変化させて保留表示を表示可能であり、

特定識別情報の可変表示が実行されているときに、前記保留記憶領域に記憶されている特定識別情報の可変表示に関する情報に対応する前記保留表示を、次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングに基づく保留シフト開始タイミングから特定期間かけて

50

表示されていた保留表示位置から次の特定識別情報の可変表示が開始されることに対応する保留表示位置に移動させることが可能であり、

前記保留記憶領域に前記所定数未満のN数の特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されている状況における特定識別情報の可変表示である保留記憶数N時可変表示が実行されているときにおいて、

次の特定識別情報の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に変化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

10

次の特定識別情報の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の特定識別情報の可変表示が開始される直前の期間でないときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に変化させて該保留表示を表示し、

次の特定識別情報の可変表示が開始されるまでの期間が前記所定期間よりも短い期間であって、次の特定識別情報の可変表示が開始される直前の期間であるときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、N+1数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様となっている状況で次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に変化させて該保留表示を表示し、

20

前記保留記憶数N時可変表示が終了され、次の特定識別情報の可変表示が開始された直後に新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、N数目に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に変化させる変化、を前記所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていない状況における特定識別情報の可変表示である保留記憶数0時可変表示が実行されているときにおいて、

30

前記保留記憶数0時可変表示が終了されるまでの期間が前記所定期間よりも長いときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、次の特定識別情報の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し該開始態様から前記複数の途中態様に段階的に変化させた後に前記完了態様に変化させる変化、を該所定期間かけて実行して該保留表示を表示し、

前記保留記憶数0時可変表示が終了されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときであって、該保留記憶数0時可変表示が終了される直前でないときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、次の特定識別情報の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様から前記完了前態様とは異なる途中態様まで変化させ、該完了前態様とは異なる途中態様となっている状況で次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に変化させて該保留表示を表示し、

40

前記保留記憶数0時可変表示が終了されるまでの期間が前記所定期間よりも短いときであって、該保留記憶数0時可変表示が終了する直前であるときに、新たな特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶された場合は、次の特定識別情報の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記開始態様で開始し、該開始態様となっている状況で次の特定識別情報の可変表示が開始されるタイミングとなることで、該タイミングに基づいて前記完了態様に変化させて該保留表示を表示し、

前記保留記憶数0時可変表示が終了された直後に新たな特定識別情報の可変表示に関

50

する情報が記憶された場合は、該保留記憶数 0 時可変表示の次の特定識別情報の可変表示に対応する保留表示位置に前記保留表示を前記完了態様から表示する、
ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示中から次の可変表示の開始までに記憶された保留記憶が可変表示開始時に未だ途中態様である場合は完了態様に変化させるため、その後に行われる保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、次の可変表示が開始されるまでの期間が所定期間よりも長いときと短いときとで完了態様への変化の有無を切り分けることで好適に遊技者に保留記憶数および新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をみせることができる。さらに、次の可変表示の開始直前と直後での切り分けにより、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化をより好適に遊技者に見せることができる。さらに、保留記憶数が 0 である状態であるときに、新たな保留記憶が記憶されるタイミングが、次の可変表示の開始までに所定期間の猶予がないときは、新たな保留記憶の記憶時における段階的变化を完了態様に変化させることで、保留記憶数 0 である状態であっても、保留表示位置の移動に支障をきたさず、保留記憶数の誤認を防ぐことができる。また、特定識別情報の可変表示を実行し、その後、演出制御手段側で特定表示を開始することで、遊技媒体による始動領域の通過に対応して可変表示が開始されたことを複数の手段で認識させることができ、その中で、特定識別情報の可変表示が初期態様となってから最終態様となるまでに、可変表示に対応する特定表示の表示を開始することで、特定識別情報の可変表示のみが実行されているように感じさせることを防止することができ、結果として好適な遊技環境を提供することができる。

10

20

対応図面：図 7 2、図 7 3、図 7 5、図 7 6、図 8 1 ~ 図 8 5

【 0 0 4 2 】

[形態 3 3]

形態 3 3 の遊技機は、

特定識別情報の可変表示を行う遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出制御手段と、

記憶手段と、

複数の発光手段と、を備え、

前記複数の発光手段は、前記遊技制御手段により制御される遊技制御手段側発光手段と

30

、前記演出制御手段により制御される演出制御手段側発光手段と、を含み、

前記記憶手段は、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、該当該可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第 1 保留記憶領域を含む複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域があり、

前記遊技制御手段は、特定識別情報の可変表示を実行していることに基づいて、前記遊技制御手段側発光手段の態様を変化させることが可能であり、

前記演出制御手段は、特定識別情報の可変表示が実行されていることに基づいて、前記演出制御手段側発光手段の態様を変化させることが可能であり、

40

前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合に、始動領域を遊技媒体が通過したときに、前記演出制御手段側発光手段が特定識別情報の可変表示が実行されていることに対応する態様に変化するよりも先に前記遊技制御手段側発光手段が特定識別情報の可変表示を実行していることに対応する態様に変化する、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、遊技制御手段側発光手段を先に視認可能とし、その後演出制御手段側発光手段を視認可能とすることで、複数の手段を用いて特定識別情報の可変表示が実行されていることを認識させることができ、特に、遊技価値の付与等の遊技を制御する遊技制御手段の制御を先に実行することで、安定的な遊技環境を提供することができる。

50

対応図面：図 8 5

尚、本形態において、

『第 1 保留記憶領域を含む複数の保留記憶領域』は本実施の形態における『第 1 特別図柄バッファ 0 0 1 S G 1 5 1 A と第 2 特別図柄バッファ 0 0 1 S G 1 5 1 B』に該当する。

【 0 0 4 3 】

[形態 3 4]

形態 3 4 の遊技機は、

特定識別情報の可変表示を行う遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出制御手段と、

記憶手段と、

複数の発光手段と、を備え、

前記複数の発光手段は、前記遊技制御手段により制御される遊技制御手段側発光手段と、前記演出制御手段により制御される演出制御手段側発光手段と、を含み、

前記記憶手段は、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、当該可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第 1 保留記憶領域を含む複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域があり、

前記遊技制御手段は、特定識別情報の可変表示に関する情報が前記保留記憶領域に記憶されていることに基づいて、前記遊技制御手段側発光手段の態様を変化させることが可能であり、

前記演出制御手段は、特定識別情報の可変表示に関する情報が前記保留記憶領域に記憶されていることに基づいて、前記演出制御手段側発光手段の態様を変化させることが可能であり、

前記遊技制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶しているときに、特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

特定識別情報の可変表示が終了したときに、前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がある場合に次の特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合、始動領域を遊技媒体が通過したときに特定識別情報の可変表示に関する情報を前記第 1 保留記憶領域に記憶し、その後、該第 1 保留記憶領域に記憶した特定識別情報の可変表示に関する情報を前記当該可変表示記憶領域に移動させ、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、かつ前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合、前記始動領域を遊技媒体が通過したときに特定識別情報の可変表示に関する情報を前記第 1 保留記憶領域に記憶し、その後、当該可変表示記憶領域に記憶している特定識別情報の可変表示に関する情報に対応する特定識別情報の可変表示が終了したときに、該第 1 保留記憶領域に記憶した特定識別情報の可変表示に関する情報を前記当該可変表示記憶領域に移動させ、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、かつ前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合に前記始動領域を遊技媒体が通過したときに、前記遊技制御手段側発光手段の態様を前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様とし、その後、該第 1 保留記憶領域に記憶した特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶を前記当該可変表示記憶領域に移動させるときに該遊技制御手段側発光手段の態様を前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていないことに対応す

10

20

30

40

50

る態様とし、

前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合に前記始動領域を遊技媒体が通過し、特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶を前記第1保留記憶領域に記憶しても、前記遊技制御手段側発光手段の態様を前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様とせず、前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていないことに対応する態様のまま維持する、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、特に、可変表示を実行しておらず保留記憶もない状況においては、遊技制御手段の処理上、第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶される記憶領域に、始動領域の通過による新たな特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶した後、シフトする処理で当該可変表示記憶領域に該情報を移動させるが、その際に遊技制御手段側発光手段の態様を、保留記憶数が1を示す態様から保留記憶数が0を示す態様とすることにより、一瞬だけ保留記憶数が1を示す態様となることとなり、却って表示態様が煩わしくなって遊技者に違和感を与えてしまうことを防ぐことができ、結果として、安定的な遊技環境を提供することができる。

対応図面：図39

【0044】

[形態35]

形態35の遊技機は、

特定識別情報の可変表示を行う遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出制御手段と、

記憶手段と、

複数の発光手段と、を備え、

前記複数の発光手段は、前記遊技制御手段により制御される遊技制御手段側発光手段と、前記演出制御手段により制御される演出制御手段側発光手段と、を含み、

前記記憶手段は、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、当該可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第1保留記憶領域を含む複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域があり、

前記遊技制御手段は、特定識別情報の可変表示に関する情報が前記保留記憶領域に記憶されていることに基づいて、前記遊技制御手段側発光手段の態様を変化させることが可能であり、

前記演出制御手段は、特定識別情報の可変表示に関する情報が前記保留記憶領域に記憶されていることに基づいて、前記演出制御手段側発光手段の態様を変化させることが可能であり、

前記遊技制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶しているときに、特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

特定識別情報の可変表示が終了したときに、前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がある場合に次の特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合、始動領域を遊技媒体が通過したときに特定識別情報の可変表示に関する情報を前記第1保留記憶領域に記憶し、その後、該第1保留記憶領域に記憶した特定識別情報の可変表示に関する情報を前記当該可変表示記憶領域に移動させ、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、か

10

20

30

40

50

つ前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合、前記始動領域を遊技媒体が通過したときに特定識別情報の可変表示に関する情報を前記第 1 保留記憶領域に記憶し、その後、該当該可変表示記憶領域に記憶している特定識別情報の可変表示に関する情報に対応する特定識別情報の可変表示が終了したときに、該第 1 保留記憶領域に記憶した特定識別情報の可変表示に関する情報を前記当該可変表示記憶領域に移動させ、

前記演出制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、かつ前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合に前記始動領域を遊技媒体が通過したときに、前記演出制御手段側発光手段の態様を前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様とし、その後、該第 1 保留記憶領域に記憶した特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶を前記当該可変表示記憶領域に移動させることに基づいて前記演出制御手段側発光手段の態様を前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていないことに対応する態様とし、

10

前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合に前記始動領域を遊技媒体が通過し、特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶を前記第 1 保留記憶領域に記憶しても、前記演出制御手段側発光手段の態様を前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様とせず、前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていないことに対応する態様のまま維持する、

20

ことを特徴としている。

この特徴によれば、特に、可変表示を実行しておらず保留記憶もない状況においては、遊技制御手段の処理上、第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶される記憶領域に、始動領域の通過による新たな特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶した後、シフトする処理で当該可変表示記憶領域に該情報を移動させるが、その際に演出制御手段側発光手段の態様を、保留記憶数が 1 を示す態様から保留記憶数が 0 を示す態様とすることにより、一瞬だけ保留記憶数が 1 を示す態様となることとなり、却って表示態様が煩わしくなって遊技者に違和感を与えてしまうことを防ぐことができ、結果として、安定的な遊技環境を提供することができる。

30

対応図面：図 8 3、図 8 5

【 0 0 4 5 】

[形態 3 6]

形態 3 6 の遊技機は、

特定識別情報の可変表示を行う遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出制御手段と、

表示手段と、

記憶手段と、を備え、

前記記憶手段は、

40

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、該当該可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第 1 保留記憶領域を含む複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域があり、

前記演出制御手段は、

前記記憶手段に記憶されている特定識別情報の可変表示に関する情報の数を示唆する保留球数表示を前記表示手段に表示させることが可能であり、

前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていない場合は、前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていないことに

50

応する態様の前記保留球数表示を表示させることが可能であり、

前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されている場合は、前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様の前記保留球数表示を表示させることが可能であり、

前記遊技制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶しているときに、特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

可変表示が終了したときに、前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がある場合に次の特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合、始動領域を遊技媒体が通過したときに特定識別情報の可変表示に関する情報を前記第 1 保留記憶領域に記憶し、その後、該第 1 保留記憶領域に記憶した特定識別情報の可変表示に関する情報を前記当該可変表示記憶領域に移動させ、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、かつ前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合、前記始動領域を遊技媒体が通過したときに特定識別情報の可変表示に関する情報を前記第 1 保留記憶領域に記憶し、その後、該当該可変表示記憶領域に記憶している特定識別情報の可変表示に関する情報に対応する特定識別情報の可変表示が終了したときに、該第 1 保留記憶領域に記憶した特定識別情報の可変表示に関する情報を前記当該可変表示記憶領域に移動させ、

前記演出制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、かつ前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合に前記始動領域を遊技媒体が通過したときに、前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様の前記保留球数表示を表示させ、その後、該第 1 保留記憶領域に記憶した特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶を前記当該可変表示記憶領域に移動させることに基づいて前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていないことに対応する態様の前記保留球数表示を表示させる制御を実行し、

前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合に前記始動領域を遊技媒体が通過し、特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶を前記第 1 保留記憶領域に記憶しても、前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様の前記保留球数表示を表示せず、前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていないことに対応する態様の前記保留球数表示の表示を維持する、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、特に、可変表示を実行しておらず保留記憶もない状況においては、遊技制御手段の処理上、第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶される記憶領域に、始動領域の通過による新たな特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶した後、シフトする処理で当該可変表示記憶領域に該情報を移動させるが、その際に表示手段の保留球数表示を、保留記憶数が 1 である表示から保留記憶数が 0 である表示とすることにより、一瞬だけ保留記憶数が 1 である表示となることとなり、却って保留球数表示が煩わしくなって遊技者に違和感を与えてしまうことを防ぐことができ、結果として、安定的な遊技環境を提供することができる。

対応図面：図 100

【0046】

[形態 37]

形態 37 の遊技機は、

特定識別情報の可変表示を行う遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出制御手段と、

記憶手段と、

複数の発光手段と、を備え、

前記複数の発光手段は、前記遊技制御手段により制御される遊技制御手段側発光手段と、前記演出制御手段により制御される演出制御手段側発光手段と、を含み、

前記記憶手段は、

始動領域を遊技媒体が通過したときに特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、該当可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第 1 保留記憶領域を含む複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域があり、

10

前記遊技制御手段は、特定識別情報の可変表示に関する情報が前記保留記憶領域に記憶されていることに基づいて、前記遊技制御手段側発光手段の態様を変化させることが可能であり、

前記演出制御手段は、特定識別情報の可変表示に関する情報が前記保留記憶領域に記憶されていることに基づいて、前記演出制御手段側発光手段の態様を変化させることが可能であり、

前記遊技制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶しているときに、特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

20

特定識別情報の可変表示が終了したときに、前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がある場合に次の特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、かつ前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合、前記始動領域を遊技媒体が通過したときに特定識別情報の可変表示に関する情報を前記第 1 保留記憶領域に記憶し、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、かつ前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合に前記始動領域を遊技媒体が通過したときに、前記遊技制御手段側発光手段の態様を前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様とし、

30

前記演出制御手段は、前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、かつ前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合に前記始動領域を遊技媒体が通過したときに、前記遊技制御手段側発光手段の態様が前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様となった後に、前記演出制御手段側発光手段の態様を前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様とする、

40

ことを特徴としている。

この特徴によれば、遊技制御手段側発光手段を先に視認可能とし、その後に演出制御手段側発光手段を視認可能とすることで、複数の手段を用いて保留記憶数を認識させることができ、特に、遊技価値の付与等の遊技を制御する遊技制御手段の制御を先に実行することで、安定的な遊技環境を提供することができる。

対応図面：図 8 1、図 8 2

【 0 0 4 7 】

[形態 3 8]

形態 3 8 の遊技機は、

特定識別情報の可変表示を行う遊技機であって、

50

遊技制御手段と、
演出制御手段と、
表示手段と、
記憶手段と、
複数の発光手段と、を備え、

前記複数の発光手段は、前記遊技制御手段により制御される遊技制御手段側発光手段を含み、

前記記憶手段は、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、該当可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第1保留記憶領域を含む複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域があり

10

、
前記遊技制御手段は、特定識別情報の可変表示に関する情報が前記保留記憶領域に記憶されていることに基づいて、前記遊技制御手段側発光手段の態様を変化させることが可能であり、

前記演出制御手段は、前記記憶手段に記憶されている特定識別情報の可変表示に関する情報の数を示唆する保留球数表示を前記表示手段に表示させることが可能であり、

前記遊技制御手段は、前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されている場合は、前記遊技制御手段側発光手段の態様を前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様とすることが可能であり、

20

前記演出制御手段は、前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されている場合は、前記保留球数表示の態様を前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様で表示させることが可能であり、

前記遊技制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶しているときに、特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

特定識別情報の可変表示が終了したときに、前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がある場合に次の特定識別情報の可変表示を実行可能であり

30

、
前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、かつ前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合、始動領域を遊技媒体が通過したときに特定識別情報の可変表示に関する情報を前記第1保留記憶領域に記憶し、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、かつ前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合に前記始動領域を遊技媒体が通過したときに、前記遊技制御手段側発光手段の態様を前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様とし、

40

前記演出制御手段は、前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、かつ前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合に前記始動領域を遊技媒体が通過したときに、前記遊技制御手段側発光手段の態様が前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様となった後に、前記保留球数表示の態様を前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていることに対応する態様とする、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、遊技制御手段側発光手段を先に視認可能とし、その後に表示手段の保留球数表示を視認可能とすることで、複数の手段を用いて保留記憶数を認識させること

50

ができ、特に、遊技価値の付与等の遊技を制御する遊技制御手段の制御を先に実行することで、安定的な遊技環境を提供することができる。

対応図面：図 8 8、図 8 9

【 0 0 4 8 】

[形態 3 9]

形態 3 9 の遊技機は、

特定識別情報の可変表示を行う遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出制御手段と、

表示手段と、

記憶手段と、

複数の発光手段と、を備え、

前記複数の発光手段は、前記遊技制御手段により制御される遊技制御手段側発光手段を含み、

前記記憶手段は、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、当該可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第 1 保留記憶領域を含む複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域があり、

前記遊技制御手段は、特定識別情報の可変表示を実行するときに前記遊技制御手段側発光手段の態様を初期態様から最終態様まで切り替え可能であるとともに、該切り替えを複数回実行させることが可能であり、

前記演出制御手段は、特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されたときに前記表示手段に特定表示を表示させることが可能であり、

前記遊技制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶しているときに、特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

特定識別情報の可変表示が終了したときに、前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がある場合に次の特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

前記演出制御手段は、前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていない状況において、始動領域を遊技媒体が通過した場合に、前記遊技制御手段側発光手段の態様が前記初期態様となってから前記最終態様となるまでの間に、前記特定表示の表示を開始する、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、特定識別情報の可変表示を実行し、その後、演出制御手段側で特定表示を開始することで、遊技媒体による始動領域の通過に対応して可変表示が開始されたことを複数の手段で認識させることができ、その中で、特定識別情報の可変表示が初期態様となってから最終態様となるまでに、可変表示に対応する特定表示の表示を開始することで、特定識別情報の可変表示のみが実行されているように感じさせることを防止することができ、結果として好適な遊技環境を提供することができる。

対応図面：図 8 5

【 0 0 4 9 】

[形態 4 0]

形態 4 0 の遊技機は、

特定識別情報の可変表示を行う遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出制御手段と、

表示手段と、

10

20

30

40

50

記憶手段と、
複数の発光手段と、を備え、
前記複数の発光手段は、前記遊技制御手段により制御される遊技制御手段側発光手段を含み、

前記記憶手段は、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、該当可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第1保留記憶領域を含む複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域があり、

10

前記遊技制御手段は、特定識別情報の可変表示を実行するときに前記遊技制御手段側発光手段の態様を初期態様から最終態様まで切り替え可能であるとともに、該切り替えを複数回実行させることが可能であり、

前記演出制御手段は、特定識別情報の可変表示に対応して装飾識別情報の可変表示を前記表示手段で表示させることが可能であり、

前記遊技制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶しているときに、特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

特定識別情報の可変表示が終了したときに、前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がある場合に次の特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

20

前記演出制御手段は、前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていない状況において、始動領域を遊技媒体が通過した場合に、前記遊技制御手段側発光手段の態様が前記初期態様となってから前記最終態様となるまでの間に、前記装飾識別情報の可変表示を開始させる、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、特定識別情報の可変表示を実行し、その後、装飾識別情報の可変表示を実行することで、遊技媒体による始動領域の通過に対応して可変表示が開始されたことを複数の手段で認識させることができ、その中で、特定識別情報の可変表示が初期態様となってから最終態様となるまでに、装飾識別情報の可変表示を開始することで、特定識別情報の可変表示のみが実行されているように感じさせることを防止することができ、結果として好適な遊技環境を提供することができる。

30

対応図面：図86、図87

【0050】

[形態41]

形態41の遊技機は、

特定識別情報の可変表示を行う遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出制御手段と、

表示手段と、

40

記憶手段と、

複数の発光手段と、を備え、

前記複数の発光手段は、前記演出制御手段により制御される演出制御手段側発光手段を含み、

前記記憶手段は、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、該当可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第1保留記憶領域を含む複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域があり、

50

前記演出制御手段は、

特定識別情報の可変表示が実行されるときに前記演出制御手段側発光手段の態様を初期態様から最終態様まで切り替え可能であるとともに、該切り替えを複数回実行させることが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されたときに前記表示手段に特定表示を表示させることが可能であり、

前記遊技制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶しているときに、特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

特定識別情報の可変表示が終了したときに、前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がある場合に次の特定識別情報の可変表示を実行可能であり

10

、
前記演出制御手段は、前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていない状況において、始動領域を遊技媒体が通過した場合に、前記演出制御手段側発光手段の態様が前記初期態様となってから前記最終態様となるまでの間に、前記特定表示の表示を開始する、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、演出制御手段側発光手段の態様の切り替えを実行し、その後、特定表示を表示することで、遊技媒体による始動領域の通過に対応して可変表示が開始されたことを複数の手段で認識させることができ、その中で、演出制御手段側発光手段の表示態様が初期態様となってから最終態様となるまでに、特定表示の表示を開始することで、演出制御手段側発光手段の態様の切り替えのみが実行されているように感じさせることを防止することができ、結果として好適な遊技環境を提供することができる。

20

【 0 0 5 1 】

[形態 4 2]

形態 4 2 の遊技機は、

特定識別情報の可変表示を行う遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出制御手段と、

表示手段と、

30

記憶手段と、

複数の発光手段と、を備え、

前記複数の発光手段は、前記演出制御手段により制御される演出制御手段側発光手段を含み、

前記記憶手段は、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、当該可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第 1 保留記憶領域を含む複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域があり

40

、
前記演出制御手段は、

特定識別情報の可変表示が実行されるときに前記演出制御手段側発光手段の態様を初期態様から最終態様まで切り替え可能であるとともに、該切り替えを複数回実行させることが可能であり、

特定識別情報の可変表示に対応して装飾識別情報の可変表示を前記表示手段で表示させることが可能であり、

前記遊技制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶しているときに、特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

特定識別情報の可変表示が終了したときに、前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の

50

可変表示に関する情報の記憶がある場合に次の特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

前記演出制御手段は、前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていない状況において、始動領域を遊技媒体が通過した場合に、前記演出制御手段側発光手段の態様が前記初期態様となってから前記最終態様となるまでの間に、前記装飾識別情報の可変表示を開始する、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、演出制御手段側発光手段の態様の切り替えを実行し、その後、装飾識別情報の可変表示を実行することで、遊技媒体による始動領域の通過に対応して可変表示が開始されたことを複数の手段で認識させることができ、その中で、演出制御手段側発光手段の表示態様が初期態様となってから最終態様となるまでに、装飾識別情報の可変表示を開始することで、演出制御手段側発光手段の態様の切り替えのみが実行されているように感じさせることを防止することができ、結果として好適な遊技環境を提供することができる。

対応図面：図 8 6、図 8 7

【 0 0 5 2 】

[形態 4 3]

形態 4 3 の遊技機は、
特定識別情報の可変表示を行う遊技機であって、
遊技制御手段と、
演出制御手段と、
表示手段と、
記憶手段と、を備え

前記演出制御手段は、

画像を切替周期に従って切り替えることで動画像を表示させることが可能であり、
特定識別情報の可変表示に対応する特定表示を表示させることが可能であり、

前記記憶手段は、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、当該可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第 1 保留記憶領域を含む複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域を含み

前記遊技制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶しているときに、特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

特定識別情報の可変表示が終了したときに、前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がある場合に次の特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合、始動領域を遊技媒体が通過したときに特定識別情報の可変表示に関する情報を前記第 1 保留記憶領域に記憶し、その後、該第 1 保留記憶領域に記憶した特定識別情報の可変表示に関する情報を前記当該可変表示記憶領域に移動させ、

前記演出制御手段は、

前記第 1 保留記憶領域に記憶されている特定識別情報の可変表示に関する情報が前記当該可変表示記憶領域に移動されるときに、前記特定表示に対応する画像を前記切替周期に従って特別回数切り替えることで前記第 1 保留記憶領域に対応する表示位置から前記当該可変表示記憶領域に対応する表示位置に該特定表示に対応する画像を移動させ、

前記当該可変表示記憶領域に記憶されている特定識別情報の可変表示に関する情報に対応する特定識別情報の可変表示が終了されるときに、前記特定表示に対応する画像を前記切替周期に従って該特別回数よりも少ない特定回数切り替えることで当該可変表示記

10

20

30

40

50

憶領域に対応する表示位置に表示させている該特定表示に対応する画像の表示を終了させる、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示の終了に対応して実行される当該可変表示領域に対応する表示位置に表示されている特定表示に対応する画像の特別回数の切り替による動画像よりも、可変表示の開始に対応して実行される特定表示に対応する画像を移動させる動画像を印象付けることで、遊技媒体による始動領域の通過を印象付けることができ、結果として好適な遊技環境を提供することができる。

対応図面：図 5 2、図 8 1 ~ 図 8 4

尚、本形態において、

10

『切替周期』は本実施の形態における『画像更新周期の 3 3 m s』に該当し、

『特別回数』は本実施の形態における『シフトアニメーションのフレーム数 (1 0 フレーム) に対応する 1 0 回 (シフトアニメーション対応回数) 』に該当し、

『特定回数』は本実施の形態における『終了アニメーションのフレーム数 (5 フレーム) に対応する 5 回 (終了アニメーション対応回数) 』に該当する。

【 0 0 5 3 】

[形態 4 4]

形態 4 4 の遊技機は、

特定識別情報の可変表示を行う遊技機であって、

遊技制御手段と、

20

演出制御手段と、

表示手段と、

記憶手段と、を備え

前記演出制御手段は、

画像を切替周期に従って切り替えることで動画像を表示させることが可能であり、

特定識別情報の可変表示に対応する特定表示を表示させることが可能であり、

前記記憶手段は、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、該当該可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第 1 保留記憶領域を含む複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域があり

30

前記遊技制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶しているときに、特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

特定識別情報の可変表示が終了したときに、前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がある場合に次の特定識別情報の可変表示を実行可能であり

前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合、始動領域を遊技媒体が通過したときに特定識別情報の可変表示に関する情報を前記第 1 保留記憶領域に記憶し、その後、該第 1 保留記憶領域に記憶した特定識別情報の可変表示に関する情報を前記当該可変表示記憶領域に移動させ、

40

前記演出制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されており、かつ前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていない状況において、前記始動領域を遊技媒体が通過したときに、前記特定表示に対応する画像を前記切替周期に従って所定回数切り替えて前記第 1 保留記憶領域に対応する表示位置に該特定表示に対応する画像を表示させ、

前記当該可変表示記憶領域に記憶されている特定識別情報の可変表示に関する情報に対応する特定識別情報の可変表示が終了されるときに、該当該可変表示領域に対応する表

50

示位置に表示されている前記特定表示に対応する画像を前記切替周期に従って該所定回数よりも少ない特定回数切り替えて該特定表示に対応する画像の表示を終了させる、
ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示の終了に対応して実行される当該可変表示領域に対応する表示位置に表示されている特定表示に対応する画像の特定回数の切り替による動画像よりも、遊技媒体による始動領域の通過に対応して実行される第 1 保留記憶領域に対応する表示位置に表示される特定表示に対応する画像の所定回数の切り替えによる動画を印象付けることで、遊技媒体による始動領域の通過を印象付けることができ、結果として好適な遊技環境を提供することができる。

対応図面：図 5 2、図 7 2、図 7 3

10

尚、本形態において、

『所定回数』は本実施の形態における『出現アニメーションのフレーム数（20フレーム）』に対応する20回（出現アニメーション対応回数）』に該当する。

【0054】

[形態45]

形態45の遊技機は、
特定識別情報の可変表示を行う遊技機であって、
遊技制御手段と、
演出制御手段と、
表示手段と、
記憶手段と、を備え
前記演出制御手段は、

20

画像を切替周期に従って切り替えることで動画像を表示させることが可能であり、
特定識別情報の可変表示に対応する特定表示を表示させることが可能であり、

前記記憶手段は、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、該当該可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第1保留記憶領域を含む複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域を含み、

30

前記遊技制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶しているときに、特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

特定識別情報の可変表示が終了したときに、前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がある場合に次の特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合、始動領域を遊技媒体が通過したときに特定識別情報の可変表示に関する情報を前記第1保留記憶領域に記憶し、その後、該第1保留記憶領域に記憶した特定識別情報の可変表示に関する情報を前記当該可変表示記憶領域に移動させ、

40

前記演出制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されており、かつ前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていない状況において、前記始動領域を遊技媒体が通過したときに、前記特定表示に対応する画像を前記切替周期に従って所定回数切り替えて前記第1保留記憶領域に対応する表示位置に該特定表示に対応する画像を表示させ

該第1保留記憶領域に記憶されている特定識別情報の可変表示に関する情報が該当該可変表示領域に移動されるときに、該特定表示に対応する画像を前記切替周期に従って所定回数よりも少ない特定回数切り替えることで前記第1保留記憶領域に対応する表示位置から前記当該可変表示記憶領域に対応する表示位置に該特定表示に対応する画像を移動表

50

示させる、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示の開始に対応して実行される特定表示に対応する画像を移動させる動画像よりも、遊技媒体による始動領域の通過に対応して実行される第1保留記憶領域に対応する表示位置に表示される特定表示に対応する画像の所定回数の切り替えによる動画を印象付けることで、遊技媒体による始動領域の通過を印象付けることができ、結果として好適な遊技環境を提供することができる。

対応図面：図52

【0055】

[形態46]

形態46の遊技機は、
特定識別情報の可変表示を行う遊技機であって、
遊技制御手段と、
演出制御手段と、
表示手段と、
記憶手段と、を備え
前記演出制御手段は、

画像を切替周期に従って切り替えることで動画像を表示させることが可能であり、
特定識別情報の可変表示に対応する特定表示を表示させることが可能であり、

前記記憶手段は、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、当該可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第1保留記憶領域を含む複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域を含み、

前記遊技制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶しているときに、特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

特定識別情報の可変表示が終了したときに、前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がある場合に次の特定識別情報の可変表示を実行可能であり

前記演出制御手段は、

前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がある場合に、前記第1保留記憶領域に対応する表示位置において、前記特定表示に対応する画像を前記切替周期に従ったN(N≧30)回数を1周期として切り替えて表示させ、

該第1保留記憶領域に記憶されている特定識別情報の可変表示に関する情報が当該可変表示領域に移動されるときに、前記特定表示に対応する画像を前記切替周期に従ってN回数よりも少ない回数切り替えることで前記第1保留記憶領域に対応する表示位置から前記当該可変表示記憶領域に対応する表示位置に該特定表示に対応する画像を移動表示させる、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、第1保留記憶領域に対応する表示位置に表示される特定表示に対応する画像のN回数を1周期とする動画像は、遊技者が視認する機会が多いため、切替周期に従った切替回数を多くすることで滑らかな動画像とすることができ、可変表示の開始に対応して実行される特定表示に対応する画像を移動させる動画像は、遊技者が視認する機会が少ないため、切替周期に従った切替回数を少なくすることで、スピード感を出しつつ、移動していることを伝えることができ、結果として好適な遊技環境を提供することができる。

対応図面：図52及び変形例

【0056】

10

20

30

40

50

〔形態４７〕

形態４７の遊技機は、
 特定識別情報の可変表示を行う遊技機であって、
 遊技制御手段と、
 演出制御手段と、
 表示手段と、
 記憶手段と、を備え

前記演出制御手段は、

画像を切替周期に従って切り替えることで動画像を表示させることが可能であり、

特定識別情報の可変表示に対応する特定表示を表示させることが可能であり、

10

前記記憶手段は、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、当該可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第１保留記憶領域を含む複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域を含み、

前記遊技制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶しているときに、特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

特定識別情報の可変表示が終了したときに、前記第１保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がある場合に次の特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

20

前記演出制御手段は、

前記第１保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がある場合に、前記第１保留記憶領域に対応する表示位置において、前記特定表示に対応する画像を前記切替周期に従った $N(N \geq 30)$ 回数を１周期として切り替えて表示させ、

特定識別情報の可変表示が実行されておらず、前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていないときに、始動領域を遊技媒体が通過した場合に前記特定表示に対応する画像を前記切替周期に従って N 回数よりも少ない回数切り替えることで前記第１保留記憶領域に対応する表示位置に該特定表示に対応する画像を表示させる、

30

ことを特徴としている。

この特徴によれば、第１保留記憶領域に対応する表示位置に表示される特定表示に対応する画像の N 回数を１周期とする動画像は、技者が視認する機会が多いため、切替周期に従った切替回数を多くすることで滑らかな動画像とすることができ、遊技媒体による始動領域の通過に対応して実行される第１保留記憶領域に対応する表示位置に表示される特定表示に対応する画像の切り替えによる動画像は、遊技者が視認する機会が少ないため、切替周期に従った切替回数を少なくすることで、スピード感を出しつつ、特定表示が新たに表示されていることを伝えることができ、結果として好適な遊技環境を提供することができる。

対応図面：図５２及び変形例

40

【００５７】

〔形態４８〕

形態４８の遊技機は、
 特定識別情報の可変表示を行う遊技機であって、
 遊技制御手段と、
 演出制御手段と、
 表示手段と、
 記憶手段と、を備え

前記演出制御手段は、

画像を切替周期に従って切り替えることで動画像を表示させることが可能であり、

50

特定識別情報の可変表示に対応する特定表示を表示させることが可能であり、
前記記憶手段は、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、当該可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第1保留記憶領域を含む複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域を含み、

前記遊技制御手段は、

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶しているときに、特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

特定識別情報の可変表示が終了したときに、前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がある場合に次の特定識別情報の可変表示を実行可能であり、

前記演出制御手段は、

前記第1保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がある場合に、前記第1保留記憶領域に対応する表示位置において、前記特定表示に対応する画像を前記切替周期に従ったN(N≧30)回数を1周期として切り替えて表示させ、

特定識別情報の可変表示が終了される場合に前記特定表示に対応する画像を前記切替周期に従ってN回数よりも少ない回数切り替えることで前記当該可変表示記憶領域に対応する表示位置に表示された該特定表示に対応する画像の表示を終了させる、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、第1保留記憶領域に対応する表示位置に表示される特定表示に対応する画像のN回数を1周期とする動画像は、遊技者が視認する機会が多いため、切替周期に従った切替回数を多くすることで滑らかな動画像とすることができ、可変表示の終了に対応して実行される当該可変表示領域に対応する表示位置に表示されている特定表示に対応する画像の切り替による動画像は、遊技者が視認する機会が少ないため、切替周期に従った切替回数を少なくすることで、スピード感を出しつつ、終了していることを伝えることができ、結果として好適な遊技環境を提供することができる。

対応図面：図52及び変形例

【0058】

[形態49]

形態49の遊技機は、

特定識別情報の可変表示を行う遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出制御手段と、

表示手段と、

記憶手段と、を備え、

前記演出制御手段は、特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されたときに前記表示手段に特定表示を表示させる制御を行うことが可能であり、

前記記憶手段は、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、当該可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第1保留記憶領域を含む複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域があり、

前記遊技制御手段は、

前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合、始動領域を遊技媒体が通過したときに特定識別情報の可変表示に関する情報を前記第1保留記憶領域に記憶し、その後、該第1保留記憶領域に記憶した特定識別情報の可変表示に関する情報を前記当該可変表示記憶領域に移動させ、

10

20

30

40

50

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶があり、かつ前記第 1 保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合、前記始動領域を遊技媒体が通過したときに特定識別情報の可変表示に関する情報を前記第 1 保留記憶領域に記憶し、

前記演出制御手段は、

前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されていない場合、前記始動領域を遊技媒体が通過してから所定期間後に、前記第 1 保留記憶領域に対応する表示位置に前記特定表示の表示を透過率が低い態様で表示させ、前記第 1 保留記憶領域に記憶されている特定識別情報の可変表示に関する情報が前記当該可変表示記憶領域に移動されることで、前記第 1 保留記憶領域に対応する表示位置に表示させた該特定表示を前記当該可変表示記憶領域に対応する表示位置に移動させ、

10

前記当該可変表示記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報が記憶されている場合、前記始動領域を遊技媒体が通過してから前記所定期間後に、前記第 1 保留記憶領域に対応する表示位置に前記特定表示の表示を透過率が高い態様で開始し、その後に透過率が高い態様から透過率が低い態様へ変化させる出現アニメーションを実行させることで該特定表示を表示させる、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、可変表示を実行しておらず保留記憶もない状況においては、いち早く遊技媒体による始動領域の通過を伝えるために、特定表示の表示態様を透過率が低く認識しやすい表示態様とし、保留記憶がないが可変表示を実行している状況においては、可変表示にも注目しているため、急に表示することによって特定表示がされたことがわかりにくくなってしまうことを防止するために、徐々に表示するようにすることで、出現アニメーションを用いて遊技媒体による始動領域の通過を伝えることができ、結果として好適な遊技環境を提供することができる。

20

対応図面：図 5 4、図 5 5、図 5 8、図 5 9、図 6 5

【 0 0 5 9 】

[形態 5 0]

形態 5 0 の遊技機は、

特定識別情報の可変表示を行う遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出制御手段と、

表示手段と、

記憶手段と、を備え

前記演出制御手段は、

画像を切替周期に従って切り替えることで動画像を表示させることが可能であり、

特定識別情報の可変表示に対応する特定表示を表示させることが可能であり、

デモンストレーション表示を表示させることが可能であり、

前記記憶手段は、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、該当該可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第 1 保留記憶領域を含む複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域と、を含み、

40

前記遊技制御手段は、

前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合、始動領域を遊技媒体が通過したときに特定識別情報の可変表示に関する情報を前記第 1 保留記憶領域に記憶し、その後、該第 1 保留記憶領域に記憶した特定識別情報の可変表示に関する情報を前記当該可変表示記憶領域に移動させ、

前記演出制御手段は、

前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がないときに、前記デモ

50

ンストレーション表示を表示させることが可能であり、

前記デモンストレーション表示を表示させているときに、前記始動領域を遊技媒体が通過した場合、該デモンストレーション表示の表示を終了させ、かつ前記第 1 保留記憶領域に対応する表示位置に前記特定表示を表示させ、該特定表示を表示させた次の前記切替周期から該特定表示を前記当該可変表示記憶領域に対応する表示位置に移動させる移動アニメーションを開始する、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、デモンストレーション表示を捌けさせるとともに特定表示を一旦、第 1 保留記憶領域に対応する表示位置に表示し、その後、当該可変表示記憶領域に対応する表示位置に移動するようにすることで、デモンストレーション表示中に、始動領域を遊技媒体が通過したことを伝えやすくすることができ、結果として好適な遊技環境を提供することができる。

10

対応図面：図 8 6、図 8 7

尚、本形態において、

『デモンストレーション表示』は本実施の形態における『デモ表示演出』に該当する。

【 0 0 6 0 】

[形態 5 1]

形態 5 1 の遊技機は、

特定識別情報の可変表示を行う遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出制御手段と、

表示手段と、

記憶手段と、を備え

前記演出制御手段は、

画像を切替周期に従って切り替えることで動画像を表示させることが可能であり、

特定識別情報の可変表示に対応する特定表示を表示させることが可能であり、

演出設定に関する案内表示を表示させることが可能であり、

前記記憶手段は、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、該当該可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第 1 保留記憶領域を含む複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域と、を含み、

20

30

前記遊技制御手段は、

前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合、始動領域を遊技媒体が通過したときに特定識別情報の可変表示に関する情報を前記第 1 保留記憶領域に記憶し、その後、該第 1 保留記憶領域に記憶した特定識別情報の可変表示に関する情報を前記当該可変表示記憶領域に移動させ、

前記演出制御手段は、

前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がないときに、前記案内表示を表示させることが可能であり、

40

前記案内表示を表示させているときに、前記始動領域を遊技媒体が通過した場合、該案内表示の表示を終了させ、かつ前記第 1 保留記憶領域に対応する表示位置に前記特定表示を表示させ、該特定表示を表示させた次の前記切替周期から該特定表示を前記当該可変表示記憶領域に対応する表示位置に移動させる移動アニメーションを開始する、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、案内表示を捌けさせるとともに特定表示を一旦、第 1 保留記憶領域に対応する表示位置に表示し、その後、当該可変表示記憶領域に対応する表示位置に移動するようにすることで、案内表示中に、始動領域を遊技媒体が通過したことを伝えやすくすることができ、結果として好適な遊技環境を提供することができる。

50

対応図面：図 9 0、図 9 1

尚、本形態において、

『案内表示』は本実施の形態における『メニュー案内表示』に該当する。

【 0 0 6 1 】

[形態 5 2]

形態 5 2 の遊技機は、

特定識別情報の可変表示を行う遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出制御手段と、

記憶手段と、

複数の発光手段と、を備え、

前記複数の発光手段は、前記遊技制御手段により制御される遊技制御手段側発光手段と、前記演出制御手段により制御される演出制御手段側発光手段と、を含み、

前記記憶手段は、特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、該当該可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第 1 保留記憶領域を含む複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域があり、

前記遊技制御手段は、特定識別情報の可変表示に関する情報が前記保留記憶領域に記憶されていることに基づいて、前記遊技制御手段側発光手段の態様を変化させることが可能であり、

前記演出制御手段は、特定識別情報の可変表示に関する情報が前記保留記憶領域に記憶されていることに基づいて、前記演出制御手段側発光手段の態様を変化させることが可能であり、

前記遊技制御手段は、特定識別情報の可変表示を実行しているときに、始動領域を遊技媒体が通過した場合、前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶し、該記憶に応じた特定コマンドを前記演出制御手段に送信し、その後、前記遊技制御手段側発光手段の態様を更新させる処理を実行し、

前記演出制御手段は、受信した前記特定コマンドに基づいて、前記演出制御手段側発光手段の態様を更新する処理を実行する、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、遊技制御手段は演出制御手段に先に特定コマンドを送り、その後、遊技制御手段自体が制御する遊技制御手段側発光手段の態様を更新する処理を行うことで、遊技制御手段側発光手段の態様の变化が順次行われる場合でも期間が空きすぎないようにすることができ、結果として好適な遊技環境を提供することができる。

対応図面：図 4 2、図 7 2 ~ 図 7 6

尚、本形態において、『特定コマンド』は本実施の形態における『保留記憶数通知コマンド』に該当する。

【 0 0 6 2 】

[形態 5 3]

形態 5 3 の遊技機は、

特定識別情報の可変表示を行う遊技機であって、

遊技制御手段と、

演出制御手段と、

記憶手段と、

複数の発光手段と、を備え、

前記複数の発光手段は、前記遊技制御手段により制御される遊技制御手段側発光手段と、前記演出制御手段により制御される演出制御手段側発光手段と、を含み、

前記記憶手段は、特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、該当該可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第 1 保留記憶領域を含む複数の保留記憶領域と、を含む複数の

10

20

30

40

50

記憶領域があり、

前記遊技制御手段は、特定識別情報の可変表示に関する情報が前記保留記憶領域に記憶されていることに基づいて、前記遊技制御手段側発光手段の態様を変化させることが可能であり、

前記演出制御手段は、特定識別情報の可変表示に関する情報が前記保留記憶領域に記憶されていることに基づいて、前記演出制御手段側発光手段の態様を変化させることが可能であり、

前記遊技制御手段は、

特定識別情報の可変表示を実行しているときに、始動領域を遊技媒体が通過した場合、前記保留記憶領域に特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶し、その後該通過に対応する特定識別情報の可変表示が開始されることに基づき、該通過に対応する特定識別情報の可変表示に関する情報を前記当該可変表示記憶領域に移動させ、該移動に応じた特定コマンドを前記演出制御手段に送信し、前記遊技制御手段側発光手段の態様を更新する処理を実行し、

前記演出制御手段は、受信した前記特定コマンドに基づいて、前記演出制御手段側発光手段の態様を更新する処理を実行する、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、遊技制御手段は演出制御手段に先に特定コマンドを送り、その後、遊技制御手段自体が制御する遊技制御手段側発光手段の態様を更新する処理を行うことで、保留記憶数の減少に対応する遊技制御手段側発光手段の態様の变化が順次行われる場合でも期間が空きすぎないようにすることができ、結果として好適な遊技環境を提供することができる。

対応図面：図 4 2、図 7 2 ~ 図 7 6

尚、本形態において、『特定コマンド』は本実施の形態における『保留記憶数通知コマンド』に該当する。

【 0 0 6 3 】

[形態 5 4]

形態 5 4 の遊技機は、

特定識別情報の可変表示を行う遊技機であって、

遊技制御手段と、

メイン状態表示灯と、

記憶手段と、

複数の発光手段と、を備え、

前記複数の発光手段は、前記遊技制御手段により制御される遊技制御手段側発光手段を含み、

前記記憶手段は、

始動領域を遊技媒体が通過したときに特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶することが可能であり、

特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域として、当該可変表示記憶領域と、該当該可変表示記憶領域よりも後の特定識別情報の可変表示に関する情報を記憶する領域である第 1 保留記憶領域を含む複数の保留記憶領域と、を含む複数の記憶領域があり、

前記遊技制御手段は、

特定識別情報の可変表示を実行するときに、前記遊技制御手段側発光手段の態様を更新し、

前記記憶手段に特定識別情報の可変表示に関する情報の記憶がない場合、前記始動領域を遊技媒体が通過したときに、該通過に基づいて特定識別情報の可変表示に関する情報を前記記憶手段に記憶し、その後、該通過に基づく特定識別情報の可変表示の可変表示期間を設定する可変表示期間設定処理を行い、その後、前記遊技制御手段側発光手段の態様を更新し、その後、該可変表示期間設定処理で設定された特定識別情報の可変表示期間の

減算を行う減算処理を開始する、
ことを特徴としている。

この特徴によれば、遊技制御手段側発光手段を先に可変表示の実行を示す態様とし、その後、可変表示期間の減算を行うことで、遊技者に可変表示がされていることを示しつつ可変表示期間の減算をすることができ、結果として好適な遊技環境を提供することができる。

対応図面：図４２、図７２～図７６

【００６４】

（本発明と本実施の形態との対応関係）

尚、本実施の形態において、『大当り遊技状態』は本発明の『有利状態』に該当し、『ＣＰＵ１０３』は本発明の『遊技制御手段』に該当し、『演出制御用ＣＰＵ１２０』は本発明の『演出実行手段』に該当し、『第１特別図柄バツファ００１ＳＧ１５１』や『第２特別図柄バツファ００１ＳＧ１５１Ｂ』は本発明の『保留記憶手段』に該当し、『第１特図保留記憶数や第２特図保留記憶数が４個であること』は本発明の『所定数』に該当し、『出現アニメーションの１フレーム目の画像として表示される保留表示』は本発明の『開始態様』に該当し、『出現アニメーションの２０フレーム目の画像及びシフトアニメーションの１フレーム目の画像として表示される保留表示』は本発明の『完了態様』に該当し、『出現アニメーションの２フレーム目から１９フレーム目の画像として表示される保留表示』は本発明の『途中態様』に該当し、『シフトアニメーション』は本発明の『保留シフト』に該当し、『シフトアニメーションの表示実行期間である３３０ｍｓ』は本発明の『特定期間』に該当し、『出現アニメーションの表示実行期間である６６０ｍｓ』は本発明の『所定期間』に該当する。

【００６５】

また、『保留記憶数が０個の可変表示が終了するまで３３ｍｓ未満のタイミング』は本発明の『保留記憶数０時可変表示が終了する直前』に該当し、『保留記憶数が０個の可変表示が終了してから３３ｍｓ未満のタイミング』は本発明の『保留記憶数０時可変表示が終了した直後』に該当する。

【００６６】

また、『入賞時フラッシュ演出』は本発明の『入賞演出』に該当する。

【００６７】

また、『保留変化演出の非実行が決定されたことによる白色の保留表示』は本発明の『通常保留表示』に該当し、『保留変化演出の実行が決定されたことによる青色及び赤色の保留表示』は本発明の『特殊保留表示』に該当し、『保留変化演出の非実行が決定されたことによって出現アニメーションの１フレーム目の画像として表示される白色の保留表示』は本発明の『通常開始態様』に該当し、『保留変化演出の非実行が決定されたことによって出現アニメーションの２０フレーム目の画像及びシフトアニメーションの１フレーム目の画像として表示される保留表示』は本発明の『通常完了態様』に該当し、『保留変化演出の非実行が決定されたことによって出現アニメーションの２フレーム目から１９フレーム目の画像として表示される保留表示』は本発明の『通常途中態様』に該当し、『保留変化演出の実行が決定されたことによって出現アニメーションの１フレーム目の画像として表示される青色または赤色の保留表示』は本発明の『特殊開始態様』に該当し、『保留変化演出の実行が決定されたことによって出現アニメーションの２０フレーム目の画像及びシフトアニメーションの１フレーム目の画像として表示される青色または赤色の保留表示』は本発明の『特殊完了態様』に該当し、『保留変化演出の非実行が決定されたことによって出現アニメーションの２フレーム目から１９フレーム目の画像として表示される青色または赤色の保留表示』は本発明の『特殊途中態様』に該当する。

【００６８】

また、『演出モードＡ』は本発明の『第１モード』に該当し、『演出モードＢ』は本発明の『第２モード』に該当し、『演出モードＡでの立方体の保留表示』は本発明の『第１モード保留表示』に該当し、『演出モードＢでの正八面体の保留表示』は本発明の『第２

モード保留表示』に該当し、『演出モード A において出現アニメーションの 1 フレーム目の画像として表示される保留表示』は本発明の『第 1 モード開始態様』に該当し、『演出モード A において出現アニメーションの 20 フレーム目の画像及びシフトアニメーションの 1 フレーム目の画像として表示される保留表示』は本発明の『第 1 モード完了態様』に該当し、『演出モード B において出現アニメーションの 2 フレーム目から 19 フレーム目の画像として表示される保留表示』は本発明の『第 2 モード途中態様』に該当し、『演出モード B において出現アニメーションの 1 フレーム目の画像として表示される保留表示』は本発明の『第 2 モード開始態様』に該当し、『演出モード B において出現アニメーションの 20 フレーム目の画像及びシフトアニメーションの 1 フレーム目の画像として表示される保留表示』は本発明の『第 2 モード完了態様』に該当し、『演出モード B において出現アニメーションの 2 フレーム目から 19 フレーム目の画像として表示される保留表示』は本発明の『第 2 モード途中態様』に該当する。

10

【0069】

また、『演出制御用 CPU 120』は本発明の『演出制御手段』に該当し、『RAM 102、特に遊技制御用データ保持エリア 001SG150』は本発明の『記憶手段』に該当し、『第 1 特別図柄表示装置 4A や第 2 特別図柄表示装置 4B を構成する 8 つの LED』は本発明の『特定識別情報』に該当し、『特図ユニット 201 を構成する LED、特に第 1 保留表示器 25A、第 2 保留表示器 25B を構成する LED』は本発明の『遊技制御手段側発光手段』に該当し、『第 1 サブ保留表示器 151A、第 2 サブ保留表示器 151B を構成する LED』は本発明の『演出制御手段側発光手段』に該当し、『第 1 特別図柄バッファ 001SG151A や第 2 特別図柄バッファ 001SG151B での保留番号「0」のエントリ（格納領域）』は本発明の『当該可変表示記憶領域』に該当し、『第 1 特別図柄バッファ 001SG151A や第 2 特別図柄バッファ 001SG151B での保留番号「1～4」のエントリ（格納領域）』は本発明の『第 1 保留記憶領域』に該当し、『第 1 始動入賞口（入賞球装置 6A）や第 2 始動入賞口（可変入賞球装置 6B）』は本発明の『始動領域』に該当する。

20

【0070】

また、『画像表示装置 5』は本発明の『表示手段』に該当し、『保留記憶表示エリア 5U に表示される保留表示』は本発明の『保留球数表示』に該当する。

30

【0071】

また、『特図ユニット 201 を構成する LED、特に第 1 特別図柄表示装置 4A、第 2 特別図柄表示装置 4B を構成する LED』は本発明の『遊技制御手段側発光手段』に該当し、『第 1 特別図柄表示装置 4A や第 2 特別図柄表示装置 4B を構成する LED のうち 1 個目の LED が点灯した態様』は本発明の『初期態様』に該当し、『第 1 特別図柄表示装置 4A や第 2 特別図柄表示装置 4B を構成する LED のうち 8 個目の LED が点灯した態様』は本発明の『最終態様』に該当し、『アクティブ表示』は本発明の『特定表示』に該当する。

40

【0072】

また、『第 1 特別図柄バッファ 001SG151A と第 2 特別図柄バッファ 001SG151B』は本発明の『第 1 保留記憶領域を含む複数の保留記憶領域』に該当する。

【0073】

また、『画像更新周期の 33ms』は本発明の『切替周期』に該当し、『シフトアニメーションのフレーム数（10 フレーム）に対応する 10 回（シフトアニメーション対応回数）』は本発明の『特別回数』に該当し、『終了アニメーションのフレーム数（5 フレーム）に対応する 5 回（終了アニメーション対応回数）』は本発明の『特定回数』に該当し、『出現アニメーションのフレーム数（20 フレーム）に対応する 20 回（出現アニメーション対応回数）』は本発明の『所定回数』に該当する。

【0074】

また、『デモ表示演出』は本発明の『デモンストレーション表示』に該当し、『メニュー案内表示』は本発明の『案内表示』に該当し、『保留記憶数通知コマンド』は本発明の

50

『特定コマンド』に該当する。

【 0 0 7 5 】

(パチンコ遊技機 1 の構成等)

図 1 は、パチンコ遊技機 1 の正面図であり、主要部材の配置レイアウトを示す。パチンコ遊技機 (遊技機) 1 は、大別して、遊技盤面を構成する遊技盤 (ゲージ盤) 2 と、遊技盤 2 を支持固定する遊技機用枠 (台枠) 3 とから構成されている。遊技盤 2 には、遊技領域が形成され、この遊技領域には、遊技媒体としての遊技球が、所定の打球発射装置から発射されて打ち込まれる。

【 0 0 7 6 】

遊技盤 2 の所定位置 (図 1 に示す例では、遊技領域の左下方) には、特図ユニット 2 0 1 が設けられている。該特図ユニット 2 0 1 は、図 1 8 (A) に示すように、第 1 特別図柄表示装置 4 A 及び第 2 特別図柄表示装置 4 B、第 1 保留表示器 2 5 A 及び第 2 保留表示器 2 5 B、普通図柄表示器 2 0、普図保留表示器 2 5 C、ラウンド数表示器 2 6、当り表示灯 2 7、右打ち表示灯 2 8、状態表示灯 2 9 から構成されている。

【 0 0 7 7 】

(特別図柄表示装置)

第 1 特別図柄表示装置 4 A は 8 つの L E D により構成され、第 2 特別図柄表示装置 4 B も 8 つの L E D により構成される。8 つの L E D 1 つ 1 つを特定識別情報 (特別図柄) と呼ぶ。また、8 つの L E D のまとまりを複数種類の特定識別情報 (複数種類の特別図柄) と呼ぶ。第 1 特別図柄表示装置 4 A および第 2 特別図柄表示装置 4 B は、第 1 始動入賞口や第 2 始動入賞口への入賞が発生 (始動条件が成立) することで、複数種類の特別図柄の可変表示を行い、特別図柄の組合せ (8 つの L E D の点灯、消灯の組合せ) が該パチンコ遊技機 1 であらかじめ定められた組合せとなることで、「大当り」や「はずれ」となったことを示す装置である。

【 0 0 7 8 】

(特別図柄の可変表示)

特別図柄の「可変表示」とは、8 つの L E D をあらかじめ定められた法則で点灯や消灯させることにより、特別図柄の組合せが出るまでの期間であることを示すものである。尚、可変表示を変動表示、変動と表現する場合がある。

【 0 0 7 9 】

第 1 特別図柄表示装置 4 A において可変表示される特別図柄を「第 1 特図」ともいい、第 2 特別図柄表示装置 4 B において可変表示される特別図柄を「第 2 特図」ともいう。また、第 1 特図を用いた特図ゲームを「第 1 特図ゲーム」といい、第 2 特図を用いた特図ゲームを「第 2 特図ゲーム」ともいう。特別図柄の可変表示を行う特別図柄表示装置は 1 種類であってもよい。

【 0 0 8 0 】

(保留表示器)

第 1 保留表示器 2 5 A と第 2 保留表示器 2 5 B とは、それぞれ 2 つの L E D から構成されている。第 1 保留表示器 2 5 A は、L E D の点灯個数や点灯態様によって、第 1 特図保留記憶数を表示し、第 2 保留表示器 2 5 B は、L E D の点灯個数や点灯態様によって、第 2 特図保留記憶数を表示する。例えば、第 1 保留表示器 2 5 A や第 2 保留表示器 2 5 B は、1 個目の L E D のみを点灯させることによって特図保留記憶数が 1 個であることを示し、1 個目と 2 個目の L E D を点灯させることによって特図保留記憶数が 2 個であることを示し、1 個目の L E D を点滅させる一方で 2 個目の L E D を点灯させることによって特図保留記憶数が 3 個であることを示し、1 個目の L E D と 2 個目の L E D の両方を点滅させることで特図保留記憶数が 4 個であることを示す。

【 0 0 8 1 】

(普通図柄表示器)

また、普通図柄表示器 2 0 は、4 つの L E D から構成され、特別図柄とは異なる複数種類の普通識別情報としての普通図柄の可変表示を行う。このような普通図柄の可変表示は

10

20

30

40

50

、普図ゲームともいう。

【 0 0 8 2 】

普図保留表示器 2 5 C は、例えば 2 つの L E D から構成されており、実行が保留されている普図ゲームの数である普図保留記憶数を L E D の点灯個数や点灯態様によって表示する。例えば、普図保留表示器 2 5 C は、1 個目の L E D のみを点灯させることによって普図保留記憶数が 1 個であることを示し、1 個目と 2 個目の L E D を点灯させることによって普図保留記憶数が 2 個であることを示し、1 個目の L E D を点滅させる一方で 2 個目の L E D を点灯させることによって普図保留記憶数が 3 個であることを示し、1 個目の L E D と 2 個目の L E D の両方を点滅させることで普図保留記憶数が 4 個であることを示す。

【 0 0 8 3 】

(ラウンド数表示器)

ラウンド数表示器 2 6 は、5 つの L E D から構成されており、これら L E D の点灯・消灯の組み合わせによって後述する大当り遊技状態におけるラウンド数を報知する。当り表示灯 2 7、右打ち表示灯 2 8、状態表示灯 2 9 は、それぞれ 1 つの L E D である。当り表示灯 2 7 は、後述する大当り遊技状態の期間において点灯する L E D であり、右打ち表示灯 2 8 は、後述する時短状態、確変状態、大当り遊技状態の期間において点灯する L E D であり、状態表示灯は、後述する時短状態及び確変状態の期間において点灯する L E D である。

【 0 0 8 4 】

(画像表示装置)

図 1 に示すように、遊技盤 2 における遊技領域の中央付近には画像表示装置 5 が設けられている。画像表示装置 5 は、例えば L C D (液晶表示装置) や有機 E L (Electro Luminescence) 等から構成され、各種の演出画像を表示する。画像表示装置 5 は、プロジェクタおよびスクリーンから構成されていてもよい。画像表示装置 5 には、各種の演出画像が表示される。

【 0 0 8 5 】

例えば、画像表示装置 5 の画面上では、第 1 特図ゲームや第 2 特図ゲームと同期して、特別図柄とは異なる複数種類の装飾識別情報としての飾り図柄 (数字などを示す図柄など) の可変表示が行われる。ここでは、第 1 特図ゲームまたは第 2 特図ゲームに同期して、「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R において飾り図柄が可変表示 (例えば上下方向のスクロール表示や更新表示) される。尚、同期して実行される特図ゲームおよび飾り図柄の可変表示を総称して単に可変表示ともいう。

【 0 0 8 6 】

画像表示装置 5 の画面下部には、実行が保留されている可変表示に対応する保留表示や、実行中の可変表示に対応するアクティブ表示を表示するための表示エリア (保留記憶表示エリア 5 U、アクティブ表示エリア 5 F) が設けられている。保留表示およびアクティブ表示を総称して可変表示に対応する可変表示対応表示ともいう。尚、本実施の形態では、第 1 特別図柄と第 2 特別図柄とに共通の保留記憶表示エリア 5 U が設けられているが、第 1 特別図柄の実行が保留されている可変表示を表す第 1 保留表示が表示される第 1 特図保留記憶表示エリアと、第 2 特別図柄の実行が保留されている可変表示を表す第 2 保留表示が表示される第 2 特図保留記憶表示エリアと、が別々に設けられていてもよい。尚、本実施の形態において、保留記憶表示エリア 5 U は、遊技状態が通常状態である場合は第 1 特別図柄に応じた保留表示を表示する表示エリアであり、遊技状態が時短状態や確変状態である場合は第 2 特別図柄に応じた保留表示を表示する表示エリアである。更にアクティブ表示エリア 5 F 遊技状態が通常状態である場合は第 1 特別図柄に応じたアクティブ表示を表示する表示エリアであり、遊技状態が時短状態や確変状態である場合は第 2 特別図柄に応じたアクティブ表示を表示する表示エリアである。

【 0 0 8 7 】

(入賞球装置)

画像表示装置 5 の下方には入賞球装置 6 A が設けられており、該入賞球装置 6 A の右側

10

20

30

40

50

方には、可変入賞球装置 6 B が設けられている。

【 0 0 8 8 】

入賞球装置 6 A は、例えば所定の玉受部材によって常に遊技球が進入可能な一定の開放状態に保たれる第 1 始動入賞口を形成する。第 1 始動入賞口に遊技球が進入したときには、所定個（例えば 3 個）の賞球が払い出されるとともに、第 1 特図ゲームが開始され得る。尚、本実施の形態における入賞球装置 6 A は、遊技者が打ち出した遊技球のうち、画像表示装置 5 の左側の領域（左遊技領域）を流下する遊技球が入賞可能なように配置されている。

【 0 0 8 9 】

可変入賞球装置 6 B（普通電動役物）は、ソレノイド 8 1（図 2 参照）によって閉鎖状態と開放状態とに変化する第 2 始動入賞口を形成する。可変入賞球装置 6 B は、例えば、開閉可能な可動片を有する電動役物を備え、ソレノイド 8 1 がオフ状態であるときに可動片が起立位置となることにより、第 2 始動入賞口に遊技球が進入しない閉鎖状態になる（第 2 始動入賞口が閉鎖状態になるともいう。）。その一方で、可変入賞球装置 6 B は、ソレノイド 8 1 がオン状態であるときに可動片が傾倒位置となることにより、第 2 始動入賞口に遊技球が進入できる開放状態になる（第 2 始動入賞口が開放状態になるともいう。）。第 2 始動入賞口に遊技球が進入したときには、所定個（例えば 3 個）の賞球が払い出されるとともに、第 2 特図ゲームが開始され得る。尚、可変入賞球装置 6 B は、閉鎖状態と開放状態とに変化するものであれば上記のものに限定されない。

【 0 0 9 0 】

遊技盤 2 の所定位置（図 1 に示す例では、遊技領域の左下方 3 箇所と可変入賞球装置 6 B の上方 1 箇所）には、所定の玉受部材によって常に一定の開放状態に保たれる普通入賞口 1 0 が設けられる。この場合には、普通入賞口 1 0 のいずれかに進入したときには、所定個数（例えば 1 0 個）の遊技球が賞球として払い出される。

【 0 0 9 1 】

入賞球装置 6 A と可変入賞球装置 6 B との間には、大入賞口を有する特別可変入賞球装置 7 が設けられている。特別可変入賞球装置 7 は、ソレノイド 8 2（図 2 参照）によって開閉駆動される大入賞口扉を備え、その大入賞口扉によって開放状態と閉鎖状態とに変化する特定領域としての大入賞口を形成する。

【 0 0 9 2 】

一例として、特別可変入賞球装置 7 では、大入賞口扉用（特別電動役物用）のソレノイド 8 2 がオフ状態であるときに大入賞口扉が大入賞口を閉鎖状態として、遊技球が大入賞口に進入（通過）できなくなる。その一方で、特別可変入賞球装置 7 では、大入賞口扉用のソレノイド 8 2 がオン状態であるときに大入賞口扉が大入賞口を開放状態として、遊技球が大入賞口に進入しやすくなる。

【 0 0 9 3 】

大入賞口に遊技球が進入したときには、所定個数（例えば 1 4 個）の遊技球が賞球として払い出される。大入賞口に遊技球が進入したときには、例えば第 1 始動入賞口や第 2 始動入賞口および普通入賞口 1 0 に遊技球が進入したときよりも多くの賞球が払い出される。

【 0 0 9 4 】

普通入賞口 1 0 を含む各入賞口に遊技球が進入することを「入賞」ともいう。特に、始動口（第 1 始動入賞口、第 2 始動入賞口）への入賞を始動入賞ともいう。尚、本実施の形態における可変入賞球装置 6 B 及び特別可変入賞球装置 7 は、遊技者が打ち出した遊技球のうち、画像表示装置 5 の右側の領域（右遊技領域）を流下する遊技球が入賞可能であるとともに、画像表示装置 5 の左側の領域（左遊技領域）を流下する遊技球が入賞不能或いは入賞困難なように配置されている。

【 0 0 9 5 】

（通過ゲート）

画像表示装置 5 の右方には、遊技球が通過可能な通過ゲート 4 1 が設けられている。遊

10

20

30

40

50

技球が通過ゲート 4 1 を通過したことに基づき、普図ゲームが実行される。

【 0 0 9 6 】

(アウト口)

遊技盤 2 の表面には、上記の構成以外にも、遊技球の流下方向や速度を変化させる風車および多数の障害釘が設けられている。遊技領域の最下方には、いずれの入賞口にも進入しなかった遊技球が取り込まれるアウト口が設けられている。

【 0 0 9 7 】

(その他演出装置)

遊技機用枠 3 の左右上部位置には、効果音等を再生出力するためのスピーカ 8 L、8 R が設けられている。遊技機用枠 3 における画像表示装置 5 の上方位置にはメインランプ 9 a が設けられており、該メインランプ 9 a の左右には、遊技領域を包囲するようにサイドランプ 9 b が設けられており、遊技盤 2 の下方には、ボタンランプ 9 e が設けられている。これら遊技機用枠 3 に設けられるメインランプ 9 a、サイドランプ 9 b 及びボタンランプ 9 e は「枠ランプ」とも称される。

【 0 0 9 8 】

遊技盤 2 の所定位置 (図 1 では画像表示装置 5 の上方位置) には、演出に応じて動作する可動体 3 2 が設けられ、可動体 3 2 には、可動体ランプ 9 d が設けられている。また、遊技盤 2 における特別可変入賞球装置 7 の近傍位置にはアタッカランプ 9 c が設けられ、遊技盤 2 の左側には装飾ランプ 9 f が設けられている。これら遊技盤 2 に設けられるアタッカランプ 9 c、可動体ランプ 9 d、装飾ランプ 9 f は「盤ランプ」とも称される。また、これらメインランプ 9 a、サイドランプ 9 b、アタッカランプ 9 c、可動体ランプ 9 d、ボタンランプ 9 e、装飾ランプ 9 f とは纏めて遊技効果ランプ 9 と呼称する場合がある。尚、これらメインランプ 9 a、サイドランプ 9 b、アタッカランプ 9 c、可動体ランプ 9 d、ボタンランプ 9 e、装飾ランプ 9 f は、LED を含んで構成されている (図 2 参照)。また、各種ランプについては後述する。

【 0 0 9 9 】

遊技機用枠 3 の右下部位置には、遊技球を打球発射装置により遊技領域に向けて発射するために遊技者等によって操作される打球操作ハンドル (操作ノブ) 3 0 が設けられている。

【 0 1 0 0 】

遊技領域の下方における遊技機用枠 3 の所定位置には、賞球として払い出された遊技球や所定の球貸機により貸し出された遊技球を、打球発射装置へと供給可能に保持 (貯留) する打球供給皿 (上皿) が設けられている。尚、遊技機用枠 3 には、上皿とは別に、上皿満タン時に賞球が払い出される払出部 (打球供給皿) を設けてもよい。

【 0 1 0 1 】

遊技領域の下方における遊技機用枠 3 の所定位置には、遊技者が把持して傾倒操作が可能なスティックコントローラ 3 1 A が取り付けられている。スティックコントローラ 3 1 A には、遊技者が押下操作可能なトリガボタンが設けられている。スティックコントローラ 3 1 A に対する操作は、コントローラセンサユニット 3 5 A (図 2 参照) により検出される。

【 0 1 0 2 】

遊技領域の下方における遊技機用枠 3 の所定位置には、遊技者が押下操作などにより所定の指示操作を可能なプッシュボタン 3 1 B が設けられている。プッシュボタン 3 1 B に対する操作は、プッシュセンサ 3 5 B (図 2 参照) により検出される。

【 0 1 0 3 】

パチンコ遊技機 1 では、遊技者の動作 (操作等) を検出する検出手段として、スティックコントローラ 3 1 A やプッシュボタン 3 1 B が設けられるが、これら以外の検出手段が設けられていてもよい。

【 0 1 0 4 】

(遊技の進行の概略)

パチンコ遊技機 1 が備える打球操作ハンドル 30 への遊技者による回転操作により、遊技球が遊技領域に向けて発射される。遊技球が通過ゲート 41 を通過すると、普通図柄表示器 20 による普図ゲームが開始される。尚、前回の普図ゲームの実行中の期間等に遊技球が通過ゲート 41 を通過した場合（遊技球が通過ゲート 41 を通過したが当該通過に基づく普図ゲームを直ちに実行できない場合）には、当該通過に基づく普図ゲームは所定の上限数（例えば 4）まで保留される。

【0105】

この普図ゲームでは、特定の普通図柄（普図当り図柄）が停止表示されれば、普通図柄の表示結果が「普図当り」となる。その一方、確定普通図柄として、普図当り図柄以外の普通図柄（普図はずれ図柄）が停止表示されれば、普通図柄の表示結果が「普図はずれ」となる。「普図当り」となると、可変入賞球装置 6B を所定期間開放状態とする開放制御が行われる（第 2 始動入賞口が開放状態になる）。

10

【0106】

入賞球装置 6A に形成された第 1 始動入賞口に遊技球が進入すると、第 1 特別図柄表示装置 4A による第 1 特図ゲームが開始される。

【0107】

可変入賞球装置 6B に形成された第 2 始動入賞口に遊技球が進入すると、第 2 特別図柄表示装置 4B による第 2 特図ゲームが開始される。

【0108】

尚、特図ゲームの実行中の期間や、後述する大当り遊技状態に制御されている期間に、遊技球が始動入賞口へ進入（入賞）した場合（始動入賞が発生したが当該始動入賞に基づく特図ゲームを直ちに実行できない場合）には、当該進入に基づく特図ゲームは所定の上限数（例えば 4）までその実行が保留される。

20

【0109】

特図ゲームにおいて、確定特別図柄として特定の特別図柄（大当り図柄、例えば「7」、後述の大当り種別に応じて実際の図柄は異なる。）が停止表示されれば、「大当り」となり、大当り図柄とは異なる特別図柄（はずれ図柄、例えば「-」）が停止表示されれば「はずれ」となる。

【0110】

特図ゲームでの表示結果が「大当り」になった後には、遊技者にとって有利な有利状態として大当り遊技状態に制御される。

30

【0111】

大当り遊技状態では、特別可変入賞球装置 7 により形成される大入賞口が所定の態様で開放状態となる。当該開放状態は、所定期間（例えば 29 秒間）の経過タイミングと、大入賞口に進入した遊技球の数が所定個数（例えば 9 個）に達するまでのタイミングと、のうちのいずれか早いタイミングまで継続される。前記所定期間は、1 ラウンドにおいて大入賞口を開放することができる上限期間であり、以下、開放上限期間ともいう。このように大入賞口が開放状態となる 1 のサイクルをラウンド（ラウンド遊技）という。大当り遊技状態では、当該ラウンドが所定の上限回数（15 回や 2 回等）に達するまで繰り返し実行可能となっている。

40

【0112】

大当り遊技状態においては、遊技者は、遊技球を大入賞口に進入させることで、賞球を得ることができる。従って、大当り遊技状態は、遊技者にとって有利な状態である。大当り遊技状態におけるラウンド数が多い程、また、開放上限期間が長い程遊技者にとって有利となる。

【0113】

尚、「大当り」には、大当り種別が設定されている。例えば、大入賞口の開放態様（ラウンド数や開放上限期間）や、大当り遊技状態後の遊技状態（通常状態、時短状態、確変状態など）を複数種類用意し、これらに応じて大当り種別が設定されている。大当り種別として、多くの賞球を得ることができる大当り種別や、賞球の少ない大当り種別、または

50

、ほとんど賞球を得ることができない大当たり種別が設けられていてもよい。

【 0 1 1 4 】

大当たり遊技状態が終了した後は、上記大当たり種別に応じて、時短状態や確変状態に制御されることがある。

【 0 1 1 5 】

時短状態では、平均的な特図可変表示時間（特図を変動させる期間）を通常状態よりも短縮させる制御（時短制御）が実行される。時短状態では、平均的な普図変動時間（普図を変動させる期間）を通常状態よりも短縮させたり、普図ゲームで「普図当り」となる確率を通常状態よりも向上させる等により、第2始動入賞口に遊技球が進入しやすくなる制御（高開放制御、高ベース制御）も実行される。時短状態は、特別図柄（特に第2特別図柄）の変動効率が向上する状態であるので、遊技者にとって有利な状態である。

10

【 0 1 1 6 】

確変状態（確率変動状態）では、時短制御に加えて、表示結果が「大当たり」となる確率が通常状態よりも高くなる確変制御が実行される。確変状態は、特別図柄の変動効率が向上することに加えて「大当たり」となりやすい状態であるので、遊技者にとってさらに有利な状態である。尚、詳細は後述するが、本実施の形態の確変状態は、時短状態よりも平均的な特図可変表示時間が短縮される遊技状態である。

【 0 1 1 7 】

つまり、本実施の形態における通常状態は、主に遊技者が画像表示装置5の左側の遊技領域（左遊技領域）に向けて遊技球を打ち出すことによって、第1特別図柄の可変表示が実行される遊技状態であって、本実施の形態における時短状態や確変状態は、主に遊技者が画像表示装置5の右側の遊技領域（右遊技領域）に向けて遊技球を打ち出すことによって、第2特別図柄の可変表示が実行される遊技状態である。また、本実施の形態における大当たり遊技状態は、主に遊技者が画像表示装置5の右側の遊技領域（右遊技領域）に向けて遊技球を打ち出すことによって、大入賞口に遊技球を入賞させることによって多くの賞球の払い出しを得ることができる遊技状態である。

20

【 0 1 1 8 】

時短状態や確変状態は、所定回数の特図ゲームが実行されたことと、次回の大当たり遊技状態が開始されたこと等といった、いずれか1つの終了条件が先に成立するまで継続する。所定回数の特図ゲームが実行されたことが終了条件となるものを、回数切り（回数切り時短、回数切り確変等）ともいう。

30

【 0 1 1 9 】

通常状態とは、遊技者にとって有利な大当たり遊技状態等の有利状態、時短状態、確変状態等の特別状態以外の遊技状態のことであり、普図ゲームにおける表示結果が「普図当り」となる確率および特図ゲームにおける表示結果が「大当たり」となる確率などのパチンコ遊技機1が、パチンコ遊技機1の初期設定状態（例えばシステムリセットが行われた場合のように、電源投入後に所定の復帰処理を実行しなかったとき）と同一に制御される状態である。

【 0 1 2 0 】

確変制御が実行されている状態を高確状態、確変制御が実行されていない状態を低確状態ともいう。時短制御が実行されている状態を高ベース状態、時短制御が実行されていない状態を低ベース状態ともいう。これらを組み合わせて、時短状態は低確高ベース状態、確変状態は高確高ベース状態、通常状態は低確低ベース状態などともいわれる。高確状態かつ低ベース状態は高確低ベース状態ともいう。

40

【 0 1 2 1 】

尚、本実施の形態における通常状態は、遊技者が遊技球を主に左遊技領域に向けて打ち出すことによって遊技球が第1始動入賞口に入賞可能である一方で遊技球が第2始動入賞口には入賞困難、または入賞不能な遊技状態である。また、本実施の形態における時短状態や確変状態は、遊技者が遊技球を主に右遊技領域に向けて打ち出すことによって遊技球が第2始動入賞口に入賞可能である一方で遊技球が第1始動入賞口には入賞困難、または

50

入賞不能な遊技状態である。

【0122】

尚、遊技状態は、大当り遊技状態中に遊技球が特定領域（例えば、大入賞口内の特定領域）を通過したことに基づいて、変化してもよい。例えば、遊技球が特定領域を通過したとき、その大当り遊技状態後に確変状態に制御してもよい。

【0123】

（演出の進行など）

パチンコ遊技機1では、遊技の進行に応じて種々の演出（遊技の進行状況を報知したり、遊技を盛り上げたりする演出）が実行される。当該演出について以下説明する。尚、当該演出は、画像表示装置5に各種の演出画像を表示することによって行われるが、当該表示に加えて、または当該表示に代えて、スピーカ8L、8Rからの音声出力、遊技効果ランプ9の点灯や消灯、可動体32の動作、あるいは、これらの一部または全部を含む任意の演出装置を用いた演出として行われてもよい。

【0124】

遊技の進行に応じて実行される演出として、画像表示装置5に設けられた「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rでは、第1特図ゲームまたは第2特図ゲームが開始されることに対応して、飾り図柄の可変表示が開始される。第1特図ゲームや第2特図ゲームにおいて表示結果（確定特別図柄ともいう。）が停止表示されるタイミングでは、飾り図柄の可変表示の表示結果となる確定飾り図柄（3つの飾り図柄の組合せ）も停止表示（導出）される。

【0125】

飾り図柄の可変表示が開始されてから終了するまでの期間では、飾り図柄の可変表示の態様が所定のリーチ態様となる（リーチが成立する）ことがある。ここで、リーチ態様とは、画像表示装置5の画面上にて停止表示された飾り図柄が後述の大当り組合せの一部を構成しているときに未だ停止表示されていない飾り図柄については可変表示が継続している態様などのことである。

【0126】

また、飾り図柄の可変表示中に上記リーチ態様となったことに対応してリーチ演出が実行される。パチンコ遊技機1では、演出態様に応じて表示結果（特図ゲームの表示結果や飾り図柄の可変表示の表示結果）が「大当り」となる割合（大当り信頼度、大当り期待度とも呼ばれる。）が異なる複数種類のリーチ演出が実行される。リーチ演出には、例えば、ノーマルリーチと、ノーマルリーチよりも大当り信頼度の高いスーパーリーチと、がある。

【0127】

特図ゲームの表示結果が「大当り」となるときには、画像表示装置5の画面上において、飾り図柄の可変表示の表示結果として、予め定められた大当り組合せとなる確定飾り図柄が導出される（飾り図柄の可変表示の表示結果が「大当り」となる）。一例として、「左」、「中」、「右」の飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおける所定の有効ライン上に同一の飾り図柄（例えば、「7」等）が揃って停止表示される。

【0128】

大当り遊技状態の終了後に確変状態に制御される「確変大当り」である場合には、奇数の飾り図柄（例えば、「7」等）が揃って停止表示され、大当り遊技状態の終了後に確変状態に制御されない「非確変大当り（通常大当り）」である場合には、偶数の飾り図柄（例えば、「6」等）が揃って停止表示されるようにしてもよい。この場合、奇数の飾り図柄を確変図柄、偶数の飾り図柄を非確変図柄（通常図柄）ともいう。非確変図柄でリーチ態様となった後に、最終的に「確変大当り」となる昇格演出を実行するようにしてもよい。

【0129】

特図ゲームの表示結果が「はずれ」となる場合には、飾り図柄の可変表示の態様がリーチ態様とならずに、飾り図柄の可変表示の表示結果として、非リーチ組合せの確定飾り図

10

20

30

40

50

柄（「非リーチはずれ」ともいう。）が停止表示される（飾り図柄の可変表示の表示結果が「非リーチはずれ」となる）ことがある。また、表示結果が「はずれ」となる場合には、飾り図柄の可変表示の態様がリーチ態様となった後に、飾り図柄の可変表示の表示結果として、大当り組合せでない所定のリーチ組合せ（「リーチはずれ」ともいう。）の確定飾り図柄が停止表示される（飾り図柄の可変表示の表示結果が「リーチはずれ」となる）こともある。

【0130】

パチンコ遊技機1が実行可能な演出には、上記の可変表示対応表示（保留表示やアクティブ表示）を表示することにも含まれる。また、他の演出として、例えば、大当り信頼度を予告する予告演出等が飾り図柄の可変表示中に実行される。予告演出には、実行中の可変表示における大当り信頼度を予告する予告演出や、実行前の可変表示（実行が保留されている可変表示）における大当り信頼度を予告する先読予告演出がある。先読予告演出として、可変表示対応表示（保留表示やアクティブ表示）の表示態様を通常とは異なる態様に变化させる演出が実行されるようにしてもよい。

10

【0131】

また、画像表示装置5において、飾り図柄の可変表示中に飾り図柄を一旦仮停止させた後に可変表示を再開させることで、1回の可変表示を擬似的に複数回の可変表示のように見せる擬似連演出を実行するようにしてもよい。

【0132】

大当り遊技状態中にも、大当り遊技状態を報知する大当り中演出が実行される。大当り中演出としては、ラウンド数を報知する演出や、大当り遊技状態の価値が向上することを示す昇格演出が実行されてもよい。

20

【0133】

また、例えば特図ゲーム等が実行されていないときには、画像表示装置5にデモ（デモンストレーション）画像が表示される（客待ちデモ演出が実行される）。

【0134】

（基板構成）

パチンコ遊技機1には、例えば図2及び図3に示すような主基板11、演出制御基板12、音声制御基板13、ランプ制御基板14、中継基板15などが搭載されている。その他にも、パチンコ遊技機1の背面には、例えば払出制御基板、情報端子基板、発射制御基板などといった、各種の基板が配置されている。さらには、電源基板17も搭載されている。各種制御基板は、導体パターンが形成されて電気部品を実装可能なプリント配線板などの電子回路基板だけでなく、電子回路基板に電気部品が実装されて特定の電氣的機能を実現するように構成された電子回路実装基板を含む概念である。

30

【0135】

電源基板17には、電源スイッチ91が接続されており、該電源スイッチ91を操作する（ON状態にする）ことによって、商用電源などの外部電源におけるAC100Vといった交流電源からの電力を、電源基板17から主基板11や演出制御基板12などの各種制御基板を含めた電気部品に供給可能である。電源基板17は、例えば交流（AC）を直流（DC）に変換するための整流回路、所定の直流電圧を特定の直流電圧（例えば直流12Vや直流5Vなど）に変換するための電源回路などを備えている。

40

【0136】

主基板11は、メイン側の制御基板であり、パチンコ遊技機1における上記遊技の進行（特図ゲームの実行（保留の管理を含む）、普図ゲームの実行（保留の管理を含む）、大当り遊技状態、遊技状態など）を制御する機能を有する。主基板11は、遊技制御用マイクロコンピュータ100、スイッチ回路110、出力回路111などを有する。

【0137】

主基板11に搭載された遊技制御用マイクロコンピュータ100は、例えば1チップのマイクロコンピュータであり、ROM（Read Only Memory）101と、RAM（Random Access Memory）102と、CPU（Central Processing Unit）103と

50

、乱数回路 104 と、I/O (Input/Output port) 105 と、シリアル通信回路 106 を備える。

【0138】

CPU 103 は、ROM 101 に記憶されたプログラムを実行することにより、遊技の進行を制御する処理（主基板 11 の機能を実現する処理）を行う。このとき、ROM 101 が記憶する各種データ（後述の変動パターン、後述の演出制御コマンド、後述の各種決定を行う際に参照される各種テーブルなどのデータ）が用いられ、RAM 102 がメインメモリとして使用される。RAM 102 は、その一部または全部がパチンコ遊技機 1 に対する電力供給が停止しても、所定期間記憶内容が保存されるバックアップ RAM となっている。尚、ROM 101 に記憶されたプログラムの全部または一部を RAM 102 に展開して、RAM 102 上で実行するようにしてもよい。

【0139】

乱数回路 104 は、遊技の進行を制御するときに使用される各種の乱数値（遊技用乱数）を示す数値データを更新可能にカウントする。遊技用乱数は、CPU 103 が所定のコンピュータプログラムを実行することで更新されるもの（ソフトウェアで更新されるもの）であってもよい。

【0140】

I/O 105 は、例えば、ゲートスイッチ 21、第 1 始動口スイッチ 22A、第 2 始動口スイッチ 22B、カウントスイッチ 23、普通入賞口スイッチ 24 や、エラーを検出するための図示しない磁石センサ、電波センサ、近接センサ、枠近接センサからの各種信号がスイッチ回路 110 を介して入力される入力ポート 105a と、ソレノイド 81、82 や特図ユニット 201 を構成する各表示器、表示装置、表示灯を制御（駆動）するための信号が出力回路 111 を介して出力される（伝送される）出力ポート 105b と、を含んで構成される。

【0141】

スイッチ回路 110 は、ゲートスイッチ 21、第 1 始動口スイッチ 22A、第 2 始動口スイッチ 22B、カウントスイッチ 23、普通入賞口スイッチ 24 からの検出信号（遊技球が通過または進入してスイッチがオンになったことを示す検出信号など）を取り込んで入力ポート 105a に伝送する。検出信号の伝送により、遊技球の通過または進入が検出されたことになる。

【0142】

尚、本実施の形態におけるゲートスイッチ 21 は、遊技球が通過ゲート 41 を通過したことを検知するためのスイッチであり、第 1 始動口スイッチ 22A は、遊技球が第 1 始動入賞口に入賞したことを検知するためのスイッチであり、第 2 始動口スイッチ 22B は遊技球が第 2 始動入賞口に入賞したことを検知するためのスイッチであり、カウントスイッチ 23 は遊技球が大入賞口に入賞したことを検知するためのスイッチであり、普通入賞口スイッチ 24 は、遊技球が普通入賞口 10 に入賞したことを検知するためのスイッチである。

【0143】

スイッチ回路 110 には、電源基板 17 からのリセット信号、電源断信号、クリア信号が取り込まれて遊技制御用マイクロコンピュータ 100 に伝送される。リセット信号は、遊技制御用マイクロコンピュータ 100 などの制御回路を動作停止状態とするための動作停止信号であり、電源監視回路、ウォッチドッグタイマ内蔵 IC、システムリセット IC のいずれかをを用いて出力可能であればよい。電源断信号は、パチンコ遊技機 1 において用いられる所定電源電圧が所定値を超えるとオフ状態となり、所定電源電圧が所定値以下になった期間が電断基準時間以上まで継続したときにオン状態となる。クリア信号は、例えば電源基板 17 に設けられたクリアスイッチ 92 に対する押下操作などに応じてオン状態となる。

【0144】

出力回路 111 は、出力回路 111 からのソレノイド駆動信号（例えば、ソレノイド 8

１やソレノイド８２をオンする信号など）を、普通電動役物用のソレノイド８１や大入賞口扉用のソレノイド８２に伝送する。

【０１４５】

シリアル通信回路１０６は、全二重方式、非同期方式および標準ＮＲＺ（ノンリターンゼロ）符号化を用いたデータフォーマットで、各制御基板（例えば、図示しない払出制御基板や演出制御基板１２）のＣＰＵ（演出制御基板１２であれば演出制御用ＣＰＵ１２０）とシリアル通信を行う。シリアル通信回路１０６は、各制御基板のマイクロコンピュータに各種データ（例えば、払出信号（賞球個数コマンド）や演出制御コマンド）を送信する送信部と、各制御基板のマイクロコンピュータからの各種データ（例えば、賞球ＡＣＫコマンド）を受信する受信部とを含む。

10

【０１４６】

また、本実施の形態における主基板１１上には、遊技制御用マイクロコンピュータ１００にて処理するためのデータを一時的に保存するための外部ＲＡＭ１０７も設けられている。更に、主基板１１には、特に図示しないが、パチンコ遊技機１の設定値を設定可能な設定値設定状態に切り替えるための設定キースイッチと、設定値設定状態において後述する大当りの当選確率（出玉率）等の設定値を変更するためのタッチスイッチとして機能する設定切替スイッチと、遊技機用枠３の開放を検知するための扉・枠開放スイッチ、本パチンコ遊技機におけるベース値等を表示可能な表示モニタも接続されている。尚、設定キースイッチ、設定切替スイッチ、表示モニタは、遊技者から操作不能のようにパチンコ遊技機１の背面側に設けられている。

20

【０１４７】

パチンコ遊技機１の背面側には、図示しない払出制御基板が設けられている。払出制御基板には、払出信号を受信したことにもとづいて所定球数（例えば、３球、５球、１０球、１５球など）の遊技球を遊技者に払い出すために駆動される払出装置と、払出装置にて払出された遊技球が通過する払出通路（図示略）内に設けられた遊技球検出センサと、が接続されており、該遊技球検出センサから受信する遊技球検出信号の態様に応じて払出装置の駆動を停止することが可能となっている。

【０１４８】

また、払出制御基板には、遊技者による操作量を検知するためのハンドルセンサと、遊技者が打球操作ハンドル３０を把持していることを検出するタッチリング（タッチセンサ）と、が接続されており、これらのセンサ類から入力された信号に基づいて、払出制御基板は、遊技球を遊技盤２に発射することが可能な発射装置を制御する。また、タッチリングが検出されているか否かを示す信号、発射装置により遊技球が発射されたことを示す信号が払出制御基板から主基板１１の遊技制御用マイクロコンピュータ１００に入力される。

30

【０１４９】

主基板１１（遊技制御用マイクロコンピュータ１００）は、遊技の進行の制御の一部として、遊技の進行に応じて演出制御コマンド（遊技の進行状況等を指定（通知）するコマンド）を演出制御基板１２に供給する。主基板１１から出力された演出制御コマンドは、中継基板１５により中継され、演出制御基板１２に供給される。当該演出制御コマンドには、例えば主基板１１における各種の決定結果（例えば、特図ゲームの表示結果（大当たり種別を含む。）、特図ゲームを実行する際に使用される変動パターン（詳しくは後述））、遊技の状況（例えば、可変表示の開始や終了、大入賞口の開放状況、入賞の発生、保留記憶数、遊技状態）、エラーの発生等を指定するコマンド等が含まれる。

40

【０１５０】

演出制御基板１２は、主基板１１とは独立したサブ側の制御基板であり、演出制御コマンドを受信し、受信した演出制御コマンドに基づいて演出（遊技の進行に応じた種々の演出であり、可動体３２の駆動、エラー報知、電断復旧の報知等の各種報知を含む）を実行する機能を有する。

【０１５１】

50

演出制御基板 12 には、演出制御用 CPU 120 と、ROM 121 と、RAM 122 と、表示制御部 123 と、乱数回路 124 と、I/O 125 とが搭載されている。

【0152】

演出制御用 CPU 120 は、ROM 121 に記憶されたプログラムを実行することにより、表示制御部 123 とともに演出を実行するための処理（演出制御基板 12 の上記機能を実現するための処理であり、実行する演出の決定等を含む）を行う。このとき、ROM 121 が記憶する各種データ（各種テーブルなどのデータ）が用いられ、RAM 122 がメインメモリとして使用される。

【0153】

演出制御用 CPU 120 は、コントローラセンサユニット 35 A やプッシュセンサ 35 B からの検出信号（遊技者による操作を検出したときに出力される信号であり、操作内容を適宜示す信号）に基づいて演出の実行を表示制御部 123 に指示することもある。また、プッシュボタン 31 B 内には振動用モータ 36 が設けられている。該振動用モータ 36 は、演出制御基板 12 と接続されており、演出制御用 CPU 120 から駆動信号を受信することで駆動可能となっている。つまり、本実施の形態のプッシュボタン 31 B は、振動用モータ 36 の駆動によって振動することがある。

【0154】

更に、画像表示装置 5 の右下方位置には、演出用表示ユニット 202 が設けられている。該演出用表示ユニット 202 は、図 18 (C) に示すように、第 1 演出表示灯 152 A 及び第 2 演出表示灯 152 B、第 1 サブ保留表示器 151 A 及び第 2 サブ保留表示器 151 B、右打ちランプ 153 から構成されている。

【0155】

第 1 演出表示灯 152 A は、第 1 特別図柄の可変表示が実行中であることを遊技者に認識可能とするための表示装置であり、また、第 2 演出表示灯 152 B は、第 2 特別図柄の可変表示が実行中であることを遊技者に認識可能とするための表示装置である。これらはそれぞれ 1 つの LED から構成されている。

【0156】

第 1 サブ保留表示器 151 A は、第 1 特図保留記憶数を特定可能とするための表示器であり、また、第 2 サブ保留表示器 151 B は、第 2 特図保留記憶数を特定可能とするための表示器である。これらはそれぞれ 2 つの LED から構成されており、これら LED の点灯個数や点灯態様によって第 1 特図保留記憶数や第 2 特図保留記憶数を表示可能となっている。例えば、第 1 サブ保留表示器 151 A や第 2 サブ保留表示器 151 B は、1 個目の LED のみを点灯させることによって特図保留記憶数が 1 個であることを示し、1 個目と 2 個目の LED を点灯させることによって特図保留記憶数が 2 個であることを示し、1 個目の LED を点滅させる一方で 2 個目の LED を点灯させることによって特図保留記憶数が 3 個であることを示し、1 個目の LED と 2 個目の LED の両方を点滅させることで特図保留記憶数が 4 個であることを示す。

【0157】

また、右打ちランプ 153 は、1 つの LED であって、が時短状態、確変状態、大当たり遊技状態の期間において点灯する LED である。

【0158】

表示制御部 123 は、VDP (Video Display Processor)、CGROM (Character Generator ROM)、VRAM (Video RAM)などを備え、演出制御用 CPU 120 からの演出の実行指示に基づき、演出を実行する。

【0159】

表示制御部 123 は、演出制御用 CPU 120 からの演出の実行指示に基づき、実行する演出に応じた映像信号を画像表示装置 5 に供給することで、演出画像を画像表示装置 5 に表示させる。また、表示レジスタにて指定されている VRAM 領域の表示画像作成領域の画像データをビデオ信号として出力する表示処理を行う。本実施の形態では、V ブランク毎に表示画像作成領域及び描画領域が切り替わる。このため、ある V ブランクにおいて

10

20

30

40

50

描画領域として割り当てられた領域の描画が行われるとともに、次のVブランクにおいては、表示画像作成領域に切り替わるので、前のVブランクにおいて描画された画像データが表示出力されることとなり、その間も他方の領域で描画が行われることとなる。

【0160】

また、図4に示すように、表示制御部123では、複数のレイヤを重畳（合成）することによって画像表示装置5に表示するための画像の生成を行っているため、VRAM領域には、これら各レイヤの画像を描画・配置するためのレイヤ画像描画領域と、各レイヤ画像描画領域にて描画・配置された画像を更に重畳（合成）して画像表示装置5に表示するための画像を生成する表示画像作成領域と、が配置されている。尚、各レイヤ画像描画領域には上位・中位・下位の概念があり、上位のレイヤ画像描画領域の画像ほど画像表示装置5において表示優先度が高く設定されており、下位のレイヤ描画領域の画像ほど画像表示装置5において表示優先度が低く設定されている。

10

【0161】

特に、図5に示すように、VRAM領域には、アクティブ表示エリア5Fにけるアクティブ表示と、シフトアニメーションとして保留記憶表示エリア5Uからアクティブ表示エリア5Fに向けて移動する1個目の保留表示と、を描画・配置するためのアクティブ表示画像描画領域、保留記憶表示エリア5Uにおける遊技状態に応じた1個目の保留表示と、シフトアニメーションとして保留記憶表示エリア5Uの1個目の保留表示の表示位置に向けて移動する2個目の保留表示と、を描画・配置するための第1保留表示画像描画領域、保留記憶表示エリア5Uにおける遊技状態に応じた2個目の保留表示と、シフトアニメーションとして保留記憶表示エリア5Uの2個目の保留表示の表示位置に向けて移動する3個目の保留表示と、を描画・配置するための第2保留表示画像描画領域、保留記憶表示エリア5Uにおける遊技状態に応じた3個目の保留表示と、シフトアニメーションとして保留記憶表示エリア5Uの3個目の保留表示の表示位置に向けて移動する4個目の保留表示と、を描画・配置するための第3保留表示画像描画領域、保留記憶表示エリア5Uにおける遊技状態に応じた4個目の保留表示を描画・配置するための第4保留表示画像描画領域がそれぞれ配置されている。

20

【0162】

本実施の形態では、アクティブ表示画像描画領域、第1保留表示画像描画領域～第4保留表示画像描画領域において描画・配置された各画像に加えて、背景画像を描画・配置するための背景画像描画領域や、飾り図柄画像を描画・配置するための飾り図柄画像描画領域等において描画・配置された画像を重畳することによって画像表示装置5の表示画面にて表示する画像を生成可能となっている。また、図5に示すように、アクティブ表示画像描画領域、第1保留表示画像描画領域～第4保留表示画像描画領域においては、アクティブ表示画像描画領域にて描画される画像の表示優先度が最も高く設定されており、第1保留表示画像描画領域に描画される画像はアクティブ表示画像描画領域に描画される画像よりも表示優先度が低く設定されており、第2保留表示画像描画領域に描画される画像は第1保留表示画像描画領域に描画される画像よりも表示優先度が低く設定されており、第3保留表示画像描画領域に描画される画像は第2保留表示画像描画領域に描画される画像よりも表示優先度が低く設定されており、第4保留表示画像描画領域に描画される画像は第3保留表示画像描画領域に描画される画像よりも表示優先度が低く設定されている。

30

40

【0163】

つまり、保留表示及びアクティブ表示に関する画像のうち、4個目の保留表示の表示位置に表示される画像は最も下層に表示される画像であり、3個目の保留表示の表示位置に表示される画像及び3個目の保留表示の表示位置に向けて移動する4個目の保留表示の画像は、4個目の保留表示の表示位置に表示される画像よりも上層に表示される（優先表示される）画像であり、2個目の保留表示の表示位置に表示される画像及び2個目の保留表示の表示位置に向けて移動する3個目の保留表示の画像は、3個目の保留表示の表示位置に表示される画像及び3個目の保留表示の表示位置に向けて移動する4個目の保留表示の画像よりも上層に表示される（優先表示される）画像であり、1個目の保留表示の表示位

50

置に表示される画像及び１個目の保留表示の表示位置に向けて移動する２個目の保留表示の画像は、２個目の保留表示の表示位置に表示される画像及び２個目の保留表示の表示位置に向けて移動する３個目の保留表示の画像よりも上層に表示される（優先表示される）画像であり、アクティブ表示の表示位置（アクティブ表示エリア５Ｆ）に表示される画像及びアクティブ表示の表示位置に向けて移動する１個目の保留表示の画像は、１個目の保留表示の表示位置に表示される画像及び１個目の保留表示の表示位置に向けて移動する２個目の保留表示の画像よりも上層に表示される（優先表示される）画像である。

【０１６４】

尚、本実施の形態において各画像描画領域で描画・配置される画像は、重畳された際の上層の画像が下層の画像の重複箇所を遊技者から視認不能とするために透過率（透明度）が０％に設定されているが、本発明はこれに限定されるものではなく、状況に応じて各画像描画領域で描画・配置される画像の透過率（透明度）を０％よりも高く設定し、画像表示装置５の表示画面にて透過して表示される画像や一時的に非表示となる画像を設けてもよい。

10

【０１６５】

表示制御部１２３は、さらに、演出画像の表示に同期した音声出力や、遊技効果ランプ９の点灯／消灯を行うため、音指定信号（出力する音声を指定する信号）を音声制御基板１３に供給したり、ランプ信号（ランプの点灯／消灯態様を指定する信号）をランプ制御基板１４に供給したりする。また、表示制御部１２３は、可動体３２を動作させる信号を当該可動体３２または当該可動体３２を駆動する駆動回路に供給する。

20

【０１６６】

音声制御基板１３は、スピーカ８Ｌ、８Ｒを駆動する各種回路を搭載しており、当該音指定信号に基づきスピーカ８Ｌ、８Ｒを駆動し、当該音指定信号が指定する音声をスピーカ８Ｌ、８Ｒから出力させる。

【０１６７】

ランプ制御基板１４は、遊技効果ランプ９を駆動する各種回路を搭載しており、当該ランプ信号に基づき遊技効果ランプ９を駆動し、当該ランプ信号が指定する態様で遊技効果ランプ９を点灯／消灯する。このようにして、表示制御部１２３は、音声出力、ランプの点灯／消灯を制御する。

【０１６８】

30

尚、音声出力、ランプの点灯／消灯の制御（音指定信号やランプ信号の供給等）、可動体３２の制御（可動体３２を動作させる信号の供給等）は、演出制御用ＣＰＵ１２０が実行するようにしてもよい。

【０１６９】

乱数回路１２４は、各種演出を実行するために使用される各種の乱数値（演出用乱数）を示す数値データを更新可能にカウントする。演出用乱数は、演出制御用ＣＰＵ１２０が所定のコンピュータプログラムを実行することで更新されるもの（ソフトウェアで更新されるもの）であってもよい。

【０１７０】

演出制御基板１２に搭載されたＩ／Ｏ１２５は、例えば主基板１１などから伝送された演出制御コマンドを取り込むための入力ポートと、各種信号（映像信号、音指定信号、ランプ信号）を伝送するための出力ポートとを含んで構成される。

40

【０１７１】

演出制御基板１２、音声制御基板１３、ランプ制御基板１４といった、主基板１１以外の基板をサブ基板ともいう。パチンコ遊技機１のようにサブ基板が機能別に複数設けられていてもよいし、１のサブ基板が複数の機能を有するように構成してもよい。

【０１７２】

図６（Ａ）は、本実施の形態で用いられる演出制御コマンドの内容の一例を示す説明図である。演出制御コマンドは、例えば２バイト構成であり、１バイト目はＭＯＤＥ（コマンドの分類）を示し、２バイト目はＥＸＴ（コマンドの種類）を表す。ＭＯＤＥデータの

50

先頭ビット（ビット 7）は必ず「0」とされ、EXT データの先頭ビットは「0」とされる。尚、図 6（A）に示されたコマンド形態は一例であって、他のコマンド形態を用いてもよい。また、この例では、制御コマンドが 2 つの制御信号で構成されることになるが、制御コマンドを構成する制御信号数は、1 であってもよいし、3 以上の複数であってもよい。

【0173】

図 6（A）に示す例において、コマンド 8001H は、第 1 特別図柄表示装置 4A における第 1 特図を用いた特図ゲームにおける可変表示の開始を指定する第 1 可変表示開始指定である。コマンド 8002H は、第 2 特別図柄表示装置 4B における第 2 特図を用いた特図ゲームにおける可変表示の開始を指定する第 2 可変表示開始指定である。コマンド 81XXH は、特図ゲームにおける特別図柄の可変表示に対応して画像表示装置 5 における「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア 5L, 5C, 5R で可変表示される飾り図柄（演出図柄ともいう）などの変動パターン（変動時間（可変表示時間））を指定する変動パターン指定コマンドである。ここで、XXH は不特定の 16 進数であることを示し、演出制御コマンドによる指示内容に応じて任意に設定される値であればよい。尚、変動パターン指定コマンドでは、指定する変動パターンなどに応じて、異なる EXT データが設定される。

10

【0174】

コマンド 8CXXH は、可変表示結果指定コマンドであり、特別図柄や飾り図柄などの可変表示結果を指定する演出制御コマンドである。可変表示結果指定コマンドでは、例えば図 6（B）に示すように、可変表示結果（変動表示結果ともいう）が「はずれ」であるか「大当たり」であるかの決定結果（事前決定結果）や、可変表示結果が「大当たり」となる場合の大当たり種別を複数種類のいずれとするかの決定結果（大当たり種別決定結果）に応じて、異なる EXT データが設定される。

20

【0175】

可変表示結果指定コマンドでは、例えば、図 6（B）に示すように、コマンド 8C00H は、可変表示結果が「はずれ」となる旨の事前決定結果を示す第 1 可変表示結果指定コマンドである。コマンド 8C01H は、可変表示結果が「大当たり」で大当たり種別が「確変大当たり A」となる旨の事前決定結果及び大当たり種別決定結果を通知する第 2 可変表示結果指定コマンドである。コマンド 8C02H は、可変表示結果が「大当たり」で大当たり種別が「確変大当たり B」となる旨の事前決定結果及び大当たり種別決定結果を通知する第 3 可変表示結果指定コマンドである。コマンド 8C03H は、可変表示結果が「大当たり」で大当たり種別が「確変大当たり C」となる旨の事前決定結果及び大当たり種別決定結果を通知する第 4 可変表示結果指定コマンドである。コマンド 8C04H は、可変表示結果が「大当たり」で大当たり種別が「非確変大当たり」となる旨の事前決定結果及び大当たり種別決定結果を通知する第 5 可変表示結果指定コマンドである。

30

【0176】

コマンド 8F00H は、画像表示装置 5 における「左」、「中」、「右」の各飾り図柄表示エリア 5L, 5C, 5R で飾り図柄の変動停止（確定）を指定する図柄確定コマンドである。コマンド 95XXH は、パチンコ遊技機 1 における現在の遊技状態を指定する遊技状態指定コマンドである。遊技状態指定コマンドでは、例えばパチンコ遊技機 1 における現在の遊技状態に応じて、異なる EXT データが設定される。具体的な一例として、コマンド 9500H を時短制御と確変制御がいずれも行われない遊技状態（低確低ベース状態、通常状態）に対応した第 1 遊技状態指定コマンドとし、コマンド 9501H を時短制御が行われる一方で確変制御は行われない遊技状態（低確高ベース状態、時短状態）に対応した第 2 遊技状態指定コマンドとし、コマンド 9502H を時短制御と確変制御とが行われる遊技状態（高確高ベース状態、確変状態）に対応した第 3 遊技状態指定コマンドとする。尚、高確高ベース状態は、単に「確変状態」と呼称する場合がある。

40

【0177】

コマンド A0XXH は、大当たり遊技の開始を示す演出画像の表示を指定する当り開始指

50

定コマンド（「ファンファーレコマンド」ともいう）である。コマンド A 1 X X H は、大当たり遊技状態において、大入賞口が開放状態となっている期間であることを通知する大入賞口開放中通知コマンドである。コマンド A 2 X X H は、大当たり遊技状態において、大入賞口が開放状態から閉鎖状態に変化した期間であることを通知する大入賞口開放後通知コマンドである。コマンド A 3 X X H は、大当たり遊技の終了時における演出画像の表示を指定する当り終了指定コマンドである。

【 0 1 7 8 】

当り開始指定コマンドや当り終了指定コマンドでは、例えば可変表示結果指定コマンドと同様の E X T データが設定されることなどにより、事前決定結果や大当たり種別決定結果に応じて異なる E X T データが設定されてもよい。あるいは、当り開始指定コマンドや当り終了指定コマンドでは、事前決定結果及び大当たり種別決定結果と設定される E X T データとの対応関係を、可変表示結果指定コマンドにおける対応関係とは異ならせるようにしてもよい。大入賞口開放中通知コマンドや大入賞口開放後通知コマンドでは、例えば、後述する大当たり状態におけるラウンドの実行回数（例えば「0」～「10」）に対応して、異なる E X T データが設定される。

10

【 0 1 7 9 】

コマンド B 1 0 0 H は、入賞球装置 6 A が形成する第 1 始動入賞口を通過（進入）した遊技球が第 1 始動口スイッチ 2 2 A により検出されて始動入賞（第 1 始動入賞）が発生したことに基づき、第 1 特別図柄表示装置 4 A における第 1 特図を用いた特図ゲームを実行するための第 1 始動条件が成立したことを通知する第 1 始動口入賞指定コマンドである。コマンド B 2 0 0 H は、可変入賞球装置 6 B が形成する第 2 始動入賞口を通過（進入）した遊技球が第 2 始動口スイッチ 2 2 B により検出されて始動入賞（第 2 始動入賞）が発生したことに基づき、第 2 特別図柄表示装置 4 B における第 2 特図を用いた特図ゲームを実行するための第 2 始動条件が成立したことを通知する第 2 始動口入賞指定コマンドである。

20

【 0 1 8 0 】

コマンド C 1 X X H は、特図保留記憶数を特定可能とするために、第 1 特図保留記憶数を通知する第 1 特図保留記憶数通知コマンドである。コマンド C 2 X X H は、特図保留記憶数を特定可能とするために、第 2 特図保留記憶数を通知する第 2 特図保留記憶数通知コマンドである。第 1 特図保留記憶数通知コマンドは、例えば第 1 始動入賞口を遊技球が通過（進入）して第 1 始動条件が成立したことにもとづいて、第 1 始動口入賞指定コマンドが送信されるときに、主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に対して送信される。第 2 特図保留記憶数通知コマンドは、例えば第 2 始動入賞口を遊技球が通過（進入）して第 2 始動条件が成立したことにもとづいて、第 2 始動口入賞指定コマンドが送信されるときに、主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に対して送信される。また、第 1 特図保留記憶数通知コマンドや第 2 特図保留記憶数通知コマンドは、第 1 開始条件と第 2 開始条件のいずれかが成立したとき（保留記憶数が減少したとき）に、特図ゲームの実行が開始されることなどに対応して送信されるようにしてもよい。

30

【 0 1 8 1 】

コマンド C 4 X X H およびコマンド C 6 X X H は、入賞時判定結果の内容を示す演出制御コマンド（入賞時判定結果指定コマンド）である。このうち、コマンド C 4 X X H は、入賞時判定結果として、可変表示結果が「大当たり」となるか否か及び大当たり種別（確変や非確変や突確）の判定結果を示す図柄指定コマンドである。また、コマンド C 6 X X H は、入賞時判定結果として、はずれとなる可変表示においてリーチとなるか否か（リーチ演出が実行されるか否か）及びいずれの種別のリーチが実行されるか否か（ノーマルリーチのリーチ演出とスーパーリーチのリーチ演出とのどちらが実行されるか）の判定結果を示すはずれ演出パターンコマンドである。

40

【 0 1 8 2 】

第 1 特図保留記憶数通知コマンドや第 2 特図保留記憶数通知コマンドに代えて、合計保留記憶数を通知する合計保留記憶数通知コマンドを送信するようにしてもよい。即ち、合

50

計保留記憶数の増加（または減少）を通知するための合計保留記憶数通知コマンドが用いられてもよい。

【 0 1 8 3 】

尚、図 6（A）に示すコマンドは一例であり、これらのコマンドの一部を有しないものであってもよいし、これらのコマンドに代えて異なるコマンドを用いてもよいし、これらのコマンドと異なるコマンドを追加してもよい。例えば、各入賞口に遊技球が入賞したことにもとづいて払い出される賞球数を特定可能とするための賞球数通知コマンドや、遊技球が通過ゲート 4 1 を通過したことを通知するためのゲート通過通知コマンドや、確変制御や時短制御が実行される残りの可変表示回数を通知する通知コマンド等を設けるようにしてもよい。

10

【 0 1 8 4 】

図 7 は、主基板 1 1 の側においてカウントされる乱数値を例示する説明図である。図 7 に示すように、主基板 1 1 の側において、特図表示結果判定用の乱数値 M R 1、大当り種別判定用の乱数値 M R 2、はずれ演出判定用の乱数値 M R 3、変動パターン種別判定用の乱数値 M R 4、変動パターン判定用の乱数値 M R 5、普図表示結果判定用の乱数値 M R 6、上記した乱数値 M R 1 及び乱数値 M R 6 の初期値決定用乱数値 M R 7 のそれぞれを示す数値データが、カウント可能に制御される。尚、遊技効果を高めるために、これら以外の乱数値が用いられてもよい。こうした遊技の進行を制御するために用いられる乱数は、遊技用乱数ともいう。

【 0 1 8 5 】

20

乱数回路 1 0 4 は、これらの乱数値 M R 1 ~ M R 7 の一部または全部を示す数値データをカウントするものであればよい。C P U 1 0 3 は、例えば、後述する遊技制御カウンタ設定部 0 0 1 S G 1 5 4 に設けられたランダムカウンタといった、乱数回路 1 0 4 とは異なるランダムカウンタを用いて、ソフトウェアによって各種の数値データを更新することで、乱数値 M R 1 ~ M R 7 の一部を示す数値データをカウントするようにしてもよい。

【 0 1 8 6 】

特図表示結果判定用の乱数値 M R 1 は、特図ゲームにおける特別図柄などの可変表示結果を「大当り」として大当り遊技状態に制御するか否かを決定するために用いられる乱数値であり、例えば「1」~「6 5 5 3 6」の範囲の値をとる。大当り種別判定用の乱数値 M R 2 は、可変表示結果を「大当り」とする場合における大当り種別を「確変大当り A」、

30

「確変大当り B」、「確変大当り C」、「非確変大当り」のいずれかに決定するために用いられる乱数値であり、例えば「1」~「1 0 0」の範囲の値をとる。

【 0 1 8 7 】

はずれ演出判定用の乱数値 M R 3 は、可変表示がはずれとなる可変表示においてリーチとなるか否かを予め決定するために用いられる乱数値であり、例えば「1」~「1 0 0」の範囲の値をとる。変動パターン種別判定用の乱数値 M R 4 は、可変表示がはずれとなる可変表示においてリーチとなる場合にノーマルリーチ、スーパーリーチのどちらとなるかや、実行されるスーパーリーチの種別を予め決定するために用いられる乱数値であり、例えば「1」~「1 0 0」の範囲の値をとる。

【 0 1 8 8 】

40

変動パターン判定用の乱数値 M R 5 は、特別図柄や飾り図柄の可変表示における変動パターンを、予め用意された複数種類のいずれかに決定するために用いられる乱数値であり、例えば「1」~「9 9 7」の範囲の値をとる。

【 0 1 8 9 】

普図表示結果判定用の乱数値 M R 6 は、普通図柄表示器 2 0 による普図ゲームにおける可変表示結果を「普図当り」とするか「普図はずれ」とするかなどの決定を行うために用いられる乱数値であり、例えば「1」~「6 5 5 3 6」の範囲の値をとる。初期値決定用の乱数値 M R 7 は、上記した乱数値 M R 1 や乱数値 M R 7 の初期値を決定するために用いられる乱数値であり、例えば、「1」~「6 5 5 3 6」の範囲の値をとる。

【 0 1 9 0 】

50

図 7 は、ROM 101 に記憶される表示結果判定テーブルの構成例を示している。本実施の形態では、表示結果判定テーブルとして、第 1 特図と第 2 特図とで共通の表示結果判定テーブルを用いているが、本発明はこれに限定されるものではなく、第 1 特図と第 2 特図とで個別の表示結果判定テーブルを用いるようにしてもよい。

【0191】

表示結果判定テーブルは、第 1 特別図柄表示装置 4 A による第 1 特図を用いた特図ゲームや第 2 特別図柄表示装置 4 B による第 2 特図を用いた特図ゲームにおいて可変表示結果となる確定特別図柄が導出表示される以前に、その可変表示結果を「大当り」として大当り遊技状態に制御するか否かを、特図表示結果判定用の乱数値 MR 1 にもとづいて決定するために参照されるテーブルである。

10

【0192】

表示結果判定テーブルでは、パチンコ遊技機 1 における遊技状態が通常状態または時短状態（低確状態）であるか、確変状態（高確状態）であるかに応じて、特図表示結果判定用の乱数値 MR 1 と比較される数値（判定値）が、「大当り」や「はずれ」の特図表示結果に割り当てられている。

【0193】

表示結果判定テーブルにおいて、特図表示結果判定用の乱数値 MR 1 と比較される判定値を示すテーブルデータは、特図表示結果を「大当り」として大当り遊技状態に制御するか否かの決定結果に割り当てられる判定用データとなっている。表示結果判定テーブルで 22 は、遊技状態が確変状態（高確状態）であるときに、通常状態または時短状態（低確状態）であるときよりも多くの判定値が、「大当り」の特図表示結果に割り当てられている。これにより、パチンコ遊技機 1 は時短状態（低確状態）であるときに特図表示結果を「大当り」として大当り遊技状態に制御すると決定される確率（本実施の形態では約 1 / 300）に比べて、特図表示結果を「大当り」として大当り遊技状態に制御すると決定される確率が高くなる（本実施の形態では約 1 / 30）。即ち、表示結果判定テーブルでは、パチンコ遊技機 1 における遊技状態が確変状態（高確状態）であるときに、通常状態や時短状態であるときに比べて大当り遊技状態に制御すると決定される確率が高くなるように、判定用データが大当り遊技状態に制御するか否かの決定結果に割り当てられている。

20

【0194】

図 9 (A) は、ROM 101 に記憶される大当り種別判定テーブルの構成例を示している。本実施の形態における大当り種別判定テーブルは、特図表示結果を「大当り」として大当り遊技状態に制御すると決定されたときに、大当り種別判定用の乱数値 MR 2 に基づき、大当り種別を複数種類のいずれかに決定するために参照されるテーブルである。大当り種別判定テーブルでは、特図ゲームにおいて可変表示（変動表示）が行われた特別図柄が第 1 特図（第 1 特別図柄表示装置 4 A による特図ゲーム）であるか第 2 特図（第 2 特別図柄表示装置 4 B による特図ゲーム）であるかに応じて、大当り種別判定用の乱数値 MR 2 と比較される数値（判定値）が、「非確変大当り」や「確変大当り A」、「確変大当り B」、「確変大当り C」といった複数種類の大当り種別に割り当てられている。

30

【0195】

ここで、本実施の形態における大当り種別について、図 9 (B) を用いて説明すると、本実施の形態では、大当り種別として、大当り遊技状態の終了後において確変制御と時短制御とが実行されて高確高ベース状態に移行する「確変大当り A」、「確変大当り B」、「確変大当り C」と、大当り遊技状態の終了後において時短制御のみが実行されて低確高ベース状態に移行する「非確変大当り」とが設定されている。

40

【0196】

「確変大当り A」による大当り遊技状態は、特別可変入賞球装置 7 を遊技者にとって有利な第 1 状態に変化させるラウンドが 10 回（いわゆる 10 ラウンド）、繰り返し実行される通常開放大当りである。一方、「確変大当り B」による大当り遊技状態は、特別可変入賞球装置 7 を遊技者にとって有利な第 1 状態に変化させるラウンドが 5 回（いわゆる 5 ラウンド）、繰り返し実行される通常開放大当りである。「確変大当り C」による大当り

50

遊技状態は、特別可変入賞球装置 7 を遊技者にとって有利な第 1 状態に変化させるラウンドが 2 回（いわゆる 2 ラウンド）、繰り返し実行される通常開放大当りである。また、「非確変大当り」による大当り遊技状態は、特別可変入賞球装置 7 を遊技者にとって有利な第 1 状態に変化させるラウンドが 5 回（いわゆる 5 ラウンド）、繰り返し実行される通常開放大当りである。よって、「確変大当り A」を 10 ラウンド（10 R）確変大当りと呼称し、「確変大当り B」を 5 ラウンド（5 R）確変大当りと呼称し、「確変大当り C」を 2 ラウンド（2 R）確変大当りと呼称する場合がある。

【0197】

確変大当り A ~ 確変大当り C の大当り遊技状態の終了後において開始される確変制御と時短制御とは、大当り遊技状態に制御されることを条件に終了される。また、非確変大当りの大当り遊技状態の終了後において開始される時短制御は、100 回の可変表示が終了すること、または、該 100 回の可変表示が終了する迄に大当り遊技状態に制御されることを条件に終了される。よって、再度発生した大当りが確変大当り A ~ 確変大当り C のいずれかである場合には、大当り遊技状態の終了後に再度、確変制御と時短制御が実行されるので、大当り遊技状態が通常状態を介することなく連続的に発生する、いわゆる連荘状態となる。つまり、本実施の形態における確変状態は、可変表示回数にかかわらず可変表示結果が大当りとなるまで継続する遊技状態である一方で、本実施の形態における時短状態は、可変表示結果が大当りとならなければ、100 回の可変表示が実行されることによって通常状態に制御される遊技状態である。このため、時短状態は、連荘状態が終了し得る際に制御される遊技状態でもある。

【0198】

図 9 (A) に示す大当り種別判定テーブルの設定例では、可変表示される特図が第 1 特図であるか第 2 特図であるかに応じて、「確変大当り A」、「確変大当り B」、「確変大当り C」、「非確変大当り」の大当り種別に対する判定値の割当てが異なっている。即ち、可変表示される特図が第 1 特図である場合には、所定範囲の判定値（「81」~「100」の範囲の値）がラウンド数の少ない「確変大当り B」や「確変大当り C」の大当り種別に割り当てられる一方で、可変表示される特図が第 2 特図である場合には、「確変大当り B」や「確変大当り C」の大当り種別に対して判定値が割り当てられていない。このような設定により、第 1 特別図柄表示装置 4 A による第 1 特図を用いた特図ゲームを開始するための第 1 開始条件が成立したことにともづいて大当り種別を複数種類のいずれかに決定する場合と、第 2 特別図柄表示装置 4 B による第 2 特図を用いた特図ゲームを開始するための第 2 開始条件が成立したことにともづいて大当り種別を複数種類のいずれかに決定する場合とで、大当り種別をラウンド数の少ない「確変大当り B」や「確変大当り C」に決定する割合を、異ならせることができる。特に、第 2 特図を用いた特図ゲームでは大当り種別を「確変大当り B」や「確変大当り C」としてラウンド数の少ない大当り状態に制御すると決定されることがないので、例えば時短制御に伴う高開放制御により、可変入賞球装置 6 B が形成する第 2 始動入賞口に遊技球が進入しやすい遊技状態において、得られる賞球が少ない大当り状態の頻発を回避して遊技興趣が低下してしまうことを防止できるようになっている。

【0199】

尚、図 9 (A) に示す大当り種別判定テーブルの設定例では、「非確変」の大当り種別に対する判定値の割当ては、第 1 特図の特図ゲームであるか第 2 特図であるかに係わらず同一とされているので、非確変の大当りとなる確率と確変の大当りとなる確率は、第 1 特図の特図ゲームであるか第 2 特図であるかにかかわらず同一とされている。

【0200】

よって、前述したように、「確変大当り B」や「確変大当り C」に対する判定値の割当てが、第 1 特図の特図ゲームであるか第 2 特図であるかに応じて異なることに応じて、「確変大当り A」に対する判定値の割当ても第 1 特図の特図ゲームであるか第 2 特図であるかに応じて異なり、ラウンド数の多い「確変大当り A」については、第 2 特図の特図ゲームである場合の方が第 1 特図の特図ゲームである場合よりも決定され易くなるように設定

されている。

【0201】

尚、第2特図の特図ゲームである場合にも、第1特図の特図ゲームである場合とは異なる所定範囲の判定値が、「確変大当りB」や「確変大当りC」の大当り種別に割り当てられるようにしてもよい。例えば、第2特図の特図ゲームである場合には、第1特図の特図ゲームである場合に比べて少ない判定値が、「確変大当りB」や「確変大当りC」の大当り種別に割り当てられてもよい。あるいは、第1特図の特図ゲームであるか第2特図であるかにかかわらず、共通のテーブルデータを参照して、大当り種別の決定を行うようにしてもよい。

【0202】

図10は、ROM101に記憶されるはずれ演出判定テーブルの構成例を示している。本実施の形態におけるはずれ演出判定テーブルは、特図表示結果を「はずれ」とすると決定されたときに、はずれ演出判定用の乱数値MR3に基づき、はずれ演出を非リーチとリーチのどちらにするか、つまり、可変表示においてリーチ演出を実行するか否かを決定するために参照されるテーブルである。例えば、乱数値MR3の値が1～85の範囲内であれば、はずれ演出を非リーチ（リーチ演出を実行しないこと）に決定し、乱数値MR3の値が86～100の範囲内であれば、はずれ演出をリーチ（リーチ演出を実行すること）に決定する。

【0203】

図11(A)～図11(C)は、ROM101に記憶される変動パターン種別判定テーブルの構成例を示している。変動パターン種別判定テーブルは、はずれ演出判定テーブルにおいてはずれ演出をリーチ（リーチ演出を実行する）と決定した場合に、実行するリーチ（変動パターン種別）をノーマルリーチ、スーパーリーチ、スーパーリーチ、スーパーリーチのいずれとするかを決定するためのテーブルである。本実施の形態では、遊技状態に応じて選択する変動パターン種別判定テーブルを異ならせている。

【0204】

具体的には、図11(A)～図11(C)に示すように、遊技状態が通常状態（低確低ベース状態）であるときは、変動パターン種別判定テーブルAと乱数値MR4の値にもとづいて変動パターン種別を判定し、遊技状態が時短状態（低確高ベース状態）であるときは、変動パターン種別判定テーブルBと乱数値MR4の値にもとづいて変動パターン種別を判定し、遊技状態が確変状態（高確高ベース状態）であるときは、変動パターン種別判定テーブルCと乱数値MR4の値にもとづいて変動パターン種別を判定する。尚、変動パターン種別をノーマルリーチと決定することは、可変表示中においてノーマルリーチのリーチ演出を実行してははずれとすることを決定することであり、変動パターン種別をスーパーリーチと決定することは、可変表示中においてスーパーリーチのリーチ演出を実行してははずれとすることを決定することであり、変動パターン種別をスーパーリーチと決定することは、可変表示中においてスーパーリーチのリーチ演出を実行してははずれとすることを決定することであり、変動パターン種別をスーパーリーチと決定することは、可変表示中においてスーパーリーチのリーチ演出を実行してははずれとすることを決定することである。

【0205】

例えば、図11(A)に示すように、遊技状態が通常状態（低確低ベース状態）である場合は、乱数値MR4の値が1～80の範囲内であれば、変動パターン種別をノーマルリーチに決定し、乱数値MR4の値が81～95の範囲内であれば、変動パターン種別をスーパーリーチに決定し、乱数値MR4の値が96～100の範囲内であれば、変動パターン種別をスーパーリーチに決定する。また、図11(B)に示すように、遊技状態が時短状態（低確高ベース状態）である場合は、乱数値MR4の値が1～80の範囲内であれば、変動パターン種別をノーマルリーチに決定し、乱数値MR4の値が81～100の範囲内であれば、変動パターン種別をスーパーリーチに決定する。また、図11(C)に示すように、遊技状態が確変状態（高確高ベース状態）である場合は、乱数値MR4の

10

20

30

40

50

値が 1 ~ 100 の範囲内であれば、変動パターン種別をノーマルリーチに決定する。

【0206】

図12(A)~図12(C)は、本実施の形態における変動パターンを示している。本実施の形態では、遊技状態が通常状態（低確低ベース状態）である場合、時短状態（低確高ベース状態）である場合、確変状態（高確高ベース状態）である場合で、それぞれ可変表示結果が「はずれ」となる場合のうち、飾り図柄の可変表示態様が「非リーチ」である場合と「リーチ」である場合のそれぞれに対応して、また、可変表示結果が「大当たり」となる場合に対応して、複数の変動パターンが予め用意されている。尚、可変表示結果が「はずれ」で飾り図柄の変動表示態様が「非リーチ」である場合に対応した変動パターンは、非リーチ変動パターン（「非リーチはずれ変動パターン」ともいう）と称され、可変表示結果が「はずれ」で飾り図柄の変動表示態様が「リーチ」である場合に対応した変動パターンは、リーチ変動パターン（「リーチはずれ変動パターン」ともいう）と称される。また、非リーチ変動パターンとリーチ変動パターンは、可変表示結果が「はずれ」となる場合に対応したはずれ変動パターンに含まれる。可変表示結果が「大当たり」である場合に対応した変動パターンは、大当たり変動パターンと称される。

10

【0207】

大当たり変動パターンやリーチ変動パターンには、ノーマルリーチのリーチ演出が実行されるノーマルリーチ変動パターンと、スーパーリーチのリーチ演出が実行されるスーパーリーチ変動パターンとがある。

【0208】

本実施の形態において遊技状態が通常状態（低確低ベース状態）である場合については、図12(A)に示すように、特図可変表示時間が12000msであって非リーチはずれとなる変動パターン（PA1-1）、特図可変表示時間が5750msであって非リーチはずれとなる変動パターン（PA1-2）、特図可変表示時間が3750msであって非リーチはずれとなる変動パターン（PA1-3）、特図可変表示時間が20000msであってノーマルリーチはずれとなる変動パターン（PA2-1A）、特図可変表示時間が25000msであって、可変表示中に飾り図柄仮停止及び再可変表示を含む擬似連演出が1回実行された後にノーマルリーチはずれとなる変動パターン（PA2-1B）、特図可変表示時間が60000msであって、擬似連演出が1回実行された後にノーマルリーチを経由してスーパーリーチはずれとなる変動パターン（PA2-2A）、特図可変表示時間が65000msであって、擬似連演出が2回実行された後にノーマルリーチを経由してスーパーリーチはずれとなる変動パターン（PA2-2B）、特図可変表示時間が70000msであって、擬似連演出が2回実行された後にノーマルリーチを経由してスーパーリーチはずれとなる変動パターン（PA2-3A）、特図可変表示時間が75000msであって、擬似連演出が3回実行された後にノーマルリーチ後にスーパーリーチはずれとなる変動パターン（PA2-3B）、特図可変表示時間が20000msであってノーマルリーチ大当たりとなる変動パターン（PB1-1A）、特図可変表示時間が25000msであって、擬似連演出が1回実行された後にノーマルリーチ大当たりとなる変動パターン（PB1-1B）、特図可変表示時間が60000msであって、擬似連演出が1回実行された後にノーマルリーチを経由してスーパーリーチ大当たりとなる変動パターン（PB1-2A）、特図可変表示時間が65000msであって、擬似連演出が2回実行された後にノーマルリーチを経由してスーパーリーチ大当たりとなる変動パターン（PB1-2B）、特図可変表示時間が70000msであって、擬似連演出が2回実行された後にノーマルリーチを経由してスーパーリーチ大当たりとなる変動パターン（PB1-3A）、特図可変表示時間が75000msであって、擬似連演出が3回実行された後にノーマルリーチを経由してスーパーリーチ大当たりとなる変動パターン（PB1-3B）が設けられている。

20

30

40

【0209】

また、遊技状態が時短状態（低確高ベース状態）である場合については、図12(B)に示すように、特図可変表示時間が7000msであって非リーチはずれとなる変動パタ

50

ーン（PA1-4）、特図可変表示時間が2000msであって非リーチはずれとなる変動パターン（PA1-5）、特図可変表示時間が10000msであってノーマルリーチはずれとなる変動パターン（PA2-4A）、特図可変表示時間が10000msであって、擬似連演出が1回実行された後にノーマルリーチはずれとなる変動パターン（PA2-4B）、特図可変表示時間が30000msであって、擬似連演出が1回実行された後にノーマルリーチを経由してスーパーリーチはずれとなる変動パターン（PA2-5A）、特図可変表示時間が35000msであって、擬似連演出が2回実行された後にノーマルリーチを経由してスーパーリーチはずれとなる変動パターン（PA2-5B）、特図可変表示時間が10000msであってノーマルリーチ大当たりとなる変動パターン（PB1-4A）、特図可変表示時間が15000msであって、擬似連演出が1回実行された後にノーマルリーチ大当たりとなる変動パターン（PB1-4B）、特図可変表示時間が30000msであって、擬似連演出が1回実行された後にノーマルリーチを経由してスーパーリーチ大当たりとなる変動パターン（PB1-5A）、特図可変表示時間が35000msであって、擬似連演出が2回実行された後にノーマルリーチを経由してスーパーリーチ大当たりとなる変動パターン（PB1-5B）が設けられている。

【0210】

更に、遊技状態が確変状態（高確高ベース状態）である場合については、図12（C）に示すように、特図可変表示時間が3000msであって非リーチはずれとなる変動パターン（PA1-6）、特図可変表示時間が500msであって非リーチはずれとなる変動パターン（PA1-7）、特図可変表示時間が5000msであってノーマルリーチはずれとなる変動パターン（PA2-6）、特図可変表示時間が5000msであってノーマルリーチ大当たりとなる変動パターン（PB1-6）が設けられている。

【0211】

尚、本実施の形態では、スーパーリーチ、ノーマルリーチ、非リーチの順に可変表示結果が「大当たり」となる大当たり期待度が高く設定されているため、ノーマルリーチ変動パターン及びスーパーリーチ変動パターンにおいては特図可変表示時間が長いほど大当たり期待度が高くなっている。更に、遊技状態が通常状態である場合については、スーパーリーチの方がスーパーリーチよりも変表示結果が「大当たり」となる大当たり期待度が高く設定されている。

【0212】

また、本実施の形態においては、これら変動パターンを、変動パターン判定用の乱数値MR5に加えて、はずれ演出判定用の乱数値MR3、変動パターン種別判定用の乱数値MR4を用いて決定するようにしているが、本発明はこれに限定されるものではなく、変動パターンは、変動パターン判定用の乱数値MR5を含む2個以下の乱数値を用いて決定してもよいし、変動パターン判定用の乱数値MR5を含む4個以下の乱数値を用いて決定してもよい。

【0213】

図13～16は、本実施の形態における変動パターンの決定方法の説明図である。本実施の形態では、実行する可変表示の表示結果や保留記憶数、遊技状態、はずれ演出、変動パターン種別等に応じて、選択する変動パターン判定テーブルを異ならせている。

【0214】

具体的には、図13（A）～図13（F）に示すように、遊技状態が通常状態（低ベース状態）且つ可変表示結果がはずれであるとき、はずれ演出が非リーチ且つ可変表示を実行する特別図柄の保留記憶数（同種保留記憶数）が1個以下である場合は、はずれ用変動パターン判定テーブルAと乱数値MR5の値にもとづいて変動パターンを決定し、はずれ演出が非リーチ且つ可変表示を実行する特別図柄の保留記憶数が2個である場合は、はずれ用変動パターン判定テーブルBと乱数値MR5の値にもとづいて変動パターンを決定し、はずれ演出が非リーチ且つ可変表示を実行する特別図柄の保留記憶数が3個である場合は、はずれ用変動パターン判定テーブルCと乱数値MR5の値にもとづいて変動パターンを決定し、はずれ演出がリーチであり変動パターン種別がノーマルリーチである場合は、

はずれ用変動パターン判定テーブルDと乱数値MR5の値にもとづいて変動パターンを決定し、はずれ演出がリーチであり変動パターン種別がスーパーリーチである場合は、はずれ用変動パターン判定テーブルEと乱数値MR5の値にもとづいて変動パターンを決定し、はずれ演出がリーチであり変動パターン種別がスーパーリーチである場合は、はずれ用変動パターン判定テーブルFと乱数値MR5の値にもとづいて変動パターンを決定する。

【0215】

また、図14(A)～図14(D)に示すように、遊技状態が時短状態(低確高ベース状態)且つ可変表示結果がはずれであるとき、はずれ演出が非リーチ且つ可変表示を実行する特別図柄の保留記憶数(同種保留記憶数)が1個以下である場合は、はずれ用変動パターン判定テーブルGと乱数値MR5の値にもとづいて変動パターンを決定し、はずれ演出が非リーチ且つ可変表示を実行する特別図柄の保留記憶数が2個以上である場合は、はずれ用変動パターン判定テーブルHと乱数値MR5の値にもとづいて変動パターンを決定し、はずれ演出がリーチ且つ変動パターン種別がノーマルリーチである場合は、はずれ用変動パターン判定テーブルIと乱数値MR5の値にもとづいて変動パターンを決定し、はずれ演出がリーチ且つ変動パターン種別がスーパーリーチである場合は、はずれ用変動パターン判定テーブルJと乱数値MR5の値にもとづいて変動パターンを決定する。

【0216】

更に、図15(A)～図15(C)に示すように、遊技状態が確変状態(高確高ベース状態)且つ可変表示結果がはずれであるとき、はずれ演出が非リーチ且つ可変表示を実行する特別図柄の保留記憶数(同種保留記憶数)が1個以下である場合は、はずれ用変動パターン判定テーブルKと乱数値MR5の値にもとづいて変動パターンを決定し、はずれ演出が非リーチ且つ可変表示を実行する特別図柄の保留記憶数(同種保留記憶数)が2個以上である場合は、はずれ用変動パターン判定テーブルLと乱数値MR5の値にもとづいて変動パターンを決定し、はずれ演出がリーチ且つ変動パターン種別がノーマルリーチである場合は、はずれ用変動パターン判定テーブルMと乱数値MR5の値にもとづいて変動パターンを決定する。

【0217】

そして、図16(A)～図16(C)に示すように、遊技状態が通常状態(低確低ベース状態)且つ可変表示結果が大当たりであるときは、大当たり用変動パターン判定テーブルAと乱数値MR5の値にもとづいて変動パターンを決定し、遊技状態が時短状態(低確高ベース状態)且つ可変表示結果が大当たりであるときは、大当たり用変動パターン判定テーブルBと乱数値MR5の値にもとづいて変動パターンを決定し、遊技状態が確変状態(高確高ベース状態)且つ可変表示結果が大当たりであるときは、大当たり用変動パターン判定テーブルCと乱数値MR5の値にもとづいて変動パターンを決定する。

【0218】

例えば、図13(A)～図13(F)に示すように、はずれ用変動パターン判定テーブルAを選択した場合は、乱数値MR5の値が1～997の範囲内であれば変動パターンを非リーチはずれの変動パターン(PA1-1)に決定し、はずれ用変動パターン判定テーブルBを選択した場合は、乱数値MR5の値が1～997の範囲内であれば変動パターンを非リーチはずれの変動パターン(PA1-2)に決定し、はずれ用変動パターン判定テーブルCを選択した場合は、乱数値MR5の値が1～997の範囲内であれば変動パターンを非リーチはずれの変動パターン(PA1-3)に決定し、はずれ用変動パターン判定テーブルDを選択した場合は、乱数値MR5の値が1～900の範囲内であれば変動パターンをノーマルリーチはずれの変動パターン(PA2-1A)に決定し、乱数値MR5の値が901～997の範囲内であれば変動パターンをノーマルリーチはずれの変動パターン(PA2-1B)に決定し、はずれ用変動パターン判定テーブルEを選択した場合は、乱数値MR5の値が1～900の範囲内であれば変動パターンをスーパーリーチはずれの変動パターン(PA2-2A)に決定し、乱数値MR5の値が901～997の範囲内であれば変動パターンをスーパーリーチはずれの変動パターン(PA2-2B)に決定

10

20

30

40

50

し、はずれ用変動パターン判定テーブルFを選択した場合は、乱数値MR5の値が1～900の範囲内であれば変動パターンをスーパーリーチはずれの変動パターン(PA2-3A)に決定し、乱数値MR5の値が901～997の範囲内であれば変動パターンをスーパーリーチはずれの変動パターン(PA2-3B)に決定する。

【0219】

また、図14(A)～図14(D)に示すように、はずれ用変動パターン判定テーブルGを選択した場合は、乱数値MR5の値が1～997の範囲内であれば変動パターンを非リーチはずれの変動パターン(PA1-4)に決定し、はずれ用変動パターン判定テーブルHを選択した場合は、乱数値MR5の値が1～997の範囲内であれば変動パターンを非リーチはずれの変動パターン(PA1-5)に決定し、はずれ用変動パターン判定テーブルIを選択した場合は、乱数値MR5の値が1～920の範囲内であれば変動パターンをノーマルリーチはずれの変動パターン(PA2-4A)に決定し、乱数値MR5の値が921～997の範囲内であれば変動パターンをノーマルリーチはずれの変動パターン(PA2-4B)に決定し、はずれ用変動パターン判定テーブルJを選択した場合は、乱数値MR5の値が1～950の範囲内であれば変動パターンをスーパーリーチはずれの変動パターン(PA2-5A)に決定し、乱数値MR5の値が951～997の範囲内であれば変動パターンをスーパーリーチはずれの変動パターン(PA2-5B)に決定する。

10

【0220】

また、図15(A)～図15(C)に示すように、はずれ用変動パターン判定テーブルKを選択した場合は、乱数値MR5の値が1～997の範囲内であれば変動パターンを非リーチはずれの変動パターン(PA1-6)に決定し、はずれ用変動パターン判定テーブルLを選択した場合は、乱数値MR5の値が1～997の範囲内であれば変動パターンを非リーチはずれの変動パターン(PA1-7)に決定し、はずれ用変動パターン判定テーブルMを選択した場合は、乱数値MR5の値が1～997の範囲内であれば変動パターンをノーマルリーチはずれの変動パターン(PA2-6)に決定する。

20

【0221】

また、図16(A)に示すように、大当り用変動パターン判定テーブルAを選択した場合は、乱数値MR3の値が1～30の範囲内であれば変動パターンをノーマルリーチ大当りの変動パターン(PB1-1A)に決定し、乱数値MR3の値が31～80の範囲内であれば変動パターンをノーマルリーチ大当りの変動パターン(PB1-1B)に決定し、乱数値MR3の値が81～170の範囲内であれば変動パターンをスーパーリーチ大当りの変動パターン(PB1-2A)に決定し、乱数値MR3の値が171～320の範囲内であれば変動パターンをスーパーリーチ大当りの変動パターン(PB1-2B)に決定し、乱数値MR3の値が321～600の範囲内であれば変動パターンをスーパーリーチ大当りの変動パターン(PB1-3A)に決定し、乱数値MR3の値が601～997の範囲内であれば変動パターンをスーパーリーチ大当りの変動パターン(PB1-3B)に決定する。

30

【0222】

また、図16(B)に示すように、大当り用変動パターン判定テーブルBを選択した場合は、乱数値MR3の値が1～90の範囲内であれば変動パターンをノーマルリーチ大当りの変動パターン(PB1-4A)に決定し、乱数値MR3の値が91～280の範囲内であれば変動パターンをノーマルリーチ大当りの変動パターン(PB1-4B)に決定し、乱数値MR3の値が281～580の範囲内であれば変動パターンをスーパーリーチ大当りの変動パターン(PB1-5A)に決定し、乱数値MR3の値が581～997の範囲内であれば変動パターンをスーパーリーチ大当りの変動パターン(PB1-5B)に決定する。

40

【0223】

また、図16(C)に示すように、大当り用変動パターン判定テーブルCを選択した場合は、乱数値MR3の値が1～997の範囲内であれば変動パターンをノーマルリーチ大

50

当りの変動パターン（PB1-6）に決定する。

【0224】

尚、本実施の形態では、可変表示結果が大当たりである場合は、大当たり種別にかかわらず1の割合で変動パターンを決定する形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、大当たり種別に応じて、複数の大当たり用の変動パターンの決定割合を異ならせてもよい。このようにすることで、いずれの変動パターンの可変表示で大当たりとなったかに遊技者を注目させることができ遊技興趣を向上させることができる。

【0225】

また、図17に示すように、本実施の形態における通常状態は、主に第1特別図柄の可変表示が実行されるとともに、1回あたりの可変表示に基づいて大当たり遊技状態に制御される割合（大当たり確率）が確変状態よりも低い遊技状態であり、通常状態、時短状態、確変状態間で最も平均特図可変表示時間が長い遊技状態でもある。また、本実施の形態における時短状態は、主に第2特別図柄の可変表示が実行されるとともに、1回あたりの可変表示に基づいて大当たり遊技状態に制御される割合（大当たり確率）が確変状態よりも低い遊技状態であり、通常状態、時短状態、確変状態間で平均特図可変表示時間が通常状態よりも短く確変状態よりも長い遊技状態である。そして、本実施の形態における確変状態は、主に第2特別図柄の可変表示が実行されるとともに、1回あたりの可変表示に基づいて大当たり遊技状態に制御される割合（大当たり確率）が通常状態や時短状態よりも高い遊技状態であり、通常状態、時短状態、確変状態間で平均特図可変表示時間が最も短い遊技状態である。

【0226】

ここで、本実施の形態における第1特別図柄表示装置4A、第2特別図柄表示装置4Bにおける特別図柄の可変表示について説明する。図18（B）に示すように、第1特別図柄表示装置4A、第2特別図柄表示装置4Bには、前述したように8つのLEDが設けられており、これらLEDによって特別図柄が構成されている。第1特別図柄表示装置4Aや第2特別図柄表示装置4Bにおいては、40msが経過する度に1個ずつ点灯させるLEDを切り替えていき、8個目のLEDの点灯開始から40msが経過することで再度1個目のLEDの点灯が開始されるようになっていく。つまり、本実施の形態においては、点灯対象のLEDが1個目、2個目、3個目...8個目と順に変遷していく過程を1周期とし、これらLEDの周期点灯が繰り返し実行されることにより特別図柄の可変表示が実行される。

【0227】

また、図18（D）に示すように、第1演出表示灯152A、第2演出表示灯152Bには、それぞれ1つのLEDが設けられており、これらLEDによってサブ図柄が構成されている。第1演出表示灯152Aや第2演出表示灯152Bにおいては、60ms毎にLEDの点灯と消灯を切り替える。つまり、第1特別図柄表示装置4A、第2特別図柄表示装置4Bにおいては、LEDの240msに亘る点灯と240msに亘る消灯を1周期とし、これらLEDの周期点灯が繰り返し実行されることによりサブ図柄の可変表示が実行される。

【0228】

図2に示す遊技制御用マイクロコンピュータ100が備えるRAM102は、その一部または全部が所定の電源基板において作成されるバックアップ電源によってバックアップされているバックアップRAMであればよい。すなわち、パチンコ遊技機1に対する電力供給が停止しても、所定期間（バックアップ電源としてのコンデンサが放電してバックアップ電源が電力供給不能になるまで）は、RAM102の一部または全部の内容は保存される。特に、少なくとも、遊技状態すなわち遊技制御手段の制御状態に応じたデータ（特図プロセスフラグなど）と未払出賞球数を示すデータとは、バックアップRAMに保存されるようにすればよい。遊技制御手段の制御状態に応じたデータとは、停電等が生じた後に復旧した場合に、そのデータにもとづいて、制御状態を停電等の発生前に復旧させるために必要なデータである。また、制御状態に応じたデータと未払出賞球数を示すデータと

を遊技の進行状態を示すデータと定義する。

【0229】

このようなRAM102には、パチンコ遊技機1における遊技の進行などを制御するために用いられる各種のデータを保持する領域として、例えば図19に示すような遊技制御用データ保持エリア001SG150が設けられている。図19に示す遊技制御用データ保持エリア001SG150は、第1特別図柄バッファ001SG151Aと、第2特別図柄バッファ001SG151Bと、普図保留記憶部001SG151Cと、遊技制御フラグ設定部001SG152と、遊技制御タイマ設定部001SG153と、遊技制御カウンタ設定部001SG154と、遊技制御バッファ設定部001SG155とを備えている。

10

【0230】

第1特別図柄バッファ001SG151Aは、入賞球装置6Aが形成する第1始動入賞口を遊技球が通過（進入）して始動入賞（第1始動入賞）が発生したものの未だ開始されていない特図ゲーム（第1特別図柄表示装置4Aにおける第1特図を用いた特図ゲーム）の保留データを入賞順に記憶する。

【0231】

第2特別図柄バッファ001SG151Bは、可変入賞球装置6Bが形成する第2始動入賞口を遊技球が通過（進入）して始動入賞（第2始動入賞）が発生したものの未だ開始されていない特図ゲーム（第2特別図柄表示装置4Bにおける第2特図を用いた特図ゲーム）の保留データを入賞順に記憶する。

20

【0232】

一例として、第1特別図柄バッファ001SG151Aは、第1始動入賞口への入賞順（遊技球の検出順）に保留番号と関連付けて、その遊技球の通過（進入）における第1始動条件の成立に基づいてCPU103により乱数回路104等から抽出された特図表示結果判定用の乱数値MR1、大当たり種別判定用の乱数値MR2、はずれ演出判定用の乱数値MR3、変動パターン種別判定用の乱数値MR4、変動パターン判定用の乱数値MR5を示す数値データを保留データとして、その記憶数が所定の上限値（例えば「4」）に達するまで記憶する。

【0233】

また、第2特別図柄バッファ001SG151Bは、第2始動入賞口への入賞順（遊技球の検出順）に保留番号と関連付けて、その遊技球の通過（進入）における第2始動条件の成立に基づいてCPU103により乱数回路104等から抽出された特図表示結果判定用の乱数値MR1、大当たり種別判定用の乱数値MR2、はずれ演出判定用の乱数値MR3、変動パターン種別判定用の乱数値MR4、変動パターン判定用の乱数値MR5を示す数値データを保留データとして、その記憶数が所定の上限値（例えば「4」）に達するまで記憶する。

30

【0234】

尚、第1特別図柄バッファ001SG151A、第2特別図柄バッファ001SG151Bにおける保留番号0の数値データは、実行中の特別図柄の可変表示に応じたデータであり、保留番号1～4の数値データは、未だ実行されていない特別図柄の可変表示に応じたデータ（保留データ）である。

40

【0235】

こうして第1特別図柄バッファ001SG151Aや第2特別図柄バッファ001SG151Bに記憶された保留データは、第1特図を用いた特図ゲームや第2特図を用いた特図ゲームの実行が保留されていることを示し、これら特図ゲームにおける可変表示結果（特図表示結果）に基づき大当たりとなるか否かなどを判定可能にする保留情報となる。

【0236】

尚、本実施の形態では、このように第1始動入賞口を遊技球が通過（進入）したことによる第1始動条件の成立に基づく保留情報（第1保留情報）と、第2始動入賞口を遊技球が通過（進入）したことによる第2始動入賞の成立に基づく保留情報（第2保留情報）と

50

を、個別の保留記憶部にて保留番号と対応付けて記憶する場合については、第 2 保留記憶情報に基づく可変表示を、第 1 保留情報に基づく可変表示よりも優先して実行するようになっている。

【 0 2 3 7 】

普図保留記憶部 0 0 1 S G 1 5 1 C は、遊技球がゲートスイッチ 2 1 によって検出されたにもかかわらず、未だ普通図柄表示器 2 0 により開始されていない普図ゲームの保留情報を記憶する。例えば、普図保留記憶部 0 0 1 S G 1 5 1 C は、遊技球がゲートスイッチ 2 1 によって検出された順に保留番号と対応付けて、その遊技球の通過に基づいて C P U 1 0 3 により乱数回路 1 0 4 等から抽出された普図表示結果判定用の乱数値 M R 6 を示す数値データなどを保留データとして、その数が所定の上限値（例えば「 4 」）に達するまで記憶する。

10

【 0 2 3 8 】

尚、普図保留記憶部 0 0 1 S G 1 5 1 C における保留番号 0 の数値データは、実行中の普通図柄の可変表示に応じたデータであり、保留番号 1 ~ 4 の数値データは、未だ実行されていない普通図柄の可変表示に応じたデータ（保留データ）である。

【 0 2 3 9 】

遊技制御フラグ設定部 0 0 1 S G 1 5 2 には、パチンコ遊技機 1 における遊技の進行状況などに応じて状態を更新可能な複数種類のフラグが設けられている。例えば、遊技制御フラグ設定部 0 0 1 S G 1 5 2 には、複数種類のフラグそれぞれについて、フラグの値を示すデータや、オン状態あるいはオフ状態を示すデータが記憶される。

20

【 0 2 4 0 】

遊技制御タイマ設定部 0 0 1 S G 1 5 3 には、パチンコ遊技機 1 における遊技の進行を制御するために用いられる各種のタイマが設けられている。例えば、遊技制御タイマ設定部 0 0 1 S G 1 5 3 には、複数種類のタイマそれぞれにおけるタイマ値を示すデータが記憶される。

【 0 2 4 1 】

遊技制御カウンタ設定部 0 0 1 S G 1 5 4 には、パチンコ遊技機 1 における遊技の進行を制御するために用いられるカウンタ値を計数するための複数種類のカウンタが設けられている。例えば、遊技制御カウンタ設定部 0 0 1 S G 1 5 4 には、複数種類のカウンタそれぞれにおけるカウンタ値を示すデータが記憶される。ここで、遊技制御カウンタ設定部 0 0 1 S G 1 5 4 には、遊技用乱数の一部または全部を C P U 1 0 3 がソフトウェアにより更新可能にカウンタするためのランダムカウンタが設けられてもよい。

30

【 0 2 4 2 】

遊技制御カウンタ設定部 0 0 1 S G 1 5 4 のランダムカウンタには、乱数回路 1 0 4 で生成されない乱数値、例えば、乱数値 M R 1 ~ M R 4 を示す数値データが、ランダムカウンタ値として記憶され、C P U 1 0 3 によるソフトウェアの実行に応じて、定期的あるいは不定期に、各乱数値を示す数値データが更新される。C P U 1 0 3 がランダムカウンタ値を更新するために実行するソフトウェアは、ランダムカウンタ値を乱数回路 1 0 4 における数値データの更新動作とは別個に更新するためのものであってもよいし、乱数回路 1 0 4 から抽出された数値データの全部又は一部にスクランブル処理や演算処理といった所定の処理を施すことによりランダムカウンタ値を更新するためのものであってもよい。

40

【 0 2 4 3 】

遊技制御バッファ設定部 0 0 1 S G 1 5 5 には、パチンコ遊技機 1 における遊技の進行を制御するために用いられるデータを一時的に記憶する各種のバッファが設けられている。例えば、遊技制御バッファ設定部 0 0 1 S G 1 5 5 には、複数種類のバッファそれぞれにおけるバッファ値を示すデータが記憶される。

【 0 2 4 4 】

尚、本実施の形態における遊技制御バッファ設定部 0 0 1 S G 1 5 5 には、乱数値 M R 1 の数値を一時的に記憶するための特図表示結果判定用乱数バッファ 0 0 1 S G 1 5 5 A 、乱数値 M R 2 の数値を一時的に記憶するための大当たり種別判定用乱数バッファ 0 0 1 S

50

G 1 5 5 B、乱数値 M R 3 の数値を一時的に記憶するためのはずれ演出判定用乱数バッファ 0 0 1 S G 1 5 5 C、乱数値 M R 4 の数値を一時的に記憶するための変動パターン種別判定用乱数バッファ 0 0 1 S G 1 5 5 D、乱数値 M R 5 の数値を一時的に記憶するための変動パターン判定用乱数バッファ 0 0 1 S G 1 5 5 E が設けられている。

【 0 2 4 5 】

図 2 に示す演出制御基板 1 2 に搭載された R O M 1 2 1 には、演出制御用のプログラムの他にも、演出動作を制御するために用いられる各種のデータテーブルなどが格納されている。例えば、R O M 1 2 1 には、演出制御用 C P U 1 2 0 が各種の判定や決定、設定を行うために用意された複数の判定テーブルを構成するテーブルデータ、各種の演出制御パターンを構成するパターンデータなどが記憶されている。

10

【 0 2 4 6 】

一例として、R O M 1 2 1 には、演出制御用 C P U 1 2 0 が各種の演出装置（例えば画像表示装置 5 やスピーカ 8 L , 8 R、遊技効果ランプ 9 及び装飾用 L E D、演出用模型など）による演出動作を制御するために使用する演出制御パターンを複数種類格納した演出制御パターンテーブルが記憶されている。演出制御パターンは、パチンコ遊技機 1 における遊技の進行状況に応じて実行される各種の演出動作に対応して、その制御内容を示すデータなどから構成されている。演出制御パターンテーブルには、例えば特図可変表示時演出制御パターンと、予告演出制御パターンと、各種演出制御パターン等が、格納されている。

【 0 2 4 7 】

図 2 0 は、入力ポート 1 0 5 a のビット割り当ての例を示す説明図である。図 2 0 に示すように、入力ポート 0 において、ビット 1 にはカウントスイッチ 2 3、ビット 2 には図示しない排出口スイッチ、ビット 3 には特定領域スイッチ、ビット 6 には普通入賞口スイッチ 2 4 からの信号が入力される。入力ポート 1 において、ビット 2 にはアウト確認スイッチ信号 1、ビット 3 にはアウト確認スイッチ信号 2、ビット 5 には磁石センサ信号、ビット 7 には枠電波センサ信号が入力される。また、入力ポート 2 において、ビット 2 には盤面近接センサエラー信号、ビット 3 には枠近接センサエラー信号が入力され、ビット 4 には設定キースイッチ、ビット 5 にはタッチスイッチ、ビット 6 には扉・枠開放スイッチ、ビット 7 にはクリアスイッチからの信号が入力される。また、入力ポート 3 において、ビット 1 には第 1 始動口スイッチ 2 2 A、ビット 2 には第 2 始動口スイッチ 2 2 B、ビット 3 にはゲートスイッチ 2 1 からの信号が入力される。また、ビット 6 には電源確認信号、ビット 7 には賞球制御信号 R X 0 の信号が入力される。

20

30

【 0 2 4 8 】

図 2 1 は、出力ポート 1 0 5 b のビット割り当ての例を示す説明図である。図 2 1 に示すように、出力ポート D G 1 においてビット 1 ~ ビット 8 からは、第 1 特別図柄を構成する各 L E D に信号が出力される。出力ポート D G 2 においてビット 1 ~ ビット 8 からは、第 2 特別図柄を構成する各 L E D に信号が出力される。

【 0 2 4 9 】

また、出力ポート D G 3 において、ビット 1 からは第 1 特別図柄における始動口入賞記憶数表示灯 2（第 1 保留表示器 2 5 A を構成する L E D のうち 2 個目の L E D）、ビット 2 からは第 2 特別図柄における始動口入賞記憶数表示灯 2（第 2 保留表示器 2 5 B を構成する L E D のうち 2 個目の L E D）、ビット 3 からはゲート通過記憶数表示灯 2（普通図柄表示器 2 0 を構成する L E D のうち 2 個目の L E D）、ビット 4 からは第 1 特別図柄における始動口入賞記憶数表示灯 1（第 1 保留表示器 2 5 A を構成する L E D のうち 1 個目の L E D）、ビット 5 からは第 2 特別図柄における始動口入賞記憶数表示灯 1（第 2 保留表示器 2 5 B を構成する L E D のうち 1 個目の L E D）、ビット 6 からはゲート通過記憶数表示灯 1（普通図柄表示器 2 0 を構成する L E D のうち 1 個目の L E D）、にそれぞれ信号が出力される。そして、出力ポート D G 4 においてビット 1 ~ ビット 4 からは、普通図柄を構成する各 L E D に信号が出力される。

40

【 0 2 5 0 】

50

また、出力ポート D G 5 において、ビット 0 ~ ビット 4 からは、ラウンド数表示器 2 6 を構成する各 L E D に信号が出力され、ビット 5 からは当り表示灯 2 7 を構成する L E D に信号が出力され、ビット 6 からは右打ち表示灯 2 8 を構成する L E D に信号が出力され、ビット 7 からは状態表示灯 2 9 を構成する L E D に信号が出力される。

【 0 2 5 1 】

図 2 に示す演出制御基板 1 2 に搭載された R A M 1 2 2 には、演出動作を制御するために用いられる各種データを保持する領域として、例えば図 2 2 (A) に示すような演出制御用データ保持エリア 0 0 1 S G 1 9 0 が設けられている。図 2 2 (A) に示す演出制御用データ保持エリア 0 0 1 S G 1 9 0 は、演出制御フラグ設定部 0 0 1 S G 1 9 1 と、演出制御タイマ設定部 0 0 1 S G 1 9 2 と、演出制御カウンタ設定部 0 0 1 S G 1 9 3 と、演出制御バッファ設定部 0 0 1 S G 1 9 4 とを備えている。

10

【 0 2 5 2 】

演出制御フラグ設定部 0 0 1 S G 1 9 1 には、例えば画像表示装置 5 の画面上における演出画像の表示状態などといった演出動作状態や主基板 1 1 から送信された演出制御コマンド等に応じて状態を更新可能な複数種類のフラグが設けられている。例えば、演出制御フラグ設定部 0 0 1 S G 1 9 1 には、複数種類のフラグそれぞれについて、フラグの値を示すデータや、オン状態あるいはオフ状態を示すデータが記憶される。

【 0 2 5 3 】

演出制御タイマ設定部 0 0 1 S G 1 9 2 には、例えば画像表示装置 5 の画面上における演出画像の表示動作などといった各種演出動作の進行を制御するために用いられる複数種類のタイマが設けられている。例えば、演出制御タイマ設定部 0 0 1 S G 1 9 2 には、複数種類のタイマそれぞれにおけるタイマ値を示すデータが記憶される。

20

【 0 2 5 4 】

演出制御カウンタ設定部 0 0 1 S G 1 9 3 には、各種演出動作の進行を制御するために用いられる複数種類のカウンタが設けられている。例えば、演出制御カウンタ設定部 0 0 1 S G 1 9 3 には、複数種類のカウンタそれぞれにおけるカウント値を示すデータが記憶される。

【 0 2 5 5 】

演出制御バッファ設定部 0 0 1 S G 1 9 4 には、各種演出動作の進行を制御するために用いられるデータを一時的に記憶する各種のバッファが設けられている。例えば、演出制御バッファ設定部 0 0 1 S G 1 9 4 には、複数種類のバッファそれぞれにおけるバッファ値を示すデータが記憶される。

30

【 0 2 5 6 】

本実施の形態では、図 2 2 (B) に示すような始動入賞時受信コマンドバッファ 0 0 1 S G 1 9 4 A を構成するデータが、演出制御バッファ設定部 0 0 1 S G 1 9 4 の所定領域に記憶されている。始動入賞時受信コマンドバッファ 0 0 1 S G 1 9 4 A には、第 1 特図保留記憶の合計保留記憶数の最大値 (例えば「 4 」) に対応した格納領域 (バッファ番号「 1 - 1 」 ~ 「 1 - 4 」に対応した領域) と、可変表示中の第 1 特図に対応した格納領域 (バッファ番号「 1 - 0 」に対応した領域) とが設けられている。また、始動入賞時受信コマンドバッファ 0 0 1 S G 1 9 4 A には、第 2 特図保留記憶の合計保留記憶数の最大値 (例えば「 4 」) に対応した格納領域 (バッファ番号「 2 - 1 」 ~ 「 2 - 4 」に対応した領域) と、可変表示中の第 2 特図に対応した格納領域 (バッファ番号「 2 - 0 」に対応した領域) とが設けられている。第 1 始動入賞口や第 2 始動入賞口への始動入賞があったときには、始動口入賞指定コマンド (第 1 始動口入賞指定コマンドまたは第 2 始動口入賞指定コマンド)、保留記憶数通知コマンド (第 1 特図保留記憶数通知コマンドまたは第 2 特図保留記憶数通知コマンド)、図柄指定コマンド、はずれ演出パターンコマンドという 4 つのコマンドが 1 セットとして、主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 へと送信される。始動入賞時受信コマンドバッファ 0 0 1 S G 1 9 4 A における第 1 特図保留記憶に対応した格納領域と第 2 特図保留記憶に対応した格納領域は、これらの始動口入賞指定コマンド、保留記憶数通知コマンド、図柄指定コマンド、はずれ演出パターンコマンドを対応付けて、

40

50

第 1 特図保留記憶と第 2 特図保留記憶とに分けて格納するための格納領域（エントリ）が確保されている。

【 0 2 5 7 】

これら格納領域（エントリ）の記憶内容は、開始条件が成立して最上位の保留記憶（バッファ番号「1 - 1」またはバッファ番号「2 - 1」）の可変表示が開始されるときに、後述するように 1 つずつ上位にシフトされていくとともに、該開始条件が成立した保留記憶の内容を格納するバッファ番号「1 - 0」またはバッファ番号「2 - 0」の記憶内容は、当該可変表示を終了するときに行われる特図当り待ち処理においてクリアされるようになっている。

【 0 2 5 8 】

更に、本実施の形態における始動入賞時受信コマンドバッファ 0 0 1 S G 1 9 4 A には、保留記憶表示の表示パターン（表示態様）に応じたフラグ値がセットされる保留表示フラグと、後述する入賞時フラッシュ演出の対象であるか否かを示すフラグ値がセットされる入賞時フラッシュ演出フラグと、を第 1 特図保留記憶及び第 2 特図保留記憶に対応する各バッファ番号に対応付けて格納できるように記憶領域が、各格納領域（エントリ）毎に確保されている。

【 0 2 5 9 】

尚、保留表示フラグには、後述する保留変化演出決定処理において、保留変化演出の実行が決定されなかった場合には、通常の保留表示の表示パターンに対応する「0」が格納され、保留変化演出の実行が決定された場合には、通常の表示態様とは異なる特別態様（例えば、青色や赤色）の保留記憶表示の表示パターンに対応する「1」（青色）または「2」（赤色）がセットされるようになっている。そして、保留変化演出決定処理の実行後は、更に後述する保留出現アニメーション処理、滞留アニメーション処理、シフトアニメーション処理等が実行されることで、アクティブ表示や保留表示が各保留表示フラグに応じた表示態様（例えば、保留表示フラグの値が「0」であれば遊技状態に応じた形状の白色、保留表示フラグの値が「1」であれば遊技状態に応じた形状の青色、保留表示フラグの値が「2」であれば遊技状態に応じた形状の赤色）にて表示されるようになっている。

【 0 2 6 0 】

演出制御用 C P U 1 2 0 は、第 1 始動入賞口への始動入賞時には、コマンドを始動入賞時受信コマンドバッファ 0 0 1 S G 1 9 4 A の第 1 特図保留記憶に対応する空きエントリにおける先頭（バッファ番号の最も若いエントリ）から格納していき、第 2 始動入賞口への始動入賞時には、コマンドを始動入賞時受信コマンドバッファ 0 0 1 S G 1 9 4 A の第 2 特図保留記憶に対応する空きエントリにおける先頭（バッファ番号の最も若いエントリ）から格納していく。始動入賞時には、始動口入賞指定コマンド、保留記憶数通知コマンド、図柄指定コマンド、はずれ演出パターンコマンドが順次送信される。従って、コマンド受信が行われれば、第 1 特図保留記憶または第 2 特図保留記憶に対応するバッファ番号の末尾「0」～「4」のそれぞれに対応する格納領域に、始動口入賞指定コマンド、保留記憶数通知コマンド、図柄指定コマンド、はずれ演出パターンコマンドが順に格納されていくことになる。

【 0 2 6 1 】

図 2 2 （ B ）に示す始動入賞時受信コマンドバッファ 0 0 1 S G 1 9 4 A に格納されているコマンドは、飾り図柄の可変表示を開始するとともに、直前に終了した可変表示の保留記憶に対応したエントリ（バッファ番号「1 - 0」または「2 - 0」のエントリ）に格納されているものが削除されるとともに、該開始する可変表示の保留記憶に対応したエントリ（バッファ番号「1 - 1」または「2 - 1」に対応したエントリ）に格納されているものと、該開始する可変表示の保留記憶以降のエントリの記憶内容がシフトされる。例えば図 2 2 （ B ）に示す格納状態において第 1 特図保留記憶の飾り図柄の可変表示が終了した場合には、バッファ番号「0」に格納されている各コマンドが削除され、バッファ番号「0」に格納されている各コマンドがバッファ番号「0」にシフトされるとともに、バッファ番号「2」に対応した領域にて格納されている各コマンドがバッファ番号「0」に対応

10

20

30

40

50

した領域にシフトされ、バッファ番号「3」、「4」のそれぞれに対応した領域にて格納されている各コマンドが、バッファ番号「2」、「3」に対応した領域にシフトされる。よって、バッファ番号「0」は、その時点において可変表示されている保留記憶に関する各コマンドを格納するための領域（エントリ）となる。

【0262】

本実施の形態では、遊技状態が通常状態である場合、バッファ番号「1-0」に格納されているデータにもとづいてアクティブ表示エリア5Fにアクティブ表示が表示されるとともに、バッファ番号「1-1」～「1-4」に格納されているデータにもとづいて保留記憶表示エリア5Uに保留表示が表示されるようになっている。また、遊技状態が時短状態や確変状態である場合、バッファ番号「2-0」に格納されているデータにもとづいてアクティブ表示エリア5Fにアクティブ表示が表示されるとともに、バッファ番号「2-1」～「2-4」に格納されているデータにもとづいて保留記憶表示エリア5Uに保留表示が表示されるようになっている。

10

【0263】

（動作）

次に、パチンコ遊技機1の動作（作用）を説明する。

【0264】

（主基板11の主要な動作）

まず、主基板11における主要な動作を説明する。パチンコ遊技機1に対して電力供給が開始されると、遊技制御用マイクロコンピュータ100が起動し、CPU103によって遊技制御メイン処理が実行される。図23は、主基板11におけるCPU103が実行する遊技制御メイン処理を示すフローチャートである。

20

【0265】

図23に示す遊技制御メイン処理において、CPU103は、まず、割込禁止に設定する（ステップS1）。続いて、必要な初期設定を行う（ステップS2）。初期設定には、スタックポインタの設定、内蔵デバイス（CTC（カウンタ/タイマ回路）、パラレル入出力ポート等）のレジスタ設定、RAM102をアクセス可能状態にする設定等が含まれる。

【0266】

次いで、復旧条件が成立したか否かを判定する（ステップS3）。復旧条件は、クリア信号がオフ状態であり、バックアップデータがあり、バックアップRAMが正常である場合に、成立可能である。パチンコ遊技機1の電力供給が開始されたときに、例えば電源基板17に設けられたクリアスイッチが押下操作されていれば、オン状態のクリア信号が遊技制御用マイクロコンピュータ100に入力される。このようなオン状態のクリア信号が入力されている場合には、ステップS3にて復旧条件が成立していないと判定すればよい。バックアップデータは、遊技制御用のバックアップRAMとなるRAM102に保存可能であればよい。ステップS3では、バックアップデータの有無やデータ誤りの有無などを確認あるいは検査して、復旧条件が成立し得るか否かを判定すればよい。

30

【0267】

復旧条件が成立した場合には（ステップS3；Yes）、遊技機用枠3が開放されているか否かや設定キースwitchの状態等にもとづいて設定値確認条件が成立したか否かを判定する（ステップS4）。設定値確認条件が成立した場合には（ステップS4；Yes）、設定値確認処理として表示モニタに現在設定されている設定値を表示する（ステップS5）。

40

【0268】

そして、設定値確認処理の実行後、または、設定値確認条件が成立していない場合（ステップS4；No）には、復旧処理（ステップS6）を実行した後に、乱数回路設定処理（ステップS12）を実行する。ステップS8の復旧処理により、RAM102の記憶内容に基づいて作業領域の設定が行われる。RAM102に記憶されたバックアップデータを用いて作業領域を設定することで、電力供給が停止したときの遊技状態に復旧し、例え

50

ば特別図柄の変動中であつた場合には、停止前の状態から特別図柄の変動を再開可能であればよい。

【0269】

また、復旧条件が成立しなかつた場合には（ステップS3；No）、遊技機用枠3が開放されているか否かや設定キースwitchの状態等にもとづいて設定値設定条件が成立したか否かを判定する（ステップS7）。設定値設定条件が成立した場合には（ステップS7；Yes）、設定値設定処理を実行する（ステップS8）。本実施の形態の設定値設定処理では、例えば、タッチswitchの操作及び設定キースwitchの操作によって設定されている設定値を設定可能とすればよい。

【0270】

設定値設定処理の実行後、または、設定値設定条件が成立しなかつた場合には（ステップS7；No）、ステップS4及びステップS5と同様に設定値確認条件が成立したか否かの判定及び設定値確認処理を実行する（ステップ9、ステップ10）。設定値確認処理の実行後、または、設定値確認条件が成立しなかつた場合（ステップ9；No）は、初期化処理（ステップS11）を実行した後に、乱数回路設定処理（ステップS12）を実行する。

【0271】

ステップS11の初期化処理は、RAM102に記憶されるフラグ、カウンタ、バッファをクリアするクリア処理を含み、クリア処理の実行により作業領域に初期値が設定される。

【0272】

乱数回路設定処理（ステップS12）の実行後、CPU103は、所定時間（例えば2ms）毎に定期的にタイマ割込がかかるように遊技制御用マイクロコンピュータ100に内蔵されているCTCのレジスタの設定を行い（ステップS13）、割込みを許可する（ステップS14）。その後、ループ処理に入る。以後、所定時間（例えば4ms）ごとにCTCから割込み要求信号がCPU103へ送出され、CPU103は定期的にタイマ割込み処理を実行することができる。

【0273】

こうした遊技制御メイン処理を実行したCPU103は、CTCからの割込み要求信号を受信して割込み要求を受け付けると、図24のフローチャートに示す遊技制御用タイマ割込み処理を実行する。図24に示す遊技制御用タイマ割込み処理を開始すると、CPU103は、まず、所定のスイッチ処理を実行することにより、スイッチ回路110を介してゲートスイッチ21、第1始動口スイッチ22A、第2始動口スイッチ22B、カウントスイッチ23、普通入賞口スイッチ24といった各種スイッチからの検出信号の受信の有無を判定する（ステップS21）。続いて、遊技に関する各種タイマ値（例えば、普通図柄プロセスタイマ、始動口2以上入賞エラー無効タイマ、セキュリティ情報タイマ、情報出力延長タイマ、不正入賞報知無効タイマの値）を減算するためのタイマ減算処理（ステップS22）を実行した後に、第2始動入賞口への異常入賞が発生したか否かを監視するための始動口2異常入賞監視処理（ステップS23）、遊技球が各種入賞口に入賞したことにもとづく入賞指定コマンドや異常入賞の発生にもとづいて該異常入賞を示すエラーコマンドを演出制御基板12に対して送信するための入賞報知処理（ステップS24）、磁石エラーの発生を報知するための磁石エラー報知処理（ステップS25）、電波エラーの発生を報知するための電波エラー報知処理（ステップS26）、各種スイッチの配線の断線や抜けを確認するためのスイッチエラー報知処理（ステップS27）及びスイッチ異常エラー報知処理（ステップS28）、排出球エラーを報知するための排出球エラー報知処理（ステップS29）を実行することによりパチンコ遊技機1の異常診断を行うことで、診断結果に応じて必要ならば警告が発生可能となっている。この後、特図表示結果判定用の乱数値MR1と普図表示結果判定用の乱数値MR6といった遊技用乱数の少なくとも一部を更新するための乱数更新処理（ステップS30）、乱数値MR1や乱数値MR6の初期値決定用の乱数値MR7を更新するための初期値決定用乱数更新処理（ステップS3

10

20

30

40

50

1)、特別図柄の可変表示や大当り遊技状態への制御等を行う特別図柄プロセス処理(ステップS32)、普通図柄の可変表示を行う普通図柄プロセス処理(ステップS33)、大当り遊技状態における大入賞口の開放制御や普図当りに応じた第2始動入賞口の開放制御としてソレノイド81、82の制御を行う役物ソレノイド制御処理(ステップS34)、パチンコ遊技機1の外部に設置されたホール管理用コンピュータに供給される大当り情報(大当りの発生回数等を示す情報)、始動情報(始動入賞の回数等を示す情報)、確率変動情報(確変状態となった回数等を示す情報)などのデータを出力する情報出力処理(ステップS35)、各入賞口への入賞に応じて賞球を付与するための賞球処理(ステップS36)、第1保留表示器25A、第2保留表示器25B、普図保留表示器25Cを構成するLEDを点灯させるためのデータをセットする表示処理(ステップS37)、遊技機の制御状態を遊技機外部で確認できるようにするための試験信号を出力する試験端子処理(ステップS38)、出力ポート0のRAM領域における接続信号に関する内容およびソレノイドに関する内容を出力ポートに出力する出力処理(ステップS39)、特図プロセスフラグの値に応じて特別図柄の可変表示を行うための特別図柄表示制御データを特別図柄表示制御データ設定用の出力バッファに設定する特別図柄表示制御処理(ステップS40)、普図プロセスフラグの値に応じて普通図柄の可変表示を行うための普通図柄表示制御データを普通図柄表示制御データ設定用の出力バッファに設定する普通図柄表示制御処理(ステップS41)、遊技機のエラー状態などを表示させるために遊技機のエラー状態などを示す情報が設定されたコマンドを演出制御基板12に対して送信する枠状態出力処理(ステップS42)、出力バッファに設定されたデータにもとづいて第1特別図柄表示装置4A、第2特別図柄表示装置4B、第1保留表示器25A、第2保留表示器25B、普通図柄表示器20、普図保留表示器25C等を構成するLEDの点灯制御をおこなう表示制御処理(ステップS43)設定キースイッチの状態を確認する設定キー確認処理(ステップS44)、パチンコ遊技機1の背面側に設けられた表示モニタにベース値等を表示する性能表示モニタ制御処理(ステップS45)を実行し、割込みを許可してから(ステップS46)、遊技制御用タイマ割込み処理を終了する。

【0274】

(スイッチ処理)

次に、タイマ割込み処理におけるスイッチ処理(ステップS21)を説明する。本実施の形態では、入賞検出またはゲート通過に関わる各スイッチの検出信号のオン状態が所定時間継続すると、確かにスイッチがオンしたと判定されスイッチオンに対応した処理が開始される。図25は、スイッチ処理で使用するRAM102に形成される各2バイトのバッファを示す説明図である。前回ポートバッファは、前回(例えば4ms前)のスイッチオン/オフの判定結果が格納されるバッファである。ポートバッファは、今回入力したポート3の内容が格納されるバッファである。スイッチオンバッファは、スイッチのオンが検出された場合に対応ビットが1に設定され、スイッチのオフが検出された場合に対応ビットが0に設定されるバッファである。

【0275】

図26は、ステップS21のスイッチ処理の一例を示すフローチャートである。スイッチ処理において、CPU103は、まず、入力ポート3に入力されているデータを入力し(ステップS51)、入力したデータをポートバッファにセットする(ステップS52)。

【0276】

次いで、RAM102に形成されるウェイトカウンタの初期値をセットし(ステップS53)、ウェイトカウンタの値が0になるまで、ウェイトカウンタの値を1ずつ減算する(ステップS54、S55)。

【0277】

ウェイトカウンタの値が0になると、再度、入力ポート3のデータを入力し(ステップS56)、入力したデータとポートバッファにセットされているデータとの間で、ビット毎に論理積をとる(ステップS57)。そして、論理積の演算結果を、ポートバッファに

セットする（ステップ S 5 8）。ステップ S 5 3 ~ S 5 8 の処理によって、ほぼ [ウェイトカウンタの初期値 × (ステップ S 1 0 4, S 1 0 5 の処理時間)] の時間間隔を置いて入力ポート 0 から入力した 2 回の入力データのうち、2 回とも「1」になっているビットのみが、ポートバッファにおいて「1」になる。つまり、所定期間としての [ウェイトカウンタの初期値 × (ステップ S 5 4, S 5 5 の処理時間)] だけスイッチの検出信号のオン状態が継続すると、ポートバッファにおける対応するビットが「1」になる。

【 0 2 7 8 】

さらに、CPU 1 0 3 は、前回ポートバッファにセットされているデータとポートバッファにセットされているデータとの間で、ビット毎に排他的論理和をとる（ステップ S 5 9）。排他的論理和の演算結果において、前回（例えば 4 m s 前）のスイッチオン / オフの判定結果と、今回オンと判定されたスイッチオン / オフの判定結果とが異なっているスイッチに対応したビットが「1」になる。CPU 1 0 3 は、さらに、排他的論理和の演算結果と、ポートバッファにセットされているデータとの間で、ビット毎に論理積をとる（ステップ S 6 0）。この結果、前回のスイッチオン / オフの判定結果と今回オンと判定されたスイッチオン / オフの判定結果とが異なっているスイッチに対応したビット（排他的論理和演算結果による）のうち、今回オンと判定されたスイッチに対応したビット（論理積演算による）のみが「1」として残る。

【 0 2 7 9 】

そして、CPU 1 0 3 は、ステップ S 6 0 における論理積の演算結果をスイッチオンバッファにセットし（ステップ S 6 1）、ステップ S 1 0 8 における演算結果がセットされているポートバッファの内容を前回ポートバッファにセットする（ステップ S 6 2）。

【 0 2 8 0 】

以上の処理によって、所定期間継続してオン状態であったスイッチのうち、前回（例えば 4 m s 前）のスイッチオン / オフの判定結果がオフであったスイッチ、すなわち、オフ状態からオン状態に変化したスイッチに対応したビットが、スイッチオンバッファにおいて「1」になっている。

【 0 2 8 1 】

（乱数更新処理）

次に、タイマ割込み処理における乱数更新処理（ステップ S 3 0）を説明する。図 2 7 には、乱数更新処理の一例を示すフローチャートである。乱数更新処理において CPU 1 0 3 は、まず、特図表示結果判定用乱数カウンタの値（乱数値 M R 1 の値）を特定し（ステップ S 7 1）、該特図表示結果判定用乱数カウンタの値が最大値に達しているか否かを判定する（ステップ S 7 2）。特図表示結果判定用乱数カウンタの値が最大値に達していない場合（ステップ S 7 2 ; N）は、該特図表示結果判定用乱数カウンタの値を + 1 してステップ S 7 5 に進み（ステップ S 7 3）、特図表示結果判定用乱数カウンタの値が最大値に達している場合（ステップ S 7 2 ; Y）は、該特図表示結果判定用乱数カウンタの値に最小値である 1 をセットしてステップ S 7 5 に進む（ステップ S 7 4）。

【 0 2 8 2 】

ステップ S 7 5 において CPU 1 0 3 は、現在の特図表示結果判定用乱数カウンタの値と該特図表示結果判定用乱数カウンタの初期値とを比較する（ステップ S 7 5）。そして、現在の特図表示結果判定用乱数カウンタの値と該特図表示結果判定用乱数カウンタの初期値とが同一値であるか否かを判定する（ステップ S 7 6）。現在の特図表示結果判定用乱数カウンタの値と該特図表示結果判定用乱数カウンタの初期値とが同一値である場合（ステップ S 7 6 ; Y）は、特図表示結果判定用乱数カウンタの値、すなわち、特図表示結果判定用の乱数値 M R 1 の初期値決定用の乱数である乱数値 M R 7 値を抽出し（ステップ S 7 7）、該抽出した乱数値 M R 7 の値を特図表示結果判定用乱数カウンタにセットするとともに（ステップ S 7 8）、該抽出した乱数値 M R 7 の値を特図表示結果判定用乱数カウンタの初期値として記憶する（ステップ S 7 9）。

【 0 2 8 3 】

ステップ S 7 9 の実行後、または、現在の特図表示結果判定用乱数カウンタの値と該特

10

20

30

40

50

図表示結果判定用乱数カウンタの初期値とが同一値ではない場合（ステップ S 7 6 ; N）、CPU 1 0 3 は、普図表示結果判定用乱数カウンタの値（乱数値 M R 6 の値）を特定し（ステップ 8 0）、該普図表示結果判定用乱数カウンタの値が最大値に達しているか否かを判定する（ステップ S 8 1）。普図表示結果判定用乱数カウンタの値が最大値に達していない場合（ステップ S 8 1 ; N）は、該普図表示結果判定用乱数カウンタの値を + 1 してステップ S 8 4 に進み（ステップ S 8 2）、普図表示結果判定用乱数カウンタの値が最大値に達している場合（ステップ S 8 1 ; Y）は、該普図表示結果判定用乱数カウンタの値に最小値である 1 をセットしてステップ S 8 4 に進む（ステップ S 8 3）。

【 0 2 8 4 】

ステップ S 8 4 において CPU 1 0 3 は、現在の普図表示結果判定用乱数カウンタの値と該普図表示結果判定用乱数カウンタの初期値とを比較する（ステップ S 8 4）。そして、現在の普図表示結果判定用乱数カウンタの値と該普図表示結果判定用乱数カウンタの初期値とが同一値であるか否かを判定する（ステップ S 8 5）。現在の普図表示結果判定用乱数カウンタの値と該普図表示結果判定用乱数カウンタの初期値とが同一値である場合（ステップ S 8 5 ; Y）は、普図表示結果判定用乱数カウンタの値、すなわち、普図表示結果判定用の乱数値 M R 6 の初期値決定用の乱数である乱数値 M R 7 値を抽出し（ステップ S 8 6）、該抽出した乱数値 M R 7 の値を普図表示結果判定用乱数カウンタにセットするとともに（ステップ S 8 7）、該抽出した乱数値 M R 7 の値を普図表示結果判定用乱数カウンタの初期値として記憶し（ステップ S 8 8）、乱数更新処理を終了する。尚、現在の普図表示結果判定用乱数カウンタの値と該普図表示結果判定用乱数カウンタの初期値とが同一値ではない場合（ステップ S 8 5 ; N）は、ステップ S 8 6 ~ ステップ S 8 8 を実行せずに乱数更新処理を終了する。

【 0 2 8 5 】

尚、本実施の形態では、特図表示結果判定用の乱数値 M R 1 と普図表示結果判定用の乱数値 M R 6 とは共に 1 ~ 6 5 5 3 6 の値をとるため、上記したステップ S 7 4 では特図表示結果判定用乱数カウンタの値を 1、上記したステップ S 8 3 では普図表示結果判定用乱数カウンタの値を 1 にそれぞれセットする形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、特図表示結果判定用の乱数値 M R 1 と普図表示結果判定用の乱数値 M R 6 との取り得る値の範囲を 0 ~ 6 5 5 3 5 とし、上記したステップ S 7 4 では特図表示結果判定用乱数カウンタの値を 0、上記したステップ S 8 3 では普図表示結果判定用乱数カウンタの値を 0 にそれぞれセットしてもよい。

【 0 2 8 6 】

（特別図柄プロセス処理）

図 2 8 は、特別図柄プロセス処理として、図 2 4 に示すステップ S 3 2 にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。この特別図柄プロセス処理において、CPU 1 0 3 は、まず、図 2 0 に示す入力ポート 3 を参照する等することで、第 1 始動入賞口と第 2 始動入賞口のいずれかに遊技球が入賞したか否か、つまり、始動入賞が発生したか否かを判定する（ステップ S 1 0 0）。第 1 始動入賞口と第 2 始動入賞口のいずれかに遊技球が入賞した場合（ステップ S 1 0 0 ; Y）は、始動口スイッチ通過処理を実行する（ステップ S 1 0 1）。

【 0 2 8 7 】

始動口スイッチ通過処理では、始動入賞の発生を検出し、RAM 1 0 2 の所定領域に保留情報を格納し保留記憶数を更新する処理が実行される。始動入賞が発生すると、表示結果（大当り種別を含む）や変動パターンを決定するための乱数値が抽出され、保留情報として記憶される。また、抽出した乱数値に基づいて、表示結果や変動パターンを先読判定する処理が実行されてもよい。また、保留情報や保留記憶数を記憶した際には、演出制御基板 1 2 に始動入賞の発生、保留記憶数、先読判定等の判定結果を指定するための演出制御コマンドの送信が行われる。

【 0 2 8 8 】

ステップ S 1 0 1 にて始動口スイッチ通過処理を実行した後、または、第 1 始動入賞口

と第2始動入賞口のどちらにも遊技球が入賞していない場合（ステップS100；N）CPU103は、RAM102に設けられた特図プロセスフラグの値に応じて、ステップS110～S116の処理のいずれかを選択して実行する。尚、特別図柄プロセス処理の各処理（ステップS110～S116）では、各処理に対応した演出制御コマンドを演出制御基板12に送信する処理が行われる。

【0289】

ステップS110の特別図柄通常処理は、特図プロセスフラグの値が“0”（初期値）のときに実行される。この特別図柄通常処理では、保留情報の有無などに基づいて、第1特図ゲームまたは第2特図ゲームを開始するか否かの判定が行われる。また、特別図柄通常処理では、表示結果決定用の乱数値に基づき、特別図柄や飾り図柄の表示結果を「大当り」とするか否かや「大当り」とする場合の大当り種別を、その表示結果が導出表示される以前に決定（事前決定）する。さらに、特別図柄通常処理では、決定された表示結果に対応して、特図ゲームにおいて停止表示させる確定特別図柄（大当り図柄、はずれ図柄のいずれか）が設定される。その後、特図プロセスフラグの値が“1”に更新され、特別図柄通常処理は終了する。尚、本実施の形態では、第2特図を用いた特図ゲームが第1特図を用いた特図ゲームよりも優先して実行されるようになっている（特図2優先消化ともいう）。また、第1始動入賞口および第2始動入賞口への遊技球の入賞順序を記憶し、入賞順に特図ゲームの開始条件を成立させるようにしてもよい（入賞順消化ともいう）。

10

【0290】

乱数値に基づき各種の決定を行う場合には、ROM101に格納されている各種のテーブル（乱数値と比較される決定値が決定結果に割り当てられているテーブル）が参照される。主基板11における他の決定、演出制御基板12における各種の決定についても同じである。演出制御基板12においては、各種のテーブルがROM121に格納されている。

20

【0291】

また、特別図柄通常処理では、表示結果を「大当り」とするか否かの事前決定結果等に基づき、変動パターン決定用の乱数値を用いて変動パターンを複数種類のいずれかに決定する処理（変動パターン設定）も行われる。

【0292】

変動パターンは、特図ゲームの実行時間（特図可変表示時間）（飾り図柄の可変表示の実行時間でもある）や、飾り図柄の可変表示の態様（リーチの有無等）、飾り図柄の可変表示中の演出内容（リーチ演出の種類等）を指定するものであり、可変表示パターンとも呼ばれる。

30

【0293】

ステップS111の特別図柄変動処理は、特図プロセスフラグの値が“1”のときに実行される。この特別図柄変動処理には、第1特別図柄表示装置4Aや第2特別図柄表示装置4Bにおいて特別図柄を変動させるための設定を行う処理や、その特別図柄が変動を開始してからの経過時間を計測する処理などが含まれている。また、計測された経過時間が変動パターンに対応する特図可変表示時間に達したか否かの判定も行われる。そして、特別図柄の変動を開始してからの経過時間が特図可変表示時間に達したときには、特図プロセスフラグの値が“2”に更新され、特別図柄変動処理は終了する。

40

【0294】

ステップS112の特別図柄停止処理は、特図プロセスフラグの値が“2”のときに実行される。この特別図柄停止処理には、第1特別図柄表示装置4Aや第2特別図柄表示装置4Bにて特別図柄の変動を停止させ、特別図柄の表示結果となる確定特別図柄を停止表示（導出）させるための設定を行う処理が含まれている。そして、表示結果が「大当り」である場合には特図プロセスフラグの値が“3”に更新され、表示結果が「はずれ」である場合には特図プロセスフラグの値が“0”に更新される。表示結果が「はずれ」である場合、時短状態や確変状態に制御されているときであって、回数切りの終了成立する場合には、遊技状態も更新される。特図プロセスフラグの値が更新されると、特別図柄停止処理は終

50

了する。

【 0 2 9 5 】

ステップ S 1 1 3 の大入賞口開放前処理は、特図プロセスフラグの値が “ 3 ” のときに実行される。この大入賞口開放前処理には、表示結果が「大当り」となったことなどに基づき、大当り遊技状態においてラウンドの実行を開始して大入賞口を開放状態とするための設定を行う処理などが含まれている。大入賞口を開放状態とするときには、大入賞口扉用のソレノイド 8 2 に対してソレノイド駆動信号を供給する処理が実行される。このときには、例えば大当り種別がいずれであるかに対応して、大入賞口を開放状態とする開放上限期間や、ラウンドの上限実行回数を設定する。これらの設定が終了すると、特図プロセスフラグの値が “ 4 ” に更新され、大入賞口開放前処理は終了する。

10

【 0 2 9 6 】

ステップ S 1 1 4 の大当り開放中処理は、特図プロセスフラグの値が “ 4 ” のときに実行される。この大当り開放中処理には、大入賞口を開放状態としてからの経過時間を計測する処理や、その計測した経過時間やカウントスイッチ 2 3 によって検出された遊技球の個数などに基づいて、大入賞口を開放状態から閉鎖状態に戻すタイミングとなったか否かを判定する処理などが含まれている。そして、大入賞口を閉鎖状態に戻すときには、大入賞口扉用のソレノイド 8 2 に対するソレノイド駆動信号の供給を停止させる処理などを実行した後、特図プロセスフラグの値が “ 5 ” に更新され、大当り開放中処理は終了する。

【 0 2 9 7 】

ステップ S 1 1 5 の大当り開放後処理は、特図プロセスフラグの値が “ 5 ” のときに実行 20 される。この大当り開放後処理には、大入賞口を開放状態とするラウンドの実行回数が設定された上限実行回数に達したか否かを判定する処理や、上限実行回数に達した場合に大当り遊技状態を終了させるための設定を行う処理などが含まれている。そして、ラウンドの実行回数が上限実行回数に達していないときには、特図プロセスフラグの値が “ 4 ” に更新される一方、ラウンドの実行回数が上限実行回数に達したときには、特図プロセスフラグの値が “ 6 ” に更新される。特図プロセスフラグの値が更新されると、大当り開放後処理は終了する。

【 0 2 9 8 】

ステップ S 1 1 6 の大当り終了処理は、特図プロセスフラグの値が “ 6 ” のときに実行さ 30 れる。この大当り終了処理には、大当り遊技状態の終了を報知する演出動作としてのエンディング演出が実行される期間に対応した待ち時間が経過するまで待機する処理や、大当り遊技状態の終了に対応して確変制御や時短制御を開始するための各種の設定を行う処理などが含まれている。こうした設定が行われたときには、特図プロセスフラグの値が “ 0 ” に更新され、大当り終了処理は終了する。

【 0 2 9 9 】

(始動口スイッチ通過処理)

図 2 9 は、図 2 8 に示す始動口スイッチ通過処理 (S 1 0 1) を示すフローチャートである。始動口スイッチ通過処理において C P U 1 0 3 は、先ず、入賞球装置 6 A が形成する第 1 始動入賞口に対応して設けられた第 1 始動口スイッチ 2 2 A からの検出信号に基づき、第 1 始動口スイッチ 2 2 A がオンであるか否かを判定する (0 0 1 S G S 1 0 1) 。 40 このとき、第 1 始動口スイッチ 2 2 A がオンであれば (0 0 1 S G S 1 0 1 ; Y) 、第 1 特図を用いた特図ゲームの保留記憶数である第 1 特図保留記憶数が、所定の上限値 (例えば上限記憶数としての「 4 」) となっているか否かを判定する (0 0 1 S G S 1 0 2) 。 C P U 1 0 3 は、例えば遊技制御カウンタ設定部 0 0 1 S G 1 5 4 に設けられた第 1 特図保留記憶数カウンタの格納値である第 1 特図保留記憶数カウンタ値を読み取ることにより、第 1 特図保留記憶数を特定できればよい。 0 0 1 S G S 1 0 2 にて第 1 特図保留記憶数が上限値ではないときには (0 0 1 S G S 1 0 2 ; N) 、例えば遊技制御バッファ設定部 0 0 1 S G 1 5 5 に設けられた始動口バッファの格納値を、「 0 」に設定する (0 0 1 S G S 1 0 3) 。

【 0 3 0 0 】

50

001SGS101にて第1始動口スイッチ22Aがオフであるときや(001SGS101;N)、001SGS102にて第1特図保留記憶数が上限値に達しているときには(001SGS102;Y)、可変入賞球装置6Bが形成する第2始動入賞口に対応して設けられた第2始動口スイッチ22Bからの検出信号に基づき、第2始動口スイッチ22Bがオンであるか否かを判定する(001SGS104)。このとき、第2始動口スイッチ22Bがオンであれば(001SGS104;Y)、第2特図を用いた特図ゲームの保留記憶数である第2特図保留記憶数が、所定の上限値(例えば上限記憶数としての「4」)となっているか否かを判定する(001SGS105)。CPU103は、例えば遊技制御カウンタ設定部001SG154に設けられた第2特図保留記憶数カウンタの格納値である第2特図保留記憶数カウンタ値を読み取ることにより、第2特図保留記憶数を特

10

【0301】

001SGS103, 001SGS106の処理のいずれかを実行した後は、始動口バッファの格納値である始動口バッファ値に応じた特図保留記憶数を1加算するように更新する(001SGS107)。例えば、始動口バッファ値が「0」であるときには第1特図保留記憶数カウンタ値を1加算する一方で、始動口バッファ値が「2」であるときには第2特図保留記憶数カウンタ値を1加算する。こうして、第1特図保留記憶数カウンタ値は、第1始動入賞口を遊技球が通過(進入)して第1特図を用いた特図ゲームに対応した第1始動条件が成立したときに、1増加するように更新される。また、第2特図保留記憶数カウンタ値は、第2始動入賞口を遊技球が通過(進入)して第2特図を用いた特図ゲームに対応した第2始動条件が成立したときに、1増加するように更新される。このときには、合計保留記憶数も1加算するように更新する(001SGS108)。例えば、遊技制御カウンタ設定部001SG154に設けられた合計保留記憶数カウンタの格納値である合計保留記憶数カウンタ値を、1加算するように更新すればよい。

20

【0302】

001SGS108の処理を実行した後に、CPU103は、乱数回路104や遊技制御カウンタ設定部001SG154のランダムカウンタによって更新されている数値データのうちから、特図表示結果判定用の乱数値MR1や大当たり種別判定用の乱数値MR2、はずれ演出判定用の乱数値MR3、変動パターン種別判定用の乱数値MR4、変動パターン判定用の乱数値MR5抽出し、抽出した乱数値MR1を特図表示結果判定用乱数バッファ001SG155A、抽出した乱数値MR2を大当たり種別判定用乱数バッファ001SG155B、抽出した乱数値MR3をはずれ演出判定用乱数バッファ001SG155C、抽出した乱数値MR4を変動パターン種別判定用乱数バッファ001SG155D、抽出した乱数値MR5を変動パターン判定用乱数バッファ001SG155Eにそれぞれ格納する(001SGS109~001SGS118)。

30

【0303】

また、CPU103は、始動口バッファ値と該始動口バッファ値に応じた保留記憶数カウンタ値から第1特別図柄バッファ001SG151A、第2特別図柄バッファ001SG151Bにおける乱数値MR1~MR5の転送先をセットする(001SGS119)。そして、特図表示結果判定用乱数バッファ001SG155A、大当たり種別判定用乱数バッファ001SG155B、はずれ演出判定用乱数バッファ001SG155C、変動パターン種別判定用乱数バッファ001SG155D、変動パターン判定用乱数バッファ001SG155Eに格納されている乱数値MR1~MR5をステップ001SGS19においてセットした転送先に転送する(001SGS120)。

40

【0304】

特図表示結果判定用の乱数値MR1や大当たり種別判定用の乱数値MR2を示す数値データは、特別図柄や飾り図柄の可変表示結果を「大当たり」とするか否か、更には可変表示結果を「大当たり」とする場合の大当たり種別を判定するために用いられる。はずれ演出判定用

50

の乱数値 M R 3、変動パターン種別判定用の乱数値 M R 4、変動パターン判定用の乱数値 M R 5 は、特別図柄や飾り図柄の可変表示時間を含む変動パターンを判定するために用いられる。C P U 1 0 3 は、0 0 1 S G S 1 0 9 ~ 0 0 1 S G S 1 2 0 の処理を実行することにより、特別図柄や飾り図柄の可変表示結果や可変表示時間を含む可変表示態様の判定に用いられる乱数値のうち全部を示す数値データを抽出し、保留情報（保留記憶）として記憶する。

【 0 3 0 5 】

つまり、本実施の形態の始動口スイッチ通過処理においては、図 9 3 (A) に示すように、C P U 1 0 3 は、第 1 始動口への入賞が発生したことにもとづいて、乱数値 M R 1 ~ M R 5 の値を抽出し、これら抽出した乱数値 M R 1 ~ M R 5 の値を一旦遊技制御バッファ設定部 0 0 1 S G S 1 5 5 内の特図表示結果判定用乱数バッファ 0 0 1 S G 1 5 5 A、大当たり種別判定用乱数バッファ 0 0 1 S G 1 5 5 B、はずれ演出判定用乱数バッファ 0 0 1 S G 1 5 5 C、変動パターン種別判定用乱数バッファ 0 0 1 S G 1 5 5 D、変動パターン判定用乱数バッファ 0 0 1 S G 1 5 5 E に格納する。そして、C P U 1 0 3 は、図 9 3 (B) に示すように、第 1 特別図柄バッファ 0 0 1 S G 1 5 1 A における保留番号「 1 」 ~ 「 4 」のエントリのうちの空きエントリの先頭に、特図表示結果判定用乱数バッファ 0 0 1 S G 1 5 5 A、大当たり種別判定用乱数バッファ 0 0 1 S G 1 5 5 B、はずれ演出判定用乱数バッファ 0 0 1 S G 1 5 5 C、変動パターン種別判定用乱数バッファ 0 0 1 S G 1 5 5 D、変動パターン判定用乱数バッファ 0 0 1 S G 1 5 5 E に格納されている乱数値 M R 1 ~ M R 5 の値を転送し、保留記憶として記憶する。

【 0 3 0 6 】

尚、図 9 3 の例では、第 1 始動口への入賞が発生した場合の乱数値 M R 1 ~ M R 5 の値の格納・転送について説明したが、第 2 始動口への入賞が発生した場合は、特図表示結果判定用乱数バッファ 0 0 1 S G 1 5 5 A、大当たり種別判定用乱数バッファ 0 0 1 S G 1 5 5 B、はずれ演出判定用乱数バッファ 0 0 1 S G 1 5 5 C、変動パターン種別判定用乱数バッファ 0 0 1 S G 1 5 5 D、変動パターン判定用乱数バッファ 0 0 1 S G 1 5 5 E に格納されている乱数値 M R 1 ~ M R 5 の値の転送先が第 2 特別図柄バッファ 0 0 1 S G 1 5 1 B となるのみであるので、説明を省略する。

【 0 3 0 7 】

図 2 9 において C P U 1 0 3 は、入賞時演出処理 (0 0 1 S G S 1 2 2) を実行した後、例えば R O M 1 0 1 における保留記憶数通知コマンドテーブルの記憶アドレスを送信コマンドバッファにおいて送信コマンドポインタによって指定されたバッファ領域に格納することなどにより、演出制御基板 1 2 に対して保留記憶数通知コマンドを送信する (0 0 1 S G S 1 2 3) 。

【 0 3 0 8 】

次いで、C P U 1 0 3 は、始動口バッファ値が「 0 」であるか否かを判定する (0 0 1 S G S 1 2 4)。このとき、始動口バッファ値が「 0 」であれば (0 0 1 S G S 1 2 4 ; Y) 始動口バッファをクリアして、その格納値を「 0 」に初期化してから (0 0 1 S G S 1 2 6)、2 3 9 0 S G S 1 0 4 の処理に進む。これに対して、始動口バッファ値が「 2 」であるときには (0 0 1 S G S 1 2 4 ; N)、始動口バッファをクリアして、その格納値を「 0 」に初期化してから (0 0 1 S G S 1 2 5)、始動入賞処理を終了する。これにより、第 1 始動口スイッチ 2 2 A と第 2 始動口スイッチ 2 2 B の双方が同時に有効な遊技球の始動入賞を検出した場合でも、確実に双方の有効な始動入賞の検出に基づく処理を完了できる。

【 0 3 0 9 】

(入賞時演出処理)

図 3 0 (A) は、入賞時演出処理として、図 2 9 のステップ 0 0 1 S G S 1 2 2 にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。特別図柄や飾り図柄の可変表示が開始されるときには、後述する特別図柄通常処理により、特図表示結果 (特別図柄の可変表示結果) を「大当たり」として大当たり遊技状態に制御するか否かの判定が行われる。また、後

述する変動パターン設定処理において、飾り図柄の可変表示態様を具体的に規定する変動パターンの判定などが行われる。他方、これらの判定とは別に、遊技球が始動入賞口（第1始動入賞口または第2始動入賞口）にて検出されたタイミングで、CPU103がステップ001SGS112の入賞時演出処理を実行することにより、特図表示結果として大当り図柄を停止表示すると判定されるか否かの判定や、飾り図柄の可変表示態様がスーパーリーチを伴う所定表示態様となるか否かの判定などを行う。これにより、始動入賞口に進入した遊技球の検出に基づく特別図柄や飾り図柄の可変表示が開始されるより前、つまり、該可変表示の開始時に大当りとするか否かが決定されるよりも前に、特図表示結果が「大当り」となることや、飾り図柄の可変表示態様がいずれのはずれ演出パターンとなるかを判定し、この判定結果に基づいて、演出制御用CPU120などにより、後述するよ

10

【0310】

図30(A)に示す入賞時演出処理において、CPU103は、まず、例えば遊技制御フラグ設定部001SG152などに設けられた時短フラグや確変フラグの状態を確認することなどにより、パチンコ遊技機1における現在の設定されている設定値を特定する（ステップ001SGS131）。該ステップ001SGS131の処理では、例えば、設定されている設定値が正常な値（例えば「1」）がセットされているか否かを特定すればよい。また、設定値として異常な値がセットされている場合は、該異常な値がセットされている旨を示すコマンドを外部に出力する処理を実行してもよい。

【0311】

ステップ001SGS131の処理に続いて、CPU103は、特図表示結果判定テーブルを選択してセットする（ステップ001SGS132）。その後、図29のステップ001SGS109にて抽出された特図表示結果判定用の乱数値MR1を示す数値データが所定の大当り判定範囲内であるか否かを判定する（ステップ001SGS133）。大当り判定範囲には、ステップ001SGS132の処理により選択された特図表示結果判定テーブルにおいて「大当り」の特図表示結果に割り当てられた個々の判定値が設定され、CPU103が乱数値MR1と各判定値とを逐一比較することにより、乱数値MR1と合致する判定値の有無を判定できればよい。あるいは、大当り判定範囲に含まれる判定値の最小値（下限値）と最大値（上限値）とを示す数値を設定して、CPU103が乱数値MR1と大当り判定範囲の最小値や最大値とを比較することにより、乱数値MR1が大当り判定範囲の範囲内であるか否かを判定できればよい。このとき、乱数値MR1が大当り判定範囲の範囲内であると判定されることにより、その乱数値MR1を含む保留データに基づく可変表示結果が「大当り」に決定されると判定できる。

20

30

【0312】

ステップ001SGS133にて大当り判定範囲内ではないと判定された場合、つまり、可変表示において大当りとならないと判定された場合には（ステップ001SGS133；N）、可変表示結果が「はずれ」となることに応じた図柄指定コマンドである第1図柄指定コマンドの送信を実行し（ステップ001SGS134）、図10に示すはずれ演出判定テーブルを選択する（ステップ001SGS135）。そして、図29のステップ001SGS113にて抽出されたはずれ演出判定用の乱数値MR3を示す数値データが非リーチの判定範囲であるか否かを判定する（ステップ001SGS136）。乱数値MR3を示す数値データが非リーチの判定範囲内である場合（ステップ001SGS136；Y）は、非リーチに応じたはずれ演出パターン指定コマンド（図30(B)参照）を送信して入賞時演出処理を終了し（ステップ001SGS144）、乱数値MR3を示す数値データが非リーチの判定範囲外である場合（ステップ001SGS136；N）は、確変フラグがセットされているか否か、つまり、遊技状態が確変状態（高確高ベース状態）であるか否かを判定する（ステップ001SGS137）。

40

【0313】

確変フラグがセットされている場合（ステップ001SGS137；Y）は、図11(C)に示す変動パターン種別判定テーブルCをセットしてステップ001SGS142に

50

進み（ステップ001SGS141）、確変フラグがセットされていない場合（ステップ001SGS137；N）は、更に時短フラグがセットされているか否か、つまり、遊技状態が時短状態（低確高ベース状態）であるか否かを判定する（ステップ001SGS138）。時短フラグがセットされていない場合（ステップ001SGS138；N）は、図11（A）に示す変動パターン種別判定テーブルAをセットしてステップ001SGS142に進み（ステップ001SGS139）、時短フラグがセットされている場合（ステップ001SGS138；Y）は、図11（B）に示す変動パターン種別判定テーブルBをセットしてステップ001SGS142に進む（ステップ001SGS140）。

【0314】

10

ステップ001SGS142においてCPU103は、上記ステップ001SGS139～ステップ001SGS141のいずれかにおいてセットした変動パターン種別判定テーブルと乱数値MR4の数値データにもとづいてはずれ演出パターンを判定する（ステップ001SGS42）。そして、乱数値MR4の数値データがノーマルリーチの判定値の範囲内である場合は、ノーマルリーチに応じたはずれ演出パターンコマンド、乱数値MR4の数値データがスーパーリーチ、スーパーリーチ、スーパーリーチの判定値の範囲内である場合は、スーパーリーチに応じたはずれ演出パターンコマンド（図30（B）参照）を演出制御基板12に送信して入賞時演出処理を終了する（ステップ001SGS143）。

【0315】

20

尚、ステップ001SGS133において乱数値MR1の数値データが大当りの判定範囲内である場合（ステップ001SGS133；Y）、CPU103は、乱数値MR2の数値データと図9（A）に示す大当り種別判定テーブルとにより大当り種別を判定し（ステップ001SGS145）、該判定した大当り種別に応じた図柄指定コマンドを演出制御基板12に送信して入賞時演出処理を終了する（ステップ001SGS146）。

【0316】

（特別図柄通常処理）

図31は、特別図柄通常処理として、図28のS110にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。図31に示す特別図柄通常処理において、CPU103は、まず、第2特図保留記憶数が「0」であるか否かを判定する（ステップ001SGS151）。第2特図保留記憶数は、第2特別図柄表示装置4Bによる第2特図を用いた特図ゲームの保留記憶数である。例えば、ステップ001SGS151の処理では、遊技制御カウンタ設定部に記憶されている第2特図保留記憶数カウント値を読み出し、その読出値が「0」であるか否かを判定すればよい。

30

【0317】

ステップ001SGS151にて第2特図保留記憶数が「0」以外であるときには（ステップ001SGS151；N）、変動特図指定バッファの格納値である変動特図指定バッファ値を「2」に更新した後（ステップ001SGS153）、ステップ001SGS157に進む。

【0318】

40

一方、第2特図保留記憶数が「0」である場合（ステップ001SGS151；Y）は、更に、第1特図保留記憶数が「0」であるか否かを判定する（ステップ001SGS154）。第1特図保留記憶数は、第1特別図柄表示装置4Aによる第1特図を用いた特図ゲームの保留記憶数である。例えば、ステップ001SGS154の処理では、遊技制御カウンタ設定部に記憶されている第1特図保留記憶数カウント値を読み出し、その読出値が「0」であるか否かを判定すればよい。

【0319】

ステップ001SGS154にて第1特図保留記憶数が「0」以外であるときには（ステップ001SGS154；N）、変動特図指定バッファの格納値である変動特図指定バッファ値を「1」に更新した後（ステップ001SGS156）、ステップ001SGS

50

157に進む。これにより、第2特図を用いた特図ゲームは、第1特図を用いた特図ゲームよりも優先して実行が開始されることになる。

【0320】

尚、第2特図を用いた特図ゲームが第1特図を用いた特図ゲームよりも優先して実行されるものに限定されず、例えば第1始動入賞口や第2始動入賞口を遊技球が進入（通過）して始動入賞が発生した順に、特図ゲームの実行が開始されるようにしてもよい。この場合には、始動入賞が発生した順番を特定可能なデータを記憶するテーブルを設けて、その記憶データから第1特図と第2特図のいずれを用いた特図ゲームの実行を開始するかを決定できればよい。

【0321】

ステップ001SGS157の処理では、変動特図指定バッファ値に応じた特図保留記憶数カウンタ値を-1する。例えば、変動特図指定バッファ値が「1」である場合は第1特図保留記憶数カウンタ値を-1し、変動特図指定バッファ値が「2」である場合は第1特図保留記憶数カウンタ値を-1すればよい。

【0322】

そして、CPU103は、可変表示結果が大当たりとはずれのどちらかとなるかを判定する特別図柄判定処理（ステップ001SGS158）、変動パターンを決定する変動パターン設定処理（ステップ001SGS159）を実行した後、特図プロセスフラグ値を特別図柄変動処理に応じた値に更新して特別図柄通常処理を終了する（ステップ001SGS160）。

【0323】

尚、ステップ001SGS154において第1特図保留記憶数が0である場合（ステップ001SGS154；Y）、CPU103は、デモ表示演出を実行するための設定やコマンド（例えば、デモ表示演出指定コマンド）の送信を実行して特別図柄通常処理を終了する（ステップ001SGS161）。尚、ステップ001SGS61においてCPU103がデモ表示演出を実行するための設定やコマンドの送信を実行した場合は、特別図柄の可変表示を実行可能な状態であるものの、第1特図保留記憶数や第2特図保留記憶数が0個であることによって特別図柄の可変表示が実行されていない客待ち状態となる。

【0324】

（特別図柄判定処理）

図32は、図31に示す特別図柄判定処理の一例を示すフローチャートである。特別図柄判定処理においてCPU103は、先ず、特別図柄バッファシフト処理を実行する（ステップ001SGS171）。特別図柄バッファシフト処理は、例えば、図33に示すように、変動特図指定バッファ値が「1」であるか否か、つまり、これらか実行する可変表示が第1特別図柄の可変表示であるか否かを判定する（ステップ001SGS181）。

【0325】

変動特図指定バッファ値が「1」である場合（ステップ001SGS181；Y）は、図19に示す第1特別図柄バッファ001SG151Aにおける保留番号「1」のエントリ内容を保留番号「0」のエントリの内容として上書きする（ステップ001SGS182）。更に、第1特別図柄バッファ001SG151Aにおける保留番号「2」のエントリの内容を保留番号「1」のエントリの内容として上書きし（ステップ001SGS183）、第1特別図柄バッファ001SG151Aにおける保留番号「3」のエントリの内容を保留番号「2」のエントリの内容として上書きし（ステップ001SGS184）、第1特別図柄バッファ001SG151Aにおける保留番号「4」のエントリの内容を保留番号「3」のエントリの内容として上書きし（ステップ001SGS185）、第1特別図柄バッファ001SG151Aにおける保留番号「4」のエントリの内容をクリアする（ステップ001SGS186）。

【0326】

このように、ステップ001SGS182～ステップ001SGS186の処理を実行することで、第1特別図柄バッファ001SG151Aにおいて保留記憶の上位エントリの

10

20

30

40

50

シフトが実現される。

【0327】

そして、第1特別図柄バッファ001SG151Aにおいて乱数値MR1～MR5の数値データが格納されているエントリ数に応じた第1特図保留記憶数通知コマンドを演出制御基板12に対して送信して特別図柄バッファシフト処理を終了する(ステップ001SGS187)。

【0328】

一方で、変動特図指定バッファ値が「2」である場合(ステップ001SGS181; N)は、図19に示す第2特別図柄バッファ001SG151Bにおける保留番号「1」のエントリ内容を保留番号「0」のエントリの内容として上書きする(ステップ001SGS188)。更に、第2特別図柄バッファ001SG151Bにおける保留番号「2」のエントリの内容を保留番号「1」のエントリの内容として上書きし(ステップ001SGS189)、第2特別図柄バッファ001SG151Bにおける保留番号「3」のエントリの内容を保留番号「2」のエントリの内容として上書きし(ステップ001SGS190)、第2特別図柄バッファ001SG151Bにおける保留番号「4」のエントリの内容を保留番号「3」のエントリの内容として上書きし(ステップ001SGS191)、第2特別図柄バッファ001SG151Bにおける保留番号「4」のエントリの内容をクリアする(ステップ001SGS192)。

【0329】

このように、ステップ001SGS188～ステップ001SGS192の処理を実行することで、第2特別図柄バッファ001SG151Bにおいて保留記憶の上位エントリのシフトが実現される。

【0330】

そして、第2特別図柄バッファ001SG151Bにおいて乱数値MR1～MR5の数値データが格納されているエントリ数に応じた第2特図保留記憶数通知コマンドを演出制御基板12に対して送信して特別図柄バッファシフト処理を終了する(ステップ001SGS193)。

【0331】

つまり、本実施の形態における特別図柄バッファシフト処理では、図94(A)～図94(E)及び図95(A)～図95(F)に示すように、CPU103は、特別図柄バッファ(図94、図95に示す例では第1特別図柄バッファ001SG151A)において、記憶されている保留記憶数にかかわらず、先ず、保留番号「1」のエントリの記憶内容を保留番号「0」のエントリにコピーする処理を行う。次に、CPU103は、保留番号「2」のエントリの記憶内容を保留番号「1」のエントリにコピーする処理、保留番号「3」のエントリの記憶内容を保留番号「2」のエントリにコピーする処理、保留番号「4」のエントリの記憶内容を保留番号「3」のエントリにコピーする処理を順次実行していく。

【0332】

尚、図95(E)に示すように、保留記憶数が4個であるときに特別図柄バッファ処理が実行される場合は、保留番号「4」のエントリの記憶内容を保留番号「3」のエントリにコピーする処理を実行すると、保留番号「3」のエントリと保留番号「4」のエントリとに同一のデータが存在する(保留番号「3」のエントリと保留番号「4」のエントリとの両方に特別図柄バッファ処理の実行前の保留番号「4」のエントリのデータが記憶されている)ことになる。このため、本実施の形態の特別図柄バッファ処理では、最後に保留番号「4」のエントリの記憶内容を消去(クリア)することによって、保留記憶数の減少を行っている。

【0333】

更に尚、本実施の形態における特別図柄バッファシフト処理では、保留記憶数が4個である場合は図95(E)のように保留番号「3」のエントリと保留番号「4」のエントリとに同一のデータが存在する状況が発生するため、保留番号「4」のエントリの記憶内容

10

20

30

40

50

を消去する処理を実行する必要があるが、図 9 4 に示すように、保留記憶数が 3 個以下である場合は保留番号「4」のエントリの記憶内容を消去する処理を実行する必要が無い。しかしながら、仮に記憶されている保留記憶数に応じて特別図柄バッファシフト処理の処理内容を異なせると該特別図柄バッファシフト処理を実行するためのデータ量が多くなってしまうため、本実施の形態では、記憶されている保留記憶数にかかわらずに共通の処理（保留番号「2」のエントリの記憶内容を保留番号「1」のエントリにコピーする処理、保留番号「3」のエントリの記憶内容を保留番号「2」のエントリにコピーする処理、保留番号「4」のエントリの記憶内容を保留番号「3」のエントリにコピーする処理及び保留番号「4」のエントリの記憶内容を消去する処理）を実行することによって、該特別図柄バッファシフト処理を実行するためのデータ量の増加を抑えている。

10

【0334】

図 3 2 の特別図柄判定処理に戻り、CPU 103 は、変動特図指定バッファ値に応じた特別図柄バッファの保留番号「0」のエントリから、乱数値 MR 1 ~ MR 5 を読み出す（ステップ 001SGS172）。そして設定されている設定値を特定するとともに（ステップ 001SGS173）、該設定値に応じた表示結果判定テーブルを選択し（ステップ 001SGS174）、読み出した乱数値 MR 1 が選択した表示結果判定テーブルにおける大当たり判定値の範囲内であるか否かを判定する（ステップ 001SGS175）。尚、該ステップ 001SGS175 の処理では、遊技状態が通常状態や時短状態である場合は、乱数値 MR 1 がこれら通常状態や時短状態における大当たり判定値の範囲内であるか否かを判定し、遊技状態が確変状態である場合は、乱数値 MR 1 が確変状態における大当たり判定値の範囲内であるか否かを判定すればよい。

20

【0335】

乱数値 MR 1 の値が大当たりの判定値の範囲内である場合は、可変表示結果が大当たりであるとして、大当たりフラグをオン状態とする（ステップ 001SGS176）。このときには、大当たり種別を複数種類のいずれかに決定するための使用テーブルとして、図 9（A）に示す大当たり種別判定テーブルを選択してセットする（ステップ 001SGS177）。こうしてセットされた大当たり種別判定テーブルを参照することにより、読み出した大当たり種別判定用の乱数値 MR 2 を示す数値データと、大当たり種別判定テーブルにおいて「非確変大当たり」、「確変大当たり A」、「確変大当たり B」、「確変大当たり C」の各大当たり種別に割り当てられた判定値のいずれと合致するかに応じて、大当たり種別を複数種類のいずれとするかを決定する（ステップ 001SGS178）。

30

【0336】

ステップ 001SGS178 の処理にて大当たり種別を決定することにより、大当たり遊技状態の終了後における遊技状態を、時短状態（低確高ベース状態）と、時短状態よりも遊技者にとって有利度が高い確変状態（高確高ベース状態）とのうち、いずれの遊技状態に制御するかが、可変表示結果としての確定特別図柄が導出される以前に決定されることになる。こうして決定された大当たり種別に対応して、例えば遊技制御バッファ設定部に設けられた大当たり種別バッファの格納値である大当たり種別バッファ値を設定することなどにより（ステップ 001SGS179）、決定された大当たり種別を記憶する。一例として、大当たり種別が非確変大当たりに対応する「非確変大当たり」であれば大当たり種別バッファ値を「0」とし、確変大当たり A に対応する「確変 A」であれば「0」とし、確変大当たり B に対応する「確変 B」であれば「2」とし、確変大当たり C に対応する「確変 C」であれば「3」とすればよい。

40

【0337】

また、ステップ 001SGS179 の実行後やステップ 001SGS175 にて乱数値 MR 1 の値が大当たりの判定値の範囲内ではない、すなわち、「はずれ」とであると判定された場合（ステップ 001SGS175；N）、CPU 103 は、大当たり遊技状態に制御するか否か（大当たりフラグがオン状態にされているか否か）の事前決定結果、大当たり遊技状態とする場合における大当たり種別の決定結果に対応して、確定特別図柄を設定して特別図柄判定処理を終了する（ステップ 001SGS180）。ステップ 001SGS180 の

50

処理では、例えば、特図表示結果を「はずれ」とする旨の事前決定結果に対応して、特別図柄表示装置を構成するＬＥＤのうち左端部に配置された上下２個のＬＥＤを点灯することを決定し、特図表示結果を「大当り」とする旨の事前決定結果に対応して、特別図柄表示装置を構成する８個のＬＥＤを大当り種別に応じてそれぞれ異なる組み合わせで点灯する（上記したはずれの組み合わせを除外する）ことを決定すればよい。

【０３３８】

（変動パターン設定処理）

図３４は、変動パターン設定処理として、図３１のステップ００１ＳＧＳ１５９にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。図３４に示す変動パターン設定処理において、ＣＰＵ１０３は、先ず、可変表示結果が大当りであるか否かを判定する（ステップ００１ＳＧＳ２０１）。可変表示結果が大当りではない、つまり、はずれである場合（ステップ００１ＳＧＳ２０１；Ｎ）は、図１０に示すはずれ演出判定テーブルを選択し（ステップ００１ＳＧＳ２０２ａ）、図３２のステップ００１ＳＧＳ１７２で読み出した乱数値ＭＲ３と選択したはずれ演出判定テーブルにもとづいてはずれ演出（リーチ演出の有無）を決定する（ステップ００１ＳＧＳ２０２ｂ）。そして、リーチ演出を実行するか否かを判定する（ステップ００１ＳＧＳ２０２ｃ）。

10

【０３３９】

はずれ演出としてリーチ演出を実行しない場合、つまり、非リーチの変動パターンとする場合（ステップ００１ＳＧＳ２０２ｃ；Ｎ）はステップ００１ＳＧＳ２０２ｆに進み、はずれ演出としてリーチ演出を実行する場合、つまり、ノーマルリーチまたはスーパーリーチの変動パターンとする場合（ステップ００１ＳＧＳ２０２ｃ；Ｙ）は、遊技状態に応じた変動パターン種別判定テーブル（図１１参照）を選択する（ステップ００１ＳＧＳ２０２ｄ）。例えば、遊技状態が通常状態である場合は変動パターン種別判定テーブルＡを選択し、遊技状態が時短状態である場合は変動パターン種別判定テーブルＢを選択し、遊技状態が確変状態である場合は変動パターン種別判定テーブルＣを選択すればよい。

20

【０３４０】

そして、図３２のステップ００１ＳＧＳ１７２で読み出した乱数値ＭＲ４と選択した変動パターン種別判定テーブルにもとづいて変動パターン種別（実行するリーチ演出）を決定してステップ００１ＳＧＳ２０２ｆに進む（ステップ００１ＳＧＳ２０２ｅ）。

【０３４１】

ステップ００１ＳＧＳ２０２ｆにおいてＣＰＵ１０３は、上記したはずれ演出、変動パターン種別に加えて、遊技状態、保留記憶数等の状況に応じたはずれ用の変動パターン判定テーブル（図１３～図１５参照）を選択してステップ００１ＳＧＳ２０３に進む（ステップ００１ＳＧＳ２０２ｆ）。

30

【０３４２】

一方で、可変表示結果が大当りの場合（ステップ００１ＳＧＳ２０１；Ｙ）は、遊技状態に応じた大当り用の変動パターン判定テーブル（図１６参照）を選択してステップ００１ＳＧＳ２０３に進む。

【０３４３】

そして、ステップ００１ＳＧＳ２０３の処理においてＣＰＵ１０３は、図３２のステップ００１ＳＧＳ１７２で読み出した乱数値ＭＲ５と選択した変動パターン判定テーブルにもとづいて変動パターンを決定する。

40

【０３４４】

ステップ００１ＳＧＳ２０３にて変動パターンを決定した後は、変動特図指定バッファ値に応じて、第１特別図柄表示装置４Ａにおける第１特図を用いた特図ゲームと、第２特別図柄表示装置４Ｂにおける第２特図を用いた特図ゲームのいずれかを開始させるように、特別図柄の変動を開始させるための設定を行う（ステップ００１ＳＧＳ２０４）。一例として、変動特図指定バッファ値が「１」であれば、第１特別図柄表示装置４Ａにおける第１特図の表示を更新させる駆動信号を送信するための設定を行う。一方、変動特図指定バッファ値が「２」であれば、第２特別図柄表示装置４Ｂにおける第２特図の表示を更

50

新させる駆動信号を送信するための設定を行う。

【 0 3 4 5 】

ステップ 0 0 1 S G S 2 0 4 の処理に続いて、特別図柄の変動開始時用となる各種コマンドを送信する（ステップ 0 0 1 S G S 2 0 5）。例えば、変動特図指定バッファ値が「1」である場合に、CPU 1 0 3 は、主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に対して遊技状態指定コマンド、第 1 可変表示開始指定、変動パターン指定コマンド、可変表示結果指定コマンド、第 1 特図保留記憶数通知コマンドを順次送信する。他方、変動特図指定バッファ値が「2」である場合に、CPU 1 0 3 は、主基板 1 1 から演出制御基板 1 2 に対して遊技状態指定コマンド、第 2 可変表示開始指定、変動パターン指定コマンド、可変表示結果指定コマンド、第 2 特図保留記憶数通知コマンドを順次送信する。

10

【 0 3 4 6 】

ステップ 0 0 1 S G S 2 0 5 の処理を実行した後、その変動パターンの決定結果に応じた特別図柄の可変表示時間である特図可変表示時間を設定して変動パターン設定処理を終了する（ステップ 0 0 1 S G S 2 0 6）。特別図柄の可変表示時間となる特図可変表示時間は、特図ゲームにおいて特別図柄の可変表示を開始してから可変表示結果（特図表示結果）となる確定特別図柄が停止表示されるまでの所要時間である。

【 0 3 4 7 】

（特別図柄変動処理）

図 3 5 は、特別図柄変動処理として、図 2 8 のステップ S 1 1 1 にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。特別図柄変動処理において、CPU 1 0 3 は、可変表示時間タイマ値を - 1 し（ステップ 0 0 1 S G S 2 0 7）、可変表示時間タイマがタイマアウトしたか否かを判定する（ステップ 0 0 1 S G S 2 0 8 a）。可変表示時間タイマがタイマアウトしていない場合（ステップ 0 0 1 S G S 2 0 8 a ; N）は特別図柄変動処理を終了し、可変表示時間タイマがタイマアウトした場合（ステップ 0 0 1 S G S 2 0 8 a ; Y）は、特別図柄プロセスフラグの値を特別図柄停止処理に応じた値に更新して特別図柄変動処理を終了する（ステップ 0 0 1 S G S 0 8 b）。

20

【 0 3 4 8 】

（特別図柄停止処理）

図 3 6 は、特別図柄停止処理として、図 2 8 のステップ S 1 1 2 にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。特別図柄停止処理において、CPU 1 0 3 は、ステップ S 1 1 3 の特別図柄変動処理で参照される終了フラグをオン状態として特別図柄の変動を終了させ、第 1 特別図柄表示装置 4 A や第 2 特別図柄表示装置 4 B に停止図柄を停止表示する制御を行う（ステップ 0 0 1 S G S 2 1 1）。尚、変動特図指定バッファ値が第 1 特図を示す「1」である場合には、第 1 特別図柄表示装置 4 A での第 1 特別図柄の変動を終了させ、変動特図指定バッファ値が第 2 特図を示す「2」である場合には、第 2 特別図柄表示装置 4 B での第 2 特別図柄の変動を終了させる。また、演出制御基板 1 2 に図柄確定コマンドを送信する（ステップ 0 0 1 S G S 2 1 2）。そして、大当たりフラグがオン状態にされているか否かを判定する（ステップ 0 0 1 S G S 2 1 3）。

30

【 0 3 4 9 】

大当たりフラグがオン状態にされている場合（ステップ 0 0 1 S G S 2 1 3 ; Y）に CPU 1 0 3 は、確変フラグや時短フラグがオン状態にされていれば、確変フラグ及び時短フラグをクリアしてオフ状態とし（ステップ 0 0 1 S G S 2 1 4）、演出制御基板 1 2 に、記憶されている大当たりの種別に応じて当り開始 1 指定コマンド（確変大当り A）、当り開始 2 指定コマンド（確変大当り B）、当り開始 3 指定コマンド（確変大当り C）、当り開始 4 指定コマンド（非確変）のいずれかを送信する（ステップ 0 0 1 S G S 2 1 5）。

40

【 0 3 5 0 】

更に CPU 1 0 3 は、演出制御基板 1 2 に通常状態を示す遊技状態指定コマンドを送信するための設定を行う（ステップ 0 0 1 S G S 2 1 6）。

【 0 3 5 1 】

そして、大当たり表示時間タイマに大当たり表示時間（大当たりが発生したことを、例えば、

50

画像表示装置 5 において報知する時間)に相当する値を設定する(ステップ 0 0 1 S G S 2 1 7)。また、大入賞口開放回数カウンタに開放回数(例えば、非確変大当りや確変大当り A の場合には 1 0 回、確変大当り B の場合には 5 回、確変大当り C の場合には 2 回)をセットする(ステップ 0 0 1 S G S 2 1 8)。そして、特別図柄プロセスフラグの値を大入賞口開放前処理(ステップ S 1 1 3)に対応した値である“4”に更新して特別図柄停止処理を終了する(ステップ 0 0 1 S G S 2 1 9)。

【0 3 5 2】

一方、大当りフラグがオフである場合には(ステップ 0 0 1 S G S 2 1 3; N)、ステップ 0 0 1 S G S 2 2 0 において時短フラグがオンであるか否かを判定する(ステップ 0 0 1 S G S 2 2 0)。時短フラグがオフである場合(ステップ 0 0 1 S G S 2 2 0; N) 10
は、ステップ 0 0 1 S G S 2 5 に進み、時短フラグがオンである場合(ステップ 0 0 1 S G S 2 2 0; Y)は、時短回数カウンタの値が「0」であるか否かを判定する(ステップ 0 0 1 S G S 2 2 1)。時短回数カウンタの値が「0」である場合(ステップ 0 0 1 S G S 2 2 1; Y)には、ステップ 0 0 1 S G S 2 2 5 に進む。

【0 3 5 3】

一方、時短回数カウンタの値が「0」でない場合(ステップ 0 0 1 S G S 2 2 1; N)、つまり、時短回数が残存している高ベース状態である場合には、該時短回数カウンタの値を - 1 する(ステップ 0 0 1 S G S 2 2 2)。そして、減算後の時短回数カウンタの値が「0」であるか否かを判定し(ステップ 0 0 1 S G S 2 2 3)、「0」でない場合(ステップ 0 0 1 S G S 2 2 3; N)にはステップ 0 0 1 S G S 2 2 5 に進み、時短回数カウンタの値が「0」である場合(ステップ 0 0 1 S G S 2 2 3; Y)には、時短制御を終了 20
させるために、時短フラグをクリアしてオフ状態としてステップ 0 0 1 S G S 2 2 5 に進む(ステップ 0 0 1 S G S 2 2 4)。

【0 3 5 4】

ステップ 0 0 1 S G S 2 2 5 では、確変フラグや時短フラグの状態に応じた遊技状態指定コマンドの送信を行う。そして、特図プロセスフラグの値を特別図柄通常処理に対応した値である“0”に更新してから、当該特別図柄停止処理を終了する(ステップ 0 0 1 S G S 2 2 6)。

【0 3 5 5】

(大当り終了処理)

図 3 7 は、大当り終了処理として、図 2 8 のステップ S 1 1 6 にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。

【0 3 5 6】

大当り終了処理において、C P U 1 0 3 は、大当り終了表示タイマが動作中、つまりタイマカウント中であるか否かを判定する(ステップ 0 0 1 S G S 2 3 1)。大当り終了表示タイマが動作中でない場合(ステップ 0 0 1 S G S 2 3 1; N)には、大当り終了表示タイマに、画像表示装置 5 において大当り終了表示を行う時間(大当り終了表示時間)に対応する表示時間に相当する値を設定し(ステップ 0 0 1 S G S 2 3 2)、処理を終了する。

【0 3 5 7】

一方、大当り終了表示タイマが動作中である場合(ステップ 0 0 1 S G S 2 3 1; Y)には、大当り終了表示タイマの値を 1 減算する(ステップ 0 0 1 S G S 2 3 3)。そして、C P U 1 0 3 は、大当り終了表示タイマの値が 0 になっているか否か、即ち、大当り終了表示時間が経過したか否か確認する(ステップ 0 0 1 S G S 2 3 4)。経過していなければ処理を終了する。

【0 3 5 8】

大当り終了表示時間を経過していれば(ステップ 0 0 1 S G S 2 3 4; Y)、C P U 1 0 3 は、記憶されている大当り種別が非確変大当りであるかを判定する(ステップ 0 0 1 S G S 2 3 5)。

【0 3 5 9】

記憶されている大当り種別が非確変大当りでない場合（ステップ 001SGS235；N）には、確変フラグと時短フラグとをオンにする（ステップ 001SGS237、ステップ 001SGS238）。また、時短回数カウンタに「0」をセットし（ステップ 001SGS239）、ステップ 001SGS242に進む。

【0360】

一方、大当り種別が非確変大当りである場合には（ステップ 001SGS235；Y）には、ステップ 001SGS240とステップ 001SGS241を実行することで、時短フラグをオン状態にするとともに時短回数カウンタに「100」をセットした後、ステップ 001SGS242に進む。

【0361】

ステップ 001SGS242では、大当りフラグをオフ状態とし、大当り種別に応じた大当り終了指定コマンドの送信を行う（ステップ 001SGS243）。そして、オン状態にされた確変フラグや時短フラグに基づく遊技状態を演出制御基板 12に通知するための遊技状態指定コマンドの送信を行った後（ステップ 001SGS244）、特図プロセスフラグの値を特別図柄通常処理に対応した値である“0”に更新して大当り終了処理を終了する（ステップ 001SGS245）。

【0362】

（表示処理）

図 38は、表示処理として図 24のステップ S37にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。表示処理において CPU103は、先ず、始動口バッファ値と特図プロセスフラグ値を特定する（ステップ 001SGS251、ステップ 001SGS252）。また、第 1 特図保留記憶数カウント値及び第 2 特図保留記憶数カウント値、つまり、第 1 特図保留菊数と第 2 特図保留記憶数とを特定する（ステップ 001SGS253）。そして、これら特定した内容に応じて第 1 保留表示器 25A及び第 2 保留表示器 25Bにおける LEDの点灯データをセットする。

【0363】

例えば、図 39（A）に示すように、始動口バッファ値が 1、第 2 特図保留記憶数が 0 個であるとき、特図プロセスフラグ値が 0、第 1 特図保留記憶数が 1 である場合は、仮に第 1 保留表示器 25Aの LEDを保留記憶数 1 個に応じた態様で点灯させても次の割込み時に該保留記憶にもとづく可変表示が開始されることによって LEDの消灯が行われる（第 1 保留表示器 25Aを構成する LED全てが消灯される）ことから、第 1 保留表示器 25Aの LEDを点灯させないようデータをセットし、特図プロセスフラグ値が 0～6、第 1 特図保留記憶数が 2～4 個である場合は、仮に次の割込み時に 1 個目の第 1 特図保留記憶にもとづく可変表示が開始されても第 1 保留表示器 25Aを構成する LEDのいずれかは点灯することから、保留記憶の合計数に応じた態様で第 1 保留表示器 25Aの LEDを点灯させるようデータをセットする。

【0364】

また、図 39（B）に示すように、始動口バッファ値が 1、第 2 特図保留記憶数が 1 個以上であるときは、第 2 特別図柄の可変表示が優先して実行されることから、特図プロセスフラグ値、第 1 特図保留記憶数にかかわらず、保留記憶の合計数に応じた態様で第 1 保留表示器 25Aの LEDを点灯させるようデータをセットする。

【0365】

また、図 39（C）に示すように、始動口バッファ値が 2 であるときは、特図プロセスフラグ値が 0、第 2 特図保留記憶数 1 個である場合は、仮に第 2 保留表示器 25Bの LEDを保留記憶数 1 個に応じた態様で点灯させても次の割込み時に該保留記憶にもとづく可変表示が開始されることによって LEDの消灯が行われる（第 2 保留表示器 25Bを構成する LED全てが消灯される）ことから、第 2 保留表示器 25Bの LEDを点灯させないようデータをセットし、特図プロセスフラグ値が 0～6、第 2 特図保留記憶数が 2～4 個である場合は、仮に次の割込み時に 1 個目の第 2 特図保留記憶にもとづく可変表示が開始されても第 2 保留表示器 25Bを構成する LEDのいずれかは点灯することから、保留記

10

20

30

40

50

憶の合計数に応じた態様で第 2 保留表示器 2 5 B の L E D を点灯させるようデータをセットする。

【 0 3 6 6 】

そして、C P U 1 0 3 は、普図保留記憶数に応じて普図保留表示器 2 5 C における L E D の点灯データをセットする（ステップ 0 0 1 S G S 2 5 5 ）。

【 0 3 6 7 】

尚、上記した第 1 保留表示器 2 5 A、第 2 保留表示器 2 5 B、普図保留表示器 2 5 C の L E D を点灯させるためのデータの設定としては、図 2 1 に示す出力ポート D G 3 において、点灯させる L E D に対応するビットを「 1」、消灯させる L E D に対応するビットを「 0」にセットすればよい。

10

【 0 3 6 8 】

更に C P U 1 0 3 は、遊技状態を特定するとともに、特定した遊技状態が大当り遊技状態である場合は更に大当り種別を特定する（ステップ 0 0 1 S G S 2 5 6）。そして、これら特定した遊技状態や大当り種別に応じてラウンド数表示器 2 6、当り表示灯 2 7、右打ち表示灯 2 8、状態表示灯 2 9 における各 L E D の点灯データをセットして表示処理を終了する（ステップ 0 0 1 S G S 2 5 7）。

【 0 3 6 9 】

尚、上記したラウンド数表示器 2 6、当り表示灯 2 7、右打ち表示灯 2 8、状態表示灯 2 9 の L E D を点灯させるためのデータの設定としては、図 2 1 に示す出力ポート D G 5 において、点灯させる L E D に対応するビットを「 1」、消灯させる L E D に対応するビットを「 0」にセットすればよい。

20

【 0 3 7 0 】

（特別図柄表示制御処理）

図 4 0 は、特別図柄表示制御処理として図 2 4 のステップ S 4 0 にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。特別図柄表示制御処理において C P U 1 0 3 は、先ず、特別図柄プロセスフラグの値が 1 であるか否か、つまり、いずれかの特別図柄の可変表示中であるか否かを判定する（ステップ 0 0 1 S G S 2 6 1）。特別図柄プロセスフラグの値が 1 ではない場合（ステップ 0 0 1 S G S 2 6 1；N）は特別図柄表示制御処理を終了し、特別図柄プロセスフラグの値が 1 である場合（ステップ 0 0 1 S G S 2 6 1；Y）は、変動特図指定バッファ値、つまり、第 1 特別図柄と第 2 特別図柄のいずれの可変表示が実行されているかを特定し（ステップ 0 0 1 S G S 2 6 2）、また、可変表示時間タイマの値を特定する（ステップ 0 0 1 S G S 2 6 3）。そして、これら特定した変動特図指定バッファ値とか変表示時間タイマの値に応じて第 1 特別図柄表示装置 4 A 及び第 2 特別図柄表示装置 4 B における L E D の点灯データのセットを行って特別図柄表示制御処理を終了する（ステップ 0 0 1 S G S 2 6 4）。

30

【 0 3 7 1 】

尚、上記した第 1 特別図柄表示装置 4 A 及び第 2 特別図柄表示装置 4 B の L E D を点灯させるためのデータの設定としては、図 2 1 に示す出力ポート D G 1 や出力ポート D G 2 において、点灯させる L E D に対応するビットを「 1」、消灯させる L E D に対応するビットを「 0」にセットすればよい。

40

【 0 3 7 2 】

尚、特に図示しないが普通図柄表示制御処理（ステップ S 4 1）では、普通図柄の可変表示の実行中であるか否かや、普通図柄の可変表示時間タイマの値にもとづいて普通図柄表示器 2 0 における L E D の点灯データをセット（図 2 1 に示す出力ポート D G 4 において、点灯させる L E D に対応するビットを「 1」、消灯させる L E D に対応するビットを「 0」にセット）すればよい。

【 0 3 7 3 】

（表示制御処理）

図 4 1 は、表示制御処理として図 2 4 のステップ S 4 3 にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。表示制御処理は、前述した表示処理及び特図表示制御処理で作

50

成されたデータ（図 21 に示す各出力ポート D G のビットにセットされた「1」または「0」）にもとづいて、特図ユニット 201 を構成する各 L E D を点灯させるための処理である。表示制御処理において C P U 103 は、先ず、D G カウンタ値が最大値である 4 であるか否かを判定する（ステップ 001 S G S 271）。尚、D G カウンタは、図 21 に示す出力ポート D G 1、出力ポート D G 2、出力ポート D G 3、出力ポート D G 4 のいずれの出力ポートに応じた L E D を点灯させるかを選択するためのカウンタ、すなわち、第 1 特別図柄表示装置 4 A を構成する L E D、第 2 特別図柄表示装置 4 B を構成する L E D、第 1 保留表示器 25 A と第 2 保留表示器 25 B と普図保留表示器 25 C を構成する L E D、普通図柄表示器 20 を構成する L E D のいずれかを点灯対象とするかを決定するためのカウンタである。

10

【0374】

D G カウンタ値が 4 である場合（ステップ 001 S G S 271；Y）は、D G カウンタ値を 1 にセットしてステップ 001 S G S 274 に進み（ステップ 001 S G S 272）、D G カウンタ値が 4 以外である場合（ステップ 001 S G S 271；N）は、D G カウンタ値を + 1 してステップ 001 S G S 274 に進む（ステップ 001 S G S 273）。

【0375】

ステップ 001 S G S 274 において C P U 103 は、D G カウンタ値が 1 であるか否かを判定する。D G カウンタ値が 1 である場合（ステップ 001 S G S 274；Y）は、出力ポート D G 5 からの駆動信号の出力を停止するとともに（ステップ 001 S G S 275）、出力ポート D G 1 からの駆動信号の出力を開始して表示制御処理を終了する（ステップ 001 S G S 276）。つまり、D G カウンタ値が 1 である場合は、出力ポート D G 1 からの駆動信号を出力することで、該出力ポート D G 1 の各ビットに応じた L E D（第 1 特別図柄表示装置 4 A を構成する L E D）の点灯制御を行う。

20

【0376】

また、D G カウンタ値が 1 ではない場合（ステップ 001 S G S 274；N）は、更に D G カウンタ値が 2 であるか否かを判定する（ステップ 001 S G S 277）。D G カウンタ値が 2 である場合（ステップ 001 S G S 277；Y）は、出力ポート D G 1 からの駆動信号の出力を停止するとともに（ステップ 001 S G S 278）、出力ポート D G 2 からの駆動信号の出力を開始して表示制御処理を終了する（ステップ 001 S G S 279）。つまり、D G カウンタ値が 2 である場合は、出力ポート D G 2 からの駆動信号を出力することで、該出力ポート D G 2 の各ビットに応じた L E D（第 2 特別図柄表示装置 4 B を構成する L E D）の点灯制御を行う。

30

【0377】

また、D G カウンタ値が 2 ではない場合（ステップ 001 S G S 277；N）は、更に D G カウンタ値が 3 であるか否かを判定する（ステップ 001 S G S 280）。D G カウンタ値が 3 である場合（ステップ 001 S G S 280；Y）は、出力ポート D G 2 からの駆動信号の出力を停止するとともに（ステップ 001 S G S 281）、出力ポート D G 3 からの駆動信号の出力を開始して表示制御処理を終了する（ステップ 001 S G S 282）。つまり、D G カウンタ値が 3 である場合は、出力ポート D G 3 からの駆動信号を出力することで、該出力ポート D G 3 の各ビットに応じた L E D（第 1 保留表示器 25 A、第 2 保留表示器 25 B、普図保留表示器 25 C を構成する L E D）の点灯制御を行う。

40

【0378】

また、D G カウンタ値が 3 ではない場合（ステップ 001 S G S 280；N）は、更に D G カウンタ値が 4 であるか否かを判定する（ステップ 001 S G S 283）。D G カウンタ値が 4 である場合（ステップ 001 S G S 283；Y）は、出力ポート D G 3 からの駆動信号の出力を停止するとともに（ステップ 001 S G S 284）、出力ポート D G 4 からの駆動信号の出力を開始して表示制御処理を終了する（ステップ 001 S G S 285）。つまり、D G カウンタ値が 4 である場合は、出力ポート D G 4 からの駆動信号を出力することで、該出力ポート D G 4 の各ビットに応じた L E D（普通図柄表示器 20 を構成する L E D）の点灯制御を行う。

50

【 0 3 7 9 】

また、D G カウンタ値が 4 ではない場合（ステップ 0 0 1 S G S 2 8 3 ; N ）は、D G カウンタ値が 5 であるとして、出力ポート D G 4 からの駆動信号の出力を停止するとともに（ステップ 0 0 1 S G S 2 8 6 ）、出力ポート D G 5 からの駆動信号の出力を開始して表示制御処理を終了する（ステップ 0 0 1 S G S 2 8 7 ）。つまり、D G カウンタ値が 5 である場合は、出力ポート D G 5 からの駆動信号を出力することで、該出力ポート D G 5 の各ビットに応じた L E D（ラウンド数表示器 2 6、当り表示灯 2 7、右打ち表示灯 2 8、状態表示灯 2 9 を構成する L E D）の点灯制御を行う。

【 0 3 8 0 】

つまり、本実施の形態において、第 1 特別図柄表示装置 4 A を構成する L E D、第 2 特別図柄表示装置 4 B を構成する L E D、第 1 保留表示器 2 5 A と第 2 保留表示器 2 5 B と普図保留表示器 2 5 C を構成する L E D、普通図柄表示器 2 0 を構成する L E D、ラウンド数表示器 2 6 と当り表示灯 2 7 と右打ち表示灯 2 8 と状態表示灯 2 9 を構成する L E D については、C P U 1 0 3 の割込み周期である 4 m s 毎に発光対象の L E D を変化させることによって、1 6 m s の消灯状態と 4 m s の点灯状態を周期的に繰り返すようになっている。

【 0 3 8 1 】

また、本実施の形態では、図 2 4 に示す遊技制御用タイマ割込み処理を実行することによって、始動入賞が発生した場合は、図 4 2（A）に示すように、始動口スイッチ通過処理において始動入賞の発生判定と該始動入賞の発生に応じたコマンド（始動口入賞指定コマンド）の送信が実行された後、表示処理と表示制御処理が実行されることによって、該始動入賞に応じた保留表示器（第 1 保留表示器 2 5 A または第 2 保留表示器 2 5 B）の発光制御が開始されるようになっている。

【 0 3 8 2 】

また、特別図柄の可変表示が実行される際には、図 4 2（B）に示すように、特別図柄通常処理内で特別図柄判定処理、バッファシフト処理が実行されることで保留記憶数通知コマンドの送信が実行された後、表示処理と表示制御処理が実行されることによって、該可変表示の開始に応じて保留表示器において保留記憶数減算後の態様での発光制御が開始されるようになっている。

【 0 3 8 3 】

また、特別図柄の可変表示が実行される際には、図 4 2（C）に示すように、特別図柄表示制御処理及び表示制御処理が実行されることによって、該可変表示に応じた特別図柄表示装置の発光制御が開始された後、特別図柄変動処理において可変表示時間（可変表示時間タイマ）の減算が開始されるようになっている。

【 0 3 8 4 】

尚、本実施の形態では、C P U 1 0 3 は、特別図柄の可変表示が実行されているときに新たな保留記憶が発生したことにもとづいて該新たな保留記憶を含む保留記憶数を特定可能な保留記憶数通知コマンドを演出制御用 C P U 1 2 0 に対して送信する形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、C P U 1 0 3 は、該新たな保留記憶が発生したことを示すコマンド（例えば、保留記憶数増加通知コマンド）を演出制御用 C P U 1 2 0 に送信してもよい。尚、演出制御用 C P U 1 2 0 は、上記した保留記憶数通知コマンドや保留記憶数増加通知コマンドを受信したことにもとづいて第 1 サブ保留表示器 1 5 1 A や第 2 サブ保留表示器 1 5 1 B を保留記憶数に応じた態様で点灯させればよい。

【 0 3 8 5 】

更に、本実施の形態では、C P U 1 0 3 は、特別図柄の可変表示の開始にもとづいて、該特別図柄の可変表示開始後の保留記憶数を特定可能な保留記憶数通知コマンドを演出制御用 C P U 1 2 0 に対して送信する形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、C P U 1 0 3 は、特別図柄の可変表示の開始にもとづいて、単に保留記憶数が減少したことを示すコマンド（例えば、保留記憶数減少通知コマンド）を演出制御用 C P U 1 2 0 に送信してもよい。尚、演出制御用 C P U 1 2 0 は、上記した保留記憶数通知コマ

ンドや保留記憶数減少通知コマンドを受信したことにもとづいて第 1 サブ保留表示器 1 5 1 A や第 2 サブ保留表示器 1 5 1 B を特別図柄の可変表示の開始後の保留記憶数に応じた態様で点灯させればよい。

【 0 3 8 6 】

(演出制御基板 1 2 の主要な動作)

次に、演出制御基板 1 2 における主要な動作を説明する。演出制御基板 1 2 では、電源基板等から電源電圧の供給を受けると、演出制御用 C P U 1 2 0 が起動して、図 4 3 のフローチャートに示すような演出制御メイン処理を実行する。図 4 3 に示す演出制御メイン処理を開始すると、演出制御用 C P U 1 2 0 は、まず、所定の初期化処理を実行して (ステップ S 1 5 1) 、 R A M 1 2 2 のクリアや各種初期値の設定、また演出制御基板 1 2 に搭載された C T C (カウンタ / タイマ回路) のレジスタ設定等を行う。 10

【 0 3 8 7 】

その後、タイマ割込みフラグがオンとなっているか否かの判定を行う (ステップ S 1 5 3) 。タイマ割込みフラグは、例えば C T C のレジスタ設定に基づき、所定時間 (例えば 2 ミリ秒) が経過するごとにオン状態にセットされる。このとき、タイマ割込みフラグがオフであれば (ステップ S 1 5 3 ; N o) 、ステップ S 7 3 の処理を繰り返し実行して待機する。

【 0 3 8 8 】

また、演出制御基板 1 2 の側では、所定時間が経過するごとに発生するタイマ割込みとは別に、主基板 1 1 からの演出制御コマンドを受信するための割込みが発生する。この割込みは、例えば主基板 1 1 からの演出制御 I N T 信号がオン状態となることにより発生する割込みである。演出制御 I N T 信号がオン状態となることによる割込みが発生すると、演出制御用 C P U 1 2 0 は、自動的に割込み禁止に設定するが、自動的に割込み禁止状態にならない C P U を用いている場合には、割込み禁止命令 (D I 命令) を発行することが望ましい。演出制御用 C P U 1 2 0 は、演出制御 I N T 信号がオン状態となることによる割込みに対応して、例えば所定のコマンド受信割込み処理を実行する。このコマンド受信割込み処理では、 I / O 1 2 5 に含まれる入力ポートのうちで、中継基板 1 5 を介して主基板 1 1 から送信された制御信号を受信する所定の入力ポートより、演出制御コマンドを取り込む。このとき取り込まれた演出制御コマンドは、例えば R A M 1 2 2 に設けられた演出制御コマンド受信用バッファに格納する。その後、演出制御用 C P U 1 2 0 は、割込み許可に設定してから、コマンド受信割込み処理を終了する。 20 30

【 0 3 8 9 】

ステップ S 1 5 3 にてタイマ割込みフラグがオンである場合には (ステップ S 1 5 3 ; Y e s) 、タイマ割込みフラグをクリアしてオフ状態にするとともに (ステップ S 1 5 4) 、コマンド解析処理を実行する (ステップ S 1 5 5) 。コマンド解析処理では、例えば主基板 1 1 の遊技制御用マイクロコンピュータ 1 0 0 から送信されて演出制御コマンド受信用バッファに格納されている各種の演出制御コマンドを読み出した後に、その読み出された演出制御コマンドに対応した設定や制御などが行われる。例えば、どの演出制御コマンドを受信したかや演出制御コマンドが特定する内容等を演出制御プロセス処理等で確認できるように、読み出された演出制御コマンドを R A M 1 2 2 の所定領域に格納したり、 R A M 1 2 2 に設けられた受信フラグをオンしたりする。また、演出制御コマンドが遊技状態を特定する場合、遊技状態に応じた背景の表示を表示制御部 1 2 3 に指示してもよい。 40

【 0 3 9 0 】

ステップ S 1 5 5 にてコマンド解析処理を実行した後は、演出制御プロセス処理を実行する (ステップ S 1 5 6) 。演出制御プロセス処理では、例えば画像表示装置 5 の表示画面における演出画像の表示動作、スピーカ 8 L 、 8 R からの音声出力動作、遊技効果ランプ 9 および装飾用 L E D といった装飾発光体における点灯動作、可動体 3 2 の駆動動作といった、各種の演出装置を動作させる制御が行われる。また、各種の演出装置を用いた演出動作の制御内容について、主基板 1 1 から送信された演出制御コマンド等に応じた判 50

定や決定、設定などが行われる。

【0391】

ステップS156の演出制御プロセス処理に続いて、演出用乱数更新処理が実行され（ステップS157）、演出制御基板12の側で用いられる演出用乱数の少なくとも一部がソフトウェアにより更新される。更に、演出用乱数値更新処理（ステップS157）の後には、パチンコ遊技機1においてデモ演出を実行するためのデモ演出制御処理（ステップS158）と、プッシュボタン31Bやスティックコントローラ31Aの操作を受け付ける操作受付制御処理（ステップS158a）、画像表示装置5において表示されている背景表示を他の背景表示に更新する背景表示更新処理（ステップS159）と、が実行される。その後、ステップS153の処理に戻る。ステップS73の処理に戻る前に、他の処理が実行されてもよい。

10

【0392】

尚、デモ演出制御処理において演出制御用CPU120は、CPU103からデモ表示演出を実行するためのコマンド（例えば、デモ表示演出指定コマンド）を受信したことにもとづいて、新たな保留記憶が発生することなく30秒（3000ms）が経過したことを条件に画像表示装置5において案内表示を表示する制御を実行し、更に新たな保留記憶が発生することなく30秒（3000ms）が経過したことを条件に画像表示装置5においてデモ表示演出の画像を表示する制御を実行すればよい。また、案内表示やデモ表示演出の画像の表示中に新たな保留記憶が発生した場合は、これら案内表示やデモ表示演出の画像の表示を停止する制御を実行すればよい。

20

【0393】

また、操作受付処理において演出制御用CPU120は、第1特図保留記憶数や第2特図保留記憶数が0個でありいずれの特別図柄の可変表示も実行されていないときにプッシュボタン31Bやスティックコントローラ31Aの操作を受け付けたことにもとづいて画像表示装置5においてメニュー画面を表示し、更に該メニュー画面が表示されている状態でプッシュボタン31Bやスティックコントローラ31Aの操作を受け付けることによって、スピーカ8L、8Rから出力される音の音量や遊技効果ランプ9の輝度を変更する制御を実行すればよい。

【0394】

尚、本実施の形態の背景表示更新処理では、遊技状態の変化や可変表示開始時における演出モードの変更が決定されたことにもとづいて、画像表示装置5において表示される背景画像を更新する制御を実行可能となっている。

30

【0395】

尚、デモ演出制御処理において演出制御用CPU120は、例えば、客待ちデモ指定コマンドを受信したことにもとづいて客待ちデモ演出開始待ちタイマ等の客待ちデモ演出を開始するまでのタイマをセットし、可変表示が開始されることなく該タイマがタイマアウトしたことにもとづいて客待ちデモ演出を開始すればよい。尚、客待ちデモ演出開始待ちタイマの動作中や客待ちデモ演出の実行中に可変表示が開始された場合には、客待ちデモ演出開始待ちタイマのクリアや、客待ちデモ演出を中断し、画像表示装置5の表示を飾り図柄の可変表示に切り替えればよい。

40

【0396】

（演出制御プロセス処理）

図44は、演出制御プロセス処理として、図43のステップS156にて実行される処理の一例を示すフローチャートである。図43に示す演出制御プロセス処理において、演出制御用CPU120は、まず、可変表示を実行する際の演出モードを決定するための演出モード決定処理（ステップS160）、保留記憶表示エリア5Uに表示される保留表示やアクティブ表示エリア5Fにて表示されるアクティブ表示の表示態様を決定する保留変化演出決定処理（ステップS161）、始動入賞の発生にもとづいて大当り遊技状態に制御されることを遊技効果ランプ9の発光によって継続的に示唆する入所時フラッシュ演出を実行するための入賞時フラッシュ演出処理（ステップ162）、プッシュボタン31Bを

50

振動用モータ 36 にて駆動させるボタン振動演出を実行するためのボタン振動演出処理（ステップ S 163）、保留記憶表示エリア 5U において保留表示を出現表示させるための出現アニメーション処理（ステップ S 164）、保留記憶表示エリア 5U における保留表示やアクティブ表示エリア 5F におけるアクティブ表示を滞留表示させるための滞留アニメーション処理（ステップ S 165）、保留記憶表示エリア 5U に表示される保留表示を該保留記憶表示エリア 5U 上の 1 つ前の表示位置やアクティブ表示エリア 5F に向けて移動表示（シフト）させるためのシフトアニメーション処理（ステップ S 166）、アクティブ表示エリア 5F におけるアクティブ表示の表示を終了させるための終了アニメーション処理（ステップ S 167）、第 1 サブ保留表示器 151A や第 2 サブ保留表示器 151B を構成する LED を保留記憶数にもとづいて点灯制御するためのサブ保留表示器点灯制御処理（ステップ S 168）を実行する。尚、サブ保留表示器点灯制御処理は、後述する表示領域 5S において第 1 特図保留記憶数や第 2 特図保留記憶の表示を更新する処理を実行する処理でもある。終了アニメーション処理の実行後は、例えば RAM 122 に設けられた演出プロセスフラグの値に応じて、以下のようなステップ S 170 ~ S 175 の処理のいずれかを選択して実行する。

【0397】

ステップ S 170 の可変表示開始待ち処理は、演出プロセスフラグの値が “ 0 ”（初期値）のときに実行される処理である。この可変表示開始待ち処理は、主基板 11 から可変表示の開始を指定するコマンドなどを受信したか否かに基づき、画像表示装置 5 における飾り図柄の可変表示を開始するか否かを判定する処理などを含んでいる。画像表示装置 5 における飾り図柄の可変表示を開始すると判定された場合、演出プロセスフラグの値を “ 1 ” に更新し、可変表示開始待ち処理を終了する。

【0398】

ステップ S 171 の可変表示開始設定処理は、演出プロセスフラグの値が “ 1 ” のときに実行される処理である。この可変表示開始設定処理では、演出制御コマンドにより特定される表示結果や変動パターンに基づいて、飾り図柄の可変表示の表示結果（確定飾り図柄）、飾り図柄の可変表示の態様、リーチ演出や各種予告演出などの各種演出の実行の有無やその態様や実行開始タイミングなどを決定する。そして、その決定結果等を反映した演出制御パターン（表示制御部 123 に演出の実行を指示するための制御データの集まり）を設定する。その後、設定した演出制御パターンに基づいて、飾り図柄の可変表示の実行開始を表示制御部 123 に指示し、演出プロセスフラグの値を “ 2 ” に更新し、可変表示開始設定処理を終了する。表示制御部 123 は、飾り図柄の可変表示の実行開始の指示により、画像表示装置 5 において、飾り図柄の可変表示を開始させる。

【0399】

ステップ S 172 の可変表示中演出処理は、演出プロセスフラグの値が “ 2 ” のときに実行される処理である。この可変表示中演出処理において、演出制御用 CPU 120 は、表示制御部 123 を指示することで、ステップ S 171 にて設定された演出制御パターンに基づく演出画像を画像表示装置 5 の表示画面に表示させることや、可動体 32 を駆動させること、音声制御基板 13 に対する指令（効果音信号）の出力によりスピーカ 8L、8R から音声や効果音を出力させること、ランプ制御基板 14 に対する指令（電飾信号）の出力により遊技効果ランプ 9 や装飾用 LED を点灯 / 消灯 / 点滅させることといった、飾り図柄の可変表示中における各種の演出制御を実行する。また、本実施の形態における可変表示中演出処理では、第 1 演出表示灯 152A、第 2 演出表示灯 152B を構成する LED の点灯制御も実行する。こうした演出制御を行った後、例えば演出制御パターンから飾り図柄の可変表示終了を示す終了コードが読み出されたこと、あるいは、主基板 11 から確定飾り図柄を停止表示させることを指定するコマンドを受信したことなどに対応して、飾り図柄の表示結果となる確定飾り図柄を停止表示させる。確定飾り図柄を停止表示したときには、演出プロセスフラグの値が “ 3 ” に更新され、可変表示中演出処理は終了する。尚、本実施の形態におけるステップ 172 の処理は、後述する表示領域 5S において小図柄の可変表示を実行するための処理も行う。

【 0 4 0 0 】

ステップ S 1 7 3 の特図当り待ち処理は、演出プロセスフラグの値が “ 3 ” のときに実行される処理である。この特図当り待ち処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、主基板 1 1 から大当り遊技状態を開始することを指定する演出制御コマンドの受信があったか否かを判定する。そして、大当り遊技状態を開始することを指定する演出制御コマンドを受信したきに、演出プロセスフラグの値を “ 4 ” に更新する。また、大当り遊技状態を開始することを指定するコマンドを受信せずに、当該コマンドの受信待ち時間が経過したときには、特図ゲームにおける表示結果が「はずれ」であったと判定して、演出プロセスフラグの値を初期値である “ 0 ” に更新する。演出プロセスフラグの値を更新すると、特図当り待ち処理を終了する。

10

【 0 4 0 1 】

ステップ S 1 7 4 の大当り中演出処理は、演出プロセスフラグの値が “ 4 ” のときに実行される処理である。この大当り中演出処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、例えば大当り遊技状態における演出内容に対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づく大当り遊技状態における各種の演出制御を実行する。また、大当り中演出処理では、例えば主基板 1 1 から大当り遊技状態を終了することを指定するコマンドを受信したことに対応して、演出プロセスフラグの値をエンディング演出処理に対応した値である “ 5 ” に更新し、大当り中演出処理を終了する。

【 0 4 0 2 】

ステップ S 1 7 5 のエンディング演出処理は、演出プロセスフラグの値が “ 5 ” のときに 20 実行される処理である。このエンディング演出処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、例えば大当り遊技状態の終了などに対応した演出制御パターン等を設定し、その設定内容に基づく大当り遊技状態の終了時におけるエンディング演出の各種の演出制御を実行する。その後、演出プロセスフラグの値を初期値である “ 0 ” に更新し、エンディング演出処理を終了する。

【 0 4 0 3 】

(演出モード)

図 4 5 に示すように、本実施の形態では演出モード A ~ 演出モード D が設けられており、演出モード A と演出モード B は遊技状態が通常状態であるときに選択され得る演出モードであり、演出モード C は遊技状態が時短状態であるときに選択される演出モードであり 30、演出モード D は遊技状態が確変状態であるときに選択される演出モードである。

【 0 4 0 4 】

演出モード決定処理においては、遊技状態が通常状態であるとき、該通常状態の 1 回目の可変表示の開始タイミングにおいて演出モードが演出モード A に設定されるようになっている。また、通常状態における 2 回目以降の可変表示開始タイミングでは、設定されている演出モードが演出モード A であれば、該演出モードが抽選によって演出モード B に設定され、設定されている演出モードが演出モード B であれば、該演出モードが抽選によって演出モード A に設定される。

【 0 4 0 5 】

また、演出モード決定処理においては、大当り遊技状態の終了の際に、C P U 1 0 3 から時短状態を示す遊技状態指定コマンドを受信したことにもとづいて演出モードが演出モード C に設定され、C P U 1 0 3 から確変状態を示す遊技状態指定コマンドを受信したことにもとづいて演出モードが演出モード D に設定されるようになっている。 40

【 0 4 0 6 】

尚、詳細は後述するが、本実施の形態における演出モード A ~ 演出モード D では、画像表示装置 5 に表示される背景画像、飾り図柄の可変表示態様、アクティブ表示や保留表示の表示態様等がそれぞれ異なっている。

【 0 4 0 7 】

(保留変化演出決定処理)

図 4 6 は、図 4 4 に示す保留変化演出決定処理における保留表示やアクティブ表示の表 50

示態様の決定割合である。保留変化演出決定処理において演出制御用CPU120は、先ず、図22(B)に示す始動入賞時受信コマンドバッファ001SG194Aを参照し、保留表示フラグがセットされていないエントリの有無を特定する。保留表示フラグがセットされていないエントリが有る場合は、該エントリにおける図柄指定コマンドから可変表示結果を、該エントリにおけるはずれ演出パターンコマンドからはずれ演出をそれぞれ特定し、これら特定した可変表示結果とはずれ演出とにもとづいて保留変化演出の実行の有無及び演出パターン、すなわち、保留表示やアクティブ表示の表示態様を決定する。

【0408】

例えば、図46に示すように、可変表示結果が大当りの場合は、5%の割合で保留変化演出の非実行を決定し、25%の割合で保留変化演出の演出パターンAでの実行を決定し、70%の割合で保留変化演出の演出パターンBでの実行を決定する。また、可変表示結果がはずれ且つはずれ演出パターンが非リーチである場合は、95%の割合で保留変化演出の非実行を決定し、5%の割合で保留変化演出の演出パターンAでの実行を決定し、0%の割合で保留変化演出の演出パターンBでの実行を決定する。また、可変表示結果がはずれ且つはずれ演出パターンがノーマルリーチである場合は、75%の割合で保留変化演出の非実行を決定し、20%の割合で保留変化演出の演出パターンAでの実行を決定し、5%の割合で保留変化演出の演出パターンBでの実行を決定する。また、可変表示結果がはずれ且つはずれ演出パターンがスーパーリーチである場合は、65%の割合で保留変化演出の非実行を決定し、25%の割合で保留変化演出の演出パターンAでの実行を決定し、10%の割合で保留変化演出の演出パターンBでの実行を決定する。

【0409】

上記したように保留変化演出の実行の有無及び演出パターンを決定した後、演出制御用CPU120は、保留表示予告演出の非実行が決定されていた場合は、該エントリの保留表示フラグの値として「0」をセットし、保留表示予告演出の演出パターンAでの実行が決定されていた場合は、該エントリの保留表示フラグの値として「1」をセットし、保留表示予告演出の演出パターンBでの実行が決定されていた場合は、該エントリの保留表示フラグの値として「2」をセットする。

【0410】

尚、本実施の形態における保留変化演出決定処理では、図柄指定コマンド、つまり、可変表示結果が大当りとなるか否かによって保留変化演出の実行の有無及び保留変化演出の演出パターンの決定割合を異ならせる形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、図柄指定コマンドが大当りを示している場合は、大当り種別が確変大当りA、確変大当りB、確変大当りC、非確変大当りのいずれになるかに応じて保留変化演出の実行の有無及び保留変化演出の演出パターンの決定割合を異ならせてもよいし、大当り遊技終了後に確変状態に制御されるか否かに応じて保留変化演出の実行の有無及び保留変化演出の演出パターンの決定割合を異ならせてもよい。このようにすることで、保留変化演出が実行されるか否か及び保留変化演出がいずれの演出パターンにて実行されるかに対して遊技者を注目させ易くできる。

【0411】

そして、本実施の形態では、上記したように始動入賞時受信コマンドバッファ001SG194Aにおいて各エントリに対応する保留表示フラグに0~2の値をセットした後に演出制御用CPU120が後述の出現アニメーション処理(ステップS164)、滞留アニメーション処理(ステップ165)、シフトアニメーション処理(ステップS166)を実行することで、保留表示フラグの値として「0」がセットされた場合は、該保留表示フラグに応じた保留表示やアクティブ表示が演出モードに応じた形状且つ白色で表示され、保留表示フラグの値として「1」がセットされた場合は、該保留表示フラグに応じた保留表示やアクティブ表示が演出モードに応じた形状且つ青色で表示され、保留表示フラグの値として「2」がセットされた場合は、該保留表示フラグに応じた保留表示やアクティブ表示が演出モードに応じた形状且つ赤色で表示される。

【0412】

このような設定により、保留表示やアクティブ表示が表示パターン A の青色や表示パターン B の赤色にて表示される場合は、保留表示やアクティブ表示が白色で表示される場合よりも大当り遊技状態に制御される割合（大当り期待度）が高くなるとともに、保留表示やアクティブ表示が表示パターン B の赤色にて表示される場合は、保留表示やアクティブ表示が表示パターン A の青色で表示される場合よりも大当り遊技状態に制御される割合（大当り期待度）が高くなるので、これら保留表示やアクティブ表示の表示態様、即ち、保留変化演出が実行されるか否か及び演出パターンに対して遊技者を注目させることができる。

【 0 4 1 3 】

（入賞時フラッシュ演出処理）

図 4 7 は、図 4 4 に示す入賞時フラッシュ演出処理を示すフローチャートである。入賞時フラッシュ演出処理において演出制御用 CPU 1 2 0 は、先ず、図 2 2（B）に示す始動入賞時受信コマンドバッファ 0 0 1 S G 1 9 4 A を参照し、入賞時フラッシュ演出フラグのセットされていない保留記憶が有るか否かを判定する（ステップ 0 0 1 S G S 3 0 1）。入賞時フラッシュ演出フラグがセットされていない保留記憶が有る場合（ステップ 0 0 1 S G S 3 0 1；N）は、更に、既に入賞時フラッシュ演出フラグが「1」にセットされている保留記憶が有るか否か、つまり、既に他の保留記憶を対象として入賞時フラッシュ演出が実行されているか否かを判定する（ステップ 0 0 1 S G S 3 0 2）。

10

【 0 4 1 4 】

入賞時フラッシュ演出フラグが「1」にセットされている保留記憶が無い場合は、入賞時フラッシュ演出フラグのセットされていない保留記憶として格納されている図柄指定コマンド及びはずれ演出パターンコマンドから入賞時フラッシュ演出の実行の有無を決定する（ステップ 0 0 1 S G S 3 0 3）。

20

【 0 4 1 5 】

例えば、図 4 8 に示すように、図柄指定コマンドが大当りを示している場合は、入賞時フラッシュ演出の非実行を 4 0 % の割合で決定し、入賞時フラッシュ演出の実行を 6 0 % の割合で決定する。また、図柄指定コマンドがはずれ、はずれ演出パターンコマンドが非リーチである場合は、入賞時フラッシュ演出の非実行を 1 0 0 % の割合で決定し、入賞時フラッシュ演出の実行を 0 % の割合で決定する。また、図柄指定コマンドがはずれ、はずれ演出パターンコマンドがノーマルリーチである場合は、入賞時フラッシュ演出の非実行を 1 0 0 % の割合で決定し、入賞時フラッシュ演出の実行を 0 % の割合で決定する。また、図柄指定コマンドがはずれ、はずれ演出パターンコマンドがスーパーリーチである場合は、入賞時フラッシュ演出の非実行を 8 0 % の割合で決定し、入賞時フラッシュ演出の実行を 2 0 % の割合で決定する。

30

【 0 4 1 6 】

そして、演出制御用 CPU 1 2 0 は、入賞時フラッシュ演出の実行を決定したか否かを判定する（ステップ 0 0 1 S G S 3 0 4）。入賞時フラッシュ演出の実行を決定した場合（ステップ 0 0 1 S G S 3 0 4；Y）は、当該保留記憶の入賞時フラッシュ演出フラグとして「1」をセットしてステップ 0 0 7 S G S 3 0 7 に進み（ステップ 0 0 1 S G S 3 0 5）、入賞時フラッシュ演出の非実行を決定した場合（ステップ 0 0 1 S G S 3 0 4；N）は、当該保留記憶の入賞時フラッシュ演出フラグとして「0」をセットしてステップ 0 0 1 S G S 3 0 7 に進む（ステップ 0 0 1 S G S 3 0 6）。

40

【 0 4 1 7 】

入賞時フラッシュ演出フラグのセットされていない保留記憶が無い場合（ステップ 0 0 1 S G S 3 0 1；N）やステップ 0 0 1 S G S 3 0 5、ステップ 0 0 1 S G S 3 0 6 の処理の実行後は、更に、図 2 2（B）に示す始動入賞時受信コマンドバッファ 0 0 1 S G 1 9 4 A を参照し、入賞時フラッシュ演出フラグが「1」の保留記憶が有るか否かを判定する（ステップ 0 0 1 S G S 3 0 7）。入賞時フラッシュ演出フラグが「1」の保留記憶が有る場合（ステップ 0 0 1 S G S 3 0 7；Y）は、入賞時フラッシュ演出フラグが「1」にセットされた保留記憶に応じた可変表示中であるか否か、つまり、入賞時フラッシュ演

50

出フラグが「１」にセットされた保留記憶が始動入賞時受信コマンドバッファ００１ＳＧ１９４Ａのバッファ番号「１－０」または「２－０」のエントリに格納されているか否かを判定する（ステップ００１ＳＧＳ３０８）。入賞時フラッシュ演出フラグが「１」にセットされた保留記憶に応じた可変表示中ではない場合（ステップ００１ＳＧＳ３０８；Ｎ）はステップ００１ＳＧＳ３１０に進み、入賞時フラッシュ演出フラグが「１」にセットされた保留記憶に応じた可変表示中である場合（ステップ００１ＳＧＳ３０８；Ｙ）は、更に、実行中の可変表示のプロセステーブル等を参照することによって、該可変表示がリーチよりも前のタイミングであるか否かを判定する（ステップ００１ＳＧＳ３０９）。該可変表示がリーチよりも前のタイミングである場合（ステップ００１ＳＧＳ３０９；Ｙ）は、ステップ００１ＳＧＳ３１０に進む。

10

【０４１８】

そして、ステップ００１ＳＧＳ３１０の処理では、入賞時フラッシュ演出に応じた態様にて遊技効果ランプ９の点滅制御を実行して入賞時フラッシュ演出処理を終了する（ステップ００１ＳＧＳ３１０）。尚、入賞時フラッシュ演出フラグが「１」の保留記憶が無い場合（ステップ００１ＳＧＳ３０７；Ｎ）や該可変表示がリーチ以降のタイミングである場合（ステップ００１ＳＧＳ３０９；Ｎ）については、ステップ００１ＳＧＳ３１０の処理を実行せずに入賞時フラッシュ演出処理を終了する。

【０４１９】

以上のように、本実施の形態では、始動入賞の発生にもとづいて、入賞時フラッシュ演出として遊技効果ランプ９を発光させることによって大当り遊技状態に制御されることを示唆するようになっていたが、本発明はこれに限定されるものではなく、入賞時フラッシュ演出としての遊技効果ランプ９の発光パターンや発光色を複数設け、これら遊技効果ランプ９の発光パターンや発光色に応じて大当り遊技状態に制御される割合（大当り期待度）を異ならせるようにしてもよい。

20

【０４２０】

また、本実施の形態では、入賞時フラッシュ演出として遊技効果ランプ９を発光させる形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、遊技効果ランプ９とは異なるランプ（例えば、入賞時フラッシュ演出専用のランプ）を設け、入賞時フラッシュ演出としては、該遊技効果ランプ９とは異なるランプを発光させるようにしてもよい。

【０４２１】

30

（ボタン振動演出処理）

図４９は、図４４に示すボタン振動演出処理を示すフローチャートである。ボタン振動演出において演出制御用ＣＰＵ１２０は、まず、ボタン振動演出の実行中であることを示すボタン振動演出実行中フラグがセットされているか否かを判定する（ステップ００１ＳＧＳ３２１）。ボタン振動演出実行中フラグがセットされていない場合（ステップ００１ＳＧＳ３２１；Ｎ）は、遊技状態が通常状態であるか否かを判定する（ステップ００１ＳＧＳ３２２）。遊技状態が通常状態である場合（ステップ００１ＳＧＳ３２２；Ｙ）は、更に、第１始動口入賞指定コマンドを受信したか否かを判定する（ステップ００１ＳＧＳ３２３）。第１始動口入賞指定コマンドを受信していない場合（ステップ００１ＳＧＳ３２３；Ｎ）はボタン振動演出処理を終了し、第１始動口入賞指定コマンドを受信している場合（ステップ００１ＳＧＳ３２３；Ｙ）は、図２２（Ｂ）に示す始動入賞時受信コマンドバッファ００１ＳＧ１９４Ａを参照して第１特図保留記憶数を特定する（ステップ００１ＳＧＳ３２４）。

40

【０４２２】

一方で、遊技状態が通常状態ではない場合（ステップ００１ＳＧＳ３２２；Ｎ）、演出制御用ＣＰＵ１２０は、遊技状態が時短状態または確変状態であるか否かを判定する（ステップ００１ＳＧＳ３２５）。遊技状態が時短状態でも確変状態でもない場合、つまり、遊技状態が大当り遊技状態である場合（ステップ００１ＳＧＳ３２５；Ｙ）は、ボタン振動演出処理を終了し、遊技状態が時短状態または確変状態である場合（ステップ００１ＳＧＳ３２５；Ｙ）は、更に、第２始動口入賞指定コマンドを受信したか否かを判定する（

50

ステップ 0 0 1 S G S 3 2 6)。第 2 始動口入賞指定コマンドを受信していない場合（ステップ 0 0 1 S G S 3 2 6；N）はボタン振動演出処理を終了し、第 2 始動口入賞指定コマンドを受信している場合（ステップ 0 0 1 S G S 3 2 6；Y）は、図 2 2（B）に示す始動入賞時受信コマンドバッファ 0 0 1 S G 1 9 4 A を参照して第 2 特図保留記憶数を特定する（ステップ 0 0 1 S G S 3 2 7）。

【 0 4 2 3 】

次いで、演出制御用 C P U 1 2 0 は、ステップ 0 0 1 S G S 3 2 4 またはステップ 0 0 1 S G S 3 2 7 において特定した保留記憶数が 3 個以上であるか否かを判定する（ステップ 0 0 1 S G S 3 2 8）。つまり、ステップ 0 0 1 S G S 3 2 8 では、遊技状態が通常状態であれば、第 1 特図保留記憶数が 3 個以上であるか否かを判定し、遊技状態が時短状態や確変状態であれば、第 2 特図保留記憶数が 3 個以上であるか否かを判定する。特定した保留記憶数が 2 個以下である場合（ステップ 0 0 1 S G S 3 2 8；N）はボタン振動演出処理を終了し、特定した保留記憶数が 3 個以上である場合（ステップ 0 0 1 S G S 3 2 8；Y）は、ボタン振動演出実行中フラグをセットするとともに（ステップ 0 0 1 S G S 3 9）、ボタン振動演出実行タイマをセットしてボタン振動演出処理を終了する（ステップ 0 0 1 S G S 3 3 0）。

【 0 4 2 4 】

そして、ボタン振動演出実行中フラグがセットされている場合（ステップ 0 0 1 S G S 3 2 1；Y）、演出制御用 C P U 1 2 0 は、振動用モータ制御処理（ステップ 0 0 1 S G S 3 3 1）を実行することによって振動用モータ 3 6 を駆動させる、つまり、該振動用モータ 3 6 の駆動によってプッシュボタン 3 1 B を振動させるとともに、ボタン振動演出実行タイマの値を - 1 し（ステップ 0 0 1 S G S 3 3 2）、該ボタン振動演出実行タイマがタイマアウトしたか否かを判定する（ステップ 0 0 1 S G S 3 3 3）。ボタン振動演出実行タイマがタイマアウトしていない場合（ステップ 0 0 1 S G S 3 2 3；N）はボタン振動演出処理を終了し、ボタン振動演出実行タイマがタイマアウトした場合（ステップ 0 0 1 S G S 3 2 3；Y）は、ボタン振動演出実行中フラグをクリアしてボタン振動演出処理を終了する（ステップ 0 0 1 S G S 3 3 4）。つまり、本実施の形態におけるボタン振動演出は、通常状態であれば第 1 特図保留記憶数、時短状態や確変状態であれば第 2 特図保留記憶数が 3 個となった場合に所定期間（例えば 5 秒間）に亘ってプッシュボタン 3 1 B を振動させることによって保留記憶数が上限値である 4 個に近づいたことを報知するための演出である。

【 0 4 2 5 】

尚、本実施の形態では、遊技状態が時短状態や確変状態である場合に、第 2 特図保留記憶数が 3 個以上となったことにもとづいてボタン振動演出を実行して第 2 特図保留記憶数が上限値である 4 個に近づいたことを報知する形態を例示しているが、本発明はこれに限定されるものではなく、時短状態や確変状態は遊技球が頻繁に始動入賞口に入賞する遊技状態であることから、これら時短状態は確変状態ではボタン振動演出を実行しないようにしてもよい。

【 0 4 2 6 】

（サブ保留表示器点灯制御処理）

図 5 0 は、図 4 4 に示すサブ保留表示器点灯制御処理（ステップ S 1 6 8）において、演出制御用 C P U 1 2 0 が始動入賞指定コマンドを受信した状況毎の第 1 サブ保留表示器 1 5 1 A、第 2 サブ保留表示器 1 5 1 B の点灯制御態様を示す図である。サブ保留表示器点灯制御処理では、受信した始動入賞指定コマンドや保留記憶数に応じて第 1 サブ保留表示器 1 5 1 A、第 2 サブ保留表示器 1 5 1 B を構成する L E D を点灯させるか否かを異ならせている。

【 0 4 2 7 】

例えば、図 5 0（A）に示すように、第 1 始動口入賞指定コマンドを受信したときの第 2 特図保留記憶数が 0 個であるとき、演出制御用 C P U 1 2 0 は、演出プロセスフラグ値が 0 である場合、すなわち、大当り遊技状態でない状態で飾り図柄の可変表示が実行され

10

20

30

40

50

ておらず、且つ保留記憶が新たな第 1 始動入賞口への入賞にもとづく第 1 特図保留記憶以外に存在しない場合は、即座に該第 1 特図保留記憶にもとづく飾り図柄の可変表示が実行されるため、第 1 サブ保留表示器 1 5 1 A において第 1 特図保留記憶数に応じた数の L E D を点灯させる制御（第 1 サブ保留表示器 1 5 1 A の L E D を 1 個のみ点灯させる制御）を実行しない。一方で、演出プロセスフラグ値が 0、第 1 特図保留記憶数が 2 ~ 4 個、すなわち、大当り遊技状態ではない状態で可変表示が実行されていないが第 1 特図保留記憶が新たな始動入賞にもとづく保留記憶以外存在している場合や、演出プロセスフラグ値が 1 ~ 7 のいずれかであり、且つ第 1 特図保留記憶数が 1 ~ 4 個の場合、すなわち、保留記憶数にかかわらず可変表示開始設定処理の実行中を含む飾り図柄の可変表示の実行中や大当り遊技中は、第 1 サブ保留表示器 1 5 1 A において第 1 特図保留記憶数に応じた数の L E D を点灯させる制御を実行する。 10

【 0 4 2 8 】

また、図 5 0 (B) に示すように、第 1 始動口入賞指定コマンドを受信したときの第 2 特図保留記憶数が 1 個以上であるとき、つまり、新たに第 1 始動入賞口へ遊技球が入賞し、且つ第 2 特図保留記憶数が 1 個以上であるとき、演出制御用 C P U 1 2 0 は、次に実行される飾り図柄の可変表示は第 2 特別図柄の可変表示にもとづくものであることから、演出プロセスフラグ値や第 1 特図保留記憶数にかかわらず、第 1 サブ保留表示器 1 5 1 A において第 1 特図保留記憶数に応じた数の L E D を点灯させる制御を実行する。

【 0 4 2 9 】

また、図 2 0 (C) に示すように、第 2 始動口入賞指定コマンドを受信したとき、つまり、第 1 特図保留記憶数にかかわらず、新たに第 2 始動入賞口へ遊技球が入賞したとき、演出制御用 C P U 1 2 0 は、演出プロセスフラグ値が 0、第 2 特図保留記憶数が 1 個、すなわち、大当り遊技状態ではない状態で可変表示が実行されておらず、且つ第 2 特図保留記憶が新たな始動入賞にもとづく保留記憶以外存在しない場合は、即座に該第 2 特図保留記憶にもとづく飾り図柄の可変表示が実行されるため、第 2 サブ保留表示器 1 5 1 B において第 2 特図保留記憶数に応じた数の L E D を点灯させる制御（第 2 保留表示器 2 5 B の L E D を 1 個のみ点灯させる制御）を実行しない。一方で、演出プロセスフラグ値が 0、第 2 特図保留記憶数が 2 ~ 4 個、すなわち、大当り遊技状態ではない状態で可変表示が実行されていないが第 2 特図保留記憶が新たな始動入賞にもとづく保留記憶以外存在している場合や、演出プロセスフラグ値が 1 ~ 7 のいずれかであり、且つ第 2 特図保留記憶数が 1 ~ 4 個の場合、すなわち、保留記憶数にかかわらず可変表示開始設定処理の実行中を含む飾り図柄の可変表示の実行中や大当り遊技中は、第 2 サブ保留表示器 1 5 1 B において第 2 特図保留記憶数に応じた数の L E D を点灯させる制御を実行する。 20 30

【 0 4 3 0 】

（可変表示開始設定処理）

図 5 1 は、図 4 4 に示された演出制御プロセス処理における可変表示開始設定処理（ステップ S 1 7 1）を示すフローチャートである。可変表示開始設定処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 は、まず、第 1 可変表示開始指定受信フラグオン状態であるか否かを判定する（ステップ 0 0 1 S G S 3 4 1）。第 1 可変表示開始指定受信フラグがオン状態である場合は（ステップ 0 0 1 S G S 3 4 1；Y）、始動入賞時受信コマンドバッファ 0 0 1 S G 1 9 4 A における第 1 特図保留記憶のバッファ番号「1 - 0」~「1 - 4」に対応付けて格納されている各種コマンドデータと各種フラグを、バッファ番号 1 個分ずつ上位にシフトする（ステップ 0 0 1 S G S 3 4 2）。尚、バッファ番号「1 - 0」の内容については、シフトする先が存在しないためにシフトすることはできないので消去される。 40

【 0 4 3 1 】

具体的には、第 1 特図保留記憶のバッファ番号「1 - 1」に対応付けて格納されている各種コマンドデータと各種フラグをバッファ番号「1 - 0」に対応付けて格納するようにシフトし、第 1 特図保留記憶のバッファ番号「1 - 2」に対応付けて格納されている各種コマンドデータと各種フラグをバッファ番号「1 - 1」に対応付けて格納するようにシフトし、第 1 特図保留記憶のバッファ番号「1 - 3」に対応付けて格納されている各種コマ 50

ンドデータと各種フラグをバッファ番号「1 - 2」に対応付けて格納するようにシフトし、第1特図保留記憶のバッファ番号「1 - 4」に対応付けて格納されている各種コマンドデータと各種フラグをバッファ番号「1 - 3」に対応付けて格納するようにシフトする。

【0432】

また、ステップ001SGS341において第1可変表示開始指定受信フラグがオフである場合は（ステップ001SGS341；N）、第2可変表示開始指定受信フラグがオン状態であるか否かを判定する（ステップ001SGS343）。第2可変表示開始指定受信フラグがオフである場合は（ステップ001SGS343；N）、可変表示開始設定処理を終了し、第2可変表示開始指定受信フラグがオン状態である場合は（ステップ001SGS343；Y）、始動入賞時受信コマンドバッファ001SG194Aにおける第2特図保留記憶のバッファ番号「2 - 0」～「2 - 4」に対応付けて格納されている各種コマンドデータと各種フラグを、バッファ番号1個分ずつ上位にシフトする（ステップ001SGS344）。尚、バッファ番号「2 - 0」の内容については、シフトする先が存在しないためにシフトすることはできないので消去される。

10

【0433】

具体的には、第2特図保留記憶のバッファ番号「2 - 1」に対応付けて格納されている各種コマンドデータと各種フラグをバッファ番号「2 - 0」に対応付けて格納するようにシフトし、第2特図保留記憶のバッファ番号「2 - 2」に対応付けて格納されている各種コマンドデータと各種フラグをバッファ番号「2 - 1」に対応付けて格納するようにシフトし、第2特図保留記憶のバッファ番号「2 - 3」に対応付けて格納されている各種コマンドデータと各種フラグをバッファ番号「2 - 2」に対応付けて格納するようにシフトし、第2特図保留記憶のバッファ番号「2 - 4」に対応付けて格納されている各種コマンドデータと各種フラグをバッファ番号「2 - 3」に対応付けて格納するようにシフトする。

20

【0434】

ステップ001SGS342またはステップ001SGS344の実行後、演出制御用CPU120は、変動パターン指定コマンド格納領域から変動パターン指定コマンドを読み出す（ステップ001SGS345）。

【0435】

次いで、表示結果指定コマンド格納領域に格納されているデータ（即ち、受信した表示結果指定コマンド）に応じて飾り図柄の表示結果（停止図柄）を決定する（ステップ001SGS346）。この場合、演出制御用CPU120は、表示結果指定コマンドで指定される表示結果に応じた飾り図柄の停止図柄を決定し、決定した飾り図柄の停止図柄を示すデータを飾り図柄表示結果格納領域に格納する。

30

【0436】

尚、本特徴部001SGでは、受信した可変表示結果指定コマンドが確変大当りAに該当する第2可変表示結果指定コマンドである場合において、演出制御用CPU120は、例えば、停止図柄として3図柄が「7」で揃った飾り図柄の組合せ（大当り図柄）を決定する。また、受信した可変表示結果指定コマンドが確変大当りBに該当する第3可変表示結果指定コマンドや確変大当りCに該当する第4可変表示結果指定コマンドである場合においては、停止図柄として、「7」以外の奇数図柄の複数の組合せ（例えば「111」、「333」、「555」、「999」などの飾り図柄の組合せ）の中から決定する。また、受信した可変表示結果指定コマンドが非確変大当りに該当する第5可変表示結果指定コマンドである場合において、演出制御用CPU120は、例えば、停止図柄として3図柄が偶数図柄で揃った飾り図柄の組合せ（大当り図柄）を決定する。また、受信した可変表示結果指定コマンドが、はずれに該当する第1可変表示結果指定コマンドである場合には、変動パターンに応じて、停止図柄として3図柄が不揃いとなる組み合わせや、「767」等のリーチはずれとなる組み合わせ（はずれ図柄）を決定する。

40

【0437】

これら停止図柄の決定においては、演出制御用CPU120は、例えば、停止図柄を決定するための乱数を抽出し、飾り図柄の組合せを示すデータと数値とが対応付けられてい

50

る停止図柄判定テーブルを用いて、飾り図柄の停止図柄を決定すればよい。即ち、抽出した乱数に一致する数値に対応する飾り図柄の組合せを示すデータを選択することによって停止図柄を決定すればよい。

【0438】

ステップ001SGS346の実行後、演出制御用CPU120は、変動パターン指定コマンドに応じた演出制御パターン（プロセステーブル）を選択し（ステップ001SGS347）、該選択したプロセステーブルのプロセスデータ1におけるプロセスタイマをスタートさせる（ステップ001SGS348）。

【0439】

尚、プロセステーブルには、画像表示装置5の表示を制御するための表示制御実行データ、各LEDの点灯を制御するためのランプ制御実行データ、スピーカ8L、8Rから出力する音の制御するための音制御実行データや、プッシュボタン31Bやスティックコントローラ31Aの操作を制御するための操作部制御実行データ等が、各プロセスデータn（1～N番まで）に対応付けて時系列に順番配列されている。

【0440】

次いで、演出制御用CPU120は、プロセスデータ1の内容（表示制御実行データ1、ランプ制御実行データ1、音制御実行データ1、操作部制御実行データ1）に従って演出装置（演出用部品としての画像表示装置5、演出用部品としての各種ランプ及び演出用部品としてのスピーカ8L、8R、操作部（プッシュボタン31B、スティックコントローラ31A等））の制御を実行する（ステップ001SGS349）。例えば、画像表示装置5において変動パターンに応じた画像を表示させるために、表示制御部123に指令を出力する。また、各種ランプを点灯／消灯制御を行わせるために、ランプ制御基板14に対して制御信号（ランプ制御実行データ）を出力する。また、スピーカ8L、8Rからの音声出力を行わせるために、音声制御基板13に対して制御信号（音番号データ）を出力する。

【0441】

尚、本実施の形態では、演出制御用CPU120は、変動パターン指定コマンドに1対1に対応する変動パターンによる飾り図柄の可変表示が行われるように制御するが、演出制御用CPU120は、変動パターン指定コマンドに対応する複数種類の変動パターンから、使用する変動パターンを選択するようにしてもよい。

【0442】

そして、可変表示時間タイマに、変動パターン指定コマンドで特定される可変表示時間に相当する値を設定する（ステップ001SGS350）。また、可変表示制御タイマに所定時間を設定する（ステップ001SGS351）。尚、所定時間は例えば33msであり、演出制御用CPU120は、所定時間が経過する毎に左中右の飾り図柄の表示状態を示す画像データをVRAMに書き込み、表示制御部123がVRAMに書き込まれた画像データに応じた信号を画像表示装置5に出力し、画像表示装置5が信号に応じた画像を表示することによって飾り図柄の可変表示（変動）が実現される。次いで、演出制御プロセスフラグの値を可変表示中演出処理（ステップS172）に対応した値にする（ステップ001SGS352）。

【0443】

（CPU103及び演出制御用CPU120の処理に関する期間）

ここで、本実施の形態におけるCPU103及び演出制御用CPU120（及び表示制御部123）が実行する処理に関する期間について説明する。まず、図52（A）に示すように、CPU103は、図24に示す遊技制御用タイマ割込み処理を4ms毎に実行する。つまり、本実施の形態におけるCPU103は、4ms毎に始動入賞が発生したか否かの判定や、特別図柄プロセス処理、普通図柄プロセス処理、コマンド制御処理等を実行する。加えて、CPU103は、特別図柄の可変表示後の500msを図柄確定期間として特別図柄の可変表示を実行しない期間としている。更に、CPU103は、表示制御処理（ステップS43）における周期的な12msの消灯状態と4msの点灯状態とは別に

10

20

30

40

50

、1周期320msとして、40ms間隔にて特別図柄を構成するLEDの点灯・消灯制御を実行する(図18(A)参照)。

【0444】

一方、図52(A)に示すように、演出制御用CPU120は、図26に示す演出制御メイン処理を2ms毎に実行する。つまり、本実施の形態における演出制御用CPU120は、2ms毎にCPU103からいずれのコマンドを受信したか否か(コマンド解析処理)や、演出制御プロセス処理、演出用乱数更新処理、デモ演出制御処理、背景表示更新処理等を実行する。加えて、演出制御用CPU120は、1周期480msとして、240ms間隔にて第1演出表示灯152Aや第2演出表示灯152Bを構成するLEDの点灯と消灯とを切り替える制御を実行する(図18(B)参照)。

10

【0445】

また、本実施の形態における表示制御部123では、画像を描画するために33msの期間(画像描画期間)を要しており、画像表示装置5に表示されている画像を新たな画像に更新する周期(画像更新周期)は33msとなっている。つまり、本実施の形態では、画像表示装置5に表示される画像は、1秒間に約30回(30FPS)更新されるようになっている。

【0446】

(演出モード詳細)

次に、演出モードA～演出モードDについて説明する。上述したように、演出モードA及び演出モードBは、遊技状態が通常状態(低確低ベース状態)であるときに設定可能な演出モードであり、演出モードCは、遊技状態が時短状態(低確高ベース状態)であるときに設定される演出モードであり、演出モードDは、遊技状態が確変状態(高確高ベース状態)であるときに設定される演出モードである。本実施の形態における各演出モードでは、画像表示装置5に表示される保留表示やアクティブ表示の表示態様、各種アニメーションの実行期間や実行の有無が異なっている。

20

【0447】

例えば、図52(B)に示すように、保留表示の出現アニメーションは、演出モードA及び演出モードBにおいては660ms(20フレーム)に亘って実行され、演出モードCでは165ms(5フレーム)に亘って実行され、演出モードDでは99ms(3フレーム)に亘って実行されるようになっている。尚、これら保留表示の出現アニメーションは、後述するように短縮される場合もある。

30

【0448】

また、保留表示やアクティブ表示の滞留アニメーションは、演出モードA及び演出モードBにおいては1周期を2970ms(90フレーム)として繰り返し実行される一方で、演出モードCや演出モードDでは実行されないようになっている。

【0449】

そして、アクティブ表示の終了アニメーションは、演出モードA～演出モードDにおいて共通して165ms(5フレーム)で実行されるようになっている。

【0450】

(各演出モードの表示態様)

図53(A1)に示すように、演出モードAでは、低ベース状態用の飾り図柄が飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rに表示され、飾り図柄の背景画像として、昼の街の風景をあらわした第1背景画像001SG081が表示される。また、図53(A2)に示すように、飾り図柄の可変表示は、飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rを上方から下方に向けて直線状に移動するスクロール表示(第1スクロール表示)にて実行される。

【0451】

詳しくは、各飾り図柄は、飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rの上辺部から下方に向けてフレームイン表示され、その後、下方に向けて直線状に移動し、飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rの下辺部から下方に向けてフレームアウト表示される。また、フレームイン表示された先行の飾り図柄(例えば、「3」の飾り図柄)が、飾り図柄表示エリア5

40

50

L、5C、5Rの上下方向の中央に設定された飾り図柄の停止位置を通過したときに、後続の飾り図柄（例えば、「4」の飾り図柄）がフレームイン表示され下方に向けて移動していく。つまり、先行の「3」の飾り図柄が停止位置を通過しているときは先行の「2」の飾り図柄と後続の「4」の飾り図柄は視認できないが、先行の「3」の飾り図柄が停止位置を通過した後は、先行の「3」の飾り図柄と後続の「4」の飾り図柄とが視認可能となる。このように飾り図柄は、数字が「0」、「1」、「2」、「3」・・の順に増加していき、「9」の後に「0」に戻って「0」～「9」の更新表示が繰り返し行われる。つまり、各飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて「0」～「9」の飾り図柄がループ表示されることにより、飾り図柄のスクロール表示が実行される。

【0452】

10

また、画像表示装置5の画面左上に設けられた表示領域5Sには、第1特図保留記憶数、第2特図保留記憶数及び小図柄が表示され、画像表示装置5の画面下部に設けられた保留記憶表示エリア5U、アクティブ表示エリア5Fには、実行が保留されている可変表示に対応する保留表示や、実行中の可変表示に対応するアクティブ表示が表示される。これら保留表示やアクティブ表示は、文字（例えば、アクティブ表示では「P」、1個目の保留表示では「W」、2個目の保留表示では「F」、3個目の保留表示では「L」、4個目の保留表示では「II（ローマ数字の2）」）を内包する立方体として表示される（図67（A）参照）。

【0453】

尚、本実施の形態では、新たな保留記憶が発生する毎に、新たな保留表示内に表示される文字はP W F L II P W...と常に規則的に変化するようにになっている。例えば、保留記憶数が0個で特別図柄の可変表示中に新たな保留記憶が4個連続で発生する場合、クティブ表示内の文字が「P」であれば、保留記憶表示エリア5Uにおいて、1個目の保留表示の文字は「W」、2個目の保留表示の文字は「F」、3個目の保留表示の文字は「L」、4個目の保留表示の文字は「II」となる。また、この状況で特別図柄の可変表示が終了し、新たな特別図柄の可変表示が終了すると、アクティブ表示エリア5Fに「W」の文字を内包する保留表示がアクティブ表示としてシフトし、保留記憶表示エリア5Uにおいて、「F」の文字を内包する保留表示が1個目の保留表示の表示位置にシフトし、「L」の文字を内包する保留表示が2個目の保留表示の表示位置にシフトし、「II」の文字を内包する保留表示が3個目の保留表示の表示位置にシフトする。更に、この状態で新たな保留記憶（4個目の保留記憶）が発生する場合は、保留記憶表示エリア5Uの4個目の保留表示の表示位置において「P」の文字を内包する保留表示が表示される。

20

30

【0454】

尚、本実施の形態では、上記のように、保留記憶が発生した順にアクティブ表示や保留表示内に「P」、「W」、「F」、「L」、「II」の文字を表示する形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、例えば、パチンコ遊技機1が電断状態から復旧した際に保留記憶が1個以上存在する場合は、電断発生直前におけるアクティブ表示や保留表示内の文字の並び（例えば、「F」、「L」、「II」、「P」、「W」や「II」、「P」、「W」、「F」、「L」）にかかわらず、アクティブ表示や保留表示内の文字を予め定められた順（例えば、「P」、「W」、「F」、「L」、「II」）で表示してもよい。尚、これら第1特図保留記憶数、第2特図保留記憶数、小図柄、保留記憶表示エリア5U、アクティブ表示エリア5Fは、全ての演出モードに共通に表示されるため、以下においては説明を省略する。

40

【0455】

図53（B1）に示すように、演出モードBでは、低ベース状態用の飾り図柄が飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rに表示され、飾り図柄の背景画像として、昼の荒野の風景をあらわした第2背景画像001SG082が表示される。また、図53（B2）に示すように、飾り図柄の可変表示は、飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rを奥側から手前側にかけて湾曲状に移動するスクロール表示（第2スクロール表示）にて可変表示が実行される。

50

【 0 4 5 6 】

詳しくは、左右の飾り図柄は、左飾り図柄表示エリア 5 L の左側辺上部、右飾り図柄表示エリア 5 R の右側辺上部から画面中央に向けて近づくようにフレームイン表示され、その後、下方に向けて画面左右側に離れるように移動し、左飾り図柄表示エリア 5 L の左側辺下部、右飾り図柄表示エリア 5 R の右側辺下部から側方に向けてフレームアウト表示される。中の飾り図柄は、中飾り図柄表示エリア 5 C の画面奥側から手前側に近づくように拡大表示された後、フレームアウト表示される。

【 0 4 5 7 】

また、フレームイン表示された先行の飾り図柄（例えば、「2」の飾り図柄）が、左右の飾り図柄表示エリア 5 L、5 R の上下方向の中央位置に設定された飾り図柄の停止位置を通過するときに、後続の飾り図柄（例えば、「3」の飾り図柄）がフレームイン表示され画面中央に向けて移動していく。つまり、先行の「2」の飾り図柄が停止位置付近を通過しているときは先行の「2」の飾り図柄と後続の「3」の飾り図柄とが視認できるが、先行の「2」の飾り図柄が停止位置を通過した後は、後続の「3」の飾り図柄と「4」の飾り図柄とが視認可能となる。このように飾り図柄は、数字が「0」、「1」、「2」、「3」・・の順に増加していき、「9」の後に「0」に戻って「0」～「9」までの更新表示が繰り返し行われる。つまり、各飾り図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R において「0」～「9」の飾り図柄がループ表示されることにより、飾り図柄のスクロール表示が実行される。

【 0 4 5 8 】

尚、画像表示装置 5 の画面下部に設けられた保留記憶表示エリア 5 U、アクティブ表示エリア 5 F には、実行が保留されている可変表示に対応する保留表示や、実行中の可変表示に対応するアクティブ表示が表示される。これら保留表示やアクティブ表示は、文字（例えば、アクティブ表示では「P」、1 個目の保留表示では「W」、2 個目の保留表示では「F」、3 個目の保留表示では「L」、4 個目の保留表示では「II」）を内包する正八面体として表示される（図 6 7（A）参照）。

【 0 4 5 9 】

図 5 3（C 1）に示すように、演出モード C では、高ベース状態用の飾り図柄が飾り図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R に表示され、飾り図柄の背景画像として、夕方の街の風景をあらわした第 3 背景画像 0 0 1 S G 0 8 3 が表示される。また、図 5 3（C 2）に示すように、飾り図柄の可変表示は、飾り図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R において、上下方向を向く回転軸を中心として回転する回転表示にて可変表示が実行される。

【 0 4 6 0 】

詳しくは、演出モード C における飾り図柄は、第 1 面と該第 1 面の反対面である第 2 面とを有しており、第 1 面には先行の飾り図柄（例えば、「3」の飾り図柄）が表示される。一方、第 1 面が正面を向いているときには、第 2 面に後続の飾り図柄（例えば、「4」の飾り図柄）が表示されているかを特定することはできない。

【 0 4 6 1 】

また、飾り図柄は一方向（例えば、平面視時計回りまたは反時計回り）に回転可能とされており、第 1 面、第 2 面、第 1 面、第 2 面・・の順に回転することで、数字が「0」、「1」、「2」、「3」・・の順に増加していき、「9」の後に「0」に戻って「0」～「9」までの更新表示が繰り返し行われる。つまり、各飾り図柄表示エリア 5 L、5 C、5 R において「0」～「9」の飾り図柄がループ表示されることにより、飾り図柄の回転表示が実行される。

【 0 4 6 2 】

また、第 1 面が正面を向いている状態から約 90 度以上回転して第 2 面が表示されるとき、第 2 面には、第 1 面に表示されている飾り図柄（例えば、「3」の飾り図柄）の後続の飾り図柄（例えば、「4」の飾り図柄）が表示される。次いで、特に図示しないが、第 2 面 5 b が正面を向いている状態から約 90 度以上回転して第 1 面が表示されるとき、第 1 面には、第 2 面 5 b に表示されている飾り図柄（例えば、「4」の飾り図柄）の後続の

飾り図柄（例えば、「5」の飾り図柄）が表示される。

【0463】

また、画像表示装置5の画面右上部には、遊技者に右打ち操作の促進を報知する右矢印及び「右打ち」の文字からなる右打ち報知画像001SG201が表示され、画像表示装置5の画面左下部には、時短制御が実行される残回数を示す時短残表示001SG202（本例では、「残りXX回」の文字、XX=0~100）が表示される。

【0464】

尚、画像表示装置5の画面下部に設けられた保留記憶表示エリア5U、アクティブ表示エリア5Fには、実行が保留されている可変表示に対応する保留表示や、実行中の可変表示に対応するアクティブ表示が表示される。これら保留表示やアクティブ表示は、文字（例えば、アクティブ表示では「P」、1個目の保留表示では「W」、2個目の保留表示では「F」、3個目の保留表示では「L」、4個目の保留表示では「II」）を内包する球体として表示される（図67（A）参照）。

10

【0465】

図53（D1）に示すように、演出モードDでは、高ベース状態用の飾り図柄が飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rに表示され、飾り図柄の背景画像として、夜の街の風景をあらわした第4背景画像002SG084が表示される。また、図53（D2）に示すように、飾り図柄の可変表示は、飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rを上方から下方に向けて直線状に移動するスクロール表示（第3スクロール表示）にて可変表示が実行される。

20

【0466】

詳しくは、各飾り図柄は、飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rの上辺部から下方に向けてフレームイン表示され、その後、下方に向けて直線状に移動し、飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rの下辺部から下方に向けてフレームアウト表示される。また、フレームイン表示された先行の飾り図柄（例えば、「3」の飾り図柄）が、飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rの上下方向の中央に設定された飾り図柄の停止位置を通過するとき、後続の飾り図柄（例えば、「4」の飾り図柄）がフレームイン表示され下方に向けて移動していく。つまり、先行の「3」の飾り図柄が停止位置を通過しているときは先行の「2」の飾り図柄と後続の「4」の飾り図柄は視認できないが、先行の「3」の飾り図柄が停止位置を通過した後は、先行の「3」の飾り図柄と後続の「4」の飾り図柄とが視認可能となる。このように飾り図柄は、数字が「0」、「1」、「2」、「3」・・・の順に増加していき、「9」の後に「0」に戻って「0」~「9」までの増加が繰り返し行われる。つまり、各飾り図柄表示エリア5L、5C、5Rにおいて「0」~「9」の飾り図柄がループ表示されることにより、飾り図柄のスクロール表示が実行される。

30

【0467】

また、画像表示装置5の画面右上部には、遊技者に右打ち操作の促進を報知する右矢印及び「右打ち」の文字からなる右打ち報知画像002SG201が表示される。

【0468】

尚、画像表示装置5の画面下部に設けられた保留記憶表示エリア5U、アクティブ表示エリア5Fには、実行が保留されている可変表示に対応する保留表示や、実行中の可変表示に対応するアクティブ表示が表示される。これら保留表示やアクティブ表示は、演出モードCと同じく文字（例えば、アクティブ表示では「P」、1個目の保留表示では「W」、2個目の保留表示では「F」、3個目の保留表示では「L」、4個目の保留表示では「II」）を内包する球体として表示される一方で、これら球体内部の配色と内包する文字の配色とが反転している点で異なっている（図67（A）参照）。

40

【0469】

（出現アニメーション）

次に、各演出モードにおける保留表示の出現アニメーションについて説明する。尚、本実施の形態において「アニメーション」は、例えば、1コマ（1フレーム）前の画像と比較して当該画像の少なくとも一部の視認性を変化させることにより動きを持たせる動的な

50

表示（動画表示）であって、表示画像の位置、サイズ、色、透過率のうち少なくともいずれか1つを1コマ前の画像と異ならせることで視認性が変化するものであればよい。つまり、「アニメーション」は、「移動表示」や「回転表示」、「拡大表示」や「縮小表示」、「フレームイン表示」や「フレームアウト表示」といった画像の変位を伴う表示はもちろん、「フェードアウト表示」や「フェードイン表示」といった画像の変位を伴わないが色調などの表示態様に変化する表示なども含む。

【0470】

本実施の形態における『出現アニメーション』とは、遊技球が始動入賞口に入賞したことによって新たな保留記憶が発生した場合に、保留記憶表示エリア5Uにおける保留記憶数に応じた位置に該保留記憶の発生に応じた保留表示を表示するためのアニメーションである。図54及び図67(B)に示すように、演出モードAにおいて始動入賞が発生し、該始動入賞にもとづいて保留変化演出の実行が決定されなかった場合、すなわち、保留表示が白色で表示される場合は、該始動入賞の発生にもとづいて新たな保留表示が保留記憶表示エリア5Uの手前側下方の位置から保留記憶表示エリア5Uの上方位置に向けて移動していく。そして、保留表示は、保留記憶表示エリア5Uの上方位置に達すると、該保留記憶表示エリア5Uにおける保留記憶数に応じた位置に向けて下降していき、最終的に該保留記憶表示エリア5Uにおける保留記憶数に応じた位置に表示される。つまり、演出モードAにおいて始動入賞が発生し、該始動入賞にもとづいて保留変化演出の実行が決定されなかった場合、保留表示は、保留記憶表示エリア5Uの手前側下方の位置から放物線を描くように移動する。

10

20

【0471】

このとき、図56に示すように、保留表示は、既に表示されているアクティブ表示や保留表示よりも上方位置を頂点として放物線を描くように移動するため、演出モードAにおける白色の保留表示の出現アニメーションは、アクティブ表示や保留表示の滞留アニメーションよりも広い領域で実行されるアニメーションとなっている。

【0472】

また、図56に示すように、演出モードAにおいて始動入賞が発生し、該始動入賞にもとづいて保留変化演出の実行が決定されなかった場合の出現アニメーションでは、1フレーム目の画像では保留表示が透過度の高い状態（例えば、1フレーム目の画像の保留表示の透過度は90%）で表示されており、出現アニメーションの進行に伴って保留表示の透過度が漸次80%、60%、40%等と低下していくようになっている。そして、該出現アニメーションの20フレーム目の画像では、保留表示が最終態様として透過度が0%となり、保留記憶表示エリア5Uにおける保留記憶数に応じた位置に表示される。

30

【0473】

図55及び図67(B)に示すように、演出モードAにおいて始動入賞が発生し、該始動入賞にもとづいて保留変化演出の実行が決定された場合、すなわち、保留表示が青色や赤色で表示される場合は、該始動入賞の発生にもとづいて保留記憶表示エリア5Uの上方位置においてエフェクトの表示が行われ、該エフェクトが保留記憶表示エリア5Uに向けて下降していく。このとき、エフェクトは下降に伴って非表示化（透過度が増加）していく一方で、該エフェクトに替えて漸次青色または赤色の保留表示が透過度を低下させつつ保留記憶表示エリア5Uに向けて下降していく。つまり、エフェクトと保留表示は、保留記憶表示エリア5Uに向けて共に下降していく。そして、エフェクトが完全に消失するタイミングで、保留表示が保留記憶表示エリア5Uにおける保留記憶数に応じた位置に表示される。

40

【0474】

また、該演出モードAにおいて保留変化演出の実行が決定された場合の保留表示の出現アニメーションは、保留表示を既に表示されているアクティブ表示や保留表示よりも大きいサイズで表示を開始し、該保留表示の移動（下降）に応じて該保留表示のサイズを漸次縮小させていくアニメーションでもある。

【0475】

50

尚、特に図示しないが、演出モード A における青色や赤色の保留表示及びエフェクトは、既に表示されているアクティブ表示や保留表示よりも上方位置から表示が開始されて保留記憶表示エリア 5 U に向けて移動（下降）するため、演出モード A における青色や赤色の保留表示の出現アニメーションは、アクティブ表示や保留表示の滞留アニメーションよりも広い領域で実行されるアニメーションとなっている。

【 0 4 7 6 】

図 5 8 及び図 6 7 (B) に示すように、演出モード B において始動入賞が発生し、該始動入賞にもとづいて保留変化演出の非実行が決定された場合、すなわち、保留表示が白色で表示される場合は、該始動入賞の発生にもとづいて保留記憶表示エリア 5 U の上方位置においてエフェクトの表示が行われ、該エフェクトが保留記憶表示エリア 5 U に向けて下降していく。このとき、エフェクトは下降に伴って非表示化（透過度が増加）していく一方で、該エフェクトに替えて漸次白色の保留表示が透過度を低下させつつ保留記憶表示エリア 5 U に向けて下降していく。つまり、エフェクトと保留表示は、保留記憶表示エリア 5 U に向けて共に下降していく。尚、本出現アニメーションにおけるエフェクトは、該アニメーションの開始から 5 フレームで消失するが、エフェクトの消失後も保留表示の下降は継続される。そして、エフェクトが消失してから所定期間（該アニメーションであれば 1 5 フレーム）が経過すると、保留表示が保留記憶表示エリア 5 U における保留記憶数に応じた位置に表示される。

【 0 4 7 7 】

尚、特に図示しないが、演出モード B における白色の保留表示及びエフェクトは、既に表示されているアクティブ表示や保留表示よりも上方位置から表示が開始されて保留記憶表示エリア 5 U に向けて移動（下降）するため、移動するため、演出モード B における白色の保留表示の出現アニメーションは、アクティブ表示や保留表示の滞留アニメーションよりも広い領域で実行されるアニメーションとなっている。

【 0 4 7 8 】

図 5 9 及び図 6 7 (B) に示すように、演出モード B において始動入賞が発生し、該始動入賞にもとづいて保留変化演出の実行が決定された場合、すなわち、保留表示が青色や赤色で表示される場合は、演出モード A において保留変化演出の実行が決定された場合と同じく、該始動入賞の発生にもとづいて保留記憶表示エリア 5 U の上方位置においてエフェクトの表示が行われ、該エフェクトが保留記憶表示エリア 5 U に向けて下降していく。このとき、エフェクトは下降に伴って非表示化（透過度が増加）していく一方で、該エフェクトに替えて漸次青色または赤色の保留表示が透過度を低下させつつ保留記憶表示エリア 5 U に向けて下降していく。つまり、エフェクトと保留表示は、保留記憶表示エリア 5 U に向けて共に下降していく。そして、エフェクトが完全に消失するタイミングで、保留表示が保留記憶表示エリア 5 U における保留記憶数に応じた位置に表示される。

【 0 4 7 9 】

また、該演出モード B において保留変化演出の実行が決定された場合の保留表示の出現アニメーションは、保留表示を既に表示されているアクティブ表示や保留表示よりも大きいサイズで表示を開始し、該保留表示の移動（下降）に応じて該保留表示のサイズを漸次縮小させていくアニメーションでもある。

【 0 4 8 0 】

尚、特に図示しないが、演出モード A における青色や赤色の保留表示及びエフェクトは、既に表示されているアクティブ表示や保留表示よりも上方位置から表示が開始されて保留記憶表示エリア 5 U に向けて移動（下降）するため、演出モード A における青色や赤色の保留表示の出現アニメーションは、アクティブ表示や保留表示の滞留アニメーションよりも広い領域で実行されるアニメーションとなっている。

【 0 4 8 1 】

尚、図 5 5 及び図 5 9 に示すように、演出モード A、演出モード B において青色や赤色の保留表示を表示する場合（保留変化演出を実行する場合）は、出現アニメーションの 1 フレーム目の画像として保留記憶表示エリア 5 U の上方位置においてエフェクトが表示さ

れることで、遊技者はこれから表示される保留表示が保留変化演出の対象保留表示であること、つまり、白色の保留表示が表示される場合よりも大当り遊技状態に制御される割合が高いことを認識することができる。更に、出現アニメーションの9フレーム目までは、保留表示の表示色が青色と赤色のどちらであるか遊技者が認識不能なように該保留表示の透過度が高く設定されているため、該保留表示の表示色が青色と赤色のどちらであるか、つまり、大当り遊技状態に制御される割合がどの程度高いかに対して遊技者を注目させる事が可能となっている。

【0482】

また、図55及び図59に示すように、演出モードA、演出モードBにおいて青色や赤色の保留表示を表示する場合（保留変化演出を実行する場合）については、出現アニメーションとして1～19フレーム目の画像として共通のエフェクトを表示するつまり、演出モードAにおいて青色の保留表示を表示する場合、演出モードAにおいて赤色の保留表示を表示する場合、演出モードBにおいて青色の保留表示を表示する場合、演出モードBにおいて赤色の保留表示を表示する場合の計4通りの出現アニメーションにおいて共通のエフェクトを表示している。このため、これら演出モードAや演出モードBにおいて保留表示を青色や赤色にて表示する場合は、これら出現アニメーションとして使用する画像データの共通化を図ることができ、出現アニメーションを実行するために必要なデータ量を低減することができる。

【0483】

図60、図61及び図67に示すように、演出モードC及び演出モードDにおいて新たな始動入賞が発生した場合は、先ず、該始動入賞にもとづいて、保留記憶表示エリア5Uにおける保留記憶数に応じた位置においてエフェクトが表示される。該エフェクトは、出現アニメーションの進行に応じて非表示化（透過度が増加）していく。そして、保留記憶表示エリア5Uにおける保留記憶数に応じた位置では、該エフェクトに替えて、保留表示が透過度を低下させつつ拡大表示されていく。そして、エフェクトの消失が完了すると、保留表示の透過度の低下及び拡大も終了する。

【0484】

尚、図60及び図61に示すように、演出モードCでの出現アニメーションと演出モードDでの出現アニメーションとにおいては、演出モードCでの出現アニメーションの方がエフェクトの表示開始から消失までに要する期間が長く、また、保留表示の表示開始から拡大が終了するまでに要する期間が長く設定されている。

【0485】

（滞留アニメーション）

次に、各演出モードにおける保留表示及びアクティブ表示の滞留アニメーションについて説明する。本実施の形態における『滞留アニメーション』は、特別図柄の可変表示中にアクティブ表示エリア5Fにおいてアクティブ表示を演出モードに応じた態様で動作（演出モードAなら回転、演出モードBなら回動、演出モードC及びDでは非動作）させるアニメーションと、保留記憶が1個以上存在する場合に保留記憶表示エリア5Uにおいて保留表示を演出モードに応じた態様で動作（演出モードAなら回転、演出モードBなら回動、演出モードC及びDでは非動作）させるアニメーションと、を含むアニメーションである。

【0486】

図62（A）及び図67（B）に示すように、演出モードAにおける滞留アニメーションは、保留表示やアクティブ表示を正面視で垂直軸を中心として時計回りに回転させるアニメーションである。該演出モードAにおける滞留アニメーションは、1周期を90フレームとして繰り返し実行されるようになっている。また、該演出モードAにおける滞留アニメーションにおいては、保留表示またはアクティブ表示内の文字もこれら保留表示またはアクティブ表示の回転に応じて回転する。

【0487】

また、図62（B）及び図67（B）に示すように、演出モードBにおける滞留アニメ

ーションは、保留表示やアクティブ表示を正面視で垂直軸を中心として時計回り方向と反時計回り方向とに交互に回転させるアニメーションである。該演出モードにおける滞留アニメーションは、1周期を90フレームとして、前半の45フレームにおいて保留表示やアクティブ表示を正面視で垂直軸を中心として反時計回り方向に回転させ、後半の45フレームにおいて保留表示やアクティブ表示を正面視で垂直軸を中心として時計回り方向に回転させるようになっている。また、該演出モードBにおける滞留アニメーションにおいては、保留表示またはアクティブ表示内の文字もこれら保留表示またはアクティブ表示の回転に応じて回転する。

【0488】

尚、本実施の形態における演出モードC及び演出モードD、つまり、時短状態と確変状態は、演出モードAや演出モードBにて保留表示やアクティブ表示が表示される通常状態と比較して1回あたりの可変表示に要する時間が短く設定されているため、保留表示やアクティブ表示の滞留アニメーションは実行されないが、本発明はこれに限定されるものではなく、演出モードCや演出モードDにおいても保留表示やアクティブ表示の滞留アニメーションが実行されるようにしてもよい。

【0489】

尚、本実施の形態における滞留アニメーションは、1周期が90フレーム(2970ms)、つまり、秒間約30フレーム(フレームレートが約30FPS)で表示されるアニメーションとなっている。ここで、滞留アニメーションは出現アニメーションや終了アニメーションよりも長期間に亘って遊技者から視認されるアニメーションであることから、保留表示の動作をゆったりと見せたいという考えがある。また、該出現アニメーションはフレームレートを約30FPSで制作することで遊技機の開発を行い易いばかりか実際の保留表示の動作を開発者がイメージし易いという利点がある。以上の理由から本実施の形態の滞留アニメーションはフレームレートが30FPSのアニメーションとして制作されているが、本発明はこれに限定されるものではなく、滞留アニメーションは30FPSよりも低フレームレートまたは高フレームレートのアニメーションとしてもよい。

【0490】

(終了アニメーション)

次に、各演出モードにおけるアクティブ表示の終了アニメーションについて説明する。本実施の形態における『終了アニメーション』は、特別図柄の可変表示が終了(停止)した際に、該可変表示に応じたアクティブ表示の表示を終了させる(アクティブ表示エリア5Fからアクティブ表示を消失させる)アニメーションである。図63(A)~図63(D)及び図67(B)に示すように、各演出モードにおける終了アニメーションは、いずれもアクティブ表示エリア5Fにて実行されるアニメーションであって、終了した可変表示に対応するアクティブ表示の透過度が漸次高まっていき、5フレーム目でアクティブ表示エリア5Fから完全に消失するアニメーションである。

【0491】

尚、本実施の形態の終了アニメーションとしては、各演出モードで共通の態様で実行する形態を例示しているが、本発明は限定されるものではなく、各演出モードにおいて終了アニメーションの実行期間を共通としつつ、各演出モードにおいて態様の異なる週雨量アニメーションを実行してもよい。

【0492】

(シフトアニメーション)

次に、各演出モードにおける保留表示のシフトアニメーションについて説明する。本実施の形態における『シフトアニメーション』とは、保留記憶表示エリア5Uにおいて1個目の保留記憶に応じた位置に表示されている保留表示を、新たな特別図柄の可変表示の開始に応じてアクティブ表示エリア5Fに向けて移動させるアニメーションと、保留記憶表示エリア5Uにおいて2個目の保留記憶に応じた位置に表示されている保留表示を、新たな特別図柄の可変表示の開始に応じて保留記憶表示エリア5Uにおける1個目の保留記憶に応じた位置に向けて移動させるアニメーションと、保留記憶表示エリア5Uにおいて3

10

20

30

40

50

個目の保留記憶に応じた位置に表示されている保留表示を、新たな特別図柄の可変表示の開始に応じて保留記憶表示エリア 5 U における 2 個目の保留記憶に応じた位置に向けて移動させるアニメーションと、保留記憶表示エリア 5 U において 4 個目の保留記憶に応じた位置に表示されている保留表示を、新たな特別図柄の可変表示の開始に応じて保留記憶表示エリア 5 U における 3 個目の保留記憶に応じた位置に向けて移動させるアニメーションと、を含むアニメーションである。

【 0 4 9 3 】

図 6 4、図 6 6 及び図 6 7 (B) に示すように、シフトアニメーションは、上述した終了アニメーションによってアクティブ表示エリア 5 F におけるアクティブ表示が消失 (表示が終了) すると、実行されるアニメーションであって、保留記憶表示エリア 5 U における 1 個目の保留記憶に応じた位置に表示されている保留表示が次のアクティブ表示としてアクティブ表示エリア 5 F に、保留記憶表示エリア 5 U における 2 個目の保留記憶に応じた位置に表示されている保留表示が保留記憶表示エリア 5 U における 1 個目の保留記憶に応じた位置に、保留記憶表示エリア 5 U における 3 個目の保留記憶に応じた位置に表示されている保留表示が保留記憶表示エリア 5 U における 2 個目の保留記憶に応じた位置に、保留記憶表示エリア 5 U における 4 個目の保留記憶に応じた位置に表示されている保留表示が保留記憶表示エリア 5 U における 3 個目の保留記憶に応じた位置に、それぞれ移動表示 (シフト) が同時に実行される。

【 0 4 9 4 】

尚、図 6 5 に示すように、保留記憶数が 0 個且つ可変表示が実行されていない状態で新たな保留記憶が発生した場合は、先ず、保留記憶表示エリア 5 U における 1 個目の保留記憶に応じた位置において出現アニメーションが実行されることなく保留表示 (出現にアニメーションにおける最終態様での保留表示) が表示される。この状態から、シフトアニメーションとして、保留記憶表示エリア 5 U における 1 個目の保留記憶に応じた位置に表示されている保留表示のアクティブ表示エリア 5 F への移動表示 (シフト) のみが実行される。

【 0 4 9 5 】

尚、図 5 7 に示すように、アクティブ表示エリア 5 F と保留記憶表示エリア 5 U における 1 個目の保留記憶に応じた位置は長さ L 1 にかけて離間しており、保留記憶表示エリア 5 U におおいて、1 個目の保留記憶に応じた位置と 2 個目の保留記憶に応じた位置、2 個目の保留記憶に応じた位置と 3 個目の保留記憶に応じた位置、3 個目の保留記憶に応じた位置と 4 個目の保留記憶に応じた位置は、それぞれ長さ L 1 よりも短い長さ L 2 (L 1 > L 2) にかけて離間している。このため、本実施の形態のシフトアニメーションにおいて、次の可変表示に応じたアクティブ表示としてアクティブ表示エリア 5 F にシフトする保留表示は、他の保留表示よりも高速でシフトするようになっている。

【 0 4 9 6 】

尚、図 6 4、図 6 5、図 6 6 に示すように、本実施の形態では、演出モード A 及び演出モード B のシフトアニメーションについて説明したが、演出モード C 及び演出モード D におけるシフトアニメーションは演出モード A 及び演出モード B のシフトアニメーションと同様であるので説明を省略する。更に、図 6 5 は、演出モード A において保留記憶数が 1 個である状態でシフトアニメーションが実行される場合の説明図であるが、演出モード B において保留記憶数が 1 個である状態においても同様にシフトアニメーションが実行される。

【 0 4 9 7 】

(新たな保留記憶が発生した際の保留表示の表示態様について)

次に、始動入賞口への遊技球の入賞によって新たな保留記憶が発生した際の保留表示の表示態様について状況毎に説明する。尚、以下の形態については、遊技状態が通常状態 (低確低ベース状態) であるときの、第 2 特図保留記憶数が 0 個であり、第 2 特別図柄の可変表示が実行されていないときの第 1 特別図柄の可変表示の実行の有無、第 1 特図保留記憶数、これら第 1 特図保留記憶数にもとづく保留表示について説明するが、以下の形態は、遊技状態が時短状態や確変状態であるときの、第 2 特別図柄の可変表示の実行の有無、

第 2 特図保留記憶数、これら第 2 特図保留記憶数にもとづく保留表示についても当て嵌まる。

【 0 4 9 8 】

(出現アニメーションの短縮詳細)

次に、上記した保留表示の出現アニメーションの短縮 (以下、スキップと称する場合もある) について説明する。尚、以下は主に演出パターン A の出現アニメーションにもとづいて説明するが、演出パターン B ~ 演出パターン D の出現アニメーションは実行期間が異なるのみであるので、説明を省略する。

【 0 4 9 9 】

図 6 8 (A) 及び図 6 8 (B) に示すように、保留記憶数が 1 以上である場合に新たな保留記憶が発生し、且つ該保留記憶にもとづいて保留変化演出の非実行が決定された場合は、演出制御用 CPU 1 2 0 が該保留記憶の発生にもとづいて保留記憶数通知コマンドを受信することで、表示制御部 1 2 3 による出現アニメーションの 1 フレーム目の画像描画が開始される。そして出現アニメーションの 1 フレーム目の画像描画が完了すると、次の画像更新タイミングから画像表示装置 5 において新たな保留表示の出現アニメーションの表示が開始される。

10

【 0 5 0 0 】

ここで、図 6 8 (A) に示すように、出現アニメーションの開始タイミングから次の可変表示の開始タイミングまでの期間が 6 6 0 m s 以上である場合は、6 6 0 m s (2 0 フレーム) に亘り保留表示が放物線を描きつつ保留記憶表示エリア 5 U における保留記憶数に応じた位置に向けて移動する全てのフレームの画像が表示され、最終的に保留表示が最終態様として保留記憶表示エリア 5 U における保留記憶数に応じた位置に表示される。そして、次の可変表示が開始されると、演出制御用 CPU 1 2 0 が該可変表示の開始にもとづくコマンド (可変表示開始指定コマンド) を受信することで、表示制御部 1 2 3 によるシフトアニメーションの 1 フレーム目の画像描画が開始される。そしてシフトアニメーションの 1 フレーム目の画像描画が完了すると、次の画像更新タイミングから画像表示装置 5 においてシフトアニメーションの表示が開始される。

20

【 0 5 0 1 】

一方で、図 6 8 (B) に示すように、出現アニメーションの開始タイミングから次の可変表示の開始タイミングまでの期間が 6 6 0 m s 未満である場合は、次の可変表示開始タイミングでは未だ出現アニメーションとして途中のフレームの画像 (図 6 8 (B) の図では 1 4 フレーム目の画像) が表示されていることとなる。また、次の可変表示が開始されると、演出制御用 CPU 1 2 0 が該可変表示の開始にもとづくコマンド (可変表示開始指定コマンド) を受信することで、表示制御部 1 2 3 によるシフトアニメーションの 1 フレーム目の画像描画が開始される。そしてシフトアニメーションの 1 フレーム目の画像描画が完了すると、次の画像更新タイミングから画像表示装置 5 において、それまで実行されていた出現アニメーションに替えてシフトアニメーションの表示が開始される。

30

【 0 5 0 2 】

このとき、出現アニメーションとして表示されていなかった画像 (図 6 8 (B) の図では 1 6 ~ 2 0 フレームの画像) はそのまま表示されることはなく、シフトアニメーションの表示が開始される。尚、シフトアニメーションの 1 フレーム目として表示される保留表示は、出現アニメーションとして表示される保留表示の最終態様 (2 0 フレーム目の画像として保留記憶表示エリア 5 U における保留記憶数に応じた位置に表示される保留表示) と同一態様の画像となっている。このため、遊技者からは、出現アニメーションの実行中に新たな可変表示が開始されると、それまでの出現アニメーションとして放物線描いて移動表示されていた保留表示が突如として保留記憶表示エリア 5 U における保留記憶数に応じた位置に表示された状態となり、シフトアニメーションに移行するように視認されることとなる。

40

【 0 5 0 3 】

尚、図 6 8 (A) 及び図 6 8 (B) では、保留記憶数が 1 以上である場合に新たな保留

50

記憶が発生し、且つ該保留記憶にもとづいて保留変化演出の非実行が決定された場合について説明したが、図 6 9 (A) 及び図 6 9 (B) に示すように、保留記憶数が 1 以上である場合に新たな保留記憶が発生し、且つ該保留記憶にもとづいて保留変化演出の実行が決定された場合についても、上記図 6 8 (A) 及び図 6 8 (B) と同様に、出現アニメーションの実行期間中において演出制御用 C P U 1 2 0 が可変表示開始指定コマンドを受信しなければ青色や赤色の保留表示の出現アニメーションが 6 6 0 m s に亘って実行される一方で、出現アニメーションの実行期間中において演出制御用 C P U 1 2 0 が可変表示開始指定コマンドを受信したことに応じて青色や赤色の保留表示の出現アニメーションが中断（スキップ）され、該出現アニメーションに替えて青色や赤色の保留表示のシフトアニメーションが開始される。

10

【 0 5 0 4 】

また、図 7 0 (A) に示すように、保留記憶数が 0 個であり、且つ既に終了した可変表示の図柄確定期間の終了直前、つまり、図柄確定期間が終了する 3 3 m s 以内のタイミングで新たな保留記憶が発生した場合（保留記憶数が 0 個且つ次の可変表示直前のタイミングで新たな保留記憶が発生した場合）は、演出制御用 C P U 1 2 0 が該保留記憶の発生にもとづいて保留記憶数通知コマンドを受信することで、表示制御部 1 2 3 による出現アニメーションの 1 フレーム目の画像描画が開始される。そして出現アニメーションの 1 フレーム目の画像描画が完了すると、次の画像更新タイミングから画像表示装置 5 において新たな保留表示の出現アニメーションの表示が開始される。

20

【 0 5 0 5 】

しかしながら、図 7 0 (A) に示す例では、出現アニメーションの 1 フレーム目の画像描画中において新たな保留記憶にもとづく可変表示が開始されることとなるので、該可変表示が開始されると、演出制御用 C P U 1 2 0 が該可変表示の開始にもとづくコマンド（可変表示開始指定コマンド）を受信することで、表示制御部 1 2 3 によるシフトアニメーションの 1 フレーム目の画像描画が開始される。そしてシフトアニメーションの 1 フレーム目の画像描画が完了すると、次の画像更新タイミングから画像表示装置 5 においてシフトアニメーションの表示が開始される。

【 0 5 0 6 】

このため、画像表示装置 5 においては、1 フレーム目の出現アニメーションの画像が表示されると、該出現アニメーションの 2 ~ 2 0 フレーム目の画像が表示されることなく、シフトアニメーションの画像として保留記憶表示エリア 5 U における 1 個目の保留表示（出現アニメーションの 2 0 フレーム目の画像として表示される保留表示と同一態様の保留表示）が当該可変表示のアクティブ表示としてアクティブ表示エリア 5 F に向けてシフトする画像として表示されることとなる。

30

【 0 5 0 7 】

また、図 7 0 (B) に示すように、保留記憶数が 0 個であり、且つ既に終了した可変表示の図柄確定期間の終了直後に新たな保留記憶が発生した場合、つまり、図柄確定期間が終了してから 3 3 m s 以内のタイミングで新たな保留記憶が発生した場合は、演出制御用 C P U 1 2 0 が該保留記憶の発生にもとづいて保留記憶数通知コマンドとか変表示開始コマンドと、をほぼ同時に受信する。これによって、表示制御部 1 2 3 は、出現アニメーションの画像よりもシフトアニメーションの画像の描画を優先する。

40

【 0 5 0 8 】

このため、画像表示装置 5 においては、出現アニメーションの画像が表示されることなく、シフトアニメーションの画像として保留記憶表示エリア 5 U における 1 個目の保留表示（出現アニメーションの 2 0 フレーム目の画像として表示される保留表示と同一態様の保留表示）が当該可変表示のアクティブ表示としてアクティブ表示エリア 5 F に向けてシフトする画像として表示されることとなる。

【 0 5 0 9 】

また、図 7 1 に示すように、保留記憶数が 0 個であり、且つ既に終了した可変表示の図柄確定期間の終了から十分に時間が経過した場合、つまり、図柄確定期間が終了してから

50

33ms以上経過したタイミングで新たな保留記憶が発生した場合は、演出制御用CPU120が該保留記憶の発生にもとづいて保留記憶数通知コマンドとか変表示開始コマンドと、をほぼ同時に受信する。これによって、表示制御部123は、出現アニメーションの画像よりもシフトアニメーションの画像の描画を優先する。

【0510】

このため、画像表示装置5においては、出現アニメーションの画像が表示されることなく、シフトアニメーションの画像として保留記憶表示エリア5Uにおける1個目の保留表示（出現アニメーションの20フレーム目の画像として表示される保留表示と同一態様の保留表示）が当該可変表示のアクティブ表示としてアクティブ表示エリア5Fに向けてシフトする画像として表示されることとなる。

10

【0511】

尚、従来のパチンコ遊技機1においては、保留記憶数がN個（ $3 - N - 1$ ）で特別図柄の可変表示終了間際に新たな保留記憶（ $N + 1$ 個目の保留記憶）が発生した場合、該新たな保留記憶に応じた保留表示の出現アニメーションが保留記憶表示エリア5Uの $N + 1$ 個の保留記憶に応じた位置において開始されることとなる。該出現アニメーションの実行中に新たな特別図柄の可変表示が開始されると、保留記憶表示エリア5UにおいてN個目までの保留記憶に応じた保留表示の移動表示（シフトアニメーション）が実行されるが、このとき新たな保留記憶に応じた保留表示の出現アニメーションは途上であるので、新たな保留記憶に応じた保留表示について、出現アニメーションを継続しつつ移動表示させる（シフトアニメーションを実行することと（以下、第1案）、出現アニメーションが完了するまで移動表示させないこと（以下、第2案）が考えられる。

20

【0512】

ここで、上記第1案では、新たな保留記憶に応じた保留表示の移動表示と出現アニメーションとが同時に進行することとなるため、新たな保留記憶に応じた保留表示の移動表示と出現アニメーションとの両方が遊技者から視認し難い物になってしまうという問題がある。また、上記第2案では、保留記憶表示エリア5Uにおいて、既に移動表示が完了した保留表示と新たな保留記憶に応じた保留表示との間に保留表示が表示されないといった状況が発生するとともに、新たな保留記憶が4個目の保留記憶である場合は、保留記憶表示エリア5Uの4個目の保留記憶に応じた位置から保留表示が出現アニメーションの完了まで移動を開始しないので、遊技者から新たな特別図柄の可変表示が開始されたにもかかわらず未だに保留記憶数が上限である4個のままであると誤認されてしまい、遊技者が遊技を一時的に停止してしまう虞がある。

30

【0513】

以上の理由から、本発明では、保留表示の出現アニメーションの実行中に新たな保留記憶が発生した場合に、該出現アニメーションを中断（スキップ）させることによって、保留表示のシフトアニメーションや出現アニメーションの視認性を確保しつつ、保留記憶表示エリア5Uにおいて表示されている保留表示数を遊技者が誤認してしまう虞を低減している。

【0514】

以下では、新たな保留記憶が発生したタイミングに応じた画像表示装置5の表示態様、各保留表示器の点灯制御、コマンドの送受信について図72～図85にもとづいて説明する。尚、図72～図85は、遊技状態が通常状態、第2特図保留記憶数が0個且つ第2特別図柄の可変表示が実行されていない状態について例示するが、遊技状態が時短状態や確変状態、第1特図保留記憶数が0個且つ第1特別図柄の可変表示が実行されていない状態については可変表示の対象特別図柄が異なるのみで画像表示装置5の表示態様、各保留表示器の点灯制御、コマンドの送受信は同様であるため省略する。

40

【0515】

（保留記憶数が1～3個の可変表示中に新たな保留記憶が発生し、且つ次の可変表示開始まで660ms以上前のタイミングから出現アニメーションが開始される場合）

先ず、図72に示すように、第1特図保留記憶数がN個（ $3 - N - 1$ ）且つ第1特別図

50

柄の可変表示中に新たな第 1 特図保留記憶が発生すると、CPU 103 は、該新たな第 1 特図保留記憶を含む保留記憶数に応じた第 1 保留表示器 25A の点灯制御を行う。また、CPU 103 は、該新たな保留記憶が発生したタイミング（新たな第 1 特図保留記憶の発生を判定したのと同じ遊技制御用タイマ割り込み処理）において、演出制御用 CPU 120 に対して第 1 特図保留記憶数通知コマンドの送信を行う。

【0516】

そして、CPU 103 は、可変表示及び該可変表示にもとづく 500ms の図柄確定期間が終了すると、第 1 特図保留記憶数を 1 減算し、該減算後の保留記憶数に応じて第 1 保留表示器 25A の点灯制御を実行する。更に、CPU 103 は、新たな特別図柄（第 1 特別図柄）の可変表示を開始するとともに、該新たな第 1 特別図柄の可変表示開始にもとづいて、演出制御用 CPU 120 に対して第 1 可変表示開始指定及び第 1 特図保留記憶数通知コマンドの送信を行う。

10

【0517】

演出制御用 CPU 120 は、割り込み制御の実行周期が 2ms であることから、CPU 103 が第 1 保留記憶通知コマンドを送信してから最長で 2ms 後に該第 1 保留記憶通知コマンドを受信する。演出制御用 CPU 120 は、第 1 特図保留記憶数通知コマンドを受信したと判定すると、該第 1 特図保留記憶数通知コマンドから第 1 特図保留記憶数を特定し、該特定した第 1 特図保留記憶数に応じた第 1 サブ保留表示器 151A の点灯制御を行う。

【0518】

また、演出制御用 CPU 120 は、表示制御部 123 を制御することによって、表示制御部 123 に新たな第 1 特図保留記憶の発生にもとづく保留表示の出現アニメーションの描画を開始させる。出現アニメーションの 1 フレーム目の画像の描画が完了すると、次の画像更新タイミングにおいて該出現アニメーションの 1 フレーム目の画像が画像表示装置 5 に転送されて出現アニメーションの表示が開始される。尚、該出現アニメーションとしては、保留記憶表示エリア 5U の保留記憶数 $N + 1$ 個に応じた位置に向けて保留表示の移動表示が開始される。

20

【0519】

ここで、図 72 に示すように、次の可変表示の開始タイミングまで 660ms 以上の期間が空いているタイミングで出現アニメーションが開始された場合は、出現アニメーションの画像の描画及び出現アニメーション表示期間が次の可変表示の開始前に終了し、替えて、滞留アニメーションの画像の描画及び出現アニメーションによって表示された保留表示の滞留アニメーションが開始される。

30

【0520】

そして、演出制御用 CPU 120 は、第 1 可変表示開始指定及び第 1 特図保留記憶数通知コマンドを受信したと判定すると、該第 1 特図保留記憶数通知コマンドから第 1 特図保留記憶数を特定し、該特定した第 1 特図保留記憶数に応じた第 1 サブ保留表示器 151A の点灯制御を行う。また、演出制御用 CPU 120 は、表示制御部 123 を制御することによって、表示制御部 123 に滞留アニメーションの画像に替えてシフトアニメーションの画像の描画を開始させる。シフトアニメーションの 1 フレーム目の画像の描画が完了すると、次の画像更新タイミングにおいて該シフトアニメーションの 1 フレーム目の画像が画像表示装置 5 に転送されてシフトアニメーションの表示が開始される。

40

【0521】

（保留記憶数が 1 ~ 3 個であるときに新たな保留記憶が発生し、且つ次の可変表示開始まで 660ms 未満のタイミングから出現アニメーションが開始される場合）

次に、図 73 に示すように、第 1 特図保留記憶数が N 個（ $3 - N - 1$ ）であるときに新たな第 1 特図保留記憶が発生し、且つ次の可変表示開始まで 660ms 未満のタイミングから出現アニメーションが開始される場合について説明する。

【0522】

例えば、第 1 特図保留記憶数が N 個（ $3 - N - 1$ ）の可変表示終了後の図柄確定期間中

50

において新たな第 1 特図保留記憶が発生すると、CPU 103 は、該新たな第 1 特図保留記憶を含む保留記憶数に応じた第 1 保留表示器 25 A の点灯制御を行う。また、CPU 103 は、該新たな保留記憶が発生したタイミング（新たな第 1 特図保留記憶の発生を判定したのと同じ遊技制御用タイマ割込み処理）において、演出制御用 CPU 120 に対して第 1 特図保留記憶数通知コマンドの送信を行う。

【0523】

そして、CPU 103 は、図柄確定期間が終了すると、第 1 特図保留記憶数を 1 減算し、該減算後の保留記憶数に応じて第 1 保留表示器 25 A の点灯制御を実行する。更に、CPU 103 は、新たな特別図柄（第 1 特別図柄）の可変表示を開始するとともに、該新たな第 1 特別図柄の可変表示開始にもとづいて、演出制御用 CPU 120 に対して第 1 可変表示開始指定及び第 1 特図保留記憶数通知コマンドの送信を行う。

10

【0524】

演出制御用 CPU 120 は、割込み制御の実行周期が 2 ms であることから、CPU 103 が第 1 保留記憶通知コマンドを送信してから最長で 2 ms 後に該第 1 保留記憶通知コマンドを受信する。演出制御用 CPU 120 は、第 1 特図保留記憶数通知コマンドを受信したと判定すると、該第 1 特図保留記憶数通知コマンドから第 1 特図保留記憶数を特定し、該特定した第 1 特図保留記憶数に応じた第 1 サブ保留表示器 151 A の点灯制御を行う。

【0525】

また、演出制御用 CPU 120 は、表示制御部 123 を制御することによって、表示制御部 123 に新たな第 1 特図保留記憶の発生にもとづく保留表示の出現アニメーションの描画を開始させる。

20

【0526】

ここで、演出制御用 CPU 120 は、該出現アニメーションの 1 フレーム目の画像の描画期間中に第 1 可変表示開始指定及び第 1 特図保留記憶数通知コマンドを受信したと判定すると、該第 1 特図保留記憶数通知コマンドから第 1 特図保留記憶数を特定し、該特定した第 1 特図保留記憶数に応じた第 1 サブ保留表示器 151 A の点灯制御を行う。また、演出制御用 CPU 120 は、表示制御部 123 を制御することによって、表示制御部 123 に出現アニメーションの画像に替えてシフトアニメーションの画像の描画を開始させる。シフトアニメーションの 1 フレーム目の画像の描画が完了すると、次の画像更新タイミングにおいてシフトアニメーションの 1 フレーム目の画像が画像表示装置 5 に転送されてシフトアニメーションの表示が開始される。

30

【0527】

つまり、この場合は、出現アニメーションの実行中において新たな可変表示が開始されることによって、該出現アニメーションに替えてシフトアニメーションが開始されることによって、新たな保留記憶が発生してから 33 ms に満たない期間中に新たな可変表示が開始されることによって、出現アニメーションが実行されることなく保留記憶表示エリア 5 U の保留記憶数 N 個に応じた位置にて出現アニメーションにおける最終態様としての保留表示の表示が開始されることとなる。また、この場合のシフトアニメーションとしては、新たに表示が開始された保留表示を除く保留表示のみがシフトされればよい。

40

【0528】

ここで、演出制御用 CPU 120 は、出現アニメーションの表示期間中において第 1 可変表示開始指定及び第 1 特図保留記憶数通知コマンドを受信したと判定するので、演出制御用 CPU 120 による第 1 サブ保留表示器 151 A の点灯制御が実行されるとともに、表示制御部 123 によるシフトアニメーションの画像の描画が開始される。シフトアニメーションの 1 フレーム目の画像の描画が完了すると、次の画像更新タイミングにおいて該シフトアニメーションの 1 フレーム目の画像が画像表示装置 5 に転送されてシフトアニメーションの表示が開始される。

【0529】

このとき、図 68 (B) に示したように、遊技者からは保留表示の出現アニメーション

50

が途中で終了し、突如として保留表示が該出現アニメーションの最終態様と同一態様で保留記憶表示エリア 5 U に表示された状態となってシフトアニメーションが実行されるように視認される。

【 0 5 3 0 】

(保留記憶数が 1 ~ 3 個の可変表示終了後、次の可変表示開始後であるシフトアニメーション中に新たな保留記憶が発生する場合)

次に、図 7 4 に示すように、第 1 特図保留記憶数が N 個 (3 N 1) 且つ第 1 特別図柄の可変表示終了後、次の可変表示開始後であるシフトアニメーション中に新たな第 1 特図保留記憶が発生する場合について説明する。

【 0 5 3 1 】

先ず、CPU 1 0 3 は、図柄確定期間が終了すると、第 1 特図保留記憶数を 1 減算し、該減算後の保留記憶数に応じて第 1 保留表示器 2 5 A の点灯制御を実行する。更に、新たな特別図柄 (第 1 特別図柄) の可変表示を開始するとともに、該新たな第 1 特別図柄の可変表示開始にもとづいて、演出制御用 CPU 1 2 0 に対して第 1 可変表示開始指定及び第 1 特図保留記憶数通知コマンドの送信を行う。

【 0 5 3 2 】

そして、CPU 1 0 3 は、可変表示の実行中に新たな保留記憶が発生すると、該新たな第 1 特図保留記憶を含む保留記憶数に応じた第 1 保留表示器 2 5 A の点灯制御を行う。また、CPU 1 0 3 は、該新たな保留記憶が発生したタイミング (新たな第 1 特図保留記憶の発生を判定したのと同じ遊技制御用タイマ割込み処理) において、演出制御用 CPU 1 2 0 に対して第 1 特図保留記憶数通知コマンドの送信を行う。

【 0 5 3 3 】

演出制御用 CPU 1 2 0 は、第 1 可変表示開始指定及び第 1 特図保留記憶数通知コマンドを受信したと判定すると、該第 1 特図保留記憶数通知コマンドから第 1 特図保留記憶数を特定し、該特定した第 1 特図保留記憶数に応じた第 1 サブ保留表示器 1 5 1 A の点灯制御を行う。また、演出制御用 CPU 1 2 0 は、表示制御部 1 2 3 制御することによって、表示制御部 1 2 3 にシフトアニメーションの画像の描画を開始させる。シフトアニメーションの 1 フレーム目の画像の描画が完了すると、次の画像更新タイミングにおいて該シフトアニメーションの 1 フレーム目の画像が画像表示装置 5 に転送されてシフトアニメーションの表示が開始される。

【 0 5 3 4 】

ここで、演出制御用 CPU 1 2 0 は、シフトアニメーションの実行中に新たな保留記憶の発生にもとづく第 1 特図保留記憶数通知コマンドを受信したと判断すると、該第 1 特図保留記憶数通知コマンドから第 1 特図保留記憶数を特定し、該特定した第 1 特図保留記憶数に応じた第 1 サブ保留表示器 1 5 1 A の点灯制御を行う。また、演出制御用 CPU 1 2 0 は、表示制御部 1 2 3 制御することによって、表示制御部 1 2 3 に出現アニメーションの画像の描画を開始させる。出現アニメーションの 1 フレーム目の画像の描画が完了すると、次の画像更新タイミングにおいて該出現アニメーションの 1 フレーム目の画像が画像表示装置 5 に転送されて出現アニメーションの表示が開始される。尚、該出現アニメーションとしては、保留記憶表示エリア 5 U の保留記憶数 N 個に応じた位置に向けて保留表示の移動表示が開始される。

【 0 5 3 5 】

尚、この場合は、出現アニメーションよりも前のタイミングから既にシフトアニメーションが開始されているため、これら出現アニメーションとシフトアニメーションとは並行して実行される期間が有る。また、出現アニメーションとしては、図 6 8 (A) に示すように 6 6 0 m s の期間に亘って保留表示の移動表示が行われ、保留表示が最終態様として保留記憶表示エリア 5 U における保留記憶数 N 個に応じた位置に表示される。

【 0 5 3 6 】

(保留記憶数が 1 ~ 3 個の可変表示終了後、次の可変表示開始後 3 3 m s 以内に新たな保留記憶が発生する場合)

10

20

30

40

50

次に、図 7 5 に示すように、第 1 特図保留記憶数が N 個 ($3 - N - 1$) 且つ第 1 特別図柄の可変表示終了後、次の可変表示開始後 33ms 以内に新たな第 1 特図保留記憶が発生する場合について説明する。

【0537】

先ず、CPU103 は、図柄確定期間が終了すると、第 1 特図保留記憶数を 1 減算し、該減算後の保留記憶数に応じて第 1 保留表示器 25A の点灯制御を実行する。更に、新たな特別図柄 (第 1 特別図柄) の可変表示を開始するとともに、該新たな第 1 特別図柄の可変表示開始にもとづいて、演出制御用 CPU120 に対して第 1 可変表示開始指定及び第 1 特図保留記憶数通知コマンドの送信を行う。

【0538】

そして、CPU103 は、可変表示の実行中に新たな保留記憶が発生すると、該新たな第 1 特図保留記憶を含む保留記憶数に応じた第 1 保留表示器 25A の点灯制御を行う。また、CPU103 は、該新たな保留記憶が発生したタイミング (新たな第 1 特図保留記憶の発生を判定したのと同じ遊技制御用タイマ割込み処理) において、演出制御用 CPU120 に対して第 1 特図保留記憶数通知コマンドの送信を行う。

【0539】

演出制御用 CPU120 は、第 1 可変表示開始指定及び第 1 特図保留記憶数通知コマンドを受信したと判定すると、該第 1 特図保留記憶数通知コマンドから第 1 特図保留記憶数を特定し、該特定した第 1 特図保留記憶数に応じた第 1 サブ保留表示器 151A の点灯制御を行う。また、演出制御用 CPU120 は、表示制御部 123 制御することによって、表示制御部 123 にシフトアニメーションの画像の描画を開始させる。シフトアニメーションの 1 フレーム目の画像の描画が完了すると、次の画像更新タイミングにおいて該シフトアニメーションの 1 フレーム目の画像が画像表示装置 5 に転送されてシフトアニメーションの表示が開始される。

【0540】

ここで、演出制御用 CPU120 は、新たな保留記憶の発生にもとづく第 1 特図保留記憶数通知コマンドを受信したと判断すると、該第 1 特図保留記憶数通知コマンドから第 1 特図保留記憶数を特定し、該特定した第 1 特図保留記憶数に応じた第 1 サブ保留表示器 151A の点灯制御を行う。また、演出制御用 CPU120 は、表示制御部 123 制御することによって、表示制御部 123 に出現アニメーションの画像の描画を開始させる。出現アニメーションの 1 フレーム目の画像の描画が完了すると、次の画像更新タイミングにおいて該出現アニメーションの 1 フレーム目の画像が画像表示装置 5 に転送されて出現アニメーションの表示が開始される。尚、該出現アニメーションとしては、保留記憶表示エリア 5U の保留記憶数 N 個に応じた位置に向けて保留表示の移動表示が開始される。

【0541】

尚、この場合は、出現アニメーションよりも前のタイミングから既にシフトアニメーションが開始されているため、これら出現アニメーションとシフトアニメーションとは並行して実行される期間が有る。また、出現アニメーションとしては、図 6 8 (A) に示すように 660ms の期間に亘って保留表示の移動表示が行われ、保留表示が最終態様として保留記憶表示エリア 5U における保留記憶数 N 個に応じた位置に表示される。

【0542】

(保留記憶数が 1 ~ 3 個の可変表示終了後、次の可変表示開始まで 33ms 未満のタイミングで新たな保留記憶が発生する場合)

次に、図 7 6 に示すように、第 1 特図保留記憶数が N 個 ($3 - N - 1$) 且つ第 1 特別図柄の可変表示終了後、次の可変表示開始まで 33ms 未満のタイミングで新たな第 1 特図保留記憶が発生する場合について説明する。

【0543】

先ず、図 7 6 に示すように、第 1 特図保留記憶数が N 個 ($3 - N - 1$) の可変表示終了後の図柄確定期間において新たな第 1 特図保留記憶が発生すると、CPU103 は、該新たな第 1 特図保留記憶を含む保留記憶数に応じた第 1 保留表示器 25A の点灯制御を行う

10

20

30

40

50

。また、CPU 103は、該新たな保留記憶が発生したタイミング（新たな第1特図保留記憶の発生を判定したのと同じの遊技制御用タイマ割込み処理）において、演出制御用CPU 120に対して第1特図保留記憶数通知コマンドの送信を行う。

【0544】

そして、CPU 103は、新たな保留記憶の発生から33ms未満で図柄確定期間が終了すると、第1特図保留記憶数を1減算し、該減算後の保留記憶数に応じて第1保留表示器25Aの点灯制御を実行する。更に、CPU 103は、新たな特別図柄（第1特別図柄）の可変表示を開始するとともに、該新たな第1特別図柄の可変表示開始にもとづいて、演出制御用CPU 120に対して第1可変表示開始指定及び第1特図保留記憶数通知コマンドの送信を行う。

10

【0545】

演出制御用CPU 120は、割込み制御の実行周期が2msであることから、CPU 103が第1保留記憶数通知コマンドを送信してから最長で2ms後に該第1保留記憶数通知コマンドを受信する。演出制御用CPU 120は、第1特図保留記憶数通知コマンドを受信したと判定すると、該第1特図保留記憶数通知コマンドから第1特図保留記憶数を特定し、該特定した第1特図保留記憶数に応じた第1サブ保留表示器151Aの点灯制御を行う。

【0546】

また、演出制御用CPU 120は、表示制御部123を制御することによって、表示制御部123に新たな第1特図保留記憶の発生にもとづく保留表示の出現アニメーションの描画を開始させる。

20

【0547】

ここで、演出制御用CPU 120は、該出現アニメーションの1フレーム目の画像の描画期間中に第1可変表示開始指定及び第1特図保留記憶数通知コマンドを受信したと判定すると、該第1特図保留記憶数通知コマンドから第1特図保留記憶数を特定し、該特定した第1特図保留記憶数に応じた第1サブ保留表示器151Aの点灯制御を行う。また、演出制御用CPU 120は、表示制御部123を制御することによって、表示制御部123に出現アニメーションの画像に替えてシフトアニメーションの画像の描画を開始させる。シフトアニメーションの1フレーム目の画像の描画が完了すると、次の画像更新タイミングにおいてシフトアニメーションの1フレーム目の画像が画像表示装置5に転送されてシフトアニメーションの表示が開始される。

30

【0548】

つまり、この場合は、新たな保留記憶が発生してから33msに満たない期間中に新たな可変表示が開始されることによって、出現アニメーションが実行されることなく保留記憶表示エリア5Uの保留記憶数N個に応じた位置にて出現アニメーションにおける最終態様としての保留表示の表示が開始されることとなる。また、この場合のシフトアニメーションとしては、新たに表示が開始された保留表示を除く保留表示のみがシフトされればよい。

【0549】

（保留記憶数が4個の可変表示中に新たな始動入賞が発生した場合）

40

次に、図77に示すように、第1特図保留記憶数が4個の可変表示中に新たな始動入賞（第1始動入賞口への入賞）が発生した場合について説明する。

【0550】

図77に示すように、第1特図保留記憶数が4個の可変表示中に新たな始動入賞が発生した場合は、既に第1特図保留記憶数が最大数である4個であるので新たな第1特図保留記憶は発生しない。このため、該可変表示及び図柄確定期間が終了すると、CPU 103は、第1特図保留記憶数を1減算し、該減算後の保留記憶数（3個）に応じて第1保留表示器25Aの点灯制御を実行する。更に、新たな特別図柄（第1特別図柄）の可変表示を開始するとともに、該新たな第1特別図柄の可変表示開始にもとづいて、演出制御用CPU 120に対して第1可変表示開始指定及び第1特図保留記憶数通知コマンドの送信を行

50

う。

【 0 5 5 1 】

演出制御用CPU120は、第1可変表示開始指定及び第1特図保留記憶数通知コマンドを受信したと判定すると、該第1特図保留記憶数通知コマンドから第1特図保留記憶数を特定し、該特定した第1特図保留記憶数(3個)に応じた第1サブ保留表示器151Aの点灯制御を行う。また、演出制御用CPU120は、表示制御部123制御することによって、表示制御部123にシフトアニメーションの画像の描画を開始させる。シフトアニメーションの1フレーム目の画像の描画が完了すると、次の画像更新タイミングにおいて該シフトアニメーションの1フレーム目の画像が画像表示装置5に転送されてシフトアニメーションの表示が開始される。

10

【 0 5 5 2 】

(保留記憶数が4個の可変表示後、次の可変表示のシフトアニメーション中に新たな保留記憶が発生した場合)

次に、図78に示すように、第1特図保留記憶数が4個の第1特別図柄の可変表示終了後、次の可変表示開始後であるシフトアニメーション中に新たな第1特図保留記憶が発生する場合について説明する。

【 0 5 5 3 】

先ず、CPU103は、図柄確定期間が終了すると、第1特図保留記憶数を1減算し、該減算後の保留記憶数(3個)に応じて第1保留表示器25Aの点灯制御を実行する。更に、新たな特別図柄(第1特別図柄)の可変表示を開始するとともに、該新たな第1特別図柄の可変表示開始にもとづいて、演出制御用CPU120に対して第1可変表示開始指定及び第1特図保留記憶数通知コマンドの送信を行う。

20

【 0 5 5 4 】

そして、CPU103は、可変表示の実行中に新たな保留記憶が発生すると、該新たな第1特図保留記憶を含む保留記憶数に応じた第1保留表示器25Aの点灯制御を行う。また、CPU103は、該新たな保留記憶が発生したタイミング(新たな第1特図保留記憶の発生を判定したのと同じ遊技制御用タイマ割込み処理)において、演出制御用CPU120に対して第1特図保留記憶数通知コマンドの送信を行う。

【 0 5 5 5 】

演出制御用CPU120は、第1可変表示開始指定及び第1特図保留記憶数通知コマンドを受信したと判定すると、該第1特図保留記憶数通知コマンドから第1特図保留記憶数を特定し、該特定した第1特図保留記憶数(3個)に応じた第1サブ保留表示器151Aの点灯制御を行う。また、演出制御用CPU120は、表示制御部123制御することによって、表示制御部123にシフトアニメーションの画像の描画を開始させる。シフトアニメーションの1フレーム目の画像の描画が完了すると、次の画像更新タイミングにおいて該シフトアニメーションの1フレーム目の画像が画像表示装置5に転送されてシフトアニメーションの表示が開始される。

30

【 0 5 5 6 】

ここで、演出制御用CPU120は、シフトアニメーションの実行中に新たな保留記憶の発生にもとづく第1特図保留記憶数通知コマンドを受信したと判断すると、該第1特図保留記憶数通知コマンドから第1特図保留記憶数を特定し、該特定した第1特図保留記憶数(4個)に応じた第1サブ保留表示器151Aの点灯制御を行う。また、演出制御用CPU120は、表示制御部123制御することによって、表示制御部123に出現アニメーションの画像の描画を開始させる。出現アニメーションの1フレーム目の画像の描画が完了すると、次の画像更新タイミングにおいて該出現アニメーションの1フレーム目の画像が画像表示装置5に転送されて出現アニメーションの表示が開始される。尚、該出現アニメーションとしては、保留記憶表示エリア5Uの保留記憶数4個に応じた位置に向けて保留表示の移動表示が開始される。

40

【 0 5 5 7 】

尚、この場合は、出現アニメーションよりも前のタイミングから既にシフトアニメーシ

50

ョンが開始されているため、これら出現アニメーションとシフトアニメーションとは並行して実行される期間が有る。また、出現アニメーションとしては、図 6 8 (A) に示すように 6 6 0 m s の期間に亘って保留表示の移動表示が行われ、保留表示が最終態様として保留記憶表示エリア 5 U における保留記憶数 4 個に応じた位置に表示される。

【 0 5 5 8 】

(保留記憶数が 4 個の可変表示後の図柄確定期間に新たな始動入賞が発生した場合)

次に、図 7 9 に示すように、第 1 特図保留記憶数が 4 個の可変表示後の図柄確定期間において新たな始動入賞 (第 1 始動入賞口への入賞) が発生した場合について説明する。

【 0 5 5 9 】

図 7 9 に示すように、第 1 特図保留記憶数が 4 個の可変表示後の図柄確定期間中は、第 1 特図保留記憶数が 4 個の状態が維持される。また、第 1 特図保留記憶数は 4 個が上限であるため、該図柄確定期間において新たに始動入賞 (第 1 始動入賞口への入賞) が発生しても、新たな第 1 特図保留記憶は発生しない。このため、図柄確定期間が終了すると、C P U 1 0 3 は、第 1 特図保留記憶数を 1 減算し、該減算後の保留記憶数 (3 個) に応じて第 1 保留表示器 2 5 A の点灯制御を実行する。更に、新たな特別図柄 (第 1 特別図柄) の可変表示を開始するとともに、該新たな第 1 特別図柄の可変表示開始にもとづいて、演出制御用 C P U 1 2 0 に対して第 1 可変表示開始指定及び第 1 特図保留記憶数通知コマンドの送信を行う。

10

【 0 5 6 0 】

演出制御用 C P U 1 2 0 は、第 1 可変表示開始指定及び第 1 特図保留記憶数通知コマンドを受信したと判定すると、該第 1 特図保留記憶数通知コマンドから第 1 特図保留記憶数を特定し、該特定した第 1 特図保留記憶数 (3 個) に応じた第 1 サブ保留表示器 1 5 1 A の点灯制御を行う。また、演出制御用 C P U 1 2 0 は、表示制御部 1 2 3 制御することによって、表示制御部 1 2 3 にシフトアニメーションの画像の描画を開始させる。シフトアニメーションの 1 フレーム目の画像の描画が完了すると、次の画像更新タイミングにおいて該シフトアニメーションの 1 フレーム目の画像が画像表示装置 5 に転送されてシフトアニメーションの表示が開始される。

20

【 0 5 6 1 】

(保留記憶数が 4 個の可変表示後、次の可変表示の開始 3 3 m s 以内のタイミングで新たな保留記憶が発生した場合)

30

次に、図 8 0 に示すように、第 1 特図保留記憶数が 4 個の可変表示終了後、次の可変表示開始後 3 3 m s 以内に新たな第 1 特図保留記憶が発生する場合について説明する。

【 0 5 6 2 】

先ず、C P U 1 0 3 は、図柄確定期間が終了すると、第 1 特図保留記憶数を 1 減算し、該減算後の保留記憶数 (3 個) に応じて第 1 保留表示器 2 5 A の点灯制御を実行する。更に、新たな特別図柄 (第 1 特別図柄) の可変表示を開始するとともに、該新たな第 1 特別図柄の可変表示開始にもとづいて、演出制御用 C P U 1 2 0 に対して第 1 可変表示開始指定及び第 1 特図保留記憶数通知コマンドの送信を行う。

【 0 5 6 3 】

そして、C P U 1 0 3 は、可変表示の実行中に新たな保留記憶が発生すると、該新たな第 1 特図保留記憶を含む保留記憶数 (4 個) に応じた第 1 保留表示器 2 5 A の点灯制御を行う。また、C P U 1 0 3 は、該新たな保留記憶が発生したタイミング (新たな第 1 特図保留記憶の発生を判定したのと同じ遊技制御用タイマ割込み処理) において、演出制御用 C P U 1 2 0 に対して第 1 特図保留記憶数通知コマンドの送信を行う。

40

【 0 5 6 4 】

演出制御用 C P U 1 2 0 は、第 1 可変表示開始指定及び第 1 特図保留記憶数通知コマンドを受信したと判定すると、該第 1 特図保留記憶数通知コマンドから第 1 特図保留記憶数を特定し、該特定した第 1 特図保留記憶数 (3 個) に応じた第 1 サブ保留表示器 1 5 1 A の点灯制御を行う。また、演出制御用 C P U 1 2 0 は、表示制御部 1 2 3 制御することによって、表示制御部 1 2 3 にシフトアニメーションの画像の描画を開始させる。シフトア

50

ニメーションの 1 フレーム目の画像の描画が完了すると、次の画像更新タイミングにおいて該シフトアニメーションの 1 フレーム目の画像が画像表示装置 5 に転送されてシフトアニメーションの表示が開始される。

【 0 5 6 5 】

ここで、演出制御用 CPU 1 2 0 は、新たな保留記憶の発生にもとづく第 1 特図保留記憶数通知コマンドを受信したと判断すると、該第 1 特図保留記憶数通知コマンドから第 1 特図保留記憶数を特定し、該特定した第 1 特図保留記憶数 (4 個) に応じた第 1 サブ保留表示器 1 5 1 A の点灯制御を行う。また、演出制御用 CPU 1 2 0 は、表示制御部 1 2 3 制御することによって、表示制御部 1 2 3 に出現アニメーションの画像の描画を開始させる。出現アニメーションの 1 フレーム目の画像の描画が完了すると、次の画像更新タイミングにおいて該出現アニメーションの 1 フレーム目の画像が画像表示装置 5 に転送されて出現アニメーションの表示が開始される。尚、該出現アニメーションとしては、保留記憶表示エリア 5 U の保留記憶数 4 個に応じた位置に向けて保留表示の移動表示が開始される。

10

【 0 5 6 6 】

尚、この場合は、出現アニメーションよりも前のタイミングから既にシフトアニメーションが開始されているため、これら出現アニメーションとシフトアニメーションとは並行して実行される期間が有る。また、出現アニメーションとしては、図 6 8 (A) に示すように 6 6 0 m s の期間に亘って保留表示の移動表示が行われ、保留表示が最終態様として保留記憶表示エリア 5 U における保留記憶数 4 個に応じた位置に表示される。

20

【 0 5 6 7 】

(保留記憶数が 0 個の可変表示中に新たな保留記憶が発生し、且つ次の可変表示開始まで 6 6 0 m s 以上前のタイミングから出現アニメーションが開始される場合)

次に、図 8 1 に示すように、第 1 特図保留記憶数が 0 個の可変表示中に新たな保留記憶が発生し、且つ次の可変表示の開始まで 6 6 0 m s 以上前のタイミングから出現アニメーションが開始される場合について説明する。

先ず、図 8 1 示すように、第 1 特図保留記憶数が 0 個可変表示中に新たな第 1 特図保留記憶が発生すると、CPU 1 0 3 は、該新たな第 1 特図保留記憶を含む保留記憶数 (1 個) に応じた第 1 保留表示器 2 5 A の点灯制御を行う。また、CPU 1 0 3 は、該新たな保留記憶が発生したタイミング (新たな第 1 特図保留記憶の発生を判定したのと同じ遊技制御用タイマ割込み処理) において、演出制御用 CPU 1 2 0 に対して第 1 特図保留記憶数通知コマンドの送信を行う。

30

【 0 5 6 8 】

そして、CPU 1 0 3 は、可変表示及び該可変表示にもとづく 5 0 0 m s の図柄確定期間が終了すると、第 1 特図保留記憶数を 1 減算し、該減算後の保留記憶数 (0 個) に応じて第 1 保留表示器 2 5 A の点灯制御を実行する。更に、CPU 1 0 3 は、新たな特別図柄 (第 1 特別図柄) の可変表示を開始するとともに、該新たな第 1 特別図柄の可変表示開始にもとづいて、演出制御用 CPU 1 2 0 に対して第 1 可変表示開始指定及び第 1 特図保留記憶数通知コマンドの送信を行う。

【 0 5 6 9 】

40

演出制御用 CPU 1 2 0 は、割込み制御の実行周期が 2 m s であることから、CPU 1 0 3 が第 1 保留記憶数通知コマンドを送信してから最長で 2 m s 後に該第 1 保留記憶数通知コマンドを受信する。演出制御用 CPU 1 2 0 は、第 1 特図保留記憶数通知コマンドを受信したと判定すると、該第 1 特図保留記憶数通知コマンドから第 1 特図保留記憶数を特定し、該特定した第 1 特図保留記憶数 (1 個) に応じた第 1 サブ保留表示器 1 5 1 A の点灯制御を行う。

【 0 5 7 0 】

また、演出制御用 CPU 1 2 0 は、表示制御部 1 2 3 を制御することによって、表示制御部 1 2 3 に新たな第 1 特図保留記憶の発生にもとづく保留表示の出現アニメーションの描画を開始させる。出現アニメーションの 1 フレーム目の画像の描画が完了すると、次の

50

画像更新タイミングにおいて該出現アニメーションの 1 フレーム目の画像が画像表示装置 5 に転送されて出現アニメーションの表示が開始される。尚、該出現アニメーションとしては、保留記憶表示エリア 5 U の保留記憶数 1 個に応じた位置に向けて保留表示の移動表示が開始される。

【 0 5 7 1 】

ここで、図 8 1 に示すように、次の可変表示の開始タイミングまで 6 6 0 m s 以上の期間が空いているタイミングで出現アニメーションが開始された場合は、出現アニメーションの画像の描画及び出現アニメーション表示期間が次の可変表示の開始前に終了し、替えて、滞留アニメーションの画像の描画及び出現アニメーションによって表示された保留表示の滞留アニメーションが開始される。

10

【 0 5 7 2 】

そして、演出制御用 C P U 1 2 0 は、第 1 可変表示開始指定及び第 1 特図保留記憶数通知コマンドを受信したと判定すると、該第 1 特図保留記憶数通知コマンドから第 1 特図保留記憶数を特定し、該特定した第 1 特図保留記憶数 (0 個) に応じた第 1 サブ保留表示器 1 5 1 A の点灯制御を行う。また、演出制御用 C P U 1 2 0 は、表示制御部 1 2 3 制御することによって、表示制御部 1 2 3 に滞留アニメーションの画像に替えてシフトアニメーションの画像の描画を開始させる。シフトアニメーションの 1 フレーム目の画像の描画が完了すると、次の画像更新タイミングにおいて該シフトアニメーションの 1 フレーム目の画像が画像表示装置 5 に転送されてシフトアニメーションの表示が開始される。

【 0 5 7 3 】

20

(保留記憶数が 0 個であるときに新たな保留記憶が発生し、且つ次の可変表示開始まで 6 6 0 m s 未満のタイミングから出現アニメーションが開始される場合)

次に、図 8 2 に示すように、第 1 特図保留記憶数が 0 個であるときに新たな第 1 特図保留記憶が発生し、且つ次の可変表示開始まで 6 6 0 m s 未満のタイミングから出現アニメーションが開始される場合について説明する。

【 0 5 7 4 】

例えば、第 1 特図保留記憶数が 0 個の可変表示終了後の図柄確定期間中において新たな第 1 特図保留記憶が発生すると、C P U 1 0 3 は、該新たな第 1 特図保留記憶を含む保留記憶数 (1 個) に応じた第 1 保留表示器 2 5 A の点灯制御を行う。また、C P U 1 0 3 は、該新たな保留記憶が発生したタイミング (新たな第 1 特図保留記憶の発生を判定したのと同じの遊技制御用タイマ割込み処理) において、演出制御用 C P U 1 2 0 に対して第 1 特図保留記憶数通知コマンドの送信を行う。

30

【 0 5 7 5 】

そして、C P U 1 0 3 は、図柄確定期間が終了すると、第 1 特図保留記憶数を 1 減算し、該減算後の保留記憶数 (0 個) に応じて第 1 保留表示器 2 5 A の点灯制御を実行する。更に、C P U 1 0 3 は、新たな特別図柄 (第 1 特別図柄) の可変表示を開始するとともに、該新たな第 1 特別図柄の可変表示開始にもとづいて、演出制御用 C P U 1 2 0 に対して第 1 可変表示開始指定及び第 1 特図保留記憶数通知コマンドの送信を行う。

【 0 5 7 6 】

演出制御用 C P U 1 2 0 は、割込み制御の実行周期が 2 m s であることから、C P U 1 0 3 が第 1 保留記憶通知コマンドを送信してから最長で 2 m s 後に該第 1 保留記憶通知コマンドを受信する。演出制御用 C P U 1 2 0 は、第 1 特図保留記憶数通知コマンドを受信したと判定すると、該第 1 特図保留記憶数通知コマンドから第 1 特図保留記憶数を特定し、該特定した第 1 特図保留記憶数 (1 個) に応じた第 1 サブ保留表示器 1 5 1 A の点灯制御を行う。

40

【 0 5 7 7 】

また、演出制御用 C P U 1 2 0 は、表示制御部 1 2 3 を制御することによって、表示制御部 1 2 3 に新たな第 1 特図保留記憶の発生にもとづく保留表示の出現アニメーションの描画を開始させる。

【 0 5 7 8 】

50

ここで、演出制御用CPU120は、出現アニメーションの表示期間中において第1可変表示開始指定及び第1特図保留記憶数通知コマンドを受信したと判定するので、演出制御用CPU120による第1特図保留記憶数(0個)に応じた第1サブ保留表示器151Aの点灯制御が実行されるとともに、表示制御部123によるシフトアニメーションの画像の描画が開始される。シフトアニメーションの1フレーム目の画像の描画が完了すると、次の画像更新タイミングにおいて該シフトアニメーションの1フレーム目の画像が画像表示装置5に転送されてシフトアニメーションの表示が開始される。

【0579】

このとき、図68(B)に示したように、遊技者からは保留表示の出現アニメーションが途中で終了し、突如として保留表示が該出現アニメーションの最終態様と同一態様で保留記憶表示エリア5Uに表示された状態となってシフトアニメーションが実行されるように視認される。

10

【0580】

(保留記憶数が0個の可変表示の図柄確定期間終了後33ms未満で新たな保留記憶が発生した場合)

次に、図83に示すように、第1特図保留記憶数が0個の第1特別図柄の可変表示の図柄確定期間終了後33ms未満で新たな第1特図保留記憶が発生する場合について説明する。

【0581】

まず、CPU103は、図柄確定期間後の33ms未満のタイミングで新たな第1特図保留記憶が発生すると、該新たな第1特図保留記憶を含む保留記憶数に応じた第1保留表示器25Aの点灯制御を実行することなく、第1特図保留記憶数を1加算した後に該第1特図保留記憶数を1減算するとともに、新たな特別図柄(第1特別図柄)の可変表示を開始し、該新たな第1特別図柄の可変表示開始にもとづいて、演出制御用CPU120に対して第1可変表示開始指定及び第1特図保留記憶数通知コマンドの送信を行う。

20

【0582】

演出制御用CPU120は、第1可変表示開始指定及び第1特図保留記憶数通知コマンドを受信したと判定すると、第1特図保留記憶数に応じた第1サブ保留表示器151Aの点灯制御を実行せずに、表示制御部123制御することによって、表示制御部123にシフトアニメーションの画像の描画を開始させる。シフトアニメーションの1フレーム目の画像の描画が完了すると、次の画像更新タイミングにおいて該シフトアニメーションの1フレーム目の画像が画像表示装置5に転送されてシフトアニメーションの表示が開始される。

30

【0583】

つまり、この場合は、保留記憶表示エリア5Uの保留記憶数1個に応じた位置に向けての保留表示の移動表示(出現アニメーション)が実行されることなく、保留記憶表示エリア5Uの保留記憶数1個に応じた位置において出現アニメーションの最終態様としての保留表示の表示が開始される。そして、該保留表示は、表示開始直後からアクティブ表示エリア5Fに向けて移動表示(シフト)される。

【0584】

40

(保留記憶数が0個の可変表示の図柄確定期間終了まで33ms未満で新たな保留記憶が発生した場合)

次に、図84に示すように、第1特図保留記憶数が0個の第1特別図柄の可変表示の図柄確定期間終了まで33ms未満で新たな第1特図保留記憶が発生する場合について説明する。

【0585】

まず、図84に示すように、第1特図保留記憶数が0個の可変表示終了後の図柄確定期間において新たな第1特図保留記憶が発生すると、CPU103は、該新たな第1特図保留記憶を含む保留記憶数(1個)に応じた第1保留表示器25Aの点灯制御を行う。また、CPU103は、該新たな保留記憶が発生したタイミング(新たな第1特図保留記憶の

50

発生を判定したのと同じの遊技制御用タイマ割込み処理)において、演出制御用CPU120に対して第1特図保留記憶数通知コマンドの送信を行う。

【0586】

そして、CPU103は、新たな保留記憶の発生から33ms未満で図柄確定期間が終了すると、第1特図保留記憶数を1減算し、該減算後の保留記憶数(0個)に応じて第1保留表示器25Aの点灯制御を実行する。更に、CPU103は、新たな特別図柄(第1特別図柄)の可変表示を開始するとともに、該新たな第1特別図柄の可変表示開始にもとづいて、演出制御用CPU120に対して第1可変表示開始指定及び第1特図保留記憶数通知コマンドの送信を行う。

【0587】

演出制御用CPU120は、割込み制御の実行周期が2msであることから、CPU103が第1保留記憶数通知コマンドを送信してから最長で2ms後に該第1保留記憶数通知コマンドを受信する。演出制御用CPU120は、第1特図保留記憶数通知コマンドを受信したと判定すると、該第1特図保留記憶数通知コマンドから第1特図保留記憶数を特定し、該特定した第1特図保留記憶数(1個)に応じた第1サブ保留表示器151Aの点灯制御を行う。

【0588】

また、演出制御用CPU120は、表示制御部123を制御することによって、表示制御部123に新たな第1特図保留記憶の発生にもとづく保留表示の出現アニメーションの描画を開始させる。

【0589】

ここで、演出制御用CPU120は、該出現アニメーションの1フレーム目の画像の描画期間中に第1可変表示開始指定及び第1特図保留記憶数通知コマンドを受信したと判定すると、該第1特図保留記憶数通知コマンドから第1特図保留記憶数を特定し、該特定した第1特図保留記憶数に応じた第1サブ保留表示器151Aの点灯制御を行う。また、演出制御用CPU120は、表示制御部123を制御することによって、表示制御部123に出現アニメーションの画像に替えてシフトアニメーションの画像の描画を開始させる。シフトアニメーションの1フレーム目の画像の描画が完了すると、次の画像更新タイミングにおいてシフトアニメーションの1フレーム目の画像が画像表示装置5に転送されてシフトアニメーションの表示が開始される。

【0590】

つまり、この場合は、新たな保留記憶が発生してから33msに満たない期間中に新たな可変表示が開始されることによって、出現アニメーションが実行されることなく保留記憶表示エリア5Uの保留記憶数1個に応じた位置にて出現アニメーションにおける最終態様としての保留表示の表示が開始されることとなる。また、この場合のシフトアニメーションとしては、新たに表示が開始された保留表示がアクティブ表示エリア5Fに向けてシフトされる。

【0591】

(保留記憶数が0個の可変表示の可変表示の図柄確定期間終了後33ms以上経過したタイミングで新たな保留記憶が発生した場合)

次に、図85に示すように、第1特図保留記憶数が0個の第1特別図柄の可変表示の図柄確定期間終了後33ms以上経過したタイミングで新たな第1特図保留記憶が発生する場合について説明する。まず、図85に示すように、第1特図保留記憶数が0個の可変表示の図柄確定期間終了後33ms以上が経過したタイミングにおいて新たな第1特図保留記憶が発生すると、CPU103は、第1特図保留記憶数を1加算した後に該第1特図保留記憶数を1減算するとともに、該新たな第1特図保留記憶を含む保留記憶数(1個)に応じた第1保留表示器25Aの点灯制御を実行することなく、新たな特別図柄(第1特別図柄)の可変表示を開始し、該新たな第1特別図柄の可変表示開始にもとづいて、演出制御用CPU120に対して第1可変表示開始指定及び第1特図保留記憶数通知コマンドの送信を行う。

10

20

30

40

50

【 0 5 9 2 】

尚、前述したように、本実施の形態における第 1 特別図柄の可変表示は、第 1 特別図柄表示装置 4 A を構成する 8 つの L E D のうち 1 の L E D を 4 0 m s 点灯させた後、4 0 m s 間隔で点灯対象の L E D を変化させていき、8 つの L E D の点灯が終了するまでを 1 周期 (3 2 0 m s) として繰り返し実行するものである。

【 0 5 9 3 】

演出制御用 C P U 1 2 0 は、第 1 可変表示開始指定及び第 1 特図保留記憶数通知コマンドを受信したと判定すると、第 1 可変表示開始指定及び第 1 特図保留記憶数通知コマンドを受信したと判定すると、サブ図柄の可変表示を開始する一方で第 1 特図保留記憶数に応じた第 1 サブ保留表示器 1 5 1 A の点灯制御を実行せずに、表示制御部 1 2 3 制御することによって、表示制御部 1 2 3 にシフトアニメーションの画像の描画を開始させる。シフトアニメーションの 1 フレーム目の画像の描画が完了すると、次の画像更新タイミングにおいて該シフトアニメーションの 1 フレーム目の画像が画像表示装置 5 に転送されてシフトアニメーションの表示が開始される。

10

【 0 5 9 4 】

つまり、この場合は、保留記憶表示エリア 5 U の保留記憶数 1 個に応じた位置に向けての保留表示の移動表示 (出現アニメーション) が実行されることなく、保留記憶表示エリア 5 U の保留記憶数 1 個に応じた位置において出現アニメーションの最終態様としての保留表示の表示が開始される。

【 0 5 9 5 】

尚、前述したように、本実施の形態におけるサブ図柄の可変表示は、第 1 演出表示灯 1 5 2 A を構成する L E D を 2 4 0 m s 間隔で点灯と消灯とを繰り返し実行する (1 周期 : 4 8 0 m s) ものである。

20

【 0 5 9 6 】

つまり、本実施の形態においては、第 1 特図保留記憶数が 0 個、可変表示の非実行時において、演出調整に関する案内表示としてデモムービー表示が表示されている状態において、図 8 6 (A) ~ 図 8 6 (C) に示すように、遊技球が第 1 始動口に入賞することによって新たな保留記憶が発生すると、先ず、第 1 特別図柄の可変表示が開始される。このとき、C P U 1 0 3 は、始動口スイッチ通過処理において第 1 特図保留記憶数のカウント値を 0 から 1 に更新するとともに、該始動口スイッチ通過処理と同一割込で実行する特別図柄通常処理において第 1 特図保留記憶数のカウント値を 1 から 0 に更新するため、第 1 保留表示器 2 5 A を構成する L E D が点灯する (第 1 特図保留記憶数が 1 個であることを示す態様で点灯する) ことがない。

30

【 0 5 9 7 】

また、C P U 1 0 3 は、始動口スイッチ通過処理において、演出制御用 C P U 1 2 0 に対して第 1 特図保留記憶数が 1 個であることを示す保留記憶数通知コマンドを送信するが、該始動口スイッチ通過処理と同一割込で実行する特別図柄バッファシフト処理において第 1 特図保留記憶数が 0 個であることを示す保留記憶数通知コマンドを送信するため、演出制御用 C P U 1 2 0 はこれら第 1 特図保留記憶数が 1 個であることを示す保留記憶数通知コマンドと第 1 特図保留記憶数が 0 個であることを示す保留記憶数通知コマンドとを同一の割込で受信することとなり、第 1 サブ保留表示器 1 5 1 A を構成する L E D が点灯する (第 1 特図保留記憶数が 1 個であることを示す態様で点灯する) ことがなく、更に、表示領域 5 S における第 1 特図保留記憶数の表示も更新されない。

40

【 0 5 9 8 】

そして、図 8 6 (C) に示すように、C P U 1 0 3 が特別図柄表示制御処理において特別図柄の可変表示を行うための特別図柄表示制御データを特別図柄表示制御データ設定用の出力バッファに設定する (図 2 1 に示す出力ポート D G 1 の各ビットに「 1 」または「 0 」をセットする) ことで、特別図柄の可変表示が開始される。

【 0 5 9 9 】

次に、図 8 7 (D) ~ 図 8 7 (F) に示すように、演出制御用 C P U 1 2 0 が変動パタ

50

ーン指定コマンドや第1可変表示開始指定を受信したと判定すると、サブ図柄の可変表示として第1演出表示灯152Aを構成するLEDの点灯・消灯制御が開始される。尚、変動パターン指定コマンド及び第1可変表示開始指定は、CPU103が変動パターン設定処理において演出制御用CPU120に対して送信するコマンドである。

【0600】

演出制御用CPU120が変動パターン指定コマンドや第1可変表示開始指定を受信してから33ms～66msが経過すると、デモムービー表示がフェードアウト表示された後に非表示となり、通常背景画像及び飾り図柄が表示される。また、保留記憶表示エリア5Uに、当該可変表示に対応する保留表示が出現アニメーションを経ずに完了態様で表示される(図87(E)参照)。

10

【0601】

次いで、図87(F)に示すように、保留記憶表示エリア5Uにて、シフトアニメーションとして該保留表示のアクティブ表示エリア5Fへの移動表示が開始される。また、シフトアニメーションの開始に伴い、小図柄の可変表示が開始されるとともに、飾り図柄のスクロール表示が開始される。特に詳細な図示はしないが、スクロール表示が開始されると、飾り図柄は、下方に向けて低速での移動表示を開始したのち、中速、高速と移動表示速度が高くなるとともに、透過率が漸次増加してフェードアウト表示されていく。

【0602】

尚、本実施の形態では、小図柄の可変表示が開始されてから飾り図柄のスクロール表示が開始される形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、小図柄の可変表示が開始されてからシフトアニメーションが終了するまで、飾り図柄のスクロール表示を開始せずに、飾り図柄の変動開始アクション(図示略)が開始されるようにしてもよい。変動開始アクションとは、例えば、飾り図柄に表示されるキャラクタが動作したり、飾り図柄が下方に移動表示する前に一旦上方に移動するといったプレ動作であればよい。

20

【0603】

そして、図88(G)～図88(I)に示すように、図86、図87に引き続き第1特別図柄の可変表示中に遊技球が第1始動口に入賞することによって新たな保留記憶が発生すると、CPU103が始動口スイッチ通過処理において第1特図保留記憶数カウンタ値を1に更新する。尚、該始動口スイッチ通過処理と同一割込では、CPU103が第1特図保留記憶数カウンタ値を0に更新することはないので、CPU103は、表示処理において図21に示す出力ポートDG3のビット0に0、ビット3に1をセットする。これにより、新たな保留記憶の発生にもとづいて第1保留表示器25Aを構成するLEDの点灯(第1特図保留記憶数が1個であることを示す態様で点灯)が開始される。また、このとき、CPU103は、演出制御用CPU120に対して第1特図保留記憶数が1個であることに応じた第1特図保留記憶数通知コマンドを送信する。

30

【0604】

次いで、演出制御用CPU120は、CPU103から第1特図保留記憶数が1個であることに応じた第1特図保留記憶数通知コマンドを受信したと判定すると、第1サブ保留表示器151Aを構成するLEDを、第1特図保留記憶数が1であることに対応した態様にて点灯させる。更に、演出制御用CPU120は、表示領域5Sにおける第1特図保留記憶数の表示を「1」に更新する。つまり、本実施の形態では、新たな保留記憶が発生した場合は第1保留表示器25AのLEDの点灯タイミングよりも後のタイミングから表示領域5Sにおける第1特図保留記憶数の表示が更新されるので、遊技者は、遊技球の入賞を確認した後に該表示領域5Sにおける第1特図保留記憶数の表示を視認できるので、保留記憶数が増加したことを分かりやすくできる。

40

【0605】

そして、図89(J)～(L)に示すように、画像表示装置5においては、新たに発生した保留記憶に応じて保留表示の出現アニメーションが開始される。

【0606】

また、以上のように本実施の形態では、図92に示すように、新たな保留記憶の発生に

50

もとづいて、保留変化演出、入賞時フラッシュ演出、ボタン振動演出、出現アニメーションをそれぞれ実行可能となっている。このうち保留変化演出は、保留記憶の発生から先読み対象の可変表示（該保留記憶にもとづく可変表示）の停止タイミングまで実行される演出であり、入賞時フラッシュ演出は、保留記憶の発生から先読み対象の可変表示（該保留記憶にもとづく可変表示）のリーチタイミングまで実行される演出であり、ボタン振動演出は、保留記憶の発生から一定期間（例えば、3000ms）に亘って実行される演出であり、出現アニメーションは、保留記憶の発生から最長で600msに亘って実行される演出である。

【0607】

これら各演出については、演出モードが演出モードA～演出モードDのいずれであっても実行可能となっている。更に、保留変化演出、入賞時フラッシュ演出、ボタン振動演出は、いずれも演出制御用CPU120が可変表示開始指定を受信したとしても中断されることがない演出である一方で、出現アニメーションは、演出制御用CPU120が可変表示開始指定コマンドを受信したことを契機に中断される演出となっている。

【0608】

つまり、保留変化演出、入賞時フラッシュ演出、ボタン振動演出は、保留記憶数がN（3～N-1）個の特別図柄の可変表示の実行中において、新たな保留記憶が発生したタイミングが、次の可変表示が開始されるまで出現アニメーションの表示実行期間である660ms以上前のタイミング、次の可変表示が開始されるまで出現アニメーションの表示実行期間である660ms未満であるタイミング、及び、保留記憶数がN個の特別図柄の可変表示が終了し、シフトアニメーションの開始タイミングから該シフトアニメーションの表示実行期間である330ms以内のタイミングのいずれであっても、演出制御用CPU120が可変表示開始指定コマンドを受信したこと等によって中断されることなく最後まで実行される演出である。

【0609】

尚、上記では、図86（B）に示すように、第1特図保留記憶数が0個、可変表示の非実行時において、演出調整に関する案内表示としてデモムービー表示が表示されているときに遊技球が第1始動口に入賞することによって新たな保留記憶が発生した場合の演出動作例を説明したが、例えば、図90（A）～図90（C）及び図91（D）～図91（E）に示すように、第1特図保留記憶数が0個、可変表示の非実行時であってデモムービー表示が開始される前の期間において、メニュー案内表示及び音量・光量案内表示が表示されているときに遊技球が第1始動口に入賞することによって新たな保留記憶が発生した場合の演出動作例についても同様である。

【0610】

（保留表示の重畳表示の態様）

次に、演出モードC、Dにおいて、第1特図保留記憶数が4個の第1特別図柄の可変表示の図柄確定期間が終了してから33msが経過するまでに新たな第1特図保留記憶が発生する場合における保留表示について、図96に基づいて説明する。

【0611】

図96（A）に示すように、可変表示中においては、アクティブ表示エリア5Fにアクティブ表示が表示されるとともに、保留記憶表示エリア5Uにおける1～4個目の表示位置に保留表示が表示されている。次いで、図96（B）に示すように、可変表示が終了すると、図柄確定期間において、アクティブ表示の終了アニメーションが実行され、アクティブ表示がフェードアウト表示されて非表示となる。

【0612】

次いで、図96（C）に示すように、保留記憶表示エリア5Uにおける1個目の表示位置に表示された保留表示に対応する新たな可変表示が開始されると、保留記憶表示エリア5Uにおける1個目の表示位置に表示されている保留表示が次のアクティブ表示としてアクティブ表示エリア5Fに、保留記憶表示エリア5Uにおける2個目の表示位置に表示されている保留表示が保留記憶表示エリア5Uにおける1個目の表示位置に、保留記憶表示

エリア 5 U における 3 個目の表示位置に表示されている保留表示が保留記憶表示エリア 5 U における 2 個目の表示位置に、保留記憶表示エリア 5 U における 4 個目の表示位置に表示されている保留表示が保留記憶表示エリア 5 U における 3 個目の表示位置に、それぞれ移動表示（シフト）するシフトアニメーション表示が開始される。

【 0 6 1 3 】

ここで、図 9 6（D）に示すように、新たな可変表示が開始された直後、例えば、新たな可変表示が開始されてから 3 3 m s が経過するまでに、新たな保留記憶が発生した場合、保留記憶表示エリア 5 U における 4 個目の表示位置にて、新たな保留記憶に対応する保留表示の出現アニメーションが開始される。

【 0 6 1 4 】

ここで、保留記憶表示エリア 5 U の 3 個目の保留表示の表示位置に向けて移動する 4 個目の保留表示のシフトアニメーションは、第 3 保留表示画像描画領域にて描画される一方で、保留記憶表示エリア 5 U における 4 個目の表示位置に出現する新たな保留表示の出現アニメーションは、第 3 保留表示画像描画領域にて描画される画像よりも表示優先度が低い第 4 保留表示画像描画領域にて描画される。

【 0 6 1 5 】

つまり、保留記憶表示エリア 5 U における 4 個目の表示位置に既に表示されていて 3 個目の表示位置に向けた移動が開始された保留表示と、保留記憶表示エリア 5 U における 4 個目の表示位置に新たに表示される保留表示と、が重畳して表示されるタイミングである場合、シフトアニメーションの対象となる保留表示の方が、出現アニメーションの対象となる保留表示よりも優先して表示されるため、シフトアニメーションにより保留表示が 4 個目の表示位置から 3 個目の表示位置に移動したことを認識することができる。

【 0 6 1 6 】

そして、図 9 6（E）に示すように、シフトアニメーションにより保留表示が 4 個目の表示位置から 3 個目の表示位置に移動するにつれ、新たな保留表示との重畳領域が小さくなり、新たな保留表示の出現アニメーションが視認可能となっていく。

【 0 6 1 7 】

尚、図 9 6 においては、演出モード C、D において、第 1 特図保留記憶数が 4 個の第 1 特別図柄の可変表示の図柄確定期間が終了してから 3 3 m s が経過するまでに新たな第 1 特図保留記憶が発生する場合における保留表示の態様について説明したが、図 9 7 に示すように、演出モード C、D において、第 1 特図保留記憶数が 3 個の第 1 特別図柄の可変表示の図柄確定期間が終了してから 3 3 m s が経過するまでに新たな第 1 特図保留記憶が発生する場合における保留表示の態様は、新たな保留表示が表示される表示位置が異なるだけであり、その他の表示態様はほぼ同様であるため、詳細な説明は省略する。

【 0 6 1 8 】

また、特に図示しないが、演出モード C、D において、第 1 特図保留記憶数が 1 個または 2 個の第 1 特別図柄の可変表示の図柄確定期間が終了してから 3 3 m s が経過するまでに新たな第 1 特図保留記憶が発生する場合についても、新たな保留表示が表示される表示位置が異なるだけであり、その他の表示態様はほぼ同様であるため、詳細な説明は省略する。

【 0 6 1 9 】

次に、演出モード C、D において、第 1 特図保留記憶数が 3 個の第 1 特別図柄の可変表示の図柄確定期間が終了し、次の可変表示開始まで 3 3 m s 未満のタイミングで新たな第 1 特図保留記憶が発生する場合における保留表示について、図 9 8 に基づいて説明する。

【 0 6 2 0 】

図 9 8（A）に示すように、可変表示中においては、アクティブ表示エリア 5 F にアクティブ表示が表示されるとともに、保留記憶表示エリア 5 U における 1 ～ 3 個目の表示位置に保留表示が表示されている。次いで、図 9 8（B）に示すように、可変表示が終了すると、図柄確定期間において、アクティブ表示の終了アニメーションが実行され、アクティブ表示がフェードアウト表示されて非表示となる。

10

20

30

40

50

【 0 6 2 1 】

ここで、図柄確定期間の終了直前、つまり、保留記憶表示エリア 5 U における 1 個目の表示位置に表示された保留表示に対応する新たな可変表示が開始されるまで 3 3 m s 未満となったタイミングで新たな第 1 特図保留記憶が発生した場合、該新たな第 1 特図保留記憶に対応する保留表示は、新たな可変表示が開始されるまでは表示されない。

【 0 6 2 2 】

そして、図 9 8 (C) に示すように、保留記憶表示エリア 5 U における 1 個目の表示位置に表示されている保留表示が次のアクティブ表示としてアクティブ表示エリア 5 F に、保留記憶表示エリア 5 U における 2 個目の表示位置に表示されている保留表示が保留記憶表示エリア 5 U における 1 個目の表示位置に、保留記憶表示エリア 5 U における 3 個目の表示位置に表示されている保留表示が保留記憶表示エリア 5 U における 2 個目の表示位置に、それぞれ移動表示 (シフト) するシフトアニメーション表示が開始されると同時に、保留記憶表示エリア 5 U における 3 個目の表示位置にて、新たな保留記憶に対応する保留表示が表示される。この場合、出現アニメーションを実行せずに、出現アニメーションにおける最終態様としての保留表示が表示される。

【 0 6 2 3 】

ここで、保留記憶表示エリア 5 U の 3 個目の保留表示の表示位置に向けて移動する 3 個目の保留表示のシフトアニメーションは、第 2 保留表示画像描画領域にて描画される一方で、保留記憶表示エリア 5 U における 3 個目の表示位置に出現する新たな保留表示は、第 2 保留表示画像描画領域にて描画される画像よりも表示優先度が低い第 3 保留表示画像描画領域にて描画される。

【 0 6 2 4 】

つまり、保留記憶表示エリア 5 U における 3 個目の表示位置に既に表示されていて 2 個目の表示位置に向けた移動が開始された保留表示と、保留記憶表示エリア 5 U における 3 個目の表示位置に新たに表示される保留表示と、が重畳して表示されるタイミングである場合、シフトアニメーションの対象となる保留表示の方が、新たに表示される保留表示よりも優先して表示されるため、シフトアニメーションにより保留表示が 3 個目の表示位置から 2 個目の表示位置に移動したことを認識することができる。

【 0 6 2 5 】

そして、図 9 8 (D) 、 (E) に示すように、シフトアニメーションにより保留表示が 3 個目の表示位置から 2 個目の表示位置に移動するにつれ、新たな保留表示との重畳領域が小さくなり、新たな保留表示が視認可能となっていく。

【 0 6 2 6 】

以上、本発明の実施例を図面により説明してきたが、具体的な構成はこれら実施例に限られるものではなく、本発明の要旨を逸脱しない範囲における変更や追加があっても本発明に含まれる。

【 0 6 2 7 】

例えば、前記実施の形態では、保留記憶数が $N (3 \leq N \leq 1)$ で可変表示が実行されているときに 1 の遊技球いずれかの始動口に入賞して新たな保留記憶が発生した場合の出現アニメーションの態様について説明したが、本発明はこれに限定されるものではなく、変形例として図 9 9 に示すように、2 球の遊技球が連続して始動口に入賞したときについては、1 個目及び 2 個目の新たな保留記憶が可変表示終了間際に発生し、これら保留記憶に基づく保留表示の出現アニメーションが次の可変表示の開始まで 6 0 0 m s 未満のタイミングから開始する場合は、1 個目の保留記憶にもとづいて保留記憶表示エリア 5 U の保留記憶数 $N + 1$ 個に応じた位置において出現アニメーションを実行するとともに、演出制御用 C P U 1 2 0 が可変表示開始指定コマンドを受信したことにもとづいて保留表示を最終態様に变化させ、2 個目の保留記憶にもとづいて保留記憶表示エリア 5 U の保留記憶数 $N + 2$ 個に応じた位置において出現アニメーションを実行するとともに、演出制御用 C P U 1 2 0 が可変表示開始指定コマンドを受信したことにもとづいて保留表示を最終態様に变化させればよい。

10

20

30

40

50

【 0 6 2 8 】

また、1個目及び2個目の新たな保留記憶が可変表示開始直後に発生し、これら保留記憶に基づく保留表示の出現アニメーションが次の可変表示の開始まで600ms以上前のタイミングから開始する場合は、1個目の保留記憶にもとづいて保留記憶表示エリア5Uの保留記憶数N+1個に応じた位置において出現アニメーションを実行するとともに、該出現アニメーションの終了にもとづいて保留表示を最終態様に变化させ、2個目の保留記憶にもとづいて保留記憶表示エリア5Uの保留記憶数N+2個に応じた位置において出現アニメーションを実行するとともに、該出現アニメーションの終了にもとづいて保留表示を最終態様に变化させればよい。

【 0 6 2 9 】

また、1個目の新たな保留記憶が可変表示終了間際に発生し、該保留記憶に基づく保留表示の出現アニメーションが次の可変表示の開始まで600ms未満のタイミングから開始し、2個目の新たな保留記憶が次の可変表示の開始後に発生する場合は、1個目の保留記憶にもとづいて保留記憶表示エリア5Uの保留記憶数N+1個に応じた位置において出現アニメーションを実行するとともに、演出制御用CPU120が可変表示開始指定コマンドを受信したことにもとづいて保留表示を最終態様に变化させ、2個目の保留記憶にもとづいて保留記憶表示エリア5Uの保留記憶数N+1個に応じた位置において出現アニメーションを実行するとともに、該出現アニメーションの終了にもとづいて保留表示を最終態様に变化させればよい。

【 0 6 3 0 】

また、前記実施の形態では、保留記憶数が0個、特別図柄の可変表示の非実行時において新たな保留記憶が発生した場合は、一旦新たな保留記憶にもとづく保留表示を保留記憶表示エリア5Uに表示し、シフトアニメーションを実行することで該保留表示をアクティブ表示エリア5Fにシフト(始動)させる形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、変形例として図100(A)及び図100(B)に示すように、保留記憶数が0個、特別図柄の可変表示の非実行時において新たな保留記憶が発生した場合は、出現アニメーションやシフトアニメーションを実行することなく、保留表示を当該可変表示のアクティブ表示として、直接アクティブ表示エリア5Fに表示指定もよい。

【 0 6 3 1 】

また、前記実施の形態では、図52(B)に示すように、保留表示の滞留アニメーションの1周期の表示期間を2970ms、保留表示のシフトアニメーションの表示期間を330ms、アクティブ表示の終了アニメーションの表示期間を165msとする形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、変形例として、保留表示の滞留アニメーションの1周期の表示期間は整数秒(例えば、3000msや6000ms等)としてもよい。

【 0 6 3 2 】

また、前記実施の形態では、保留表示のシフトアニメーション及びアクティブ表示の終了アニメーションの表示期間を共に1000ms未満とする形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、保留表示のシフトアニメーションとアクティブ表示の終了アニメーションとの少なくとも一報については表示期間を1000ms以上としてもよい。

【 0 6 3 3 】

また、前記実施の形態では、遊技媒体の一例として、球状の遊技球(パチンコ球)が適用されていたが、球状の遊技媒体に限定されるものではなく、例えば、メダル等の非球状の遊技媒体であってもよい。

【 0 6 3 4 】

また、前記実施の形態では、大入賞口への遊技球の進入が可能となることによって、始動入賞口や普通入賞口10に遊技球が進入したときよりも多くの賞球が払い出されるようになる大当り遊技状態を有利状態とする形態を例示したが、本発明はこれに限定されるものではなく、通常状態よりも入賞口に遊技球が入賞し易くなる、大当り遊技状態に制御さ

10

20

30

40

50

れ易くなる等の遊技者にとって有利となる遊技状態であれば、時短状態や確変状態を有利状態としてもよい。

【 0 6 3 5 】

また、本発明の遊技機は、遊技媒体を封入し入賞の発生に基づいて得点を付与する封入式遊技機やスロットマシンなどにも適用することができる。また、遊技が可能な遊技機とは、少なくとも遊技を行うものであれば良く、パチンコ遊技機やスロットマシンに限らず、一般ゲーム機であっても良い。

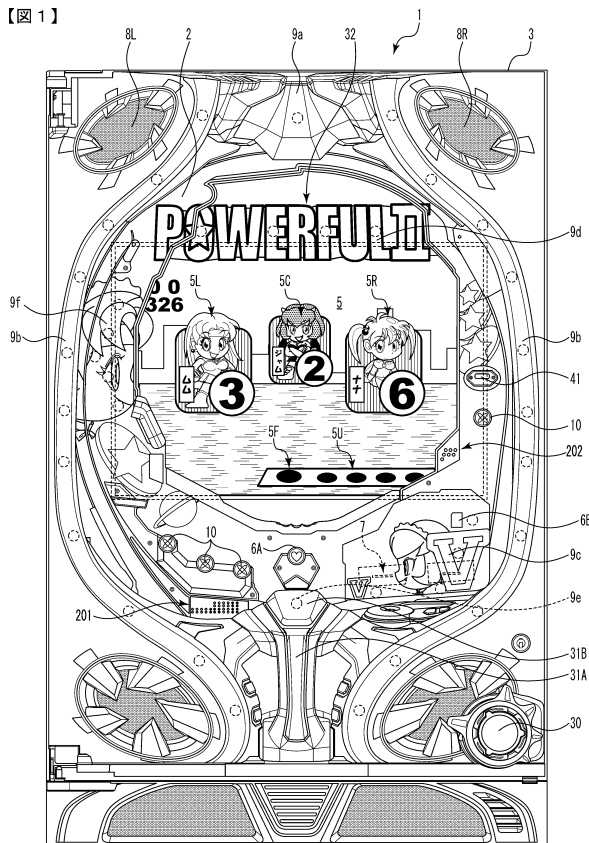
【 符号の説明 】

【 0 6 3 6 】

- | | |
|-------|-----------------|
| 1 | パチンコ遊技機 |
| 4 A | 第 1 特別図柄表示装置 |
| 4 B | 第 2 特別図柄表示装置 |
| 5 | 画像表示装置 |
| 1 0 0 | 遊技制御用マイクロコンピュータ |
| 1 2 0 | 演出制御用 C P U |

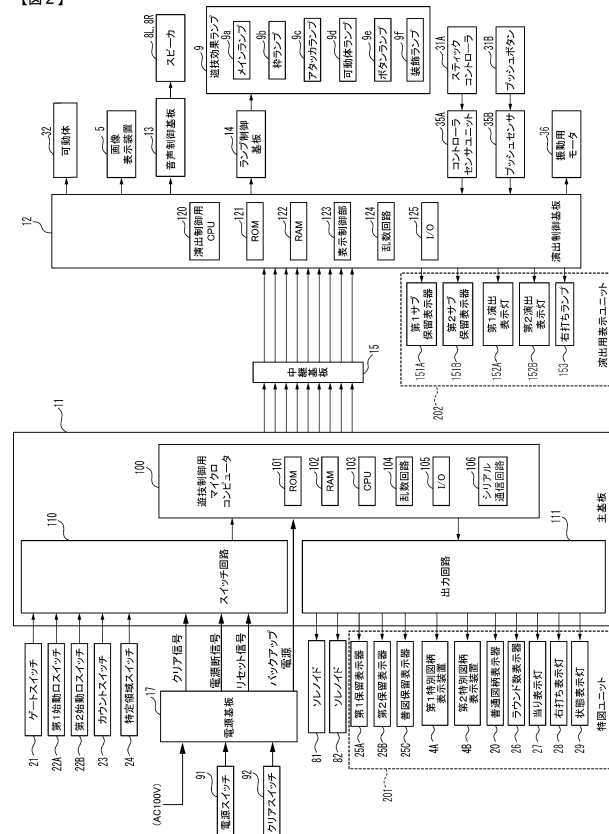
【 図 面 】

【 図 1 】



【 図 2 】

【 図 2 】



10

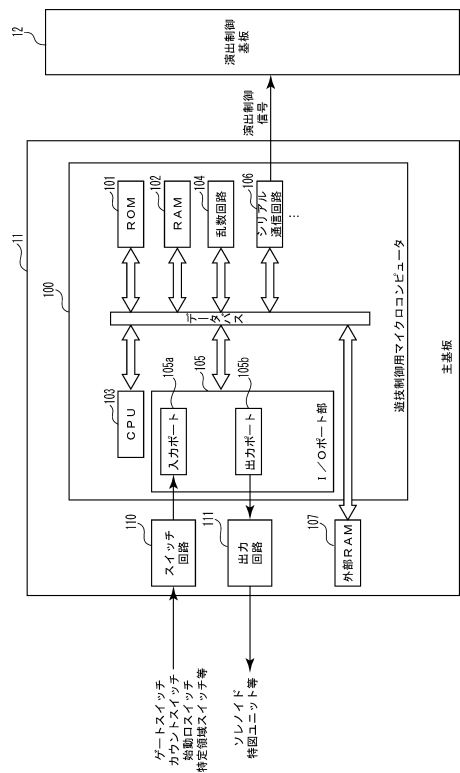
20

30

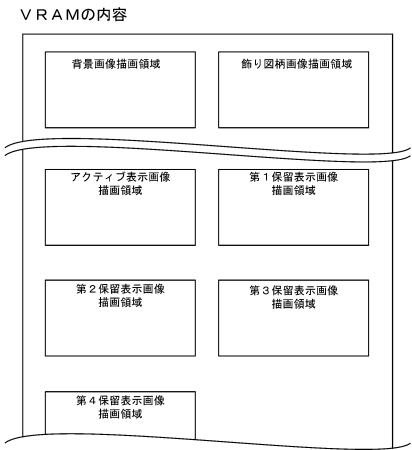
40

50

【図 3】
【図 3】



【図 4】
【図 4】



【図 5】
【図 5】

画像描画領域	主に描画・配置される画像	表示優先度
アクティブ表示画像描画領域	アクティブ表示 保留表示シフトアニメーションとして アクティブ表示エリアに向けて移動する 1 個目の保留表示	高 ↑ ↓ 低
第 1 保留表示画像描画領域	遊技状態に応じた 1 個目の保留表示 保留表示シフトアニメーションとして特図 保留記憶表示エリアの 1 個目の保留表示の 表示位置に向けて移動する 2 個目の保留表示	
第 2 保留表示画像描画領域	遊技状態に応じた 2 個目の保留表示 保留表示シフトアニメーションとして特図 保留記憶表示エリアの 2 個目の保留表示の 表示位置に向けて移動する 3 個目の保留表示	
第 3 保留表示画像描画領域	遊技状態に応じた 3 個目の保留表示 保留表示シフトアニメーションとして特図 保留記憶表示エリアの 3 個目の保留表示の 表示位置に向けて移動する 4 個目の保留表示	
第 4 保留表示画像描画領域	遊技状態に応じた 4 個目の保留表示	

【図 6】
【図 6】

(A)

MODE	EXT	名称	内容
80	01	第 1 可変表示開始	第 1 特図の可変表示の開始を指定
80	02	第 2 可変表示開始	第 2 特図の可変表示の開始を指定
81	XX	変動パターン指定	変動パターン(可変表示時間)を指定
8C	XX	可変表示結果指定	可変表示結果を指定
8F	00	図柄確定	飾り図柄の可変表示の停止指定
95	XX	遊技状態指定	現在の遊技状態を指定
A0	XX	大当り開始指定	大当りの開始指定
A1	XX	大入賞口開放中指定	大入賞口開放中を指定
A2	XX	大入賞口開放後指定	大入賞口開放後を指定
A3	XX	大当り終了指定	大当りの終了指定
B1	00	第 1 始動入賞指定	第 1 始動入賞口への入賞を通知
B2	00	第 2 始動入賞指定	第 2 始動入賞口への入賞を通知
C1	XX	第 1 特図保留記憶数通知	第 1 特図保留記憶数を通知
C2	XX	第 2 特図保留記憶数通知	第 2 特図保留記憶数を通知
C4	XX	図柄指定	始動入賞時の入賞時判定結果(表示結果)を指定
C6	XX	はずれ演出パターン	始動入賞時の入賞時判定結果(はずれ演出パターン)を指定

(B)

MODE	EXT	名称	指定内容
8C	00	第 1 可変表示結果指定	はずれ
8C	01	第 2 可変表示結果指定	大当り(確変 A)
8C	02	第 3 可変表示結果指定	大当り(確変 B)
8C	03	第 4 可変表示結果指定	大当り(確変 C)
8C	04	第 5 可変表示結果指定	大当り(非確変)

10

20

30

40

50

【図 7】

【図 7】

乱数値	範囲	用途
MR1	1～65536	特図表示結果判定用
MR2	1～100	大当り種別判定用
MR3	1～100	はずれ演出判定用
MR4	1～100	変動パターン種別判定用
MR5	1～997	変動パターン判定用
MR6	1～65536	普図表示結果判定用
MR7	1～65536	初期値決定用

【図 8】

【図 8】

表示結果判定テーブル

遊技状態	判定値 (MR1)	特図表示結果
通常状態・ 時短状態	1～219	大当り
	上記数値以外	はずれ
確変状態	10000～12180	大当り
	上記数値以外	はずれ

【図 9】

【図 9】

(A) 大当り種別判定テーブル

変動特図	判定値 (MR2)	大当り種別
第1特図	1～50	非確変
	51～80	確変A
	81～95	確変B
	96～100	確変C
第2特図	1～50	非確変
	51～100	確変A

(B) 大当り種別

大当り種別	確変制御	時短制御	ラウンド数
確変A	大当り当選まで	大当り当選まで	10
確変B	大当り当選まで	大当り当選まで	5
確変C	大当り当選まで	大当り当選まで	2
非確変	無し	100回	5

【図 10】

【図 10】

はずれ演出判定テーブル

判定値 (MR3)	はずれ演出
1～85	非リーチ
86～100	リーチ

10

20

30

40

50

【図 1 1】

【図 1 1】

(A) 変動パターン種別判定テーブルA
(低確低ベース状態用)

判定値(MR4)	変動パターン種別
1～80	ノーマルリーチ
81～95	スーパーリーチ α
96～100	スーパーリーチ β

(B) 変動パターン種別判定テーブルB
(低確低高ベース状態用)

判定値(MR4)	変動パターン種別
1～80	ノーマルリーチ
81～100	スーパーリーチ γ

(C) 変動パターン種別判定テーブルC
(高確高ベース状態用)

判定値(MR4)	変動パターン種別
1～100	ノーマルリーチ

【図 1 2】

【図 1 2】

(A) 通常状態 (低確低ベース状態)

変動パターン	特図可変表示時間(ms)	内容
PA1-1	12000	非リーチ(はずれ)
PA1-2	5750	非リーチ(はずれ)
PA1-3	3750	非リーチ(はずれ)
PA2-1A	20000	ノーマルリーチ(はずれ)
PA2-1B	25000	擬似連1回ノーマルリーチ(はずれ)
PA2-2A	60000	擬似連1回ノーマルリーチ→スーパーリーチ α (はずれ)
PA2-2B	65000	擬似連2回ノーマルリーチ→スーパーリーチ α (はずれ)
PA2-3A	70000	擬似連2回ノーマルリーチ→スーパーリーチ β (はずれ)
PA2-3B	75000	擬似連3回ノーマルリーチ→スーパーリーチ β (はずれ)
PB1-1A	20000	ノーマルリーチ(大当り)
PB1-1B	25000	擬似連1回ノーマルリーチ(大当り)
PB1-2A	60000	擬似連1回ノーマルリーチ→スーパーリーチ α (大当り)
PB1-2B	65000	擬似連2回ノーマルリーチ→スーパーリーチ α (大当り)
PB1-3A	70000	擬似連2回ノーマルリーチ→スーパーリーチ β (大当り)
PB1-3B	75000	擬似連3回ノーマルリーチ→スーパーリーチ β (大当り)

(B) 時短状態 (低確高ベース状態)

変動パターン	特図可変表示時間(ms)	内容
PA1-4	7000	非リーチ(はずれ)
PA1-5	2000	非リーチ(はずれ)
PA2-4A	10000	ノーマルリーチ(はずれ)
PA2-4B	15000	擬似連1回ノーマルリーチ(はずれ)
PA2-5A	30000	擬似連1回ノーマルリーチ→スーパーリーチ γ (はずれ)
PA2-5B	35000	擬似連2回ノーマルリーチ→スーパーリーチ γ (はずれ)
PB1-4A	10000	ノーマルリーチ(大当り)
PB1-4B	15000	擬似連1回ノーマルリーチ(大当り)
PB1-5A	30000	擬似連1回ノーマルリーチ→スーパーリーチ γ (大当り)
PB1-5B	35000	擬似連2回ノーマルリーチ→スーパーリーチ γ (大当り)

(C) 確変状態 (高確高ベース状態)

変動パターン	特図可変表示時間(ms)	内容
PA1-6	3000	非リーチ(はずれ)
PA1-7	500	非リーチ(はずれ)
PA2-6	5000	ノーマルリーチ(はずれ)
PB1-6	5000	ノーマルリーチ(大当り)

【図 1 3】

【図 1 3】

(A) はずれ用変動パターン判定テーブルA
(低確低ベース状態、はずれ演出が非リーチ、同種保留記憶数1個以下)

判定値(MR5)	変動パターン
1～997	PA1-1

(B) はずれ用変動パターン判定テーブルB
(低確低ベース状態用、はずれ演出が非リーチ、同種保留記憶数2個)

判定値(MR5)	変動パターン
1～997	PA1-2

(C) はずれ用変動パターン判定テーブルC
(低確低ベース状態用、はずれ演出が非リーチ、同種保留記憶数3個)

判定値(MR5)	変動パターン
1～997	PA1-3

(D) はずれ用変動パターン判定テーブルD
(低確低ベース状態用、はずれ演出がリーチ、変動パターン種別がノーマルリーチ)

判定値(MR5)	変動パターン
1～900	PA2-1A
901～997	PA2-1B

(E) はずれ用変動パターン判定テーブルE
(低確低ベース状態用、はずれ演出がリーチ、変動パターン種別がスーパーリーチ α)

判定値(MR5)	変動パターン
1～900	PA2-2A
901～997	PA2-2B

(F) はずれ用変動パターン判定テーブルF
(低確低ベース状態用、はずれ演出がリーチ、変動パターン種別がスーパーリーチ β)

判定値(MR5)	変動パターン
1～900	PA2-3A
901～997	PA2-3B

【図 1 4】

【図 1 4】

(A) はずれ用変動パターン判定テーブルG
(低確高ベース状態、はずれ演出が非リーチ、同種保留記憶数1個以下)

判定値(MR5)	変動パターン
1～997	PA1-4

(B) はずれ用変動パターン判定テーブルH
(低確高ベース状態用、はずれ演出が非リーチ、同種保留記憶数2個以上)

判定値(MR5)	変動パターン
1～997	PA1-5

(C) はずれ用変動パターン判定テーブルI
(低確高ベース状態用、はずれ演出がリーチ、変動パターン種別がノーマルリーチ)

判定値(MR5)	変動パターン
1～920	PA2-4A
921～997	PA2-4B

(D) はずれ用変動パターン判定テーブルJ
(低確高ベース状態用、はずれ演出がリーチ、変動パターン種別がスーパーリーチ γ)

判定値(MR5)	変動パターン
1～950	PA2-5A
951～997	PA2-5B

10

20

30

40

50

【図 15】

【図 15】

(A) はずれ用変動パターン判定テーブルK
(高確高ベース状態、はずれ演出が非リーチ、同種保留記憶数 1 個以下)

判定値(MR5)	変動パターン
1~997	PA1-6

(B) はずれ用変動パターン判定テーブルL
(高確高ベース状態用、はずれ演出が非リーチ、同種保留記憶数 2 個以上)

判定値(MR5)	変動パターン
1~997	PA1-7

(C) はずれ用変動パターン判定テーブルM
(高確高ベース状態用、はずれ演出がリーチ、変動パターン種別がノーマルリーチ)

判定値(MR5)	変動パターン
1~997	PA2-6

【図 17】

【図 17】

遊技状態	主な可変表示対象特図	大当り確率	平均特図可変表示時間
通常状態	第1	低	長
時短状態	第2	低	中
確変状態	第2	高	短

【図 16】

【図 16】

(A) 大当り用変動パターン判定テーブルA
(低確低ベース状態用)

判定値(MR5)	変動パターン
1~30	PB1-1A
31~80	PB1-1B
81~170	PB1-2A
171~320	PB1-2B
321~600	PB1-3A
601~997	PB1-3B

(B) 大当り用変動パターン判定テーブルB
(低確高ベース状態用)

判定値(MR5)	変動パターン
1~90	PB1-4A
91~280	PB1-4B
281~580	PB1-5A
581~997	PB1-5B

(C) 大当り用変動パターン判定テーブルC
(高確高ベース状態用)

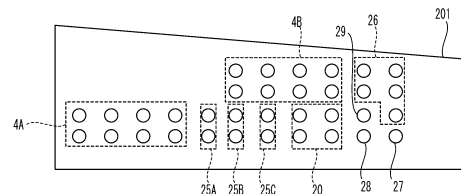
判定値(MR5)	変動パターン
1~997	PB1-6

10

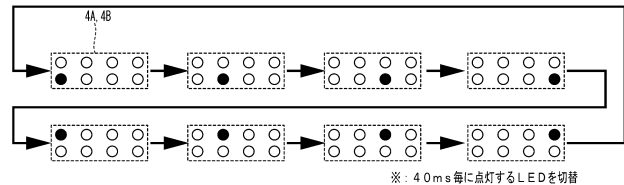
【図 18】

【図 18】

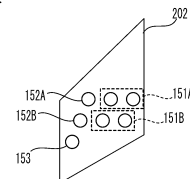
(A) 特図ユニット



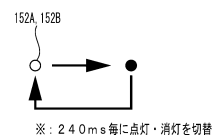
(B) 特別図柄の 1 周期の点灯態様



(C) 演出用表示ユニット



(D) 演出表示灯の 1 周期の点灯態様



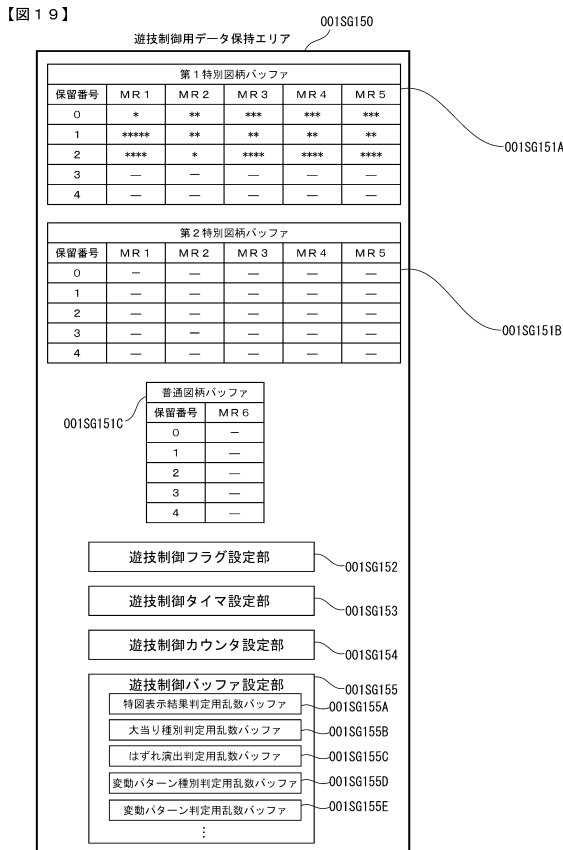
20

30

40

50

【図 19】



【図 20】

入力ポートのビット割当

アドレス	ビット	データ内容	論理	状態
入力ポート 0	0	未使用	—	—
	1	カウントスイッチ	1	オン
	2	排出口スイッチ	1	オン
	3	特定領域スイッチ	1	オン
	4	未使用	—	—
	5	未使用	—	—
	6	普通入賞口スイッチ	1	オン
入力ポート 1	7	未使用	—	—
	0	未使用	—	—
	1	未使用	—	—
	2	アウト確認スイッチ 1	1	オン
	3	アウト確認スイッチ 2	1	オン
	4	未使用	—	—
	5	磁石センサ信号	0	オン
入力ポート 2	6	未使用	—	—
	7	枠電波センサ信号	0	オン
	0	未使用	—	—
	1	未使用	—	—
	2	盤面近接センサエラー信号	1	オン
	3	枠近接センサエラー信号	1	オン
	4	設定キースイッチ	1	オン
入力ポート 3	5	タッチスイッチ	0	オン
	6	扉・枠開放スイッチ	1	オン
	7	クリアスイッチ	1	オン
	0	第1始動口スイッチ	1	オン
	1	第2始動口スイッチ	1	オン
	2	ゲートスイッチ	1	オン
	3	未使用	—	—
入力ポート 4	4	未使用	—	—
	5	未使用	—	—
	6	電源確認信号	1	オン
	7	賞球制御信号 R X O	1	オン

10

20

【図 21】

図 21

DG信号出力ポートのビット割当

アドレス	ビット	データ内容	論理	状態
出力ポート DG 1	0	特別図柄 1-1	1	オン
	1	特別図柄 1-2	1	オン
	2	特別図柄 1-3	1	オン
	3	特別図柄 1-4	1	オン
	4	特別図柄 1-5	1	オン
	5	特別図柄 1-6	1	オン
	6	特別図柄 1-7	1	オン
	7	特別図柄 1-8	1	オン
出力ポート DG 2	0	特別図柄 2-1	0	オフ
	1	特別図柄 2-2	0	オフ
	2	特別図柄 2-3	0	オフ
	3	特別図柄 2-4	0	オフ
	4	特別図柄 2-5	0	オフ
	5	特別図柄 2-6	0	オフ
	6	特別図柄 2-7	0	オフ
	7	特別図柄 2-8	1	オフ
出力ポート DG 3	0	始動口入賞記憶数表示灯 1-2	1	オン
	1	始動口入賞記憶数表示灯 2-2	0	オフ
	2	ゲート通過記憶数表示灯 2	1	オン
	3	始動口入賞記憶数表示灯 1-1	1	オン
	4	始動口入賞記憶数表示灯 2-1	0	オフ
	5	ゲート通過記憶数表示灯 1	1	オン
	6	未使用	—	—
	7	未使用	—	—
出力ポート DG 4	0	普通図柄 1	0	オフ
	1	普通図柄 2	0	オフ
	2	普通図柄 3	0	オフ
	3	普通図柄 4	0	オフ
	4	未使用	—	—
	5	未使用	—	—
	6	未使用	—	—
	7	未使用	—	—
出力ポート DG 5	0	ラウンド 1	0	オフ
	1	ラウンド 2	0	オフ
	2	ラウンド 3	0	オフ
	3	ラウンド 4	0	オフ
	4	ラウンド 5	0	オフ
	5	当り表示灯	0	オフ
	6	右打ち表示灯	0	オフ
	7	状態表示灯	0	オフ

【図 22】

図 22

(A)

001SG190

演出制御用データ保持エリア

001SG191

001SG192

001SG193

001SG194

演出制御フラグ設定部

演出制御タイマ設定部

演出制御カウンタ設定部

演出制御バッファ設定部

(B)

001SG194A

始動入賞時受信コマンドバッファ

バッファ番号	始動口入賞指定	保留記憶数通知	図柄指定	はずれ演出パターン	保留表示フラグ	入賞時フラッシュ演出フラグ
第1特図保留記憶	1-0	B100 (H)	C102 (H)	C400 (H)	C600 (H)	0
	1-1	B100 (H)	C102 (H)	C400 (H)	C600 (H)	0
	1-2	B100 (H)	C102 (H)	C410 (H)	C601 (H)	1
	1-3	B100 (H)	C103 (H)	C400 (H)	C600 (H)	—
第2特図保留記憶	2-0	0000 (H)	0000 (H)	0000 (H)	0000 (H)	—
	2-1	0000 (H)	0000 (H)	0000 (H)	0000 (H)	—
	2-2	0000 (H)	0000 (H)	0000 (H)	0000 (H)	—
	2-3	0000 (H)	0000 (H)	0000 (H)	0000 (H)	—
第3特図保留記憶	3-0	0000 (H)	0000 (H)	0000 (H)	0000 (H)	—
	3-1	0000 (H)	0000 (H)	0000 (H)	0000 (H)	—

保留表示フラグ "0"=白
保留表示フラグ "1"=青
保留表示フラグ "2"=赤

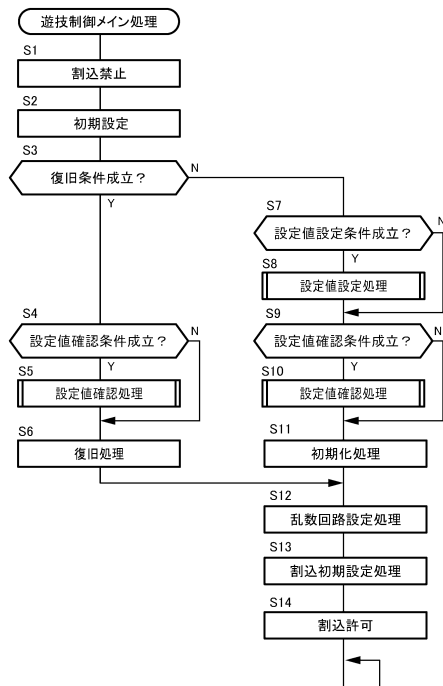
30

40

50

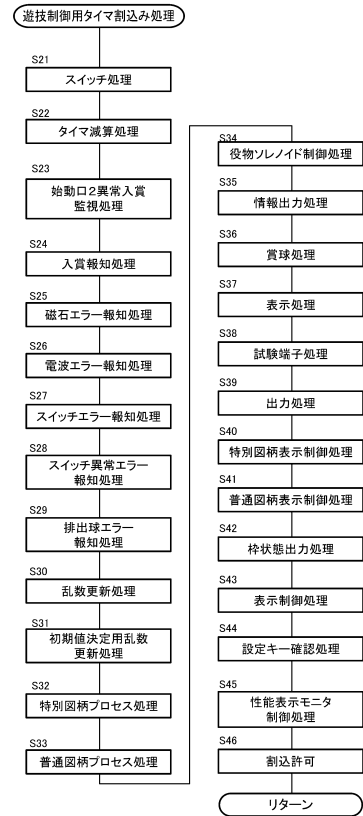
【図 2 3】

【図 2 3】



【図 2 4】

【図 2 4】

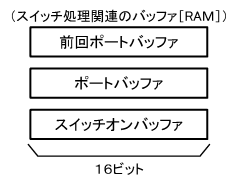


10

20

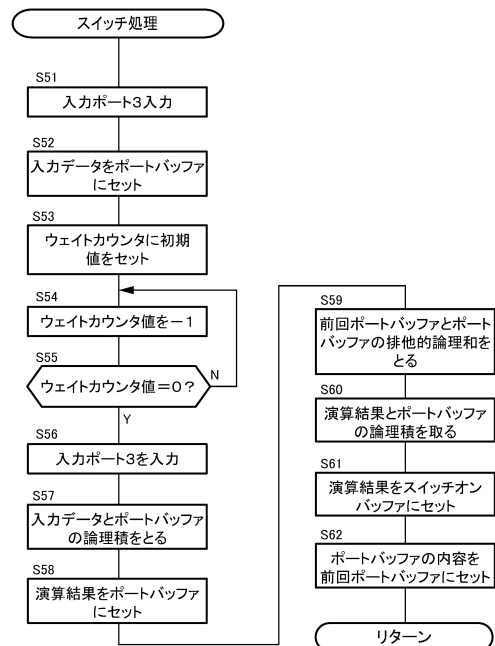
【図 2 5】

【図 2 5】



【図 2 6】

【図 2 6】



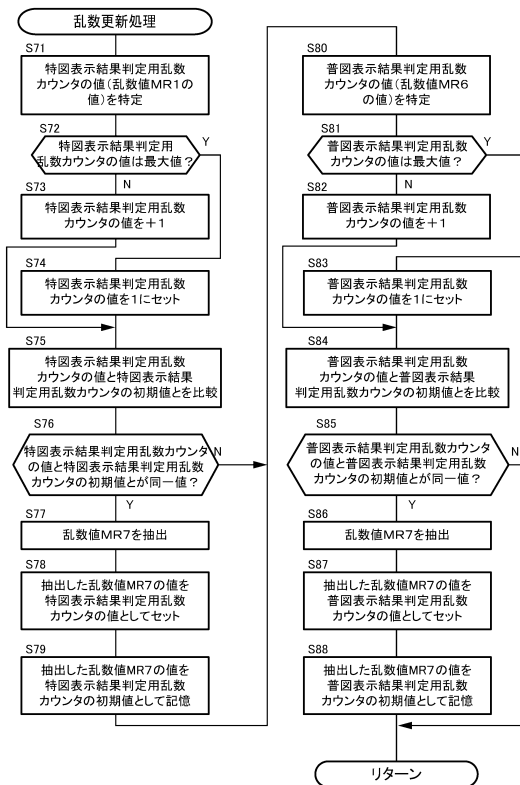
30

40

50

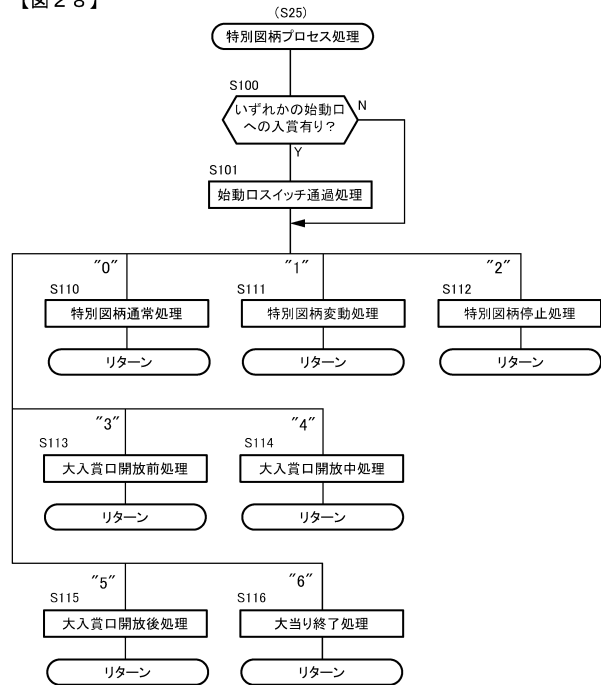
【 図 2 7 】

【図 27】



【 図 2 8 】

【図 28】

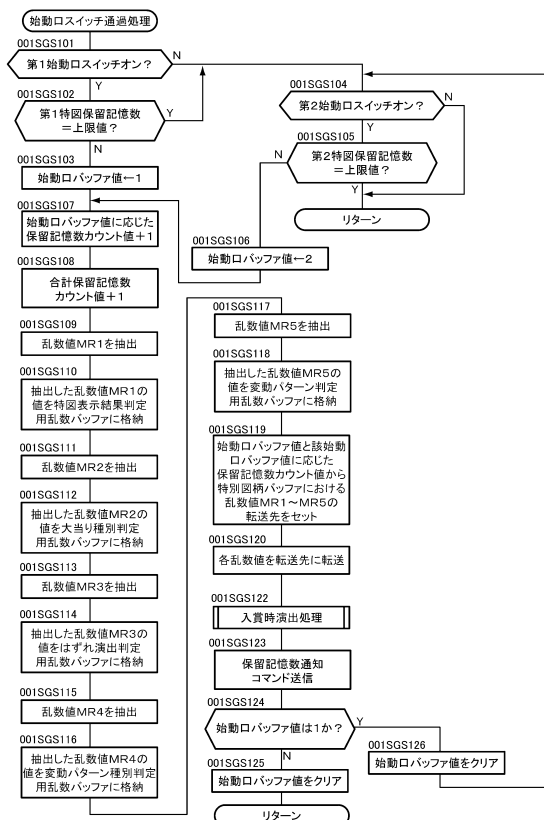


10

20

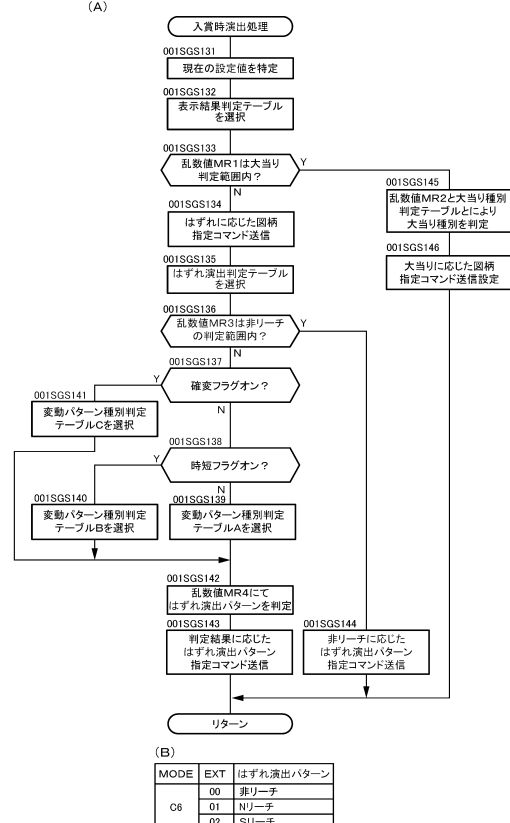
【 図 2 9 】

【図 29】



【 図 3 0 】

【図 30】



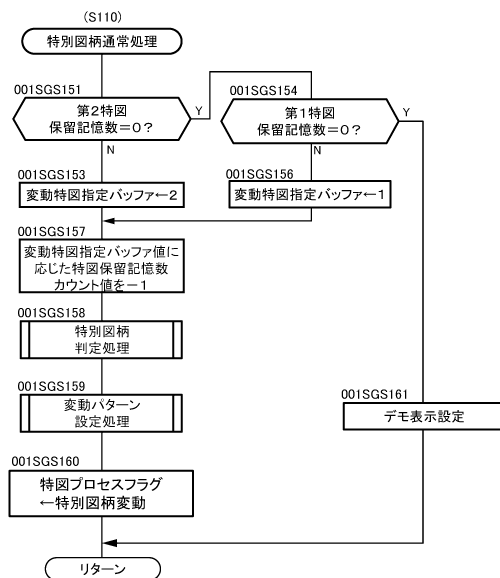
30

40

50

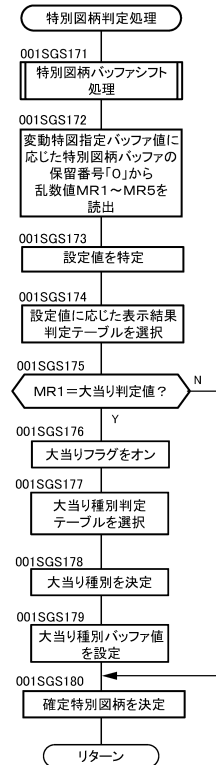
【図 3 1】

【図 3 1】



【図 3 2】

【図 3 2】

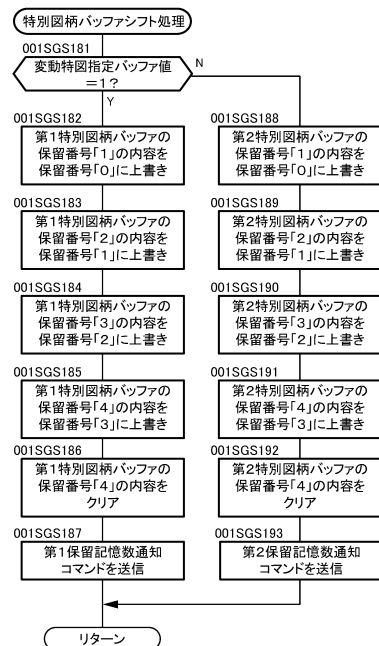


10

20

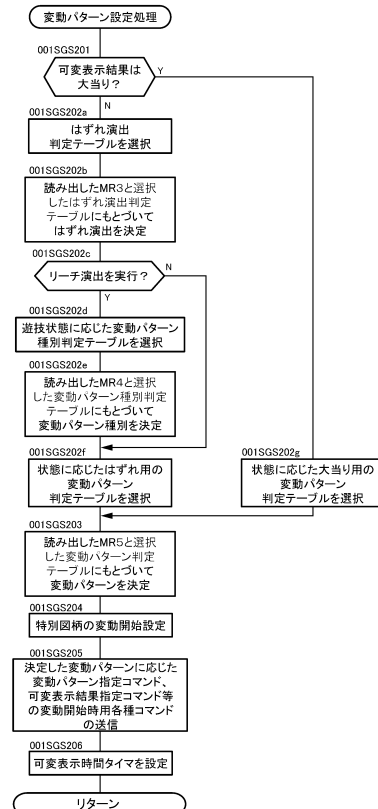
【図 3 3】

【図 3 3】



【図 3 4】

【図 3 4】



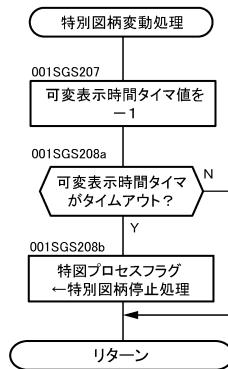
30

40

50

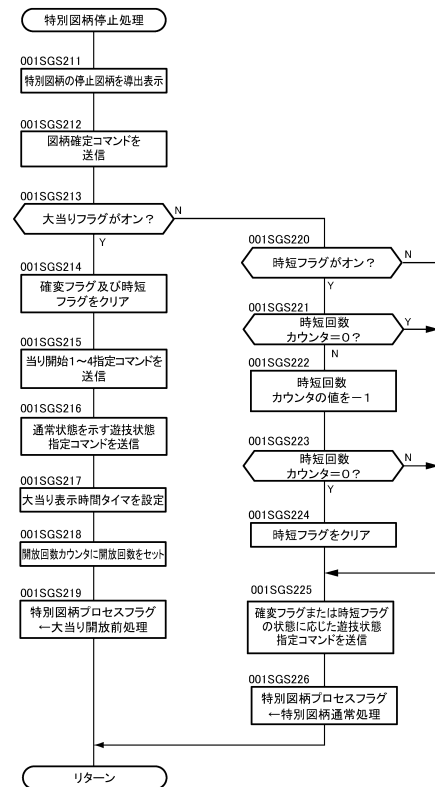
【図 35】

【図 35】



【図 36】

【図 36】

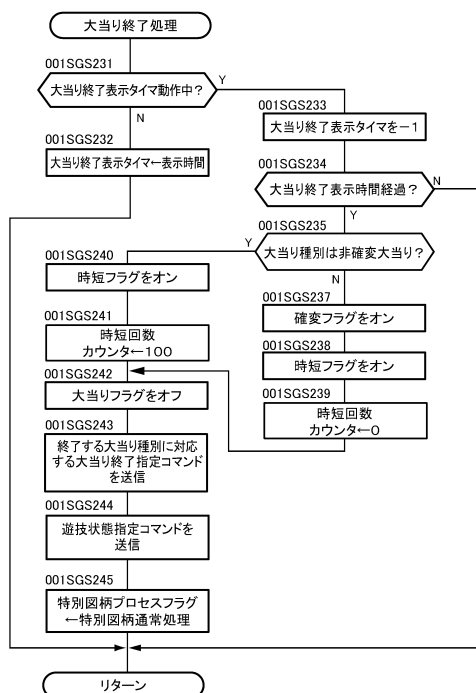


10

20

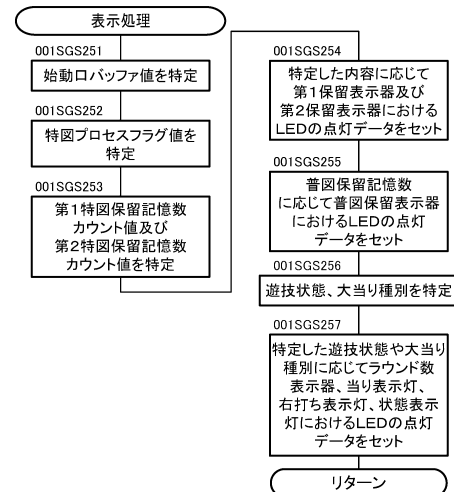
【図 37】

【図 37】



【図 38】

【図 38】



30

40

50

【図 39】

【図 39】

(A) 第1保留表示器点灯制御態様（始動口バッファ値が1、第2特図保留記憶が0個の場合）

特図プロセス フラグ値	第1特図保留記憶数	第1保留表示器 の点灯態様
0	1個	点灯せず
0	2～4個	保留記憶の合計数 に応じた態様で点灯
1～6	1～4個	

(B) 第1保留表示器点灯制御態様（始動口バッファ値が1、第2特図保留記憶が1個以上の場合）

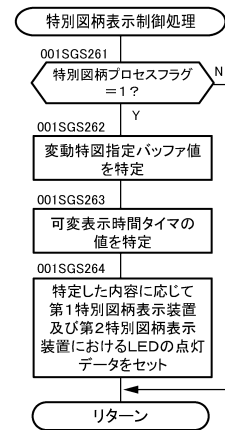
特図プロセス フラグ値	第1特図保留記憶数	第1保留表示器 の点灯態様
0	1個	保留記憶の合計数 に応じた態様で点灯
0	2～4個	
1～6	1～4個	

(C) 第2保留表示器点灯制御態様（始動口バッファ値が2の場合）

特図プロセス フラグ値	第2特図保留記憶数	第2保留表示器 の点灯態様
0	1個	点灯せず
0	2～4個	保留記憶の合計数 に応じた態様で点灯
1～6	1～4個	

【図 40】

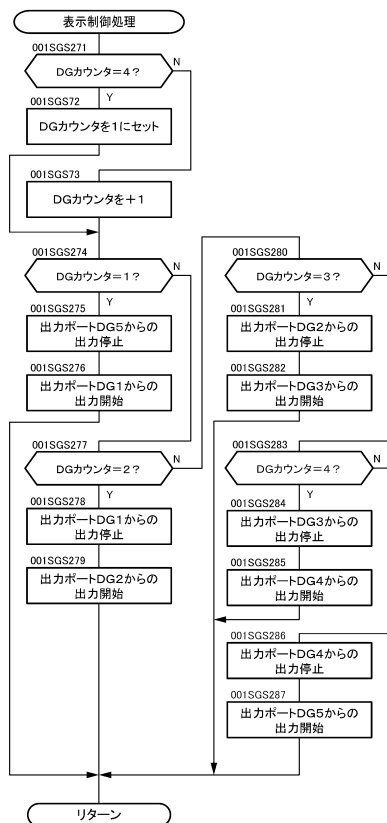
【図 40】



10

【図 41】

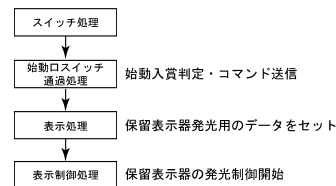
【図 41】



【図 42】

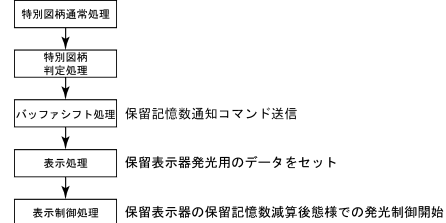
【図 42】

(A) 始動入賞発生によるコマンド送信タイミングと保留表示器の発光制御開始タイミング



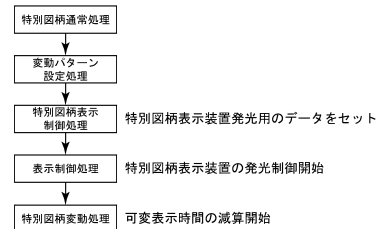
20

(B) 可変表示開始時におけるコマンド送信タイミングと保留表示器の保留記憶減算後態様での発光制御開始タイミング



30

(C) 可変表示開始時における特別図柄の発光制御開始タイミングと可変表示時間の減算開始タイミング

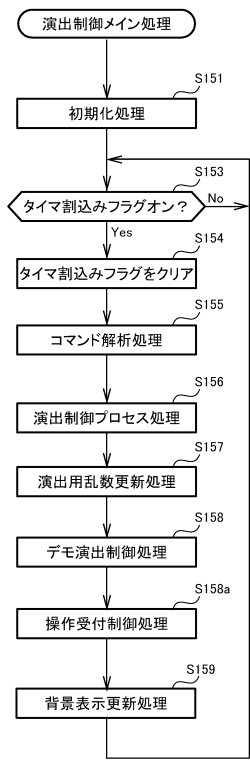


40

50

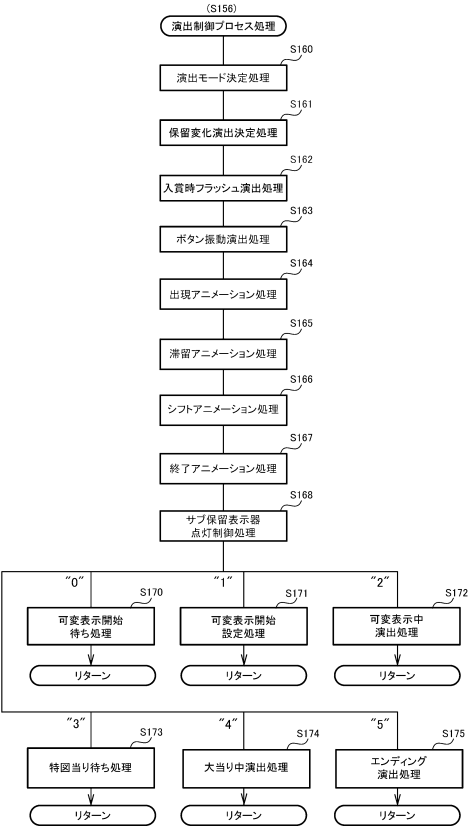
【図 4 3】

【図 4 3】



【図 4 4】

【図 4 4】



【図 4 5】

【図 4 5】

演出モード決定処理における演出モード変更契機

遊技状態	変更契機	変更先演出モード
通常状態	1 回目可変表示開始タイミング	演出モード A
	2 回目以降可変表示開始タイミング (抽選)	演出モード B (演出モード A であった場合) 演出モード A (演出モード B であった場合)
時短状態	遊技状態指定コマンド受信タイミング	演出モード C
確変状態	遊技状態指定コマンド受信タイミング	演出モード D

【図 4 6】

【図 4 6】

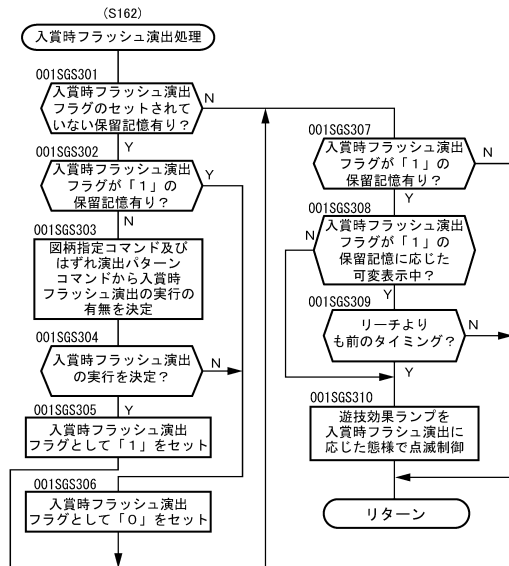
保留変化演出の実行の有無及び演出パターンの決定割合

図柄指定コマンド及びはずれ演出パターンコマンド	保留変化演出非実行 (表示色：白)	保留変化演出実行	
		演出パターン A (表示色：青)	演出パターン B (表示色：赤)
大当り	5 %	2 5 %	7 0 %
非リーチ (はずれ)	9 5 %	5 %	0 %
Nリーチ (はずれ)	7 5 %	2 0 %	5 %
Sリーチ (はずれ)	6 5 %	2 5 %	1 0 %

- ※ 1：保留変化演出の非実行を決定した場合は、演出モードに応じた形状の保留表示 (またはアクティブ表示) を白色で表示
- ※ 2：保留変化演出の実行を決定した場合は、演出モードに応じた形状の保留表示 (またはアクティブ表示) を演出パターンに応じた色 (青色または赤色) で表示

【図 47】

【図 47】



【図 48】

【図 48】

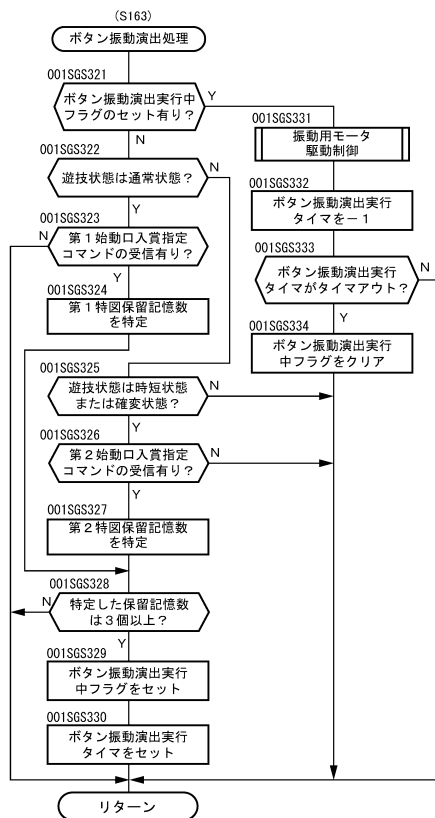
入賞時フラッシュ演出の実行の有無決定割合

図柄指定コマンド 及びはずれ演出 パターンコマンド	非実行	実行
大当り	40%	60%
非リーチ (はずれ)	100%	0%
Nリーチ (はずれ)	100%	0%
Sリーチ (はずれ)	80%	20%

10

【図 49】

【図 49】



【図 50】

【図 50】

(A) 第1サブ保留表示器点灯制御態様

(第1始動口入賞指定コマンドを受信、第2特図保留記憶が0個の場合)

演出プロセス フラグ値	第1特図保留記憶数	第1サブ保留表示器 の点灯態様
0	1個	点灯せず
0	2~4個	保留記憶の合計数 に応じた態様で点灯
1~7	1~4個	

(B) 第1サブ保留表示器点灯制御態様

(第1始動口入賞指定コマンドを受信、第2特図保留記憶が1個以上の場合)

演出プロセス フラグ値	第1特図保留記憶数	第1サブ保留表示器 の点灯態様
0	1個	保留記憶の合計数 に応じた態様で点灯
0	2~4個	
1~7	1~4個	

(C) 第2サブ保留表示器点灯制御態様 (第2始動口入賞指定コマンドを受信の場合)

特図プロセス フラグ値	第2特図保留記憶数	第2サブ保留表示器 の点灯態様
0	1個	点灯せず
0	2~4個	保留記憶の合計数 に応じた態様で点灯
1~7	1~4個	

20

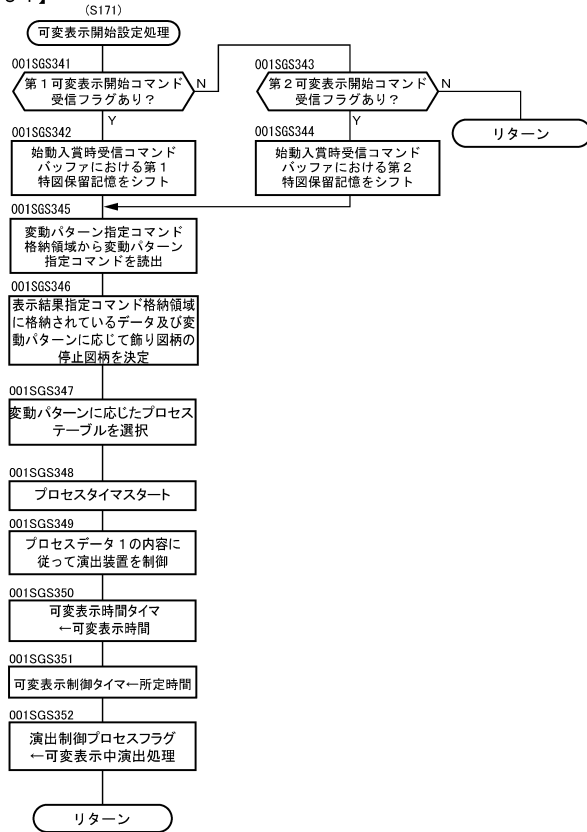
30

40

50

【図 5 1】

【図 5 1】



【図 5 2】

【図 5 2】

(A)

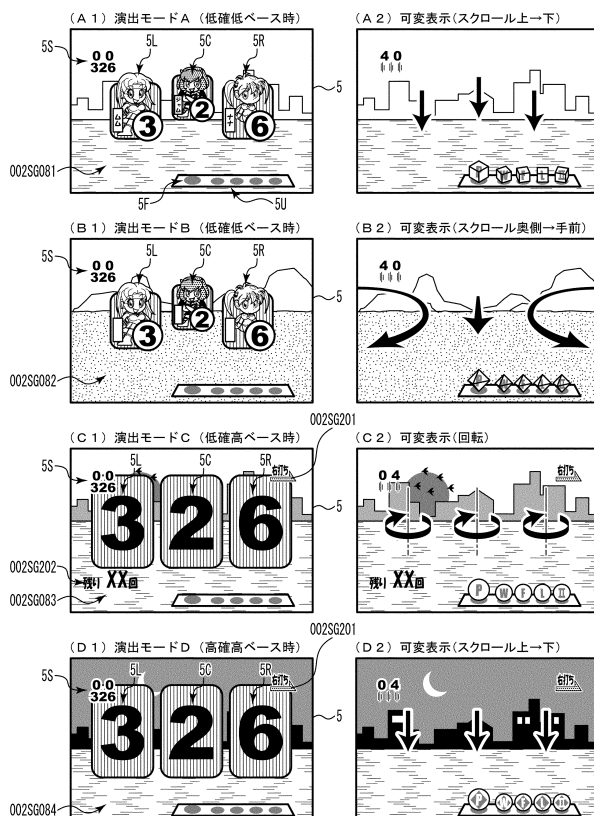
CPU103	割込み制御実行周期	4ms
	図柄確定期間	500ms
	特別図柄の可変表示周期 (LED間の点灯制御間隔: 40ms)	320ms
演出制御用 CPU120 及び 表示制御部123	割込み制御実行周期	2ms
	画像描画期間	33ms
	画像更新周期 (フレームレート)	33ms (30FPS)
	サブ図柄の可変表示周期 (LED間の点灯制御間隔: 240ms)	480ms

(B)

種別		演出モードA	演出モードB	演出モードC	演出モードD
保留表示	出現アニメーション 表示実行期間	660ms (20F) ※短縮される場合有り		165ms (5F)	99ms (3F)
保留表示・ アクティブ 表示	滞留アニメーション 表示実行期間 (1周期)	2970ms (90F)		非実行	
	シフトアニメーション 表示実行期間	330ms (10F)			
アクティブ 表示	終了アニメーション 表示実行期間	165ms (5F)			

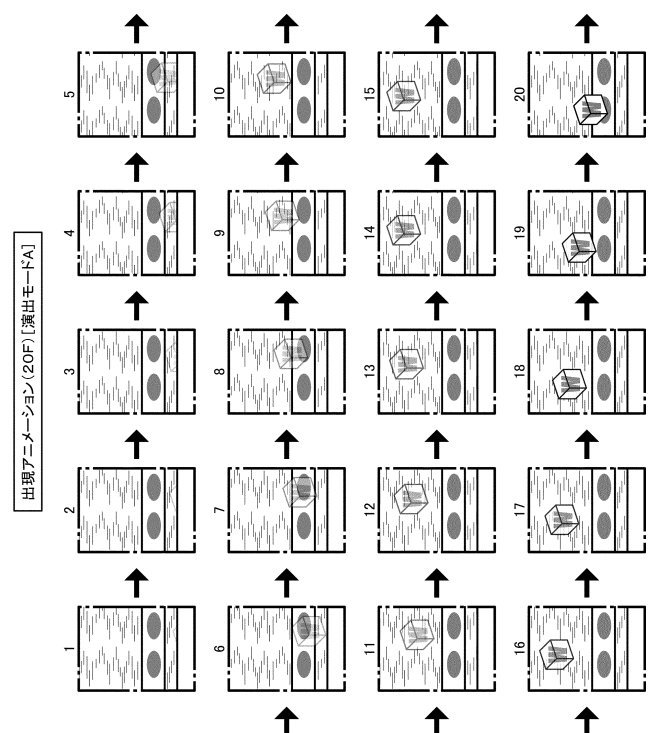
【図 5 3】

【図 5 3】



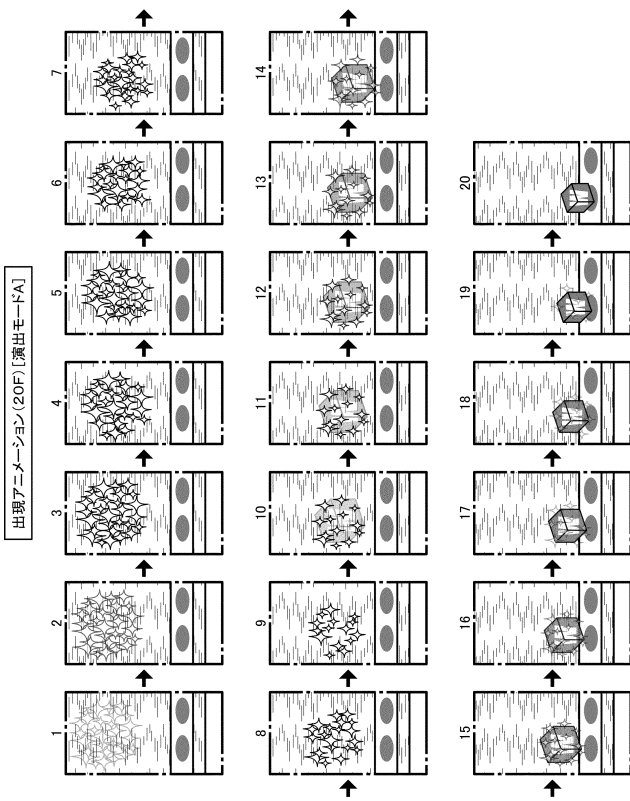
【図 5 4】

【図 5 4】



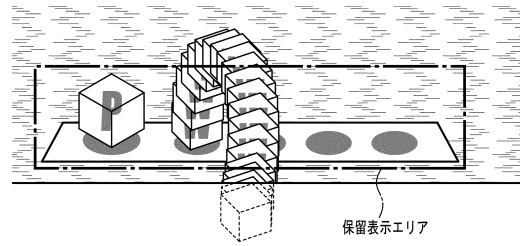
【図 5 5】

【図 5 5】



【図 5 6】

【図 5 6】

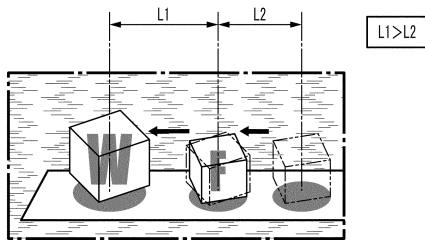


10

20

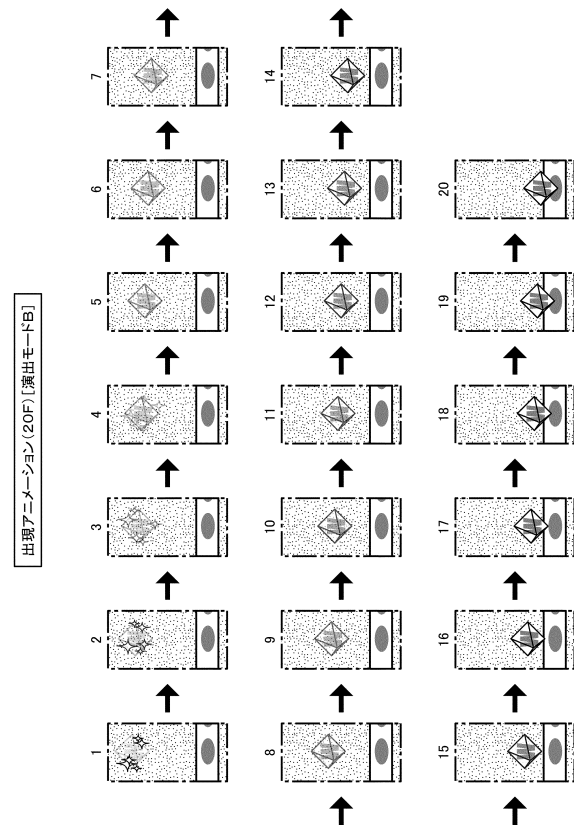
【図 5 7】

【図 5 7】



【図 5 8】

【図 5 8】



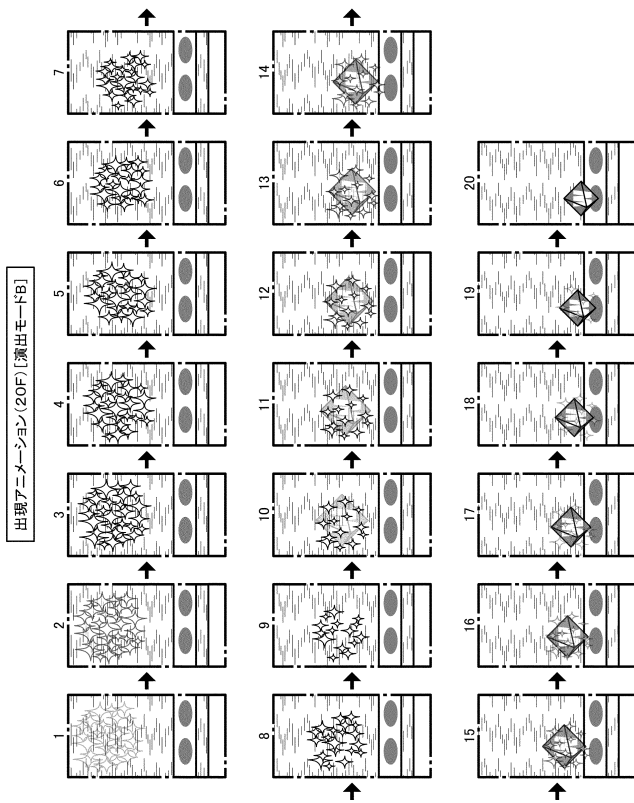
30

40

50

【図 59】

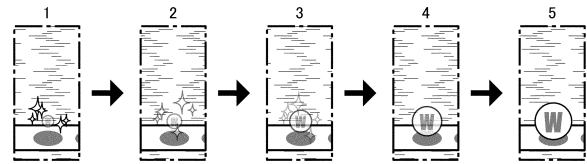
【図 59】



【図 60】

【図 60】

出現アニメーション(5F) [演出モードC]



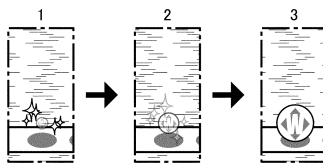
10

20

【図 61】

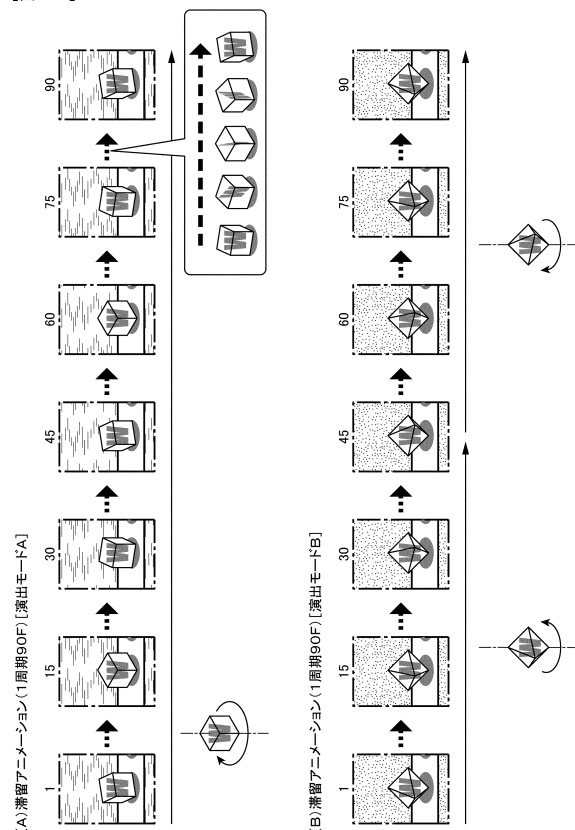
【図 61】

出現アニメーション(3F) [演出モードD]



【図 62】

【図 62】



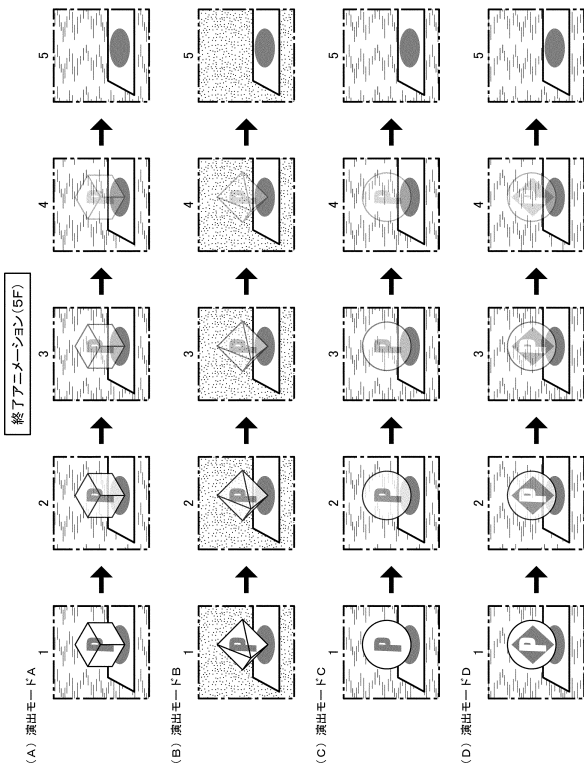
30

40

50

【図 6 3】

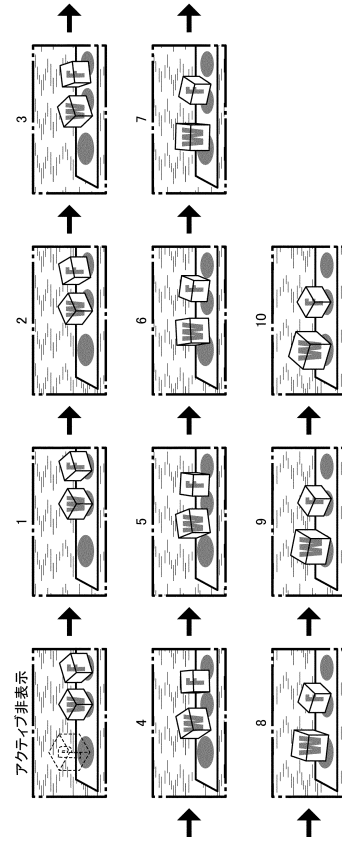
【図 6 3】



【図 6 4】

【図 6 4】

シフトアニメーション(10F) [演出モード A]、保留記憶有り



10

20

30

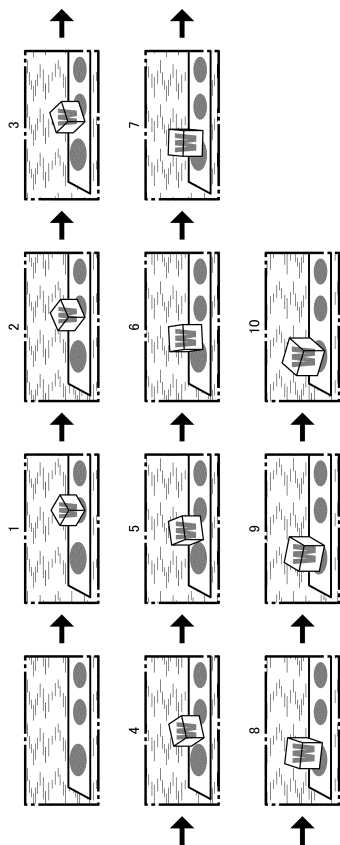
40

50

【図 6 5】

【図 6 5】

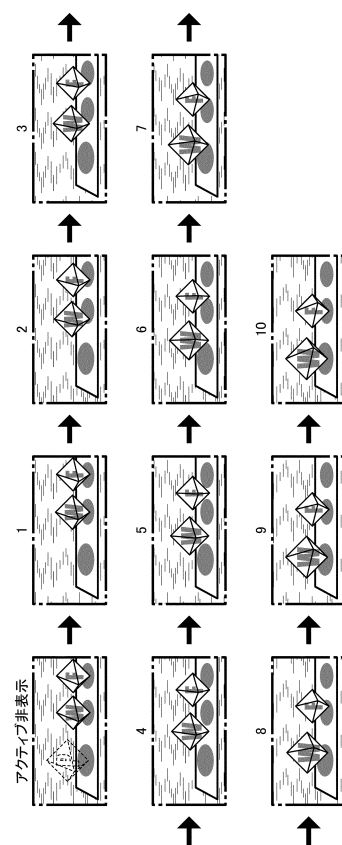
シフトアニメーション(10F) [演出モード A]、保留記憶無し且つ可変表示非実行



【図 6 6】

【図 6 6】

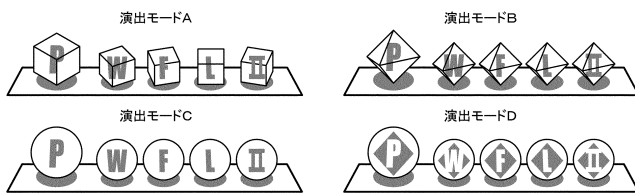
シフトアニメーション(10F) [演出モード B]



【図 67】

【図 67】

(A) アクティブ表示エリア・保留表示エリア

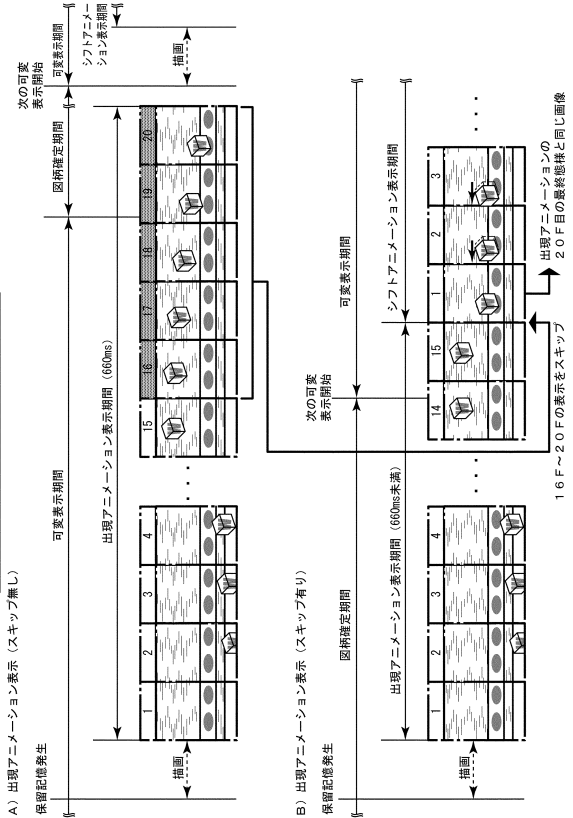


(B) 各種アニメーション一覧

種類	演出モードA	演出モードB	演出モードC	演出モードD
出現				
滞留				
終了				
シフト				

【図 68】

【図 68】

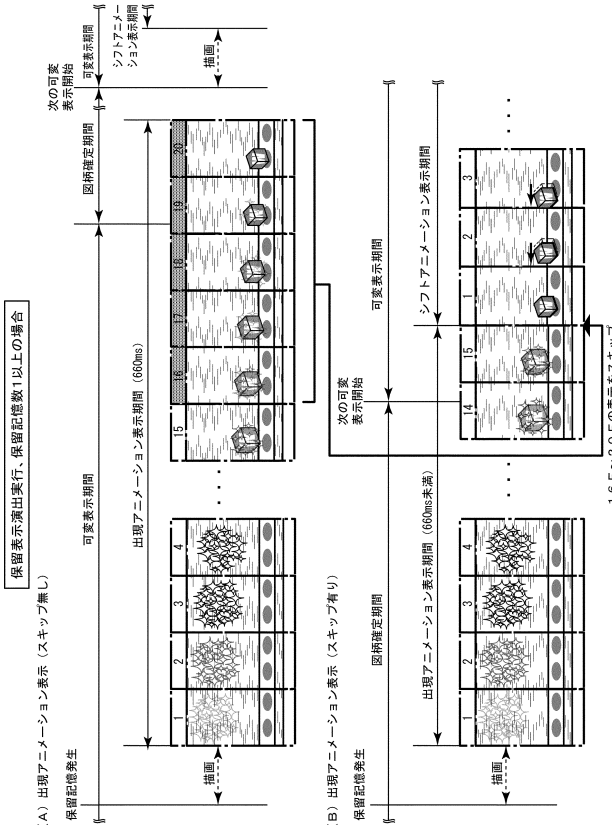


10

20

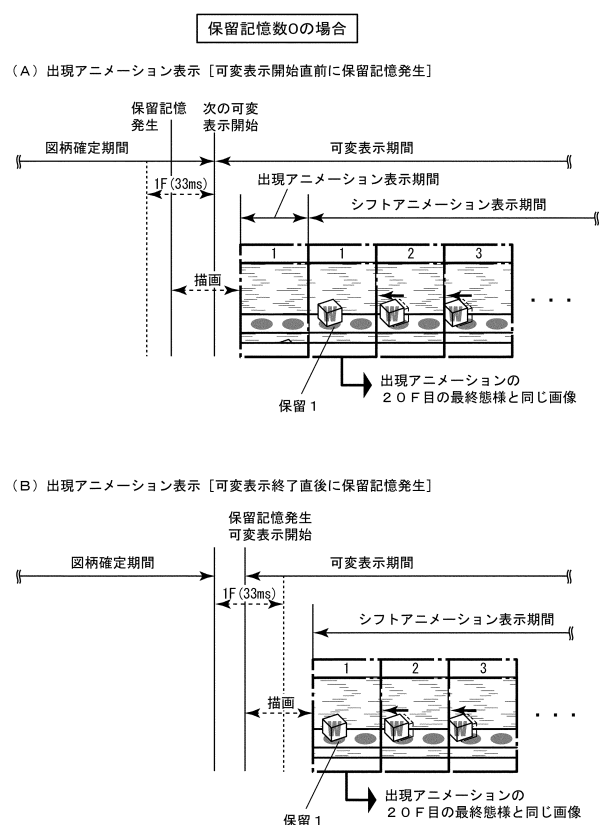
【図 69】

【図 69】



【図 70】

【図 70】



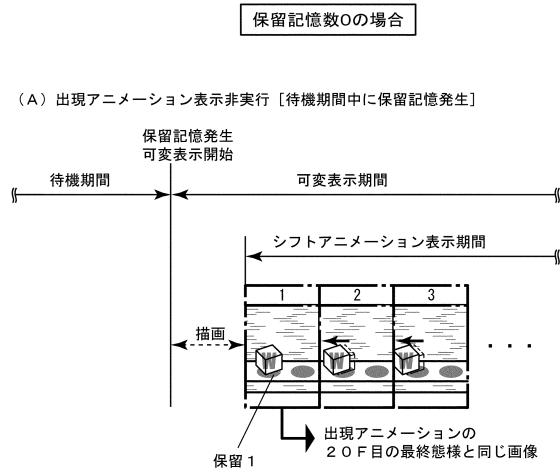
30

40

50

【図 7 1】

【図 7 1】

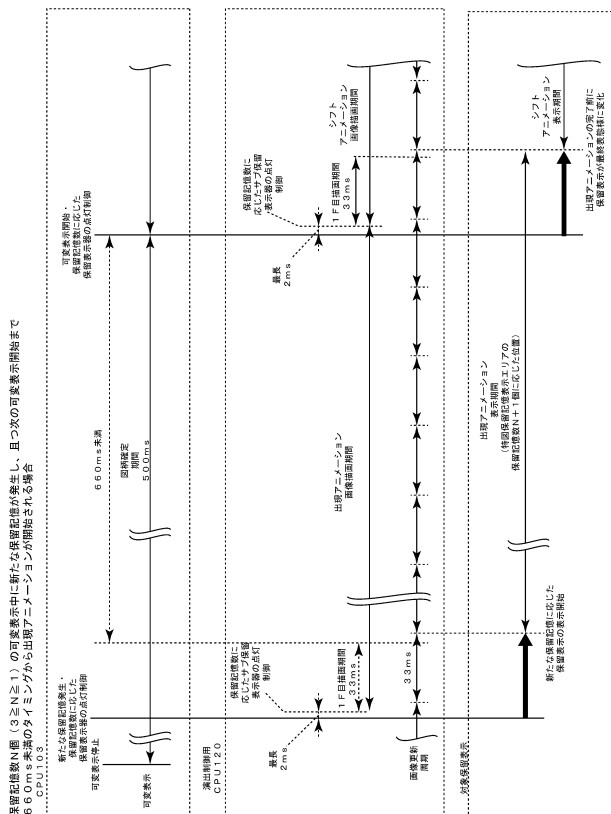


10

20

【図 7 3】

【図 7 3】

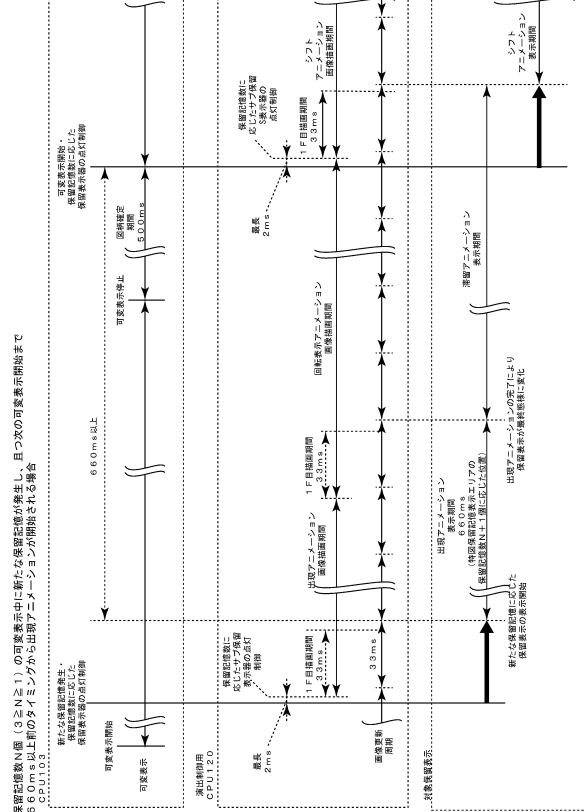


30

40

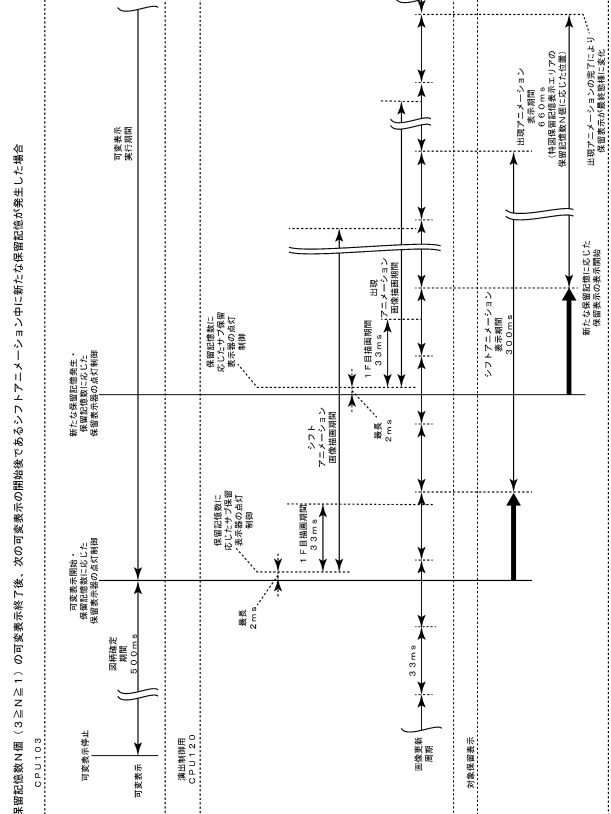
【図 7 2】

【図 7 2】



【図 7 4】

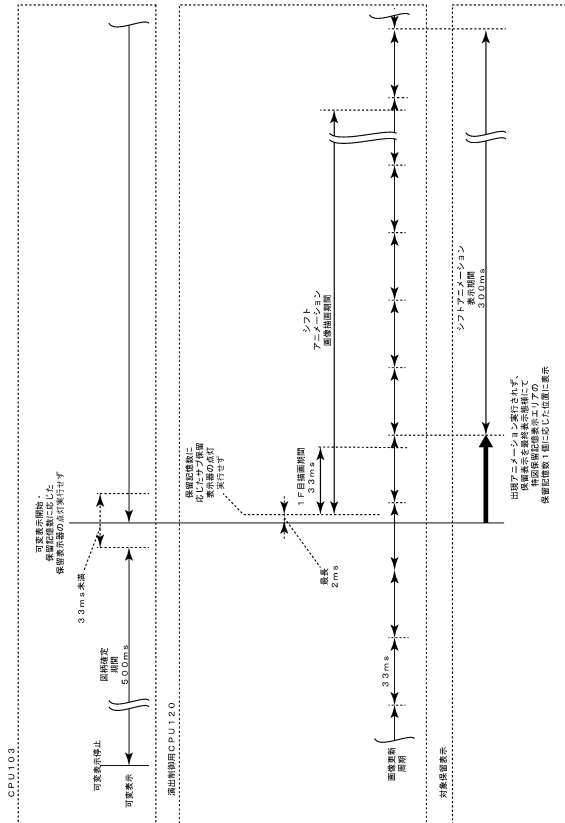
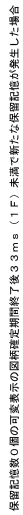
【図 7 4】



50

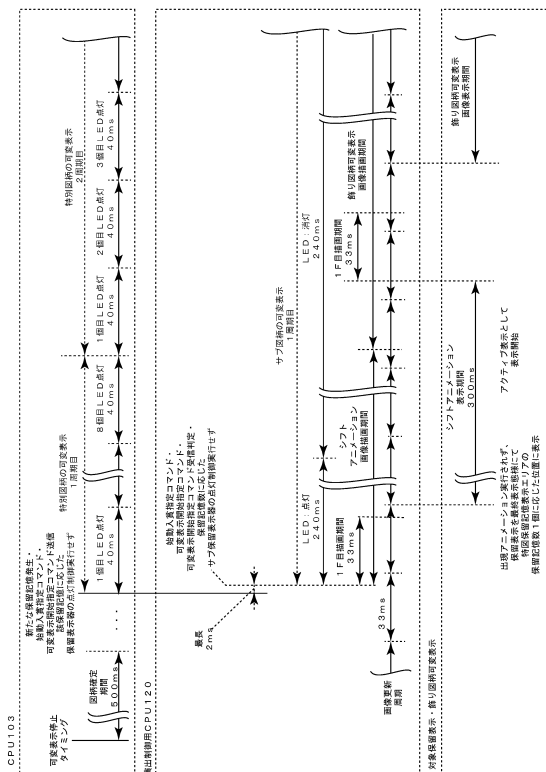
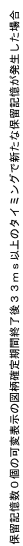
【 図 8 3 】

【例 8 3】



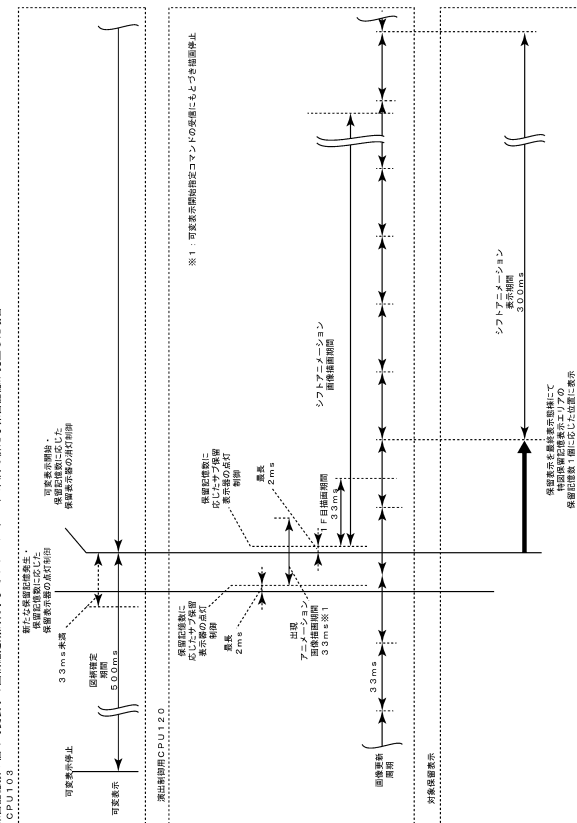
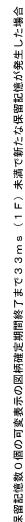
【 図 8 5 】

【図 8 5】



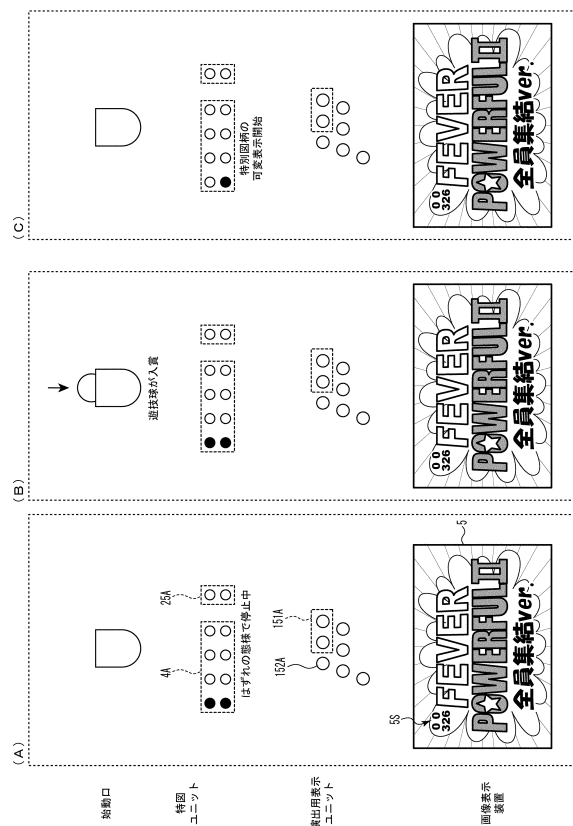
【 図 8 4 】

【图 8 4】



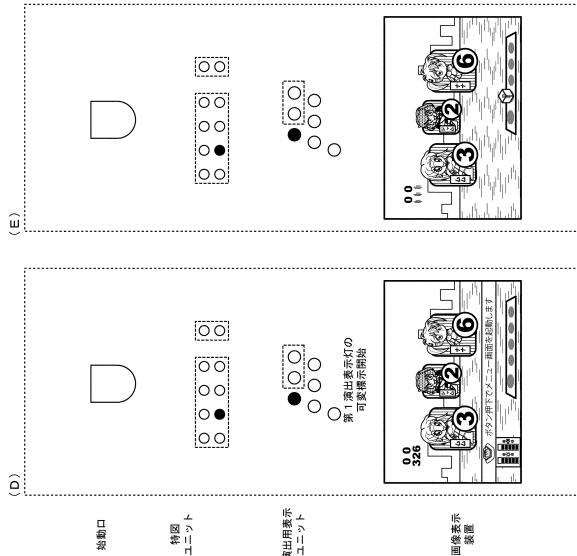
【 図 8 6 】

【図 8 6】



【図 9 1】

【図 9 1】



【図 9 2】

【図 9 2】

各演出の比較	演出名	実行可能演出モード					開始状態	実行期間	演出中断の有無
		A	B	C	D				
	保留値発生演出	○	○	○	○		保留値の発生から失読み対象の可変表示停止タイムまで	無し	
	入賞時フラッシュ演出	○	○	○	○		保留値の発生から失読み対象の可変表示のリーチタイムまで	無し	
	ボタン振動演出	○	○	○	○		保留値の発生から所定期間(例えば、3000ms)経過まで	無し	
	保留出現アニメーション	○	○	○	○		保留値の発生から最長 6000ms	有り (可変表示開始コマンドの受信契機)	

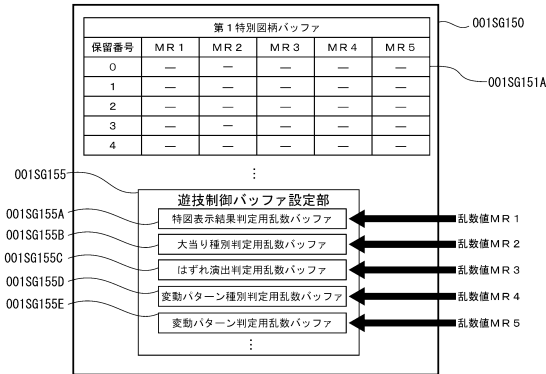
10

20

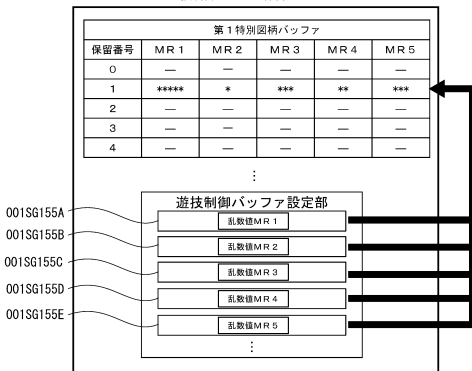
【図 9 3】

【図 9 3】

(A) 抽出した乱数値を各乱数バッファに一旦格納
遊技制御用データ保持エリア



(B) 格納した乱数値を特別図柄バッファの転送先に転送
遊技制御用データ保持エリア



【図 9 4】

【図 9 4】

(A) 保留番号「1」の記憶内容を保留番号「0」の記憶内容としてコピー

保留番号	MR 1	MR 2	MR 3	MR 4	MR 5
0	—	—	—	—	—
1	*****	*	***	**	***
2	—	—	—	—	—
3	—	—	—	—	—
4	—	—	—	—	—

(B) 保留番号「2」の記憶内容を保留番号「1」の記憶内容としてコピー

保留番号	MR 1	MR 2	MR 3	MR 4	MR 5
0	*****	*	***	**	***
1	*****	*	***	**	***
2	—	—	—	—	—
3	—	—	—	—	—
4	—	—	—	—	—

(C) 保留番号「3」の記憶内容を保留番号「2」の記憶内容としてコピー

保留番号	MR 1	MR 2	MR 3	MR 4	MR 5
0	*****	*	***	**	***
1	*****	*	***	**	***
2	*****	*	***	**	***
3	—	—	—	—	—
4	—	—	—	—	—

(D) 保留番号「4」の記憶内容を保留番号「3」の記憶内容としてコピー

保留番号	MR 1	MR 2	MR 3	MR 4	MR 5
0	*****	*	***	**	***
1	*****	*	***	**	***
2	*****	*	***	**	***
3	*****	*	***	**	***
4	—	—	—	—	—

(E) 保留番号「4」の記憶内容を消去

保留番号	MR 1	MR 2	MR 3	MR 4	MR 5
0	*****	*	***	**	***
1	—	—	—	—	—
2	—	—	—	—	—
3	—	—	—	—	—
4	—	—	—	—	—

30

40

50

【図 95】

【図 95】

(A) 保留番号「1」の記憶内容を保留番号「0」の記憶内容としてコピー

保留番号	MR 1	MR 2	MR 3	MR 4	MR 5
0	—	—	—	—	—
1	*****	*	***	**	***
2	***	**	*	*****	*
3	***	*	*****	*	**
4	*****	*****	*****	***	*****

(B) 保留番号「2」の記憶内容を保留番号「1」の記憶内容としてコピー

保留番号	MR 1	MR 2	MR 3	MR 4	MR 5
0	*****	*	***	**	***
1	*****	*	***	**	***
2	***	**	*	*****	*
3	***	*	*****	*	**
4	*****	*****	*****	***	*****

(C) 保留番号「3」の記憶内容を保留番号「2」の記憶内容としてコピー

保留番号	MR 1	MR 2	MR 3	MR 4	MR 5
0	*****	*	***	**	***
1	***	**	*	*****	*
2	***	**	*	*****	*
3	***	*	*****	*	**
4	*****	*****	*****	***	*****

(D) 保留番号「4」の記憶内容を保留番号「3」の記憶内容としてコピー

保留番号	MR 1	MR 2	MR 3	MR 4	MR 5
0	*****	*	***	**	***
1	***	**	*	*****	*
2	***	*	*****	*	**
3	***	*	*****	*	**
4	*****	*****	*****	***	*****

(E) 保留番号「3」の記憶内容を保留番号「4」の記憶内容として同一

保留番号	MR 1	MR 2	MR 3	MR 4	MR 5
0	*****	*	***	**	***
1	***	**	*	*****	*
2	***	*	*****	*	**
3	*****	*****	*****	***	*****
4	*****	*****	*****	***	*****

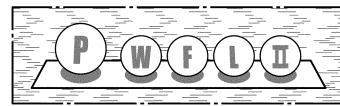
(F) 保留番号「4」の記憶内容を消去

保留番号	MR 1	MR 2	MR 3	MR 4	MR 5
0	*****	*	***	**	***
1	***	**	*	*****	*
2	***	*	*****	*	**
3	*****	*****	*****	***	*****
4	—	—	—	—	—

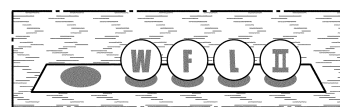
【図 96】

【図 96】

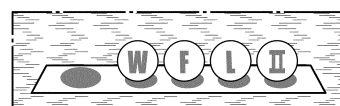
(A) 可変表示中



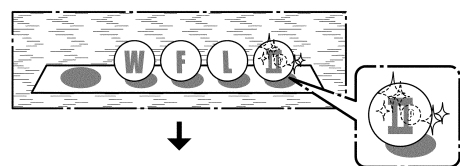
(B) 可変表示終了 (図柄確定期間)



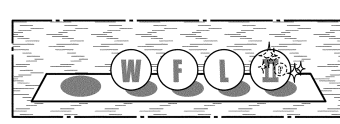
(C) 新たな可変表示開始



(D) 新たな保留記憶発生 (33ms以内)



(E)



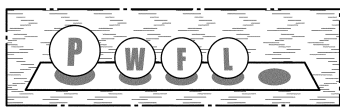
10

20

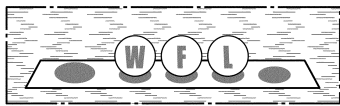
【図 97】

【図 97】

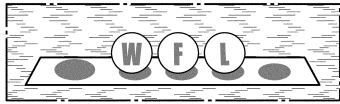
(A) 可変表示中



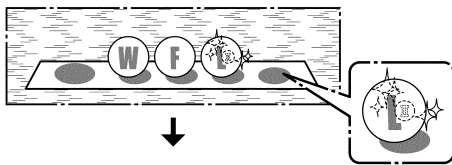
(B) 可変表示終了 (図柄確定期間)



(C) 新たな可変表示開始



(D) 新たな保留記憶発生 (33ms以内)



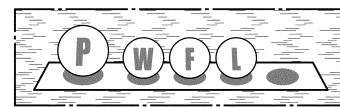
(E)



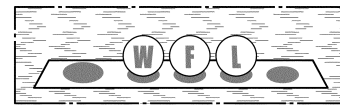
【図 98】

【図 98】

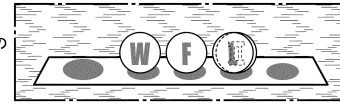
(A) 可変表示中



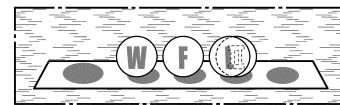
(B) 可変表示終了 (図柄確定期間)



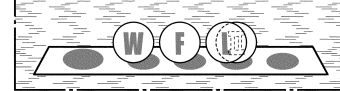
(C) 次の可変表示開始まで33ms未満のタイミングで新たな保留記憶発生



(D)



(E)



30

40

50

【図 99】

【図99】変形例

保留記憶数N個で可変表示が実行されている際に保留記憶が連続発生した場合

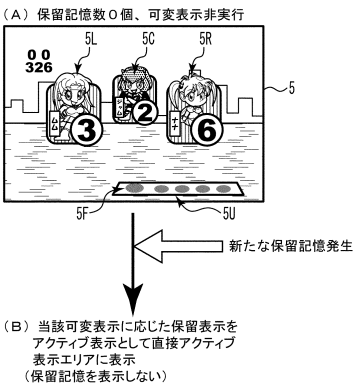
保留記憶数発生タイミング				保留表示の表示態様
1 個目	2 個目			
可変表示終了 間際※ 1	可変表示終了 間際※ 1	1 個目	保留記憶数 N + 1 個に応じた位置において出現アニメーション実行 可変表示開始指定コマンドの受信にもとづいて最終態様に変化	
		2 個目	保留記憶数 N + 2 個に応じた位置において出現アニメーション実行 可変表示開始指定コマンドの受信にもとづいて最終態様に変化	
可変表示開始 直後※ 2	可変表示開始 直後※ 2	1 個目	保留記憶数 N + 1 個に応じた位置において出現アニメーション実行 出現アニメーションにもとづいて最終態様に変化	
		2 個目	保留記憶数 N + 2 個に応じた位置において出現アニメーション実行 出現アニメーションにもとづいて最終態様に変化	
可変表示終了 間際※ 1	次の可変表示開始 後	1 個目	保留記憶数 N + 1 個に応じた位置において出現アニメーション実行 可変表示開始指定コマンドの受信にもとづいて最終態様に変化	
		2 個目	保留記憶数 N + 1 個に応じた位置において出現アニメーション実行 出現アニメーションにもとづいて最終態様に変化。	

※ 1：保留表示の出現アニメーション開始タイミングが次の可変表示の開始まで600ms未満のタイミング

※ 2：保留表示の出現アニメーション開始タイミングが次の可変表示の開始まで600ms以上のタイミング

【図 100】

【図100】変形例



10

20

30

40

50